

史料目録 第83集

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書
(その3)

平成19年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
調査収集事業部

史料目録 第83集

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書
(その3)

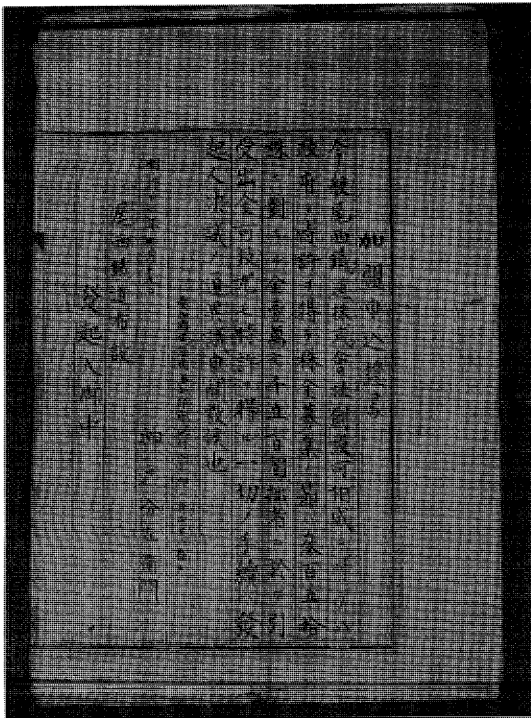


写真1 (い583-2) 明治27年
尾西鉄道株式会社加盟申込証書

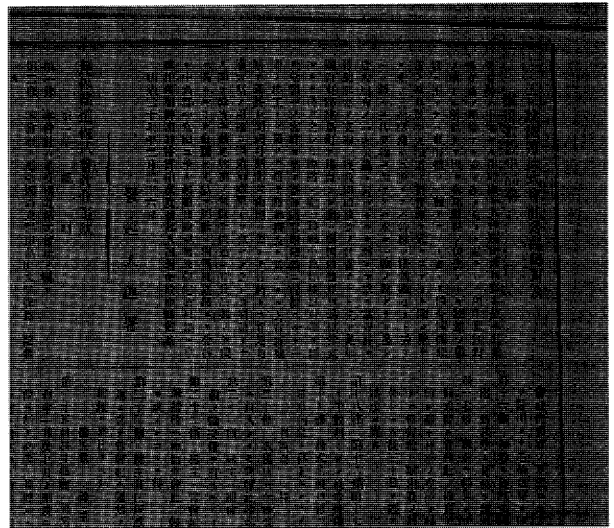


写真2 (い583-5) 明治27年
私設鉄道株式会社発起認可及鉄道施設申請書



写真3 (い418) 安政6年
神戸新田下用月々帳面入并書付類不残入ル



写真4 (い398) 正徳5年
大宝前新田諸入用書付袋

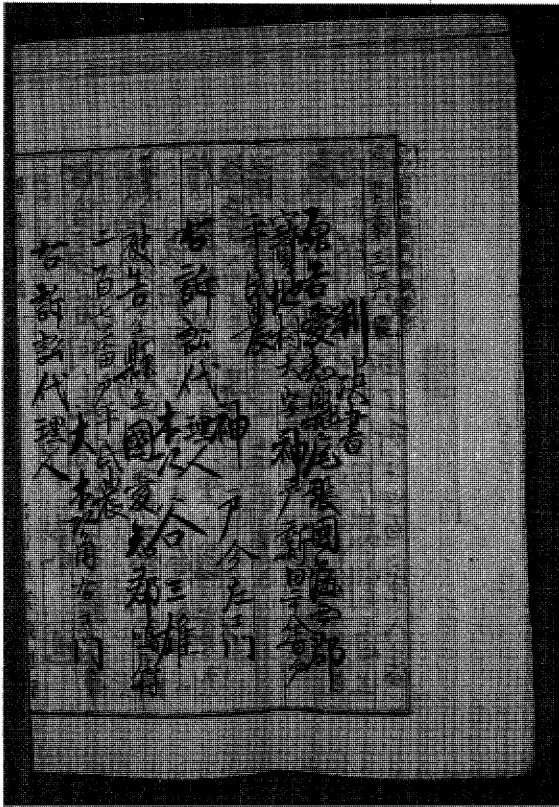


写真5 (い592-10-5) 明治25年
大高源兵衛新田延滞掟米請求事件判決書

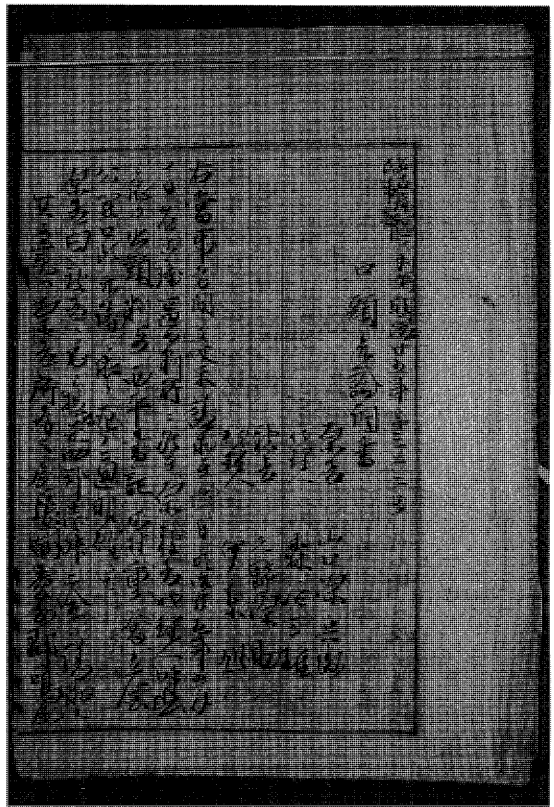


写真6 (い592-14) 明治25年
大高源兵衛新田延滞掟米請求事件口頭弁論調書

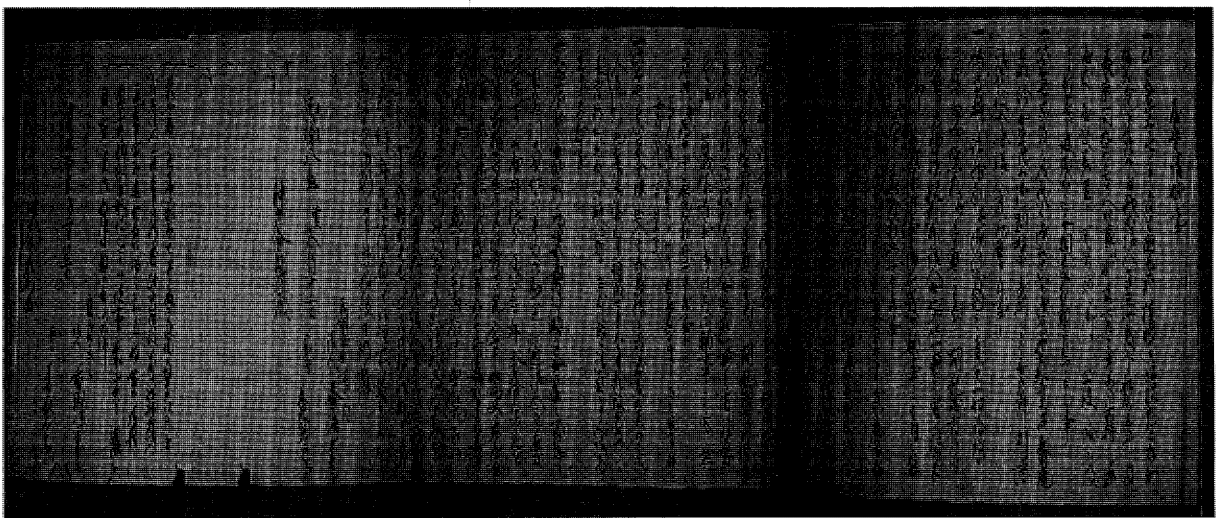


写真7 (い535) 元禄8年
江戸下船町屋敷家守請状

凡 例

- 一 本目録は、『史料目録』第83集「尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書（その3）」として同文書のうち主として書付型史料の一部を収めた。
- 一 解題は、犬山屋神戸家全体の解題と、サブ・フォンドごとの解題からなっている。後者の解題は各大項目の冒頭に分かれて掲載されている。
- 一 史料は、史料群全体の構造を表現することができるように配列した。すなわち、史料群を発生させた神戸家内部の組織のあり方に留意し、史料群の内部構造を復元しようとする形で、大・中・小の項目を立てて編成・配列した。
- 一 小項目のなかの史料の配列は、年代順と史料番号順を適宜併用した。一括史料で、分割して掲載する事が不適当な場合には、史料の物理的配列の順に従ったものもある。年欠文書は、それぞれの小項目の末尾に配列した。なお、*印は史料を目録上に重出させたことを示す。
- 一 史料目録の記載欄は、①表題および作成者・差出人・宛名、②作成年月日、③形態・数量、④整理番号の順である。
- 一 表題は冊子型も書付型も原表題をとり、表題のないものについては（ ）で仮表題や内容を示した。
- 一 作成年月日は和年号で示し、干支のみの場合はそれを採録した。推定の場合は（ ）で示した。そのほかに（ ）を用いて内容年代を記入した場合もある。
- 一 形態は以下のように示した。冊子型史料では、豎半（半紙豎折判）、豎美（美濃豎折判）、横長半（半紙横折判）、横長美（美濃横折判）、横半半（半紙半載横長判）、横美半（美濃半載横長半）などの略称によって原書の大概を示すに止めた。また、（ ）内に綴じ方も表記した。書付型史料は、豎紙・折紙・切紙・豎切紙・横切紙・豎継紙・横切継紙・小切紙などと表記した。また、絵図類は縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。
- 一 解題中の文献引用については、〔 〕に著者・刊行年などを記した。論文名・書名等は15頁の参考文献リストを参照されたい。

総 目 次

口 絵

凡 例

総目次

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書目録（その三）本文細目次	1
全体解題	7
1 犬山屋神戸家文書の伝来と整理の方針	7
2 犬山屋神戸家の歴史	8
3 犬山屋神戸家の組織と文書群の階層構造	13
目録本文	19
神戸家・勘定場	19
家	69
新田支配人（庄屋）	83
大宝前（神戸）新田	85
四郎兵衛新田	133
飛島新田古台分	141
服岡新田下之郷	145
海部郡の新田	149
愛知郡の新田	155
大高源兵衛新田	173
知多郡の新田	179
三重県の新田	181
領主御用	183
元材木町	187
江戸町屋敷経営（神戸彦七・家守来家太七）	189
御園町中嶋屋半右衛門・永田善次郎	195

もとざいもくちよういぬやまやかんどけ
尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書目録（その三）本文細目次

神戸家・勘定場	19	総会	35
経営全体	20	営業報告書	35
金出入改	20	株式	35
金出入帳	20	株券名義付替	35
諸帳簿	20	神戸仲雄関係	36
奉公人・雇人	20	借入	36
仕切状	21	その他	36
売渡証文等	21	尾西鉄道株式会社	37
その他の書付型史料	21	設立	37
金融	22	規則	38
個別金融	22	報告書	38
領主金融	23	総会	39
成瀬大和守	23	株式	39
成瀬修理	25	その他	41
飯川三郎左衛門	25	丸三麦酒	41
その他	26	設立	41
裁判	26	報告書	42
その他	26	総会	42
材木取引	27	株式	42
地主経営全体	27	その他	44
書類草案	27	名古屋町屋敷経営	44
新田不明	28	借家入用ほか	44
公儀との関係	29	家賃請取	44
触書等	29	収支書上	44
連絡	29	証文類	44
御用金・貸上金	30	元材木町	44
企業出資	33	しょうまんじ 正万寺町	44
海島銀行	33	くるま 車町	44
蟹江銀行	34	きよう 京町	44
設立	34	ひおき 日置屋敷	45
監査役	34	名古屋土地経営	45
増資	34	こびき 木挽町	45

いずみ 和泉町	45	御目見・身分引き立て等	69
すえひろ 末広町	47	安政6年転居	70
えかわぼな 江川端町・台所町	47	江戸神戸再興一件	70
東二葉町	48	丹羽郡稲置村屋敷(犬山)	71
預金	49	明治期木挽町止宿	71
駅通局預金	49	その他	72
全般	49	家計	73
領収通知書	49	冠婚葬祭ほか	73
通帳調査済通達書	50	道中入用・旅行費用	73
登記済通知書	50	宗門改	74
三井銀行	51	講	75
第百三拾四国立銀行	52	文化活動	75
預金通帳・小切手帳など	52	和歌	75
貸越	52	漢詩	76
びわじま 枇杷島銀行	55	その他	76
預金通帳・小切手帳など	55	教育	76
貸越	56	手習本	76
明治銀行	59	その他	77
預金通帳・小切手帳など	59	生命保険	77
通知・規則など	59	版本	78
津島紡績株券担保差入	60	伊勢暦	78
第一銀行	60	武鑑	79
通帳	60	その他	81
当座約定	60	その他	81
当座勘定決算	61	新田支配人(庄屋)	83
関与団体	64	庄屋役	83
日本赤十字社	64	おたからまゑ 大宝前(神戸)新田	85
社員認定	64	開発	86
年釀金	65	願書	86
国家・県との関係	66	資材購入	86
貴族院議員互選	66	堤普請請負人源太夫出入一件	87
拝借金	66	その他	88
不明	67	形成期普請	89
家	69	享保8年普請	89
一件綴など	69	普請年代不明	89

掬米徴収	89	公儀との関係	118
納米目録	89	土地	118
掬米受取	89	芝場・葭生場	119
掬米計算	90	村況	120
掬米運搬	90	年貢	121
経営費用	93	免定	121
入用金授受	93	その他	124
諸入用帳関連	94	諸役	124
諸入用帳結付け書付袋	94	調達金	126
諸入用書付袋	100	その他	126
普請入用	107	地租	127
蔵納入用	109	県・郡との関係	127
神事祭礼入用	109	開墾	127
代官関係入用	110	道路修繕	128
その他の入用	110	土地台帳訂正	129
経営記録	110	地目更正	130
諸事用留・日記	110	不明	130
村方騒動	110	しるべえ 四郎兵衛新田	133
新田－元材木町間連絡	112	全体	133
小作人	113	取得	133
宗門改	113	地主引継文書	133
小屋・会所	113	掬米徴収	133
通帳	113	掬米運搬	133
郷蔵	113	経営費用	133
土地	113	年貢・村入用負担	134
田畑改名	113	免札ほか	134
耕地交換	113	その他	137
売買	114	公儀との関係	137
貸借	115	争論・願書	137
水利・防水ほか	116	神戸外新田	138
堰	116	検地	138
井領米	118	その他	138
堤	118	近代	138
通船	118	とびしま 飛島新田古台分	141
その他	118	経営費用	141

その他	141
地渡一件	142
願書等	142
近代一般	143
飛鳥古堤廃却	143
<small>ふくおか</small> 服岡 <small>しものごう</small> 新田下之郷	145
全体	145
掬米徴収	145
経営費用	145
土地	146
土地台帳訂正	146
年貢・村入用負担	146
近代土地購入	146
<small>あま</small> 海部郡の新田	149
<small>なべがた</small> 鍋蓋新田	149
願書・一件留	149
経営収支	150
掬米運搬	150
<small>じゅんおく</small> 潤屋新田	152
<small>とりがんじ</small> 鳥ヶ地新田	152
<small>さんとそとくりだし</small> 三稻外繰出新田	152
愛知郡の新田	155
<small>ばけもの</small> 化物新田	156
土地取得	156
共有地	156
堤防	157
<small>きざえもん</small> 紀左衛門新田（豊田村・呼続村）	158
土地取得	158
地所貸借	159
堤敷地・葭生地交換	160
堤防	161
破堤	162
<small>はちざえもん</small> 八左衛門新田（星崎村）	163
土地取得	163
開墾事件	163

田地変換	165
堤防	165
その他	166
<small>かさでら</small> 笠寺村	166
字上烏山共有地	166
<small>ちかま</small> 千竈村	169
全体	169
土地取得	170
<small>おおたかげんべえ</small> 大高源兵衛新田	173
掬米徴収	173
米納帳	173
経営費用	173
入用金銀帳	173
その他	173
年貢・村入用	173
年貢	173
作徳米計算	174
納米入用割賦	174
その他	174
普請	174
近代土地購入	174
延滞掬米請求事件	177
知多郡の新田	179
<small>なわさき</small> 名和前新田	179
諸事留帳ほか	179
掬米徴収	180
年貢	180
三重県の新田	181
<small>いずみ</small> 和泉新田	181
<small>なかいずみ</small> 中和泉新田	181
領主御用	183
借上金御用	183
御勝手御用達	184
廿人役	184
その他	184

元材木町	187	書状	191
町代	187	江戸神戸再興一件	192
江戸町屋敷経営（神戸彦七・家守来家太七） ...	189	その他	192
家屋敷取得	189	^{みその} 御園町中嶋屋半右衛門・永田善次郎	195
家屋敷譲渡	190	有物勘定帳	195
寛保2年町弘メ一件	190	指引目録	195
家守請状など	191		

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書目録（その3）全体解題

収 蔵：国文学研究資料館

出 所：犬山屋^{かんど}神戸家

史料群記号：24P

史料群名称：尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書

年 代：1695（元禄8）年～1928（昭和3）年（本目録収録分）

物的状態：（書架延長）30m、（数量）17,000件（推定）

（その1）収録分 3892件

（その2）収録分 2635件

本目録収録分 3234件

1、犬山屋神戸家文書の伝来と整理の方針

当館所蔵の神戸家文書は、1949（昭和24）年に第10代当主神戸分左衛門有文氏（当時名古屋市中区木挽町、現丸の内一丁目）より文部省史料館に譲渡されたものである。神戸家文書は史料館で所蔵しているものの他に、現在の神戸家にも伝来しており、木箱8、葛箆1、袋1、段ボール箱1の計11の保管容器に収納されている。

聞き取りによれば、神戸家文書は太平洋戦争中に名古屋元材木町の本宅から海西郡十四山村神戸新田の神戸家居宅に疎開のため移され、戦後そのまま新田宅に置かれていたものを、元材木町の本宅に戻すことなく、直接東京の当館に輸送したとのことである。神戸家の新田宅は幕末から存在したものと推定されるため、この伝来事情からすれば、幕末以来蓄積されてきた新田宅の文書との合体もしくは新田宅文書の混入の可能性が存在することになる。しかし、目録（その1）（その2）および本目録に収録した史料の範囲では混入や合体を明確に示すような史料は見あたらないので、現在確認されている神戸家文書は全て元材木町（現中区丸の内一丁目）に近世以来伝来した文書と今の所は考えてよい。あるいは、新田宅が神戸家内部の組織体として元材木町の本宅とは相対的に独自に史料を授受作成する主体としての性格を持っていなかった可能性も考えておいてよいのかもしれない。そうであれば、文書の出所が空間的には分離していても、構造的には出所は単一と考えられるわけである。いずれにせよ、以下の解題における考察は、本文書群が元材木町神戸家という単一の出所であることを前提として行われることとなる。

当館では、受け入れ以後、仮整理による出納カードで閲覧に供してきたが、冊子型史料の大半と関連の書付型史料の一部は目録（その1）（その2）により閲覧請求が可能となっている。今回の目録刊行にあたっては、目録（その1）（その2）と同様にこの仮整理の史料配列順、つまり現在の書庫内での配列にしたがって、新たに整理番号を付与した。そのなかで、冊子の綴り、丁間史料、下げ紐結付史料、冊子結付の束、袋・綴・束の史料の場合に枝番・孫番を多用した。

今回の整理作業においても、こよりを解いたり切断したりしなければ開披できない史料はそのまま残している。これは原形保存の観点からそのようにしているものであり、閲覧請求があって初めて開披するという方針にしている。従って、こうした史料については即日閲覧ができない場合もあることをご了解いただきたい。

次に、形態欄に丸括弧に挟んで示した綴じ方の表記について説明しておく。これは大藤修氏が提唱した名称に従い、一ツ綴・二ツ綴・三ツ目綴・下げ綴・下げ二ツ目綴・列帖綴・鎖綴・ひねり綴などの名称を用いた〔大藤・安藤1986年、250頁〕。ただし、大藤氏が示した以外の綴じ方も神戸家文書中には存在したため、下げ一ツ目綴・二ツ結・二ツひねり綴を仮称として新たに加えた。さらに、帳面の背に綴じた上から紙片をかぶせている場合は、かぶせ、または角かぶせと表記している。

また、近代文書の形態については、近世文書の名称をそのまま準用することに疑問を感じたので以下のようにした。まず、冊子形態のものについて近世文書の形態をそのまま使用しているものに関してはこれを準用した。しかし、罫紙を使用した文書については、形態欄にはたんに「罫紙」もしくは「『神戸氏蔵』用箋」などとのみ記し、数量欄の序数によって冊子・状の別を示した。近代になると印刷技術を使用した文書が多くなる。形態欄にはそれも記した。まず、印刷様式に個別情報を手書きで記入した文書についてはその形態欄に「印刷用紙」と記した。それに対し、手書きの記入のない印刷された文字のみで機能が完結している文書については「印刷物」とした。なお「印刷用紙」としたもののなかには個別情報が記入されていない未使用のものがあるが、その場合は表題欄に「(未使用紙)」と入れることにした。

さて、史料の整理・分類編成においては、史料群の有する階層構造を可能な限り追求することに努めた。つまり、神戸家内部の組織体を明らかにし、その組織体ごとに大項目を設定して、それぞれの組織体の機能に応じて中項目以下を編成した。このような整理の方針は〔大藤・安藤1986年〕、〔国文学研究資料館史料館1988年〕、〔安藤1998年〕において展開されている議論を基本的には踏襲しているので、詳しくはこれらの文献を参照されたい。

2、犬山屋神戸家の歴史

最初に神戸家の歴史について述べる。適宜、表1「神戸家略歴」と16～18頁に掲載した「神戸家系図」および関連地図を参照して頂きたい。

神戸家は本家の鶴飼屋^{かんべ}神戸家の分家として1669（寛文9）年に名古屋元材木町で創業した。1823（文政6）年における勘定場の一時的設置を伴いながら、現在まで存続し続けている。その活動内容は、本家の営業である材木取引からはじまり、織物製品の売買にも従事するが、18世紀に入ると経営活動は地主経営に傾斜し、1707（宝永4）年に大宝前新田を開発し、新田地主経営を開始する。さらにその周辺の四郎兵衛新田・服岡新田・飛島新田・鍋蓋新田においても地主経営を行っていた。

大宝前（神戸）新田とその周辺の新田以外にも、神戸家は新田経営に関わっていた。1699（元禄12）年には、江戸かいば町の商人伏見屋が1666（寛文6）年に開発した三州伏見屋新田を尾州茶屋新田の坂野ほか2名が買い取るにあたり、神戸家はほか3名とともに資金を出資している。また、大宝前新

表1 神戸家略歴

(あ3476「初租ヨリ六代迄之記」中の「由緒書」を主とする)

西暦元号年月日	事 項
1669寛文0903	初代犬山屋文左衛門（犬山神戸弥兵衛次男）元材木町（当時清須材木町）で開業。
1695元禄08	江戸下船町に間口9間の町屋敷を取得。
1697 1012	借上金大分に差出し誉めを受ける。
1699 12	三州伏見屋新田に出資。
1700 1301	借上金裁許精出し、銀二枚下付。初代分左衛門他三人の商人と共に借上金御用を勤める。
1712正徳021120	初代分左衛門病死。
1706宝永03	大高源兵衛新田の開発に出資。
1707 04	二代目犬山屋分左衛門、海西郡大宝前新田125町歩を開発、敷金として7811両余差上。
1723享保08	大宝前新田高潮により破堤し、45町歩に縮小。
1725 1012	父の代より「御金之支配」を勤め、近年も借上金御用出精につき年頭お目見得を許される。
1731 1612	三代目犬山屋文左衛門継目お目見得。
1740元文050908	二代目分左衛門病死。
1743寛保030417	三代目病死。
12	四代目犬山屋文左衛門継目お目見得。
1745延享2	大宝前新田、領主による検地
1766明和03	大宝前新田「宗門村立」となる。
1775安永0411	五代目犬山屋文左衛門継目お目見得。
1794寛政060810	四代目病死。
10	宗門改め町並御除自分一礼を認められる。
1801享和01	大宝前新田旧水没地に服岡新田・飛鳥新田を開発。
1802 0212	御勝手御用仰せ付けられる。その後病気により退役。
1811文化0804	六代目犬山屋文左衛門継目お目見得。
1815 1204	大宝前新田を神戸新田と改称。
1823文政06	勘定場成立か。
07	町奉行所ご用達就任。9月退役。
1829 120114	五代目病死。
1838天保0906	貧民へ施物につき金1両2分下付。
1841 1208	七代目神戸文左衛門米切手償却に協力。
12	七代目継目お目見得。
1842 1309	御勝手御用達、七人扶持。
1843 1401	御勝手御用達退役、扶持方引き揚げ。扣借家引当金300両上納は返還。
0821	六代目病死。
1849嘉永0201	町役金引当調達金御用向。
1853 0602	先祖以来の調達金差上切りとなる。
1855安政0207	上記につき色々拝領。 「講等他所商人共寄合籤引調達入講申勤方格別骨折」につき銀五枚下付。
1856 0311	町御役所御用達格につき纏・提灯使用許可。
1857 0405	町役所御用達格差し免。御勝手御用達につき肩衣着用許可。
12	借財引受申上につき「一代限年頭名披露御目見」。
1858 0502	一代限り苗字御免。
1859 0608	神戸新田への転宅願許可される。
1892明治250523	愛知郡大高源兵衛新田の小作人が滞納した掟米を請求した裁判の判決が出る。 このころ神戸家はたびたび名古屋木挽町二丁目（元材木町）への止宿願いを県に提出する。
1894明治2710	日本赤十字社正社員となる。
1896明治2901	蟹江銀行監査役に就任。
1896明治2906	尾西鉄道株式会社の設立に参画。

表 2 大宝前（神戸）新田村役人

西暦元号年月	庄屋	組頭
1720享保 5	唯助	
1747延享 4	定助	
1767明和 4	重右衛門	
1774安永 3	重右衛門・茂吉・藤三郎（庄屋・組頭の別不明）	
6 4 月	唯助	平吉 又蔵
7	〃	〃 〃 重右衛門
8	〃	〃 〃
1803享和 3 閏正月	〃	〃 〃 〃 只治郎
文化元	〃	〃 〃 〃
3	〃	〃 〃 〃 喜蔵
6	〃	〃 〃 〃
12	〃	平吉 重右衛門
1820文政 3	重右衛門	只治（只二）
1831天保 2	〃 忠右衛門	〃 金七
6	〃 〃	忠兵衛 辰右衛門
8	綱蔵 〃	〃 〃
12	〃 〃	〃 〃
13	〃 〃	〃 〃
14	〃 —	〃 〃
15	〃 —	〃 辰右衛門
1845弘化 2	〃 忠右衛門	— 〃
1850嘉永 3	〃 〃	— 〃
4	〃 〃	金七 〃
5	〃 〃	〃 —
1860安政 7	〃 〃	〃
1861万延 2	唯助 〃	〃
1863文久 3	〃 〃	〃
4	〃 〃	金左衛門 忠蔵
1871明治 4	〃 〃	〃 〃

田開発の前年の1706（宝永3）年には愛知郡大高村庄屋源兵衛による源兵衛新田の開発にも出資している（地図1参照）。

このように神戸家は新田地主として近世社会に位置づいていくことになるのだが、そのほかに江戸において町屋敷経営*をも行っていたことが重要である。神戸家は1695（元禄8）年以降江戸下船町一丁目において町屋敷経営を行っていた。この経営は初代文左衛門安政の弟彦七（彦七郎）が担当し、直接には家守**来家太七が町屋敷の管理業務を行った。

なお、神戸家は名古屋城下町においても遅くとも1701（元禄14）年には町屋敷経営を行っていた。それは、居住地の元材木町のほか、周辺の下材木町・正万寺町・五条町・小舟町など（目録（その2）15頁地図2参照）のほか、城下町東端の町続き地である新出来町、あるいは城下町南端の大木戸外にある古渡繁町などに存在し、これらも神戸家の重要な収入源となっていた。近代になっても名古屋での土地経営は継続するが、近代になると旧武家地にも経営が展開するようになる。

*町屋敷経営とは、近世都市の町方において、街路に面した短冊状の土地および家屋（町屋敷）をその所有者が店舗や長屋として他者に貸与することによって収益を得ようとする行為のことである。

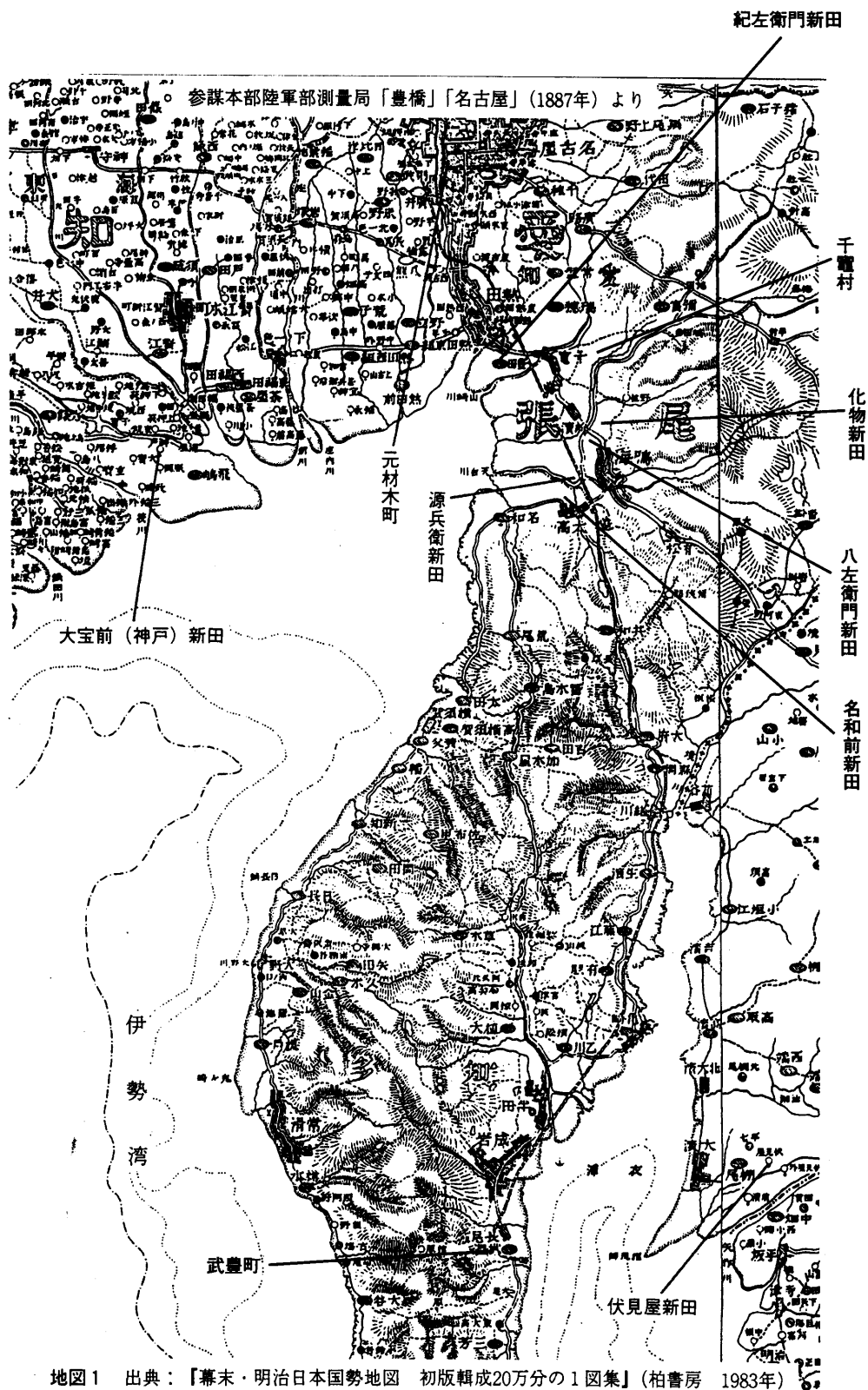
**家守とは、町屋敷の所有者（家持）がそこに居住していない場合、その町屋敷を維持・管理する人のことである。神戸家は名古屋に居住しているため江戸下舟町には管理人として来家太七を置いているのである。

以上のように神戸家の経営は、時期によって異なるものの、材木商・領主金融・地主経営・江戸町屋敷経営・名古屋町屋敷経営と多岐に亘るが、大宝前新田に支配人を置き、新田会所を設置した以外には、その内部に見るべき経営組織を持たないことが特徴的である。近世の代表的な商家である三井家や、あるいは松代八田家は数種の営業を分担する例えば木綿店・呉服店といった内部組織を設立し、それらを三井でいえば大元方、八田家で言えば内方といったような機関が統轄するという店制をとっていた。それに対して神戸家は、その経営の志向が商業経営の拡大に向かわず、新田地主と町屋敷経営といういわば都市・農村の両方に跨る地主として存在したために、店制を組織することはなかったわけである。ただし、1823（文政6）年に元材木町の神戸家に「勘定場」という機関が成立する。もっとも、1823年以後に神戸家で作成される種々の経営帳簿の作成者は「勘定場」であるよりも、「神戸文左衛門」あるいは「神戸」であることが多く、「勘定場」の職掌を明確にすることはできない。一方、今回収録分の書状を見ると、安政期に勘定場橋（吉）蔵というあて先を持つ神戸新田からの書状も多く、神戸新田と対比される元材木町勘定場の存在だけは明確である。

経営以外の神戸家の活動には、表1に見られるような様々な領主御用がある。借上金御用、御勝手御用、町奉行所御用達などを勤めた。その活動に対応して、1725（享保10）年に年頭御目見得を許され、以後代々家督相続の際には継目御目見得を行っているから、神戸家は尾張藩の御用商人としての性格も持っていると言える。

そのほか、神戸家は居住町の元材木町においては、二代目の時に町代を勤めていた時期がある。また、「文左衛門組」というおそらくは五人組の組頭を勤めていたこともあった。

最後に神戸家の歴史と内部組織にかかわる事柄として重要と思われるのは、1859（安政6）年に元材木町での営業を全て停止して神戸新田に転居し純粋な地主に転換する旨の願書を尾張藩に提出し、認められていることである。今回収録分の書状から（ex.い418-10、29）からは実際に居住したこと



が確認できる。おそらくはこれにより神戸家の新田宅が成立し、明治期の公式の神戸家の住所は神戸新田になる。しかし、実際には依然として元材木町の居宅は存在しつづけるから、神戸家は幕末から昭和20年代まで二つの居宅を持つこととなる。その関連か、1875～1891（明治18～24年）には名古屋木挽町二丁目（近世の元材木町）への止宿願を度々提出している（い738-1）。第1節で述べた出所の問題はこうした事情に起因するのである。

3、犬山屋神戸家の組織と文書群の階層構造

これまでの叙述から、神戸家の組織図をかなりの推測を交えつつ描いてみると図1のようになると思われる。まず、元材木町の神戸家において経営全体を統轄していたことは言うまでもない。1823（文政6）年以後明治期まで勘定場が存在することは確かであるが、前述のように勘定場の機能が不明確なので、図のようにしておいた。以下経営開始の順に述べれば、1695（元禄8）年に江戸下舟町での町屋敷経営が開始される。この営業部門を「神戸彦七・家守来家太七」という名称にしておいた。次に、1699（元禄12）年に三州伏見屋新田に出資し、1706（宝永3）年に大高源兵衛新田の開発に出資する。この二つの新田については、中島半右衛門を通じて経営を行っている時期があるので、図1のように描いておいた。最後に、1707（宝永4）年から始まる大宝前新田の経営は支配人＝庄屋が行い、かつ会所＝小屋＝庄屋場という組織も存在するため、「新田支配人（庄屋）」という役職を記しておいた。大宝前新田以外の周辺の新田の小作地経営にも支配人が関与していたから、それらの新田名は新田支配人のもとにとりあえず附属させておいた。なお、経営以外の神戸家の諸活動は、当然元材木町の神戸家で行われているから、この図には表現していない。また、新田宅も相対的に独自の組織と判断できるかどうかは現段階ではわからないためこの図には表現していない。

以上の組織図をもとに、神戸家文書全体の文書群の構造を主要部分に限って図示すると、図2のようになる。まず、第一次構成基準（サブフォンド＝組織）は、神戸家・勘定場、新田支配人（庄屋）、江戸町屋敷経営（神戸彦七・家守来家太七）、三州伏見屋新田、大高源兵衛新田、家、領主御用、元材木町の八つとなる。最初のサブフォンド「神戸家・勘定場」のなかには、さらに機能を基準として経営全体、金融、材木取引、米取引、名古屋町屋敷経営、企業出資、などといった5つ以上のシリーズ（機能）レベルに分けて考えることができる。二番目の「新田支配人（庄屋）」は、大宝前（神戸）新田、四郎兵衛新田、飛島新田古台分、服岡新田下之郷、鍋蓋新田ほかといった五つ以上の二次的サブフォンド（二次組織）に編成することが可能である。ここでは、その下によくシリーズレベルの項目が現れる。それは、掟米徴収、経営費用などといったものである。三番目の「江戸町屋敷経営」以降のサブフォンドは、二次組織を持たず、直接にシリーズが付属することになる。

さて、通常の見録であれば以上の階層構造の説明により、各第一次構成基準がそのまま見録の大項目に、シリーズレベルの名称がそのまま中項目・小項目の名称に適用しうるのであるが、しかし、この神戸家文書見録では史料群の階層構成がやや複雑である。印刷見録の項目としては大・中・小の三つのレベルに平準化しなければならないため、決して同レベルとはいえない項目を大項目として横並びに設定したことを御了解頂きたい。

* [] は年代。

元材木町神戸家 — [1669～現在]

— 勘定場 [1823～近代]

— 新田支配人 — 大宝前（神戸）新田 [1707～農地改革]

（大宝前新田庄屋） — 四郎兵衛新田 [1758～]

— 服岡新田下之郷 [1801～]

— 飛鳥新田古台分 [1801～]

— 鍋蓋新田ほか

— 神戸彦七・来家太七（江戸町屋敷経営） [1695～]

— （中島半右衛門） — 大高源兵衛新田 [1706～]

— 三州伏見屋新田 [1699～1709]

図2 文書群の構造



以下、収録文書の詳細はサブフォンドごとの解題に譲りたい。

【参考文献】（著者の50音順）

安藤正人 『記録史科学と現代』（吉川弘文館、1998年）

飯島利夫・小杉正・中村一郎・三宅明彦・安井宮一編『神戸家文書 御用留』（十四山村教育委員会、1992年）

大石慎三郎「町人請負新田の成立事情—神戸新田（大宝前新田）の場合—」（『史学雑誌』60-9、1951年、のち同著『封建的土地所有の解体過程』御茶ノ水書房、1968年に収録）

大藤 修・安藤正人『史料保存と文書館学』（吉川弘文館、1986年）

菊地利夫 「先進地型町人請負新田としての大宝前（神戸）新田の諸問題」（同著『続・新田開発』事例編第十四章、古今書院、1986年）

作道洋太郎「取引・証文、経営・帳簿」（『日本古文書学講座』7 近世編Ⅱ、雄山閣、1979年）

史料館編 『史料の整理と管理』岩波書店、1988年

所 三男 「運材中継基地としての犬山—木曾川運材史の一齣—」（『徳川林制史研究所研究紀要』昭和42年、1967年）

同 「近世初期商人による用材生産」（『徳川林制史研究所研究紀要』昭和45年、1970年）

同 『近世林業史の研究』（吉川弘文館、1980年）

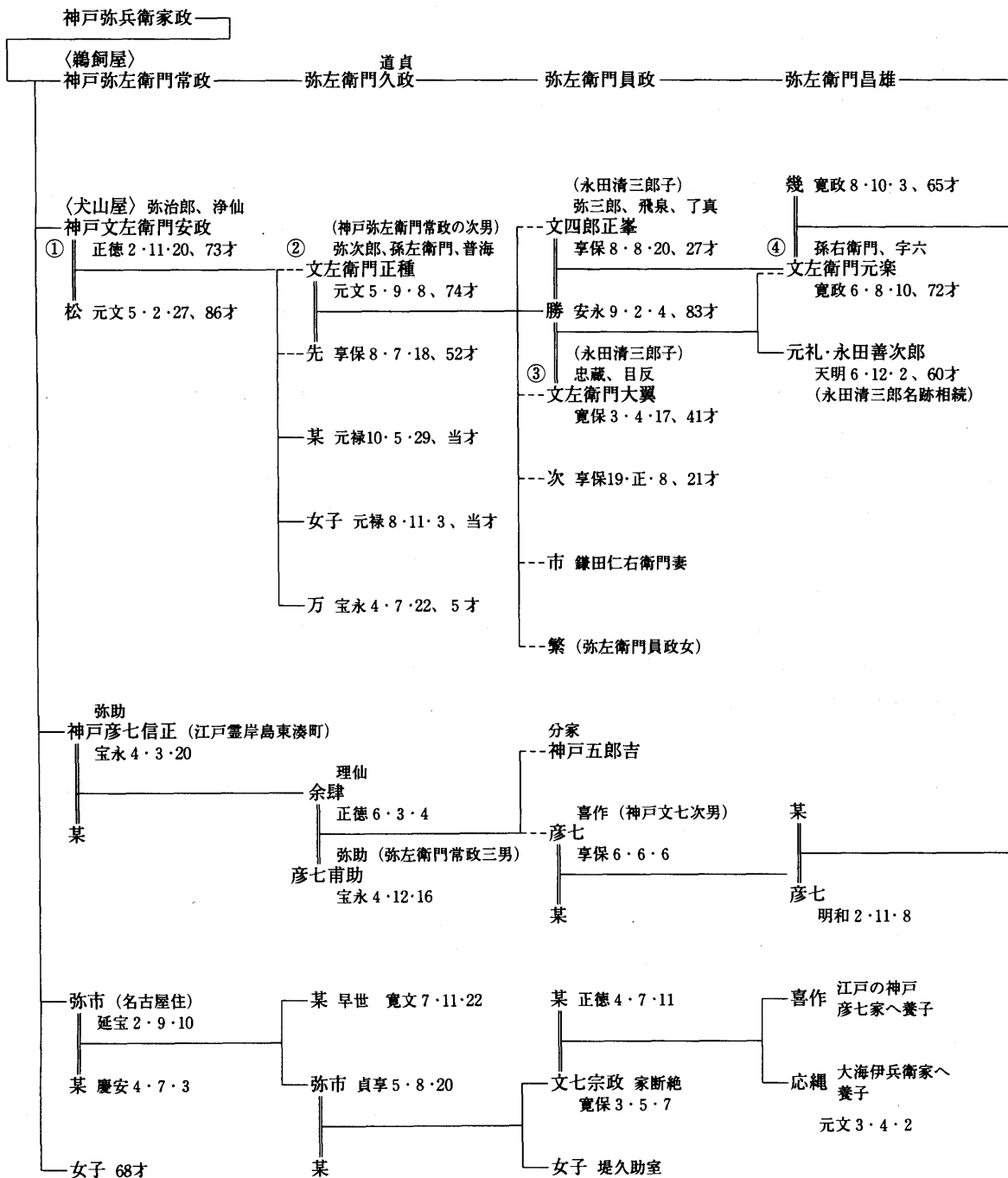
水野 潔 「尾州商人神戸家の江戸町屋敷経営」（『法政史論』16、1988年）

新修名古屋市史編集委員会編 『新修名古屋市史』4（名古屋市 1999年）

『角川日本地名大辞典23 愛知県』（角川書店、1991年、〔角川地名辞典〕と略記）

[付記] 本目録の編成と解題執筆は渡辺浩一が担当した。整理作業では坂本達彦氏・小酒井大悟氏の協力を得た。記して感謝したい。

神戸家系図



弥兵衛昌言 (以下省略)

逸 文政2・7・26、50才

⑤ 富治、伊山、孫六
文左衛門惟賢
文政12・正・14、73才

勝太郎 寛政11・6・23、8才

⑥ 辰治郎 (弥兵衛昌言の子)
文左衛門道章
天保14・8・21、48才

京 佐藤道子
明治38・11・8、81才

⑦ (弥兵衛昌言末子)
銀之助、堅吾、葵園
子真、行政、文平
文左衛門茂元
明治8・2・25、62才

幾久 昭和5・10・8、82才

⑧ 芳之助、鷗汀、芳輔、有年
分左衛門成年
明治38・6・17、59才

大三郎 弘化2・9・28、6才

儉 嘉永元・6・14、7才

元吉 嘉永4・5・26、2才

八尾 嘉永7・6・14、10才

松 大正9・11・28、69才

富治 文政11・3月
不行跡により義絶

仁右衛門 天保4
分家

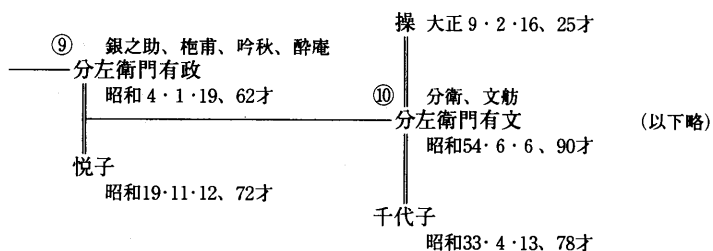
当六

三十郎信吉
文化3・9・29

三右衛門信豊

永保
榎田永之丞

岩



注 (1) 襲名上の名は幼名、元服名、号、隠居名などである。

(2) 名前右下の年月日は命日、年令は死亡日年令を示す。

(3) 実線は血縁、点線は非血縁関係を表わす。

(4) 典拠は、『神戸氏系譜』(二種あり)、『永田家系譜大略』
(寛政11年)。(いずれも神戸家所蔵)

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

神戸家・勘定場

冒頭の解題で述べたように、神戸家は経営を統括する明確な組織を持たなかったため、本サブフォンドの組織に限定した歴史を記述することは難しい。そのため記述が重複してしまうが、より詳細に記述すれば以下の通りとなる。

経営組織としての神戸家も、犬山の鵜飼屋神戸弥兵衛家政の次男神戸文左衛門安政が、1669（寛文9）年に名古屋元材木町に間口5間・奥行17間の家屋敷を代金100両で買い取ったことに始まる。本家の鵜飼屋神戸家は、犬山を拠点とする在地土豪の系譜を持ち、豊臣政権期から木曾・飛騨の材木輸送において「木曾川締方役」として特権的地位を保持し、領主用木を中心に経営を展開していた。したがって、犬山屋神戸家の経営も、本家の鵜飼屋神戸家がそうであったように当初は材木商を中心としたものであり、例えば犬山屋神戸家は鵜飼屋神戸家が材木を江戸の奈良屋茂左衛門などに販売する場合の仲介を行うというような関係にあった〔所1967・1970年〕。1688（元禄元）年ごろには余剰資金を他商人への間接投資にまわすか、あるいは領主権力への金融を行っている。さらに1694（元禄7）年には、商業への直接投資を行い絹・麻・木綿などを扱うようになる。しかし、一方では領主米を引当とした金融を大規模に展開するようになり、1706（宝永3）年には経営内容は領主金融に集中していく。つまり、商業経営を展開する方向には向かわなかったのである〔大石1951年〕。

18世紀に入ると経営活動は名古屋近辺と江戸における都市・農村地主に収斂していくことになる。近代になると、地主経営に加えて、鉄道会社や銀行、あるいはビール会社の設立にも関与する。

したがって、本項目には、元材木町（木挽町二丁目）神戸家もしくは勘定場における経営活動のなかで授受作成管理された文書を収録した。

主要な経営帳簿は、目録（その1）に体系的に配列してあるので、今回収録分は目録（その2）に引き続き極めて断片的である。（その1）の主要帳簿と関連するのは、「金出入改」と「金出入帳」の二項目である。後者の金出入帳は今回分は収入と支出の差し引き計算がなされていないもので、（その1）収録分とは別系統の帳簿の可能性はあるが、機能は類似するので同一項目に配列しておいた。

「金融」では、帳簿は（その1）に収録されており、今回は（その2）も含めて帳簿に関連する借金証文などの書付型史料がある。特に「領主金融」では、尾張藩家臣成瀬大和守等への金融にかかわって興味深い内容の書状がやりとりされている。

近代文書では企業経営へ関与した関係で神戸家に残されたものが目立つ。それは、海島銀行・蟹江銀行・尾西鉄道株式会社・丸三麦酒の四つであり、いずれも現存している文書の年代は明治30年前後に集中している。

名古屋における土地経営については、木挽町・和泉町・末広町が旧町人地であり、木挽町は近世の元材木町・下材木町における、和泉町は近世の五条町における、末広町は近世の塩町における神戸家の町屋敷経営を引き継いで行われている可能性が高い。それに対して、江川端町・台所町・東二葉町は旧武家地であるから、その貸地・貸家経営は近代になってからのものであるかもしれないが、近世に領主金融は非常に活発であったので、その結果として武家地における土地経営が実質的には近世に既に始まっていた可能性はある。

「預金」という項目は、あるいは「経営全体」のなかに位置づけるべきであったかもしれないが、階層構造を深くしすぎないためにシリーズレベルに引き上げた。近代における地主を中心とした経営活動のなかで必要となりいくつかの銀行で当座預金口座を開設している。そのために預金通帳を始めとする様々な文書が残されている点が近世の経営文書にはない特徴である。なお、ここに挙げられて

いる三井銀行・第百三拾四国立銀行・枇杷島銀行・明治銀行・第一銀行はいずれも口座を開設しているだけであって、先述の海島銀行・蟹江銀行とは異なり設立や経営に関与しているわけではない、という大きな違いがあることに注意していただきたい。

経営全体

金出入改

金銀出入改帳帳(後欠) 神戸孫右衛門	享保19年正月	横長半・4葉	い415-8
--------------------	---------	--------	--------

金出入帳

戊年金銀出入仮調帳 葵園(七代目茂元)	(幕末カ)	横長半(一ツ綴)・1冊	い460-3
九ノ年分	(明治9年)	横長半(一ツ綴)・1冊	い459-1
十年分入之記	(明治10年)	横長半(一ツ綴)・1冊	い459-2
十一年入之記	(明治11年)	横長半(一ツ綴)・1冊	い459-3
当分覚(7・8月の収入と支出)	(明治前期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い459-4
(9月の収入と支出)	(明治前期)	横長半(二ツ綴)・1冊	い459-5

諸帳簿

覚(金銀支払覚) 同(神戸)分左衛門→神戸弥左衛門	(元文4年カ)未正月	横長半(二ツ綴)・1冊	い415-9
(帳簿断簡;古金等の金額)	(元文年間)	横切紙・1葉	い415-6
(米・綿等の名古屋・江戸・大坂相場書上)	(近世)	横長半(二ツ綴)・1冊	い415-3
覚(諸入用書上)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い461-4
(米高、名前書上)	(近世後期)	横長美・2葉	い462-3
(願書27通宛先書上、宛先は名古屋町人)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-10
(元材木町神戸家での複数経営行為にまたがる出費帳)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-11
(貸金覚帳)	(近世)	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-2
積金穀勘定之記	明治23年12月	横長半(一ツ綴)・1冊	い574

奉公人・雇人

奉公人請状之事(八助請状、寺請証文貼り継ぎ) 濃州加賀野井村親藤次郎・同所請人吉左衛門→名古屋 元材木町犬山屋分左衛門	享保11年2月	縦継紙・1通	い427
証(年来勤切、金子授与につき請取) 児玉金左衛門 →神戸分左衛門	明治9年6月5日	縦継紙・1通	い396-7
証(御傭人の約定につき) 名古屋市桶屋町鈴木庄士 郎、愛知郡寛政村親戚保証人岩室直次郎・名古屋市桜 町鬼頭久四郎→神戸分左衛門	明治23年4月1日	罫紙・1冊	い447-11
証(御傭人の約定につき) 名古屋市吹出町長尾義 方・同市吹出町保証人親戚木村卯之助→神戸分左衛門	明治26年1月15日	「神戸氏蔵」罫紙・1通	い447-10
証(御傭人の約定につき) 名古屋市小林町安井光 啓・名古屋市葛町保証人神谷福彦→神戸分左衛門	明治26年3月16日	罫紙・1通	い447-9

仕切状

御売分仕切状(牡丹桔丸仕切りにつき) 河内屋七郎兵衛→神戸分左衛門	延享5年7月5日	縦継紙・1通	い488
-----------------------------------	----------	--------	------

売渡証文等

指引目録(仕切表金銀につき) 河内助作兵衛(内淡路町一丁目)→神戸分左衛門	卯11月15日	縦紙・1通	い501-7
覚(神戸新田納米現金での売付につき) 神戸文左衛門→口入名和前新田与左衛門	3月4日	縦紙・1通	い449-7

その他の書付型史料

請作申田畑之事(高15石分) 愛知郡日比津村庄屋預り主茂右衛門→重兵衛	元禄9年2月10日	縦美紙・1通	い544
覚(京都村田長兵衛方へ登セ金依頼状) 鏡屋新五郎→神戸普海	(江戸前期)卯4月22日	堅切紙・1通	い445-4
覚(代金覚書) 堀田半右衛門→神戸孫右衛門	(江戸前期)子12月3日	縦紙・1通	い445-2-8
覚(品代請求につき) 六左衛門→犬山屋勘四郎	(近世)子閏正月	縦継紙・1通	い402-1
(槓代請取覚) 代市助・太兵衛→犬山屋久助	(近世)7月13日	縦継紙・1通	い402-2
(石船代金等書付) 藤十郎→車町久助	(近世)子7月13日	縦継紙・1通	い402-3
(鉄代等請取覚) かぢや孫十郎→くるま町久助	(近世)極月□日	縦継紙・1通	い402-4
覚(船代請取につき) 自鳥大工善吉→神戸庄八郎	(近世)閏正月6日	縦紙・1通	い402-5
覚(釘代請取につき) かぢや伝六・受取主大工善吉→神戸庄八郎	(近世)閏正月6日	縦紙・1通	い402-6
覚(船作料等請取につき) 自鳥善吉→犬山屋庄八郎	(近世)子3月2日	縦紙・1通	い402-7
覚(代銀覚書) 仁右衛門→犬山屋庄八郎	(近世)4月17日	縦継紙・1通	い402-8
覚(船作料代請取につき) 藤十郎→分左衛門代庄八	(近世)子2月19日	横切紙・1通	い403-1
覚(たはこ代等請取につき) 五兵衛→繁左衛門	(近世)子2月19日	横切継紙・1通	い403-2
覚(薪木等差遣につき) 嘉兵衛→船原左衛門	(近世)3月19日	横切継紙・1通	い403-3
覚(納米代金受取につき) 賀野幸右衛門→神戸分左衛門	(近世後期)戌4月12日	縦紙・1通	い477-12
覚(約100俵代金ならびに運賃共請取につき) 山本藤九郎内佐助→神戸弥左衛門内忠八郎・長兵衛	(近世)丑5月18日	縦継紙・1通	い503-2-3
口上(新田米切手) 萱津屋みせ→犬山屋嘉兵衛	(近世)申7月20日	堅切紙・1通	い445-3-25
(差引勘定書付)	(近世)	横切紙・1通	い415-13
(なへふた入木代・神戸彦七小豆御請代等覚書)	(近世)	横切継紙・1通	い415-14
金預り證券 三輪喜七→神戸分左衛門	明治9年1月6日	縦紙・1通	い447-5
金預り証書 三輪喜七→神戸分左衛門	明治10年3月21日	罫紙・1通	い447-6
神戸分左衛門様 商業銀行→神戸分左衛門	4月19日	封筒・1点	い601-8-0
(早川様の小切手の義、不注意により約定額と相違した件につき) 商業銀行預金係→神戸分左衛門	4月19日	横切継紙・1通	い601-8-1

金融

個別金融

(貸金ならびに)前々より利受取候覚	(享保年間～元文年間)	横切継紙・1通	い417-24
覚(種油などの質取証文) 神戸分左衛門→今市屋忠次郎	延享3年8月	縦紙・1通	い484
覚(去暮払方勘定過上金不足のため拝借金願) 喜八(花押)→旦那様	安永8年2月	縦紙・1通	い449-22
子霜月限 宇治屋三郎左衛門	子霜月	包紙・1点	い525-1-0
売切証文之事(水差・片口など茶道具10品売切代金受取) 宇治屋三郎左衛門→神戸文左衛門	寛政4年6月	縦継紙・1通	い525-1-1
書添申一札事(茶道具10品を質物とした借金の返済日限延引仕りたきにつき) 宇治屋三郎左衛門→神戸文左衛門	巳4月	縦紙・1通	い525-1-2
証文二通 熱田新田高羽茂左衛門様	(文化4年9月)	包紙・1点	い420-0
質流譲り渡シ申田地証文之事 熱田新田式拾番割田地譲り主高羽茂左衛門・同所親類証人惣四郎・同所庄屋久田宅左衛門→犬山屋辰治郎	文化4年9月	縦紙・1通(封紙付)	い420-1
添証文之事(本証文の金子受取、反畝歩改めにつき) 熱田新田式拾番割高羽茂左衛門→犬山屋辰治郎	文化4年10月	縦紙・1通(封紙付)	い420-2
継添証文之事(前書之田地貴殿へ売渡代金請取につき、前欠か) 金谷河原町売主作左衛門・証人武左衛門→儀右衛門	天保3年12月	縦紙・1通	い509
滞家質差入方之事 山屋喜六・山屋八蔵・間瀬伝蔵→神戸文左衛門	天保9年3月	縦紙・1通	い507
乍恐願上申御事(えひや町喜兵衛・又兵衛に金子を渡すように命じてほしいとの願書下書)	(近世)	縦継紙・1通	い527-1
奉願上申御事(海老屋町信濃屋五兵衛に金子を渡すように命じてほしいとの願書下書) 伝馬町武兵衛・納屋町治右衛門・元材木町分左衛門	子8月	縦継紙・1通	い527-2
乍恐奉願上申御事(海老屋町信濃屋五兵衛金子之儀につき埒明きを命じてほしいとの願書下書) 伝馬町武兵衛・納屋町治右衛門・元材木町分左衛門	子8月	縦継紙・1通	い527-3
乍恐奉願上口上(えひや町信濃屋五兵衛よりの質物の御切米手形22通分の米を渡すよう命じてほしいとの願書控) 元材木町分左衛門、元材木町町代分七郎・分六郎	亥12月	縦継紙・1通	い527-4
覚(信濃屋五兵衛御切米手形の米を渡さない経過の説明書) 元材木町分左衛門	亥12月	縦継紙・1通	い527-5
乍恐奉願上申御事(海老町信濃屋五兵衛金子之儀につき埒明けを命じてほしいとの願書控) 伝馬町武兵衛・納屋町治右衛門・元材木町分左衛門	子8月	縦継紙・1通	い527-6
乍恐奉願上申御事(海老屋町信濃屋五兵衛金子之儀につき埒明けを命じてほしいとの願書および町代奥書下書) 伝馬町武兵衛・納屋町治右衛門・元材木町分左衛門	子9月	縦継紙・1通	い527-7
乍恐奉願上申御事(海老町信濃屋五兵衛金子之儀につき埒明けを命じてほしいとの願書下書)	子8月	縦継紙・1通	い527-8

伝馬町武兵衛・納屋町治右衛門・元材木町分左衛門			
覚(楠村・利屋村などへの貸付金の元本・利子書付) 臼井忠助→桶屋町	亥11月20日	横折紙・1通	い477-6
口上(お遣いへ付貸致し呉れ候様に申す義取替申すにつき) 吉郎治→山岸	(近世)2月	小切紙・1通	い547-23
(池田氏息女の借用金子、祠堂金に上げるため受取り依頼状) 河村嘉修→神戸分左衛門	12月22日	横切継紙・1通	い477-29-2
諸用書付	(近世)	袋・1点	い415-0-1
(包紙)	(近世)	包紙・1点	い415-0-2
(益屋町与八郎・長崎町源兵衛書入金利足之覚)	(近世)	横切継紙・1通	い415-1
益屋町与八郎殿書入金四拾八両銀拾貳匁利足之覚	(近世)	横切継紙・1通	い415-2

領主金融

成瀬大和守

覚(納米預り金子取替え置くにつき) 神戸分左衛門→長谷川儀左衛門	享保18年12月5日	堅切紙・1通	い442-1
覚(郷納蔵米・納米代金銀差引払いにつき) 神戸分左衛門→長谷川儀左衛門	丑12月5日	堅継紙・1通	い442-2
覚(大和守様納米売代金受取につき) 神戸分左衛門→長谷川儀左衛門	丑極月27日	堅切紙・1通	い442-3
覚(小木村新田米預り置につき) 神戸分左衛門→長谷川儀左衛門	丑12月22日	堅切紙・1通	い442-4
覚(御蔵米・成瀬大和守様納米預り質物取貸付につき)		堅紙・1通	い442-5
(預かり手形、質物などの相談につき書状) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	12月晦日	横切継紙・1通	い442-6
(大宝新田御願一件、江戸表・郡方交渉状況につき書状) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	11月7日	横切継紙・1通	い442-7
口上(頼母子講加入願)	2月22日	横切継紙・1通	い442-8
(古渡村書入金証文仕替につき書状) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門		堅継紙・1通	い442-9
(借入金増額願につき書状) 丹羽忠左衛門→神戸分左衛門	9月17日	堅紙・1通	い442-10
(借入金残金受取につき書状) 丹羽忠左衛門→神戸分左衛門	9月22日	堅紙・1通	い442-11
(200両ならびに80両金差引、古渡村元借60両の利息残金支払いにつき書状) 丹羽忠左衛門→神戸分左衛門	11月24日	堅継紙・1通	い442-12
(成瀬)大和守様御屋敷寅納米御払方之通		包紙・1点	い442-13
成瀬大和守当寅年納米之内ニ而払方之覚 長尾佐五郎	卯3月6日	横長半(一ツ綴)・1冊	い442-14
(一札案文の通り認め替え等につき書状) 儀右衛門→文左衛門	2月1日	横切継紙・1通	い442-15
*大和様古渡り家賃差引書付、夫銀ノ事の手紙モ		包紙・1点	い548-0

入(包紙使用前は寛保元年の証文)			
子盆前 家賃之覚(日付、人名、家賃額書付)	(近世)子	横長半(一ツ綴)・1冊	い548-1
酉年御物成麦代金之事	戌6月	小切紙・1通	い548-2
古渡御扣屋敷家賃請取覚(家賃額、受取月日書付)	(酉)	横切継紙・1通	い548-3
覚(午・未年の値段相立てるにつき) 長尾左五郎→神戸分左衛門	2月	小切紙・1通	い548-4
(去年分夫食利足別紙之通進上、今年分は知行所百姓夫食のため支払えざるにつき) 長尾左五郎・篠田庄右衛門→神戸文左衛門	12月8日	横切継紙・1通	い548-5
上 古渡御屋敷 申麦代金請取		包紙・1点	い548-6-0
覚(納米量・代金書付) 米や彦兵衛→七左衛門	西極月	小切紙・1通	い548-6-1
申年御物成之内麦代金事 古渡村庄屋甚左衛門・文右衛門→成瀬大和守様御内	寛保元年5月13日	横切紙・1通	い548-6-2
覚(錫引留など書付) 松尾内三九郎→神戸	7月23日	横切継紙・1通	い548-7
丑盆前家賃(人名、家賃額書付)	(近世)	横長半(一ツ綴)・1冊	い548-8
(亥年物成米高、代金など算用書付)		縦紙・1通	い548-9
覚(子年物成米・代金書付、物成米2697石余から神戸文左衛門方にて借入金360両の元利返済に390石を支出)	子12月	縦継紙・1通	い548-10
子十月ヨリ丑九月迄諸払方覚(大和守家の支出書上か、支出米1633石のうち60石を神戸文左衛門への年賦返済に使用)	子12月	縦継紙・1通	い548-11
覚(物成米・麦・大豆など高・代金書付、物成米3056石余のうち60石を犬山屋文左衛門への毎年返金代として使用)		縦美継紙・1通	い548-12
用事書付		袋・1点	い417-0
成瀬大和守様へかし、御改之書付共、書入金年符ノ事、是又書付有之		包紙・1点	い417-1-0
書付 式通入、成瀬大和守様よりかし金御改ならびに古渡り御扣屋敷書入之元金済ニ記候様二との事		包紙・1点	い417-1-1-0
(借入金了簡これあり勝手取直し候様役人どもへ相談依頼につき書状)		横切継紙・1通	い417-1-1-1
(古渡村繁町扣借家家賃収入不足につき拾五年賦無利子借入金願)	辰12月	横切継紙・1通	い417-1-1-2
覚(御年賦金等指引見積書)	12月	横切継紙・1通	い417-1-2
覚(金子請取につき)	元文3年12月	横切紙・1通	い417-2
(困窮のため三階土蔵質物として30両当暮迄借金依頼につき書状)	6月13日	横切継紙・1通	い417-3
分左衛門分(上金返金通知) 丁代武左衛門・源七	戌(寛保2年カ)4月	縦継紙・1通	い417-4
覚(野垣殿金指引書付)		縦継紙・1通	い417-5
中市場(福瓦半左衛門親類書)	(近世)	横切継紙・1通	い417-6
成瀬藤左衛門様御買物手形、手形一通もくろく一		包紙・1点	い417-10-0

通、長谷川様来状有			
覚(文字金通用なれども金銀割合は二三ヶ月間これまでの通りにつき被仰渡書付写)		縦紙・1通	い417-10-1
(質物が手形と引き合わざるため、引き合い直し依頼につき書状) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	4月13日	横切継紙・1通	い417-10-2
(質物道具引き合わせ、金子貸し遣わしの手続きにつき書状) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	4月29日	横切継紙・1通	い417-10-3
(質物道具長持の)合封印 *い417-10-3に添付か		縦紙・1通	い417-10-4
覚(預け金600両引き合わせ、手形返進につき) 同(神戸)分左衛門→神戸弥左衛門	2月12日	横切継紙・1通	い417-10-5
(新規に19両借用願) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	卯月1日	縦紙・1通	い417-10-6
(御引合の道具ご覧の上新規に19両借用につき書付) 長谷川儀左衛門→神戸分左衛門	卯月10日	縦紙・1通	い417-10-7

成瀬修理

(借入金請取書付) 永田宇右衛門→犬山屋文左衛門	午11月25日	縦継紙・1通	い417-7
寛保二戌正月改置	寛保2年正月	付札・1点	い417-22-0
預り申金子之事(成瀬修理勝手入用として700両、返納は知行所のうち300石、写し、成瀬修理の裏書) 加賀源右衛門・町野繕左衛門・三宅紋右衛門・脇部郷右衛門・榊原伝右衛門→神戸分左衛門・井筒屋重兵衛・大高屋善九郎	元禄16年12月	縦紙・1通	い417-22-1
口上(成瀬修理への貸上金覚書)		横切継紙・1通	い417-22-2
覚(利足支払につき書上) 永田宇右衛門→神戸分左衛門	12月29日	横切継紙・1通	い417-22-3
(米下値知行方下免のため利金御勘弁につき書状)	午7月13日	横切継紙・1通	い417-8
(封紙、12月20日付永田宇右衛門から神戸分左衛門への借入金返済関係の文書を利用) 永田宇右衛門→神戸分左衛門		包紙・1点	い417-9-0
(石川成盛方借入金借り替え整わずにつき書状) 永田宇右衛門→神戸分左衛門	11月20日	横切継紙・1通	い417-9-1

飯川三郎左衛門

証文式通		封筒・1点	い495-8-0
借用申金子之事(別紙地頭物成取締を以って) 飯川三郎左衛門知行所大秋村文左衛門→永田屋幸蔵御取次	文政元年7月	縦紙・1通	い495-8-1
借用申金子之事(知行所物成取締借入金証文) 飯川三郎左衛門→元材木町永田屋幸蔵	文政3年9月	縦紙・1通	い495-8-2
(借入金返済につき)	寅7月5日	小切紙・1通	い495-8-3
借用申金子之事(知行所物成取締借入金) 飯川三郎左衛門→元材木町永田屋幸蔵	文政3年9月	縦紙・1通(封紙付)	い495-8-4

その他

借用申金子之事 窪木藤十郎・安井新兵衛→文左衛門	享和3年4月	堅紙・1通	い499-13
請取申金子之事(遠州村方早損場御手当金として村方へ貸付につき) 松下内匠元ノ手代太田弥惣右衛門→城之越村金主清左衛門	文化9年12月	堅紙・1通	い514
永代譲請候田地内輪実意一札之事(実正は無代にて譲請け候儀紛れこれなきにつき) 高木八郎左衛門内小川嘉十郎・岡井嘉平治→犬山屋文左衛門	文化11年6月	堅紙・1通	い491
手形形通 松山藤右衛門殿かし金 →松山藤右衛門	文政7年7月19日	包紙・1点	い549-0
借用申金子之事(札金2両) 松山藤右衛門→神戸文左衛門	文政7年7月	堅紙・1通	い549-1
(金貳両二分にても三両にても借用仕りたきにつき書状) 竹母→友之丈	7月12日	横切紙・1通	い477-26

裁判

貸金請求之訴 名古屋治安裁判所→刑事補田嶋	明治17年	封筒・1点	い610-0
裁判言渡(海沼平七らと三輪喜七の間の貸金請求裁判控訴審判決) 名古屋控訴裁判所判事久保秀景他判事1名、書記1名→愛知県尾張国名古屋区下園町4丁目1番地51番邸平民海沼平七外4名惣代兼同県同国同区上長者町6番屋敷平民 控訴者堀田吉蔵他控訴者2名、被控訴者1名	明治16年4月16日	「裁許用」用箋・1冊	い610-1
裁判言渡(三輪喜七と海沼平七他6名との間の貸金裁判始審判決) 名古屋始審裁判所→愛知県尾張国名古屋区皆戸町1丁目平民三輪喜七代言人 原告千賀金五郎他被告2名	明治16年1月23日	「裁許用」用箋・1冊	い610-2
約定証(借入金返済の日延べ願い) 総代堀田吉蔵→三輪喜七	明治15年11月16日	郵便紙・1通	い610-3
身代限御取消願 平民被告人船橋藤七、海沼平七、小川伊三郎、杉山彦左衛門、同区皆戸町1丁目三輪喜七→名古屋始審裁判所長判事小松弘隆	明治17年3月3日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い610-4
身代限御取消願(下書) 名古屋区南鷹匠町18番邸平民被告人船橋藤七他3名→名古屋始審裁判所長判事小松弘隆	明治17年3月	郵便紙・1通	い610-5
預り証(金200円貸金証券1通など海沼平七他6名との事件に関わる書類預かるにつき) 代言人鈴木文一→三輪喜七	明治17年1月20日	「証券界紙」用箋・1通	い610-6
委任証(海沼平七他6名との事件において拙者の代理人とするにつき) 三輪喜七→服部甲治	明治17年1月20日	「証券界紙」用箋・1通	い610-7
借入金証券(金200円) 小田原町1丁目5番地12番屋敷金借主近藤徳左衛門他1名、他海沼ら加判人7名→三輪喜七	明治13年1月11日	堅美紙・1通	い610-8-1
「執行願番号」		小切紙・1通	い610-8-2

その他

(田町正覚寺預け金関係文書写し・貼り込み帳)	(文政年間)	横長半(一ツ綴)・1冊	い460-1
------------------------	--------	-------------	--------

材木取引

(代金請取帳か) 木引利右衛門→元町分左衛門

横長半(一ツ綴)・1冊

い405

地主経営全体

書類草案

借地受作証書草案	(明治年間)	封筒・1点	い587-0
宅地賃借証券(草案)	(明治年間)	「鷗汀書屋」用箋・1冊	い587-1-1
土地賃借証券(草案)	(明治年間)	「鷗汀書屋」用箋・1冊	い587-1-2
地所借用証券(草案)	(明治年間)	「鷗汀書屋」用箋・1冊	い587-1-3
土地賃借契約証書(草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-1-4
(受作証文用紙、「化」=愛知郡化物新田カ)	(明治年間)	印刷用紙・1通	い587-1-5
(借地証券用紙)	(明治年間)	印刷用紙・1通	い587-1-6
(小作証券の修正に関する書状下書き) →分左衛門	(明治年間)	洋紙便箋(鉛筆書き)・1通	い587-1-7
(宅地賃借証券用紙、紀左衛門新田)	(明治年間)	印刷用紙・1冊	い587-2
(受作証文用紙、紀左衛門新田)	(明治年間)	印刷用紙・1冊	い587-3
(二十三年度「十人之者へ当ル分」の米16石余を正月27日までに着船指示、混入文書)	(明治24年カ)1月	小切紙・1通	い587-4-1
地所借用証券(草案、神戸新田田畑共普通)	(明治年間)	「神戸蔵書」罫紙・1冊	い587-4-2
神戸銀之亮様 小作証書草稿入 神戸直蔵→神戸銀之亮	(明治年間)	封筒・1点	い587-4-3-0
(至急返事要請につき書状) 直彦→銀之亮	(明治年間)8月2日	横切紙(朱書)・1通	い587-4-3-1
(組合規約の儀につき書状) 直彦→銀之亮	(明治年間)2月20日	横切継紙・1通	い587-4-3-2
木挽町二丁目神戸分左衛門様 南大津町神戸直彦→神戸分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い587-4-4-0
(土地賃借契約証の下書、田畑の分)	(明治年間)	洋紙便箋(鉛筆書き)・1通	い587-4-4-1
(土地賃借契約証の下書、山林及葭生の分)	(明治年間)	洋紙便箋(鉛筆書き)・1通	い587-4-4-2
(土地賃借契約証の下書、宅地分)	(明治年間)	洋紙便箋(鉛筆書き)・1通	い587-4-4-3
(土地賃借契約証の草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-5
(宅地賃借契約証の草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-6-1
(宅地賃借契約用紙)	(明治年間)	印刷用紙・1冊	い587-6-2
(耕地受作証下書)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-7-1
(耕地受作契約用紙)	(明治年間)	印刷用紙・1冊	い587-7-2
(山林借地契約証書草案) →神戸分左衛門	(大正年間)	印刷用紙・1冊	い587-8-1
(宅地借地契約証書草案) →神戸分左衛門	(大正年間)	印刷用紙・1冊	い587-8-2

神戸家・勘定場/地主経営全体/書類草案

(田畑借地契約証書草案) →神戸分左衛門	(大正年間)	印刷用紙・1冊	い587-8-3
(田畑賃借契約証草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-9
(山林及葭生ノ分の土地賃借契約証草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-10
借地受作証券(不用の草案)	明治24年1月1日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い587-11
(土地賃借契約証草案)	(明治年間)	「神戸氏蔵」用箋・1通	い587-12

新田不明

覚(田四畝の三納米勘定書写) 柳橋友蔵→龍山屋源蔵	文化5年12月	横切紙・1通	い499-16
(新田払方明細書き上げ)	文化10年	縦継紙・1通	い596-1
御作徳米借用証文之事 米借主勘三郎・同借主文蔵・請合2名、同借主要助・請合4名、同借主平蔵・請合4名→御庄屋	文政6年12月	縦継紙(封紙つき)・1通	い400
覚(初代金覚書)	(近世) 丑5月	堅紙・1通	い449-16
覚(新田米切手) こえつや忠七→犬山屋嘉兵衛	(近世) 卯霜月晦日	堅切紙・1通	い445-1-30
覚(海西郡・海東郡の石高・家数・人数・割当金銀額書上)		横切縦紙・1通	い541-3-1
(神戸新田の割当金銀額書付)	(近世) 辰	堅切紙・1通	い541-3-2
覚(新田諸入用差引勘定書付)	(近世) 未2月6日	横切紙・1通	い417-22-6
覚(差引帳面金請取につき領収書) 与市→分左衛門	(近世) 未2月6日	横切縦紙・1通	い417-22-7
(断簡)	(近世) ヲ	断簡・1点	い417-22-8
当酉年御年貢之事(後欠)	(近世) 酉	横切紙・1通	い503-2-1
覚(内外葭山代・川運上など差引勘定につき)	戌正月15日	縦継紙・1通	い503-2-11
地方渡方之積(田畑渡金元利残金勘定、新田10ヶ年過ぎ見立免済み公儀定納勤め残り徳米差引勘定)	(近世) 戌7月20日	縦継紙・1通	い429
当戊年分	(近世) 戌11月	横切紙・1通	い503-2-2
覚(十ヶ年分入用元金・納米等覚書)	(近世) 亥3月14日	縦継紙・1通	い430
(川入札の様子につき書状) 新田定市→鈴木小右衛門	4月9日	横切紙・1通	い608-7-6
覚(新田分1ヶ年の献金など受取につき)	11月29日	横切紙・1通	い608-7-4
覚(蔵米2石受取につき) かにへ本町惣右衛門→水島ませんへや弥十郎	(近世) 12月	堅紙・1通	い445-1-6
(神戸新田周辺村落名と銭高の書付)	(近世)	横長半(一ツ綴)・1冊	い412-20
九月十八日迄諸払(三小屋へ渡シ金等支払覚)	(近世)	縦継紙・1通	い431
覚(新田開発損益見積書)	(近世)	縦継紙・1通	い428
酉之年秋畑見立帳	(近世)	横長半(一ツ綴)・1冊	い458
(小作人ごとの面積と米高の書上)	(近世)	横長美(一ツ綴)・1冊	い462-4

検見帳指出し(米高を「村方」と「他村」に区分して 集計)	(近世)	横長美(一ツ綴)・1冊	い462-5
覚(御見取所検見入用書付)	(近世)	横折紙・1通	い463-8
(入用金払方書上)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-8
覚(掟米引き方割合書)	(近世)	横折紙・1通	い464-9
覚(年貢米・役銀など差し引き地主取り分見積書)		縦継紙・1通	い503-2-4
覚(年貢米・役銀など差し引き地主取り分見積書)		堅切縦紙・1通	い503-2-14
(道の間数書付)		堅切紙・1通	い541-1
覚(人名・斗高書付)		横切紙・1通	い541-4
(子・寅・午・酉年の返納米など算用書付)		横切縦紙・1通	い547-11
覚(人名、米高書上)		横切紙・1通	い608-9-7
割合之記	(明治)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-1

公儀との関係

触書等

(小玉銀通用、新金銀引替などにつき御触書4本写)	(正徳5年4月22日)	横切縦紙・1通	い482-1
金銀御吹替御触留(正徳4年御触書と請書の写)	(正徳4年)	横切縦紙・1通	い482-2
(新吹金通用につき触書写)		縦継紙・1通	い417-11
(銀吹替え、新銀古銀割合につき山城国中触書写)	辰8月	横切紙・1通	い417-12
筑波			
覚(新金銀通用につき為替之者共等覚書)	辰5月12日	横切縦紙・1通	い417-13
覚(新金引替割合無差別通用につき、後欠)		横切縦紙・1通	い417-14-1
覚(今吹小判目等覚書)		断簡・1点	い417-14-2
(新旧金引替増歩停止につきお知せ)	8月23日	横切縦紙・1通	い417-15

連絡

大宝前新田之儀につき林氏ヨリ宮原氏へ返報(包 紙使用前は10月14日付書状) →愛知郡海西郡宝 地村大字神戸新田神戸分左衛門	(宝暦3年10月)	包紙・1点	い547-12-0
(犬山神戸弥左衛門よんどころなき御頼みの儀に つき、願出候はば出精し取り扱う旨) 林又左衛 門→宮原善兵衛	宝暦3年10月13日	横切縦紙・1通	い547-12-1
口上之覚(風邪のため元日の御奉行所御礼お断り につき) 犬山屋文左衛門→真野鉄蔵	巳12月	堅紙・1通	い608-2
(役所へ他所より客来あるため品々借用願) 永田 宇右衛門・後藤増右衛門・鈴木元右衛門→犬山屋文左 衛門	4月18日	堅切縦紙・1通	い547-5
(御道具を遣わした者に渡し下さるべき旨) 鈴木 元右衛門・後藤増右衛門・永田宇右衛門→犬山屋文左 衛門	4月20日	横切縦紙・1通	い547-1
(昨日借用した中央・花生など書付) 永田宇右衛 門・後藤増左衛門→犬山屋文左衛門	4月22日	縦継紙・1通	い547-14

覚(中央・花生など借用品々書付)	4月	縦継紙・1通	い547-22
(大宝前新田成立時の証文など所持の照会) 斉藤 歳蔵・樋口茂兵衛→犬山屋文左衛門	8月9日	堅切継紙・1通	い547-19
(願書について申し談じることがあるにつき役所 へ出られたき旨) 加藤善蔵→犬山屋文左衛門	9月1日	堅切紙・1通	い547-9
(明後7日に他所から役所へ立ち寄る方があるにつ き御道具借用仕りたき旨) 永田宇右衛門・後藤増 左衛門・鈴木元右衛門→神戸文左衛門	10月5日	縦継紙・1通	い547-15
覚(三幅対掛物・硯箱・屏風など借用品々書付)	10月5日	縦継紙・1通	い547-20
(屏風拝借願につき) 鈴木元右衛門・後藤増左衛門・ 永田宇右衛門→犬山文左衛門	10月6日	縦継紙・1通	い547-13
(大宝前新田取立の儀に関する役所よりの証文を 写し差し出し申すべき旨) 森村甚左衛門役所→ 犬山屋神戸文左衛門	10月20日	堅切紙・1通	い547-18
* (中納言様明日御着城出迎えにつき書状) 地方 勘定本ノ役→神戸文左衛門		横切紙(封紙つき)・1通	い418-1-14

御用金・貸上金

分左衛門分(上金返金通知) 丁代武左衛門・源七	戌(寛保2年カ)4月	縦継紙・1通	い417-4
(米買先納金につき留帳)(明和8～安永5)	(明和8～安永5年)	横長美(一ツ綴)・1冊	い462-1
御用金請取 拾壺通	安永7年8月11日	包紙・1点	い496-0
覚(御借上金割付につき) 塩町→元材木町宇六	(安永7年)	堅切継紙・1通	い496-1
覚(借上金請取につき) 正万寺町丁代喜兵衛→下材 木町宇六	(安永7年)戌8月11日	堅切紙・1通	い496-2
(元材木町恵春扣分借上金書付)	(安永7年)戌8月	堅切紙・1通	い496-3
御借上金割(受取につき) 町代→久右衛門	(安永7年)戌8月	小切紙・1通	い496-4
御借上金割(受取につき) 組頭吉右衛門・下材木町 町代→元材木町宇六	(安永7年)戌8月10日	小切紙・1通	い496-5
御借上金割(受取につき) 吉右衛門・町代→五兵衛	(安永7年)戌8月10日	小切紙・1通	い496-6
御借上金割(受取につき) 吉右衛門・町代→利助	(安永7年)戌8月	小切紙・1通	い496-7
覚(町内御借上金120両貴殿居宅・扣借家へ割付に つき) 組頭武左衛門→犬山屋文左衛門	(安永7年)戌8月10日	縦継紙・1通	い496-8
覚(御借上金請取につき) 正万寺町丁代喜兵衛→恵 春	(安永7年)戌8月11日	堅切紙・1通	い496-9
(元材木町孫右衛門扣分御用金請求書、受取文言追 筆)	(安永7年)戌8月10日	札・1通	い496-10
覚(御借上金割付につき) 小舟町丁代幸助→元材木 町恵春	(安永7年)戌8月10日	堅切継紙・1通	い496-11
町方検断方百両之請取書 鳥井印	寛政12年3月29日	包紙・1点	い550-0
覚(調達金100両受取覚) 検断役→犬山屋文左衛門	(寛政12年)申3月29日	横切継紙・1通	い550-1
米切五拾両上納之節御請取書 町方御役所 鳥井 印	享和2年4月22日	包紙・1点	い555-0

覚(調達金50両請取につき) 検断役→犬山屋文左衛門	(享和2年)戊4月22日	小切紙・1通	い555-1
町内御新開御払切手受取	享和3年3月22日	包紙・1点	い499-4-0
覚(御切手請取につき) 又右衛門→文左衛門	正月2日	横切継紙・1通	い499-4-1
「(割印)一、金八両 文左衛門」(全文)		札・1通	い499-4-2
請文	(文化2年11月)	包紙・1点	い425-0
借用申金子之事(佐屋陣屋繰合金として米切手200両、金市之進による奥書) 西村嘉一郎・村井源太郎・永田伝兵衛→犬山屋文左衛門	文化2年11月	堅紙・1通(封紙付)	い425-1
預り金之覚	(文化9年)	横切紙・1通	い499-22
証章	(天保8年3月16日)	包紙・1点	い495-7-0
覚(貧民為施金請取につき) 御救所掛り諏訪助四郎→神戸文左衛門	天保8年3月16日	堅紙・1通	い495-7-1
町御奉行所町役銀引当御手形	(嘉永元年12月)	包紙・1点	い495-4-0
覚(調達金請取につき) 町奉行所→犬山屋文左衛門	嘉永元年12月	堅切紙・1通	い495-4-1
(犬山屋文左衛門分の十ヶ年調達金元利書上)	嘉永元年	折紙・1通	い495-1
御奉行所調達金御手形 御取扱三輪武右衛門様・村井 戊十二月廿五日名代条助受取	(嘉永3年12月)	包紙・1点	い495-2-0
覚(調達金請取につき) 町奉行所→犬山屋文左衛門	嘉永3年12月	堅切紙・1通	い495-2-1
町御奉行所調達御手形	(嘉永5年正月)	包紙・1点	い495-3-0
覚(調達金請取につき) 町奉行所→犬山屋文左衛門	嘉永5年正月	堅切紙・1通	い495-3-1
覚(御国恩冥加差上金請取書写) 町奉行所→材木屋惣兵衛・犬山屋文左衛門・大鐘屋藤七・麻屋直助	安政3年11月8日	堅紙・1通	い495-6-1
覚(献金請取につき) 当方御用会所→犬山屋文左衛門	(安政3年)辰11月10日	小切紙・1通	い495-6-2
御軍用至誠預金御請取通	(慶応4年)辰2月	包紙・1点	い495-5-0
御軍用につき至誠差上金請取通 地方御勘定所→神戸文左衛門	慶応4年2月	横折紙・1通	い495-5-1
御借上金受取		包紙・1点	い422-0
(宇六控地3ヶ所、文左衛門宅2ヶ所、同控地4ヶ所分上納金請求書) 義左衛門・喜市	5月	堅紙・1通	い422-2
覚(金子請求書、受取文言追筆) 丁代平左衛門(名古屋塩町)→元材木町宇六	丑5月25日	堅切紙・1通	い422-3
五条町御借上金(文左衛門控地分御借上金書付)		札・1通	い422-4
覚(御借上金割符覚) 小船町→元材木町文左衛門	丑5月	堅切紙・1通	い422-5
御借上金割廿三日迄御指出シ(281匁余受取につき) 下材木町吉右衛門→元材木町宇六	丑5月	小切紙・1通	い422-6
御借上金割廿三日迄御指出シ(28匁余受取につき) 吉右衛門→利助	丑5月	小切紙・1通	い422-7
御借上金割廿三日迄御指出シ(28匁余受取につき) 吉右衛門→久右衛門	丑5月23日	小切紙・1通	い422-8

神戸家・勘定場/公儀との関係/御用金・貸上金

御借上金割廿三日迄指出シ(56匁余受取につき) 吉右衛門→又兵衛	丑5月23日	横切紙・1通	い422-9
(上納金請求書、受取文言追筆) 治郎九・市郎左衛門→字六	5月12日	堅切紙・1通	い422-10
(上納金請求書、受取文言追筆) 治郎九・市郎左衛門→字六	5月12日	堅切紙・1通	い422-11
(犬山屋分左衛門分上納金未進につき上申書)	亥5月20日	横切紙・1通	い424
覚(元材木町文左衛門扣新開御切手代金残金上納につき) →元材木町文左衛門	亥閏正月29日	堅切紙・1通	い499-3-1
(新開御切手代金納入につき) →元材木町文左衛門		札・3通	い499-3-2
御新開御切手当調達金請取書 七間町		包紙・1点	い499-5-0
覚(御切手代金請取につき) 上七間町佐兵衛→犬山屋文左衛門	戌12月9日	小切紙・1通	い499-5-1
(新開御切手御出被下候様につき、受取文言追筆) 正万寺町→神戸	4月2日	堅切紙・1通	い499-6
(御切手代金差出につき、受取文言追筆) 上七間町丁代佐兵衛→元材木町文左衛門		札・1通	い499-7
御新開御加地子米御切手受取 大がねや		包紙・1点	い499-8-0
(石高・代銀差引勘定書付)		小切紙・1通	い499-8-1
覚(調達金受取につき) 川方屋善右衛門→神戸文左衛門	巳11月23日	堅切紙・1通	い499-9
借用申当分調達金之事(陣屋取扱金当分繰合につき借用証文写) 西村嘉一郎・浜嶋勝四郎・吉田三輪蔵・村井源太郎・永田伝兵衛、(奥書)太文左→犬山屋文左衛門	文化元年7月	小切紙・1通	い499-10
覚(海西郡大宝前新田天明6年分ほか調達金書上)	子12月24日	横切紙・1通	い499-11
覚(元禄2年以後12年分の金高書上、後欠)		横切紙・1通	い499-12
覚(八間分の銀160匁請求につき、受取文言追筆印形) 塩町丁代庄右衛門→元材木町分右衛門	亥12月	堅切紙・1通	い499-14
覚(調達金出金・返済記録、未から亥の5年間)		横切紙・1通	い499-15
覚(米切手金調印につき) 検断役→犬山屋辰次郎	7月25日	堅紙・1通	い499-19-1
覚(米切手金調印につき) →犬山屋辰次郎	7月29日	堅紙・1通	い499-19-2
覚(文左衛門扣新開御切手代わり戻しにつき、端裏に「神」) →(文左衛門)	亥5月	堅切紙・1通	い499-20
(元材木町・塩町・新田・正万寺町より預かり御切手枚数書上)		横切紙・1通	い499-21
覚(加藤久右衛門様への貸金書付) 組頭		小切紙・1通	い499-23
覚(町割出金受取につき) 家守庄助→神戸	亥5月晦日	小切紙・1通	い499-24
覚(町割金受取につき) 下材木町庄助→神戸	亥8月晦日	小切紙・1通	い499-25
覚(御新田御手形米代請取につき) 又右衛門(元材木町福島屋)→文左衛門	戌12月8日	小切紙・1通	い499-26
覚(新開地代金請取につき) 山本屋吉右衛門→犬山	亥11月21日	小切紙・1通	い499-27

屋文左衛門			
企業出資			
海島銀行			
海嶋銀行書類 神戸	明治26年12月7日	封筒・1点	い601-0
委任状(海島銀行の株主総会時の代理人を定めるにつき) 神戸分左衛門	明治27年7月7日	印刷用紙・1通	い601-1-1
領収証(海島銀行第1期70株配当金35円受取につき) 海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門代理長尾義方→株式会社海島銀行御中	明治27年7月19日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-1-2
委任状(海島銀行株主総会などに際しての委任状) 神戸分左衛門	明治28年	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-1-3
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 尾張国津島町株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門		封筒・1点	い601-7-0
(海島銀行第二期定式総会および役員改選挙への出席要請につき) 尾張国海島町株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治28年1月10日	株式会社海島銀行便箋・1通	い601-7-1
(株金第二回払い込み期間の通知につき) 尾張国津島町株式会社海島銀行→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	3月22日	葉書・1通	い601-7-2
(海島銀行設立が認可されたので一株につき金12円50銭つつ払い込みなりたき旨) 株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治26年12月29日	葉書・1通	い601-7-3
(明治28年度上半期決算につき定式総会を開会するにつき出席要請) 尾張国津島町株式会社海島銀行→海西郡宝地村神戸分左衛門	明治28年7月3日	葉書・1通	い601-7-4
(海島銀行第四回払い込み通知) 津島町株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治28年3月12日	葉書(ペン書き)・1通	い590-7-6
増資原案(海島銀行の資本金10万円増加しこれを2000株に分け、一株50円とすることなどにつき)		「株式会社海島銀行」用箋・1通	い601-1-4
(1月12日の株主臨時総会で資本金増資が決議されたにつき通知) 津島町株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治29年2月25日	印刷用紙・1通	い601-1-5
株式申込書(海島銀行新株70株引請け申したき旨) 愛知県海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門→株式会社海島銀行頭取水野長八	明治29年3月1日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-1-6
領収証(70株の証拠金70円領収につき) 津島町株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治29年3月5日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-1-7
領収証(50株分の金500円領収につき) 株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治29年4月11日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-1-8
委任状(代理人を立てるにつき) 神戸分左衛門	明治29年4月15日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-9-1
委任状(海島銀行株券売り渡しに際し代理人を立てるにつき) 神戸分左衛門	明治29年4月	罫紙・1通	い601-9-2
記(海島銀行旧・新株券の代金受取につき) 神戸分左衛門→早川勘七	明治29年4月31日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-9-3
証(海島銀行株券売り渡すにつき手付け金受取り、残り金本月30日まで受取のうえ株券渡す旨の約定証) 神戸分左衛門(抹消)→早川勘七	明治29年4月17日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-9-4

神戸家・勘定場/企業出資/海島銀行

(新券引換えのため海島銀行旧株券を持参し来行下されたきにつき) 尾張国津島町株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治29年3月20日	葉書・1通	い601-2
(来る1月12日に定式・臨時株主総会を開くにつき参集下されたき旨) 津島町株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治28年12月31日	葉書・1通	い601-3
(前回の株主申し込み通知の記載訂正につき) 尾張国津島町株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門	2月27日	葉書・1通	い601-4
証(海島銀行株券売り渡すにつき手付け金として金100円受け取った旨) 神戸分左衛門→早川勘七	明治29年4月17日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い601-5
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 尾張国津島町株式会社海島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門		封筒・1点	い601-6-0
(新株証拠金払い込みの通知) 株式会社海島銀行→神戸分左衛門	明治29年3月14日	堅切紙・1通	い601-6-1

蟹江銀行

設立

蟹江銀行設立用書類、其他同行ニ係ル書類 神戸	明治27年4月	封筒・1点	い590-0
(創業総会開催通知) 蟹江銀行創立委員	(明治)27年4月5日	印刷用紙・1通	い590-6-9-1
神戸分左衛門殿 蟹江銀行創立委員→神戸分左衛門		封筒・1点	い590-6-5-0
(一株につき一円ずつ添えて申込書差出通知) 蟹江銀行発起人惣代蟹江次郎以下7名→神戸分左衛門	3月29日	印刷用紙・1通	い590-6-5-1
神戸分左衛門殿 蟹江銀行創立委員→神戸分左衛門	明治27年4月5日	封筒・1点	い590-6-9-0
(号数・年月日・印鑑欄のある未記入の印刷用紙)		印刷用紙・1通	い590-6-10-1
株式会社蟹江銀行営業広告 蟹江銀行	明治27年5月	印刷物・2通	い590-6-10-2
株式会社蟹江銀行設立目論見書ならびに定款	(明治27年)	印刷小冊子・1冊	い590-9-1
(明治27-29年の蟹江銀行との関係のメモ) (神戸分左衛門か)		罫紙・1通	い590-9-1-1

監査役

(本日の創業総会での監査役に当選通知) 蟹江銀行創立委員→神戸分左衛門	(明治27年)4月10日	葉書(ペン書き)・1通	い590-7-4
(当行上半期利益配当の協議のため来行通知) 蟹江銀行→監査役神戸分左衛門	明治28年7月10日	葉書(ペン書き)・1通	い590-7-7
当撰書(監査役当選通知) 蟹江銀行頭取蟹江次郎→神戸分左衛門	明治29年1月20日	蟹江銀行用箋・1通	い590-6-1
(増資本の件につき協議のため当行へ来参通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	明治29年2月5日	蟹江銀行用箋・1通	い590-6-2
(拙者都合により監査役退任するにつき) 神戸分左衛門→蟹江銀行頭取蟹江次郎	明治29年3月9日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い590-2-6

増資

委任状(蟹江銀行株30株) 神戸仲雄		委任状用紙・1通	い590-6-3-1
--------------------	--	----------	------------

承諾書(蟹江銀行株30株を債主名義に書替えにつき) 神戸仲雄		埴村商店用箋・1通	い590-6-3-2
神戸分左衛門様 蟹江銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い590-6-4-0
(増資募集のための新株分配方法決定通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	明治29年2月29日	蟹江銀行印刷用紙・1通	い590-6-4-1
(新株申し込みにあたってのメモ)		小切紙・1通	い590-6-4-2

総会

委任状(下書、神戸仲雄を28年度上半期総会の代理人とするにつき) 神戸分左衛門	明治28年7月	罫紙・1通	い590-2-4
(株主定式総会開催通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	7月10日	葉書(ペン書き)・1通	い590-7-5

営業報告書

第一期営業報告表 蟹江銀行	明治27年6月30日	印刷小冊子・1冊	い590-9-2
第三期 明治28年上半期 営業報告書 株式会社蟹江銀行	明治28年6月30日	印刷小冊子・1冊	い590-8
第三期 明治28年上半期 営業報告書 株式会社蟹江銀行	明治28年6月30日	印刷小冊子・1冊	い590-9-3
第四期 明治28年下半期 営業報告書 株式会社蟹江銀行	明治28年12月31日	印刷小冊子・1冊	い590-9-4

株式

監査役神戸分左衛門殿 蟹江銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い590-6-7-0
(当行株金第二回払い込み延期通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	明治27年8月23日	横切紙・1通	い590-6-7-1
(当銀行設立認可につき株式第一回払い込み通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	明治27年5月6日	葉書に印刷・1通	い590-7-1
(引き受け株券第二回払い込み通知) 蟹江銀行→神戸仲雄	明治28年3月9日	葉書サイズに印刷・1通	い590-7-2
(引き受け株券第二回払い込み通知) 蟹江銀行→神戸分左衛門	明治28年3月9日	葉書サイズに印刷・1通	い590-7-3

株券名義付替

委任証(下書、神戸分左衛門の代理人を蟹江家とするにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門	明治27年4月10日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い590-2-3
株券名義付替依頼書 愛知県海東郡蟹江町大字蟹江本町売渡人蟹江次郎・同県海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門→株式会社蟹江銀行株式係御中	明治27年11月31日	横切紙・1通	い590-2-2
株券名義付替依頼書 売渡人神戸仲雄・買受人神戸知水→株式会社蟹江銀行株式係御中	明治29年3月26日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い590-2-5
委任状(下書、株券名義書き換えにつき) 神戸知水	明治29年5月1日	罫紙・1通	い590-2-9
株券名義附替依頼書 売渡人神戸分左衛門→株式会社蟹江銀行株式係御中	明治29年	「神戸氏蔵」用箋・1通	い590-2-7

記(蟹江銀行株代金など差し引き勘定書付)	(明治年間)	「株式会社蟹江銀行」用 箋・1通	い590-2-8
----------------------	--------	---------------------	----------

神戸仲雄関係

神戸仲雄へ蟹江銀行株券三拾株貸渡シにつき同人 ヨリ差入レタル証券ならびに二写	明治28年3月1日	封筒・1点	い590-5-4-0
証(神戸仲雄蟹江銀行雇入の身元保証に差入れる ため蟹江銀行株券30株借用) 株券借用本人神戸 仲雄・保証人神戸まつ→神戸分左衛門	明治28年3月1日	罫紙・1通	い590-5-4-1
記(13株損金・手数料ほか計85銭3厘受取) 蟹江銀 行→神戸分左衛門	(明治年間)	横切紙・1通	い590-5-1
証(1円50銭書替え手数料として受取) 蟹江銀行→ 神戸智水	明治29年3月27日	蟹江銀行領収書用紙・1 通	い590-5-2
証(30株に対する払い込み金375円受取) 蟹江銀 行→神戸仲雄	明治28年4月30日	蟹江銀行領収書用紙・1 通	い590-5-3
仲雄一件につき賃銀千五百円御内千壱百円受取証	明治29年3月27日	封筒・1点	い590-4-2-3-0
領収証(預け置き金1100円) 株式会社蟹江銀行支配 人心得戸谷廷治郎→神戸分左衛門	明治29年3月26日	蟹江銀行用箋・1通	い590-4-2-3-1
神戸分左衛門様 神戸直彦→神戸分左衛門		封筒・1点	い590-4-2-1-0
証(神戸仲雄への貸付残り金の返済を年賦とする につき) 株式会社蟹江銀行常務取締役吉田甚平・取締 役頭取蟹江次郎→神戸仲雄	明治31年8月31日	「株式会社蟹江銀行」用 箋・1通	い590-4-2-1-1
(仲雄一件につき書状) 直彦	8月21日	横切紙・1通	い590-4-2-1-2
年賦金借用証券(金294円を無利子で8年間、下書) 借用主神戸仲雄・保証人神戸まつ→株式会社蟹江銀行 御中	明治31年8月30日	罫紙・1通	い590-4-2-2
証(金15円謝金として受取につき) 名古屋市主税 町廿一番戸弁護士太田鉄吉事務所→神戸分左衛門	明治32年1月26日	弁護士太田鉄吉事務所 領収書用紙・1通	い590-4-1

借入

預金証券(控、162円余預かり置くにつき) 預り主 神戸分左衛門→株式会社蟹江銀行御中	明治28年1月15日	罫紙・1通	い590-2-1
副証書(別段預金元利とも返金につき) 神戸分左 衛門→株式会社蟹江銀行御中	明治28年1月15日	罫紙・1通	い590-3-1
預金証券(金162円50銭) 預り主神戸分左衛門→株 式会社蟹江銀行御中	明治28年1月15日	罫紙・1通	い590-3-2
〔封筒〕(借入金162円50銭本日返金につき受取書)	明治29年3月27日	封筒・1点	い590-3-0
証(預けおき金162円50銭受取につき) 株式会社蟹 江銀行取締役吉田甚平・支配人心得戸谷廷治郎→神戸 分左衛門	明治29年3月27日	罫紙・1通	い590-3-3

その他

領収証(約束手形利子) 蟹江銀行支配人心得戸谷廷 治郎→神戸分左衛門	明治27年11月30日	横切紙・1通	い590-6-8
神戸君二相渡可頼証書 蟹江	(明治年間)	包紙・1点	い590-1-0

契約証(損害賠償の予定額受取につき) 株式会社 蟹江銀行頭取蟹江次郎・同行取締役吉田甚平・服部治 郎七・鈴木甚右衛門→神戸分左衛門	明治32年3月31日	「株式会社蟹江銀行」用 箋・1通	い590-1-1
神戸分左衛門殿(封筒のみ) 蟹江銀行→神戸分左衛 門	2月5日	封筒・1点	い590-6-6-0

尾西鉄道株式会社

設立

尾西鉄道株式会社創立用書類 神戸	明治27年3月	封筒・1点	い583-0
契約証(尾西鉄道株式会社設立の儀につき) 神	明治27年2月8日	小切紙・1通	い583-1
私設鉄道株式会社発起認可及鉄道敷設申請書・尾 西鉄道株式会社仮定款 →発起人連署	明治27年2月26日	印刷物・1通	い583-50
私設鉄道株式会社発起認可及鉄道敷設申請書・尾 西鉄道株式会社仮定款	明治27年	印刷物・1通	い583-5
神戸分左衛門殿 尾西鉄道株式会社創立事務所→神 戸分左衛門		封筒・1点	い583-36-0
委任状(尾西鉄道株式会社設立認可出願書へ調印 之件)	(明治27年カ)	印刷用紙・1通	い583-36-1
委任状(創業費等承認の件など)	(明治27年カ)	印刷用紙・1通	い583-36-2
(本公司設立事件につき発起人総会開会致したき 旨) 尾西鉄道株式会社創立事務所→神戸分左衛門	明治27年3月17日	罫紙・1通	い583-3
加盟申込証書(株金募集の節350株に対する金を拙 者引き受け出金致すにつき) 愛知県尾張国海西 郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門→尾西 鉄道布設発起人御中	明治27年3月19日	罫紙・1冊	い583-2
(青柳・岡本の運動の方針などの詳細ご報告申し上 げたきにつき) 尾西鉄道株式会社創立事務所→名 古屋市木挽町神戸分左衛門	明治27年4月16日	葉書・1通	い583-31
(尾西鉄道布設に関し通信省の技師久野氏実地測 量に来る旨参考までに御報告申し上げるにつ き) 海西郡津島町尾西鉄道株式会社創立事務所→ 名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治27年9月6日	葉書・1通	い583-30
御受書(尾西鉄道株式会社の発起認可にあたり軌 道幅数につき命令書請書下書) 神戸分左衛門→ 通信大臣白根平一	明治29年1月21日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い583-37-2
木挽町神戸分左衛門様 富津町木野方水野長一→木 挽町神戸分左衛門	(明治29年)1月28日	封筒・1点	い583-37-0
(別紙命令書に対する請書に調印のうえ使いの者 へお渡し下されたきにつき書状) 水野長一→神 戸分左衛門	(明治29年)1月28日	横切紙・1通	い583-37-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 尾西鉄道株式会 社発起人惣代→名古屋市木挽町神戸分左衛門	(明治29年)1月30日	封筒・1点	い583-35-0
(種々重要な件御協議願いたきにつき津島町得宜 楼へ実印携帯にてご参集相なりたき旨) 尾西 鉄道株式会社発起人惣代水野長一→神戸分左衛門	明治29年1月30日	罫紙・1通	い583-35-1
(特別株御申し込みに対する証拠金払い込みの通 知) 尾西鉄道株式会社創立事務所→江森盛孝	明治29年5月	会社の印刷用紙・1通	い583-16
(江森・貴殿払い込みの件につき) 尾西鉄道事務所	明治29年6月3日	葉書・1通	い583-42-1

神戸家・勘定場/企業出資/尾西鉄道株式会社/設立

→名古屋市木挽町神戸分左衛門			
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 尾西鉄道株式会社創立事務所→神戸分左衛門	(明治29年カ)	封筒・1点	い583-42-0
(株主の会合へ実印携帯にての出席要請) 尾西鉄道株式会社創立事務所→神戸分左衛門	明治29年6月4日	尾西鉄道株式会社用箋・1通	い583-36-3
神戸分左衛門殿 尾西鉄道株式会社創立事務所→神戸分左衛門	(明治29年6月)	封筒・1点	い583-41-0
尾西鉄道株式会社申合規則	(明治29年6月)	豎半半・1冊	い583-41-1
(本月10日名古屋市金城館において創業総会を開き創業費の件など議決につき) 尾西鉄道株式会社創立委員長青樹英二→神戸分左衛門	明治29年6月11日	印刷用紙・1通	い583-41-2
明治27年1月ヨリ同29年5月迄ノ創業費	(明治29年6月)	印刷物・1通	い583-41-3
(創業総会での議決事項報告) 尾西鉄道株式会社創立委員長青樹英二→神戸銀之助	明治29年6月11日	印刷用紙・1通	い583-43-4
海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助殿 尾西鉄道株式会社創立事務所→海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助	(明治29年6月11日)	封筒・1点	い583-43-0
尾西鉄道株式会社仮定款	(明治29年6月11日)	印刷物・1通	い583-43-1
尾西鉄道株式会社申合規則	(明治29年6月11日)	印刷物・1通	い583-43-2
明治27年1月ヨリ同29年5月迄ノ創業費	(明治29年6月11日)	印刷物・1通	い583-43-3
(本月10日創業総会の通知) 愛知県海西郡津島町尾西鉄道株式会社創立委員長青樹英二→神戸分左衛門	明治29年6月	印刷用紙・1通	い583-19
神戸分左衛門様御中 栄琴楼井東→神戸分左衛門	(21日)	封筒・1点	い583-40-0
(委任状送付につき調印願ひ) 栄琴楼井東→神戸	21日	横切紙・1通	い583-40-1
委任状 神戸銀之助	明治29年10月3日	罫紙・1通	い583-40-2
(送付した印鑑用紙に記名・調印し、大至急送付下さるにつき) 尾西鉄道株式会社	明治29年11月12日	小切紙(洋紙、こんにゃく版)・1通	い583-15
(第一回払込金12月5日までに払い込まれた旨通知) 尾西鉄道株式会社→神戸分左衛門	明治29年11月12日	印刷用紙・1通	い583-18
(証拠金貴殿にて払い込みの儀につき) 津島町尾西鉄道株式会社創立事務所員→神戸分左衛門	(明治年間)5月30日	横切紙・1通	い583-4

規則

(遅延利息金の率引き上げをめぐる臨時総会議決が通信大臣より認可された旨通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸分左衛門	明治30年4月13日	葉書・1通	い583-27
(定款第10条の挿入認可の旨通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸銀之助	明治31年3月18日	葉書・1通	い583-24
尾西鉄道株式会社申合規則	(明治年間)	尾西鉄道株式会社用箋・1冊	い583-17

報告書

神戸分左衛門殿 尾西鉄道株式会社→神戸分左衛門	(明治29年12月)	帯・1点	い583-47-0
-------------------------	------------	------	-----------

尾西鉄道株式会社第壹回報告書	明治29年12月31日	印刷物・1冊	い583-47-1
海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門殿 →海 西郡宝地前大字神戸新田	(明治30年6月ヵ)	帯(未開封)・1点	い583-49-0
尾西鉄道株式会社第二回報告書	明治30年(6月)	印刷物・1冊	い583-49-1
海西郡神戸新田神戸銀之助殿 →海西郡神戸新田神 戸銀之助	(明治30年12月)	帯・1点	い583-48-0
尾西鉄道株式会社第三回報告書	明治30年12月5日	印刷物・1冊	い583-48-1

総会

名古屋市木挽町式丁目神戸分左衛門殿 愛知県海 東郡津島町尾西鉄道株式会社→神戸分左衛門	(明治30年1月4日)	封筒・1点	い583-38-0
(本月24日津島町得宜楼における通常総会・臨時総 会への出席要請) 尾西鉄道株式会社→神戸銀之助	明治30年1月4日	印刷用紙・1通	い583-38-1
委任状(通常会・臨時会提議) 愛知県海西郡宝地村 大字神戸新田28番戸神戸銀之助	明治30年1月	印刷用紙・1通	い583-38-2
(本月24日津島町得宜楼における通常総会・臨時総 会への出席要請) 尾西鉄道株式会社→神戸分左衛 門	明治30年1月4日	印刷用紙・1通	い583-38-3
(通常臨時総会議決の報告) 尾西鉄道株式会社→神 戸分左衛門	明治30年1月25日	印刷用紙・1通	い583-34
委任状(通常会・臨時会提議) 愛知県海西郡宝地村 大字神戸新田28番戸神戸分左衛門	明治30年1月	印刷用紙・1通	い583-38-4
海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助様 尾西鉄 道株式会社→神戸銀之助	明治30年6月24日	封筒・1点	い583-10-0
委任状(総会委任状、未記入用紙)	(明治30年ヵ)	印刷用紙・1通	い583-10-1
海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助殿 愛知県 海東郡津島町尾西鉄道株式会社→神戸銀之助	明治31年1月16日	封筒・1点	い583-52-0
(本月26日津島町得宜楼における通常・臨時総会へ の出席要請) 尾西鉄道株式会社	明治31年1月15日	印刷物・1通	い583-52-1
委任状(未使用用紙)	(明治年間)	印刷用紙・1通	い583-52-2
海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸銀之助殿 愛 知県海東郡津島町尾西鉄道株式会社→神戸銀之助	明治31年7月19日	封筒・1点	い583-53-0
(本月28日津島町得宜楼における通常・臨時総会へ の出席要請) 愛知県海東郡津島町尾西鉄道株式会 社→神戸銀之助	明治31年7月17日	印刷用紙・1通	い583-53-1
委任状	明治31年7月	印刷用紙・1通	い583-53-2

株式

委任状下書(尾西鉄道株式100株売渡に関する事項 売り渡すにつき) 神戸銀之助	明治29年10月3日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い583-21
海西郡宝地村神戸分左衛門様 愛知県海東郡津島町 尾西鉄道株式会社→神戸分左衛門	明治30年10月29日	封筒・1点	い583-39-0
(尾西鉄道株式会社仮株式受取方の儀につき) 尾 西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分 左衛門	明治30年2月17日	葉書・1通	い583-28

神戸家・勘定場/企業出資/尾西鉄道株式会社/株式

払込書(未使用用紙) →銀行御中	(明治30年10月)	印刷用紙・1通	い583-39-1
(尾西鉄道株式会社株式第2回払い込み通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治30年4月10日	葉書・1通	い583-26
(尾西鉄道株式会社第4回払い込み要請) 尾西鉄道株式会社	明治30年10月28日	印刷物・1通	い583-39-2
(尾西株式会社株式第3回払い込みの通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸銀之助	明治30年8月25日	葉書・1通	い583-6
(尾西株式会社株式第3回払い込みの通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸分左衛門	明治30年8月25日	葉書・1通	い583-7
(尾西鉄道株式会社株式第3回払い込み期日過ぎてもこれ無きにつき催告) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸銀之助	明治30年9月19日	葉書・1通	い583-11
(尾西鉄道株式会社株式未払い込みにつき公売処分と致すにつき) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸銀之助	明治30年10月18日	葉書・1通	い583-9
領収証(仮株券名義書換手数料1円35銭) 尾西鉄道株式会社→三輪定四郎	明治30年10月30日	尾西鉄道株式会社印刷用紙・1通	い583-12
委任状(尾西鉄道株式会社株券250株売り渡すにつき名義書換その他すべて代書代印をもって調理する旨) 海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門	明治30年10月30日	印刷用紙・1通	い583-36-4
領収証(仮株券名義書換手数料85銭) 尾西鉄道株式会社→三輪定四郎	明治30年11月30日	尾西鉄道株式会社印刷用紙・1通	い583-13
(尾西鉄道株式会社第4回払い込みの通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸銀之助	明治30年12月8日	葉書・1通	い583-8
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 愛知県海東郡津島町尾西鉄道株式会社創立事務所→名古屋市木挽町神戸分左衛門	(明治30年カ)	封筒・1点	い583-44-0
払込書(未使用用紙) →銀行御中	(明治年間)	印刷用紙・1通	い583-44-1
(尾西鉄道株式会社株式第4回払込要請) 尾西鉄道株式会社	明治30年10月28日	印刷物・1通	い583-44-2
(株式公売中に払い込みあったにつき) 愛知県海東郡津島町尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸銀之助	明治31年3月28日	葉書・1通	い583-32
(尾西鉄道株式会社株式第5回払い込みの通知) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助	明治31年5月23日	葉書・1通	い583-25
(尾西鉄道株式会社株式第5回払い込み未だ無きにつき催告) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村大字神戸新田神戸銀之助	明治31年6月17日	葉書・1通	い583-22
(神戸銀之助名義の株式30株公売処分と致すべくにつき) 尾西鉄道株式会社→海西郡宝地村神戸新田二十八番戸神戸銀之助	明治31年8月14日	葉書・1通	い583-23
神戸様 吉田→神戸	(明治年間)3月18日	封筒・1点	い583-45-0
(尾西鉄道株券50枚分の金25円使いの者に渡したにつき改め入手下さるべきにつき) 新三郎→銀之助	(明治年間)3月18日	横切離紙・1通	い583-45-1
証(株券の証拠金払い込み置くにつき)	(明治年間)	野紙・1通	い583-14

その他

(11月3日午前10時参会願) 尾西鉄道株式会社→名古屋 古屋市木挽町神戸分左衛門	(明治29年カ)10月25日	葉書・1通	い583-29
(銀行より払い込みにつき電報) ビサイテッドラ カイシヤ→カンドブンザエモン	明治30年10月20日	日本政府電報送達紙・1通	い583-51
海西郡宝地前字神戸新田神戸銀之助殿 →海西郡 宝地村字神戸新田神戸銀之助	明治30年10月29日	封筒・1点	い583-46
(第一銀行払込故障なく渡すにつき) 栄町井東→ 当市木挽町神戸分左衛門	(明治31年カ)10月25日	葉書・1通	い583-33
(金額書付)	(明治年間)	尾西鉄道株式会社用 箋・1通	い583-20

丸三麦酒

設立

丸三麦酒株式会社用書類		封筒・1点	い615-0
丸三麦酒株式会社定款	明治29年5月29日	印刷物・1冊	い615-1
(当会社仮株券を来る25日より発行するにつき御 受取なりたき旨の通知) 愛知県半田丸三麦酒株 式会社→本県下海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神 戸銀之助	明治29年12月17日	葉書・1通	い615-4
(当会社仮株券を来る25日より発行するにつき御 受取なりたき旨の通知) 愛知県半田丸三麦酒株 式会社→本県下海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神 戸分左衛門	明治29年12月17日	葉書・1通	い615-5
(本社創業総会において選挙した役員名通知につ き) 丸三麦酒株式会社創立事務所→海西郡宝地 村神戸分左衛門、神戸銀之助	明治29年9月9日	葉書・1通	い615-6
(今回払い込み通知書を海西郡へ発送してしまっ たが今後は名古屋へ向けて御通知達するにつ き) 愛知県半田町丸三麦酒株式会社創立事務所→ 名古屋市木挽町2丁目神戸銀之助、神戸分左衛門		葉書・1通	い615-7
(丸三麦酒株式会社創業総会に出席し提出議案を 議決し及び役員を選挙する等の件に関わる代理 人を定める委任状雛形)	明治29年	「神戸氏蔵」用箋・1通	い615-8
丸三麦酒株式会社株式申込証(40株、下書) 愛知 県尾張国海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左 衛門→丸三麦酒株式会社発起人御中	明治29年8月20日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い615-9
(本社株式60株を割り当てるにつき、申込書に記入 のうえ証拠金・印鑑1葉を添え御申し込みなりた き旨通知) 愛知県半田町丸三麦酒株式会社創立事 務所創立委員長盛田善平→神戸分左衛門	明治29年7月	印刷用紙・1通	い615-10
当県海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門殿 愛知県半田町丸三麦酒株式会社創立事務所→神戸分 左衛門		封筒・1点	い615-19-0
(半田町高等小学校にて丸三麦酒株式会社の創業 総会を開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社 創立委員長盛田善平→神戸分左衛門	明治29年8月29日	印刷用紙・1通	い615-19-1
当県海西郡宝地村字神戸新田神戸銀之助殿 愛知 県半田町丸三麦酒株式会社創立事務所→神戸銀之助	明治29年8月31日	封筒・1点	い615-20-0

(半田町高等小学校にて丸三麦酒株式会社の創業総会を開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社創立委員長盛田善平→神戸銀之助	明治29年8月29日	印刷用紙・1通	い615-20-1
---	------------	---------	-----------

報告書

第二回決算報告 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門他常務取締役1名、取締役5名、支配人1名、監査役4名	明治31年2月	印刷物・1通	い615-11
尾州海西郡宝地村字神戸新田神戸分左衛門殿 → 神戸分左衛門		包紙・1点	い615-2-0
第三回事業年度報告書 丸三麦酒株式会社	明治32年2月	印刷物・1冊	い615-2-1
第三回事業年度報告書 丸三麦酒株式会社	明治32年2月	印刷物・1冊	い615-3

総会

名古屋木挽町廿七番戸神戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門		封筒・1点	い615-17-0
(丸三麦酒株式会社の第一回通常総会ならびに臨時総会開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門	明治30年2月17日	印刷物・1通	い615-17-1
名古屋市木挽町27番戸神戸銀之助殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→名古屋市木挽町27番戸神戸銀之助		封筒・1点	い615-18-0
(丸三麦酒株式会社の第一回通常総会ならびに臨時総会を半田町光照院にて開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門	明治30年2月17日	印刷物・1通	い615-18-1
海西郡宝地村大字神戸新田二十八番戸神戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門	明治30年9月27日	封筒・1点	い615-27-0
(半田町光照院にて臨時総会開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門→神戸分左衛門	明治30年9月25日	印刷用紙・1通	い615-27-1
海西郡宝地村大字神戸新田二十八番戸神戸銀之助殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸銀之助	明治30年9月27日	封筒・1点	い615-29-0
(半田町光照院にて臨時総会開くにつき) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門→神戸銀之助	明治30年9月25日	印刷用紙・1通	い615-29-1
(丸三麦酒株式会社の第二回通常総会ならびに臨時総会を半田町光照院において開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門→神戸銀之助	明治31年2月2日	印刷用紙・1通	い615-13
海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門	明治31年2月4日	封筒・1点	い615-14-0
(丸三麦酒株式会社の第二回通常総会ならびに臨時総会を半田町光照院にて開くにつき出席要請) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜半左衛門→神戸分左衛門	明治31年2月2日	印刷用紙・1通	い615-14-1

株式

海西郡宝地村28番戸神戸分左衛門殿、同銀之助殿 愛知県半田町丸三麦酒株式会社創立事務所→神戸分左衛門、銀之助	明治29年9月23日	封筒・1点	い615-16-0
--	------------	-------	-----------

(丸三麦酒株式会社株式第一回払い込み願) 丸三 麦酒株式会社→株主各位	明治29年9月	印刷物・1通	い615-16-1
(丸三麦酒株式会社株式第一回払い込み願) 丸三 麦酒株式会社→株主各位	明治29年9月	印刷物・1通	い615-16-2
名古屋市木挽町御出張所神戸銀之助殿 愛知県半 田丸三麦酒株式会社→名古屋市木挽町御出張所神戸 銀之助	明治30年4月14日	封筒・1点	い615-25-0
(丸三麦酒株式会社株式第2回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社	明治30年4月14日	印刷物・1通	い615-25-1
名古屋市木挽町御出張所神戸分左衛門殿 愛知県 半田丸三麦酒株式会社→名古屋市木挽町御出張所神 戸分左衛門	明治30年4月14日	封筒・1点	い615-26-0
(丸三麦酒株式会社株式第2回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社	明治30年4月14日	印刷物・1通	い615-26-1
海西郡宝地村大字神戸新田廿八神戸銀之助殿 愛 知県半田丸三麦酒株式会社→神戸銀之助		封筒・1点	い615-30-0
(丸三麦酒株式会社株式第3回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社	明治30年10月12日	印刷物・1通	い615-30-1
海西郡宝地村大字神戸新田二十八神戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門		封筒・1点	い615-31-0
(丸三麦酒株式会社株式第3回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社	明治30年10月12日	印刷物・1通	い615-31-1
海西郡宝地村神戸新田神戸分左衛門殿 愛知県半 田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門		封筒・1点	い615-15-0
(丸三麦酒株式会社株式第4回払い込みの日限通知 につき) 丸三麦酒株式会社	明治31年1月10日	印刷物・1通	い615-15-1
海西郡宝地村神戸新田神戸銀之助殿 愛知県半田 丸三麦酒株式会社→神戸銀之助		封筒・1点	い615-21-0
(丸三麦酒株式会社株式第4回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社	明治31年1月10日	印刷物・1通	い615-21-1
海西郡宝地村大字神戸新田廿八神戸銀之助殿 愛 知県半田丸三麦酒株式会社→神戸銀之助	明治31年5月8日	封筒・1点	い615-22-0
(丸三麦酒株式会社株式第5回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜又左衛門	明治31年6月7日	印刷物・1通	い615-22-1
海西郡宝地村大字神戸新田廿八神戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門		封筒・1点	い615-23-0
(丸三麦酒株式会社株式第5回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜又左衛門	明治31年6月7日	印刷物・1通	い615-23-1
海西郡宝地村大字神戸新田廿八神戸銀之助殿 愛 知県半田丸三麦酒株式会社→神戸銀之助		封筒・1点	い615-24-0
(丸三麦酒株式会社株式第6回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜又左衛門	明治31年10月20日	印刷物・1通	い615-24-1
海西郡宝地村大字神戸新田廿八神戸分左衛門殿 愛知県半田丸三麦酒株式会社→神戸分左衛門		封筒・1点	い615-28-0
(丸三麦酒株式会社株式第6回払い込みの日限の通 知) 丸三麦酒株式会社取締役社長中埜又左衛門	明治31年10月20日	印刷物・1通	い615-28-1

神戸家・勘定場/企業出資/丸三麦酒/株式

委任状(丸三麦酒株式会社株券20株売り渡すにつき 名義書換委任状下書) 尾張国神戸分左衛門	明治31年	印刷用紙・1通	い615-12
--	-------	---------	---------

その他

起業公債証書売渡証 売渡人高橋清助・右証人安藤由 五郎→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年9月18日	縦紙・1通	い447-7
起業公債証書売渡之証 山科分左衛門代近藤利三郎 →神戸分左衛門	明治13年10月30日	縦紙・1通	い447-8

名古屋町屋敷経営

借家入用ほか

葭町作右衛門家入用	(近世後期)戊正月晦日	横切縦紙・1通	い477-9
-----------	-------------	---------	--------

家賃請取

家賃受取仮覚帳	嘉永5年正月吉日	横長半(一ツ綴)・1冊	い460-2
記(家賃差引勘定書上)	(明治7~14年)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-2

収支書上

記(家賃差引勘定書上、勇助勘定金)	(明治7~14年)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-3
-------------------	-----------	-------------	--------

証文類

元材木町

証文(元材木町町内屋敷地借用証文) 兼山屋亀吉 →犬山屋孫右衛門	明和6年2月	縦紙・1通(包紙付)	い426
売券状 羽柴屋源七殿	文化10年9月29日	包紙・1点	い539-2-0
覚(売券分一金など受納につき) 元材木町丁代両 人		堅美切紙・1通	い539-2-1
永代売渡申証文之事(元材木町南隣家屋敷) 家屋 敷主羽柴屋源七(奥書)元材木町組頭1名、町代2名→ 元材木町犬山屋文左衛門	文化10年9月	堅美縦紙・1通(封紙付)	い539-2-2

正万寺町

借家請状之事(正万寺町本願寺宗長徳寺寺請状貼 り継ぎ) 正万寺町家借り主喜右衛門・中御藺町請人 理左衛門→元材木町犬山屋分左衛門	享保8年8月	縦紙・1通	い434
--	--------	-------	------

車町

覚(鉄目代金請取) かちや孫十郎→くるま丁久助	子5月21日	横長半(一ツ綴)・1冊	い404
-------------------------	--------	-------------	------

京町

一札(諸士・奉公人などへ買券仕るまじきにつき) 元材木町文左衛門→京町町代衆中	天保12年5月	縦紙・1通	い448-7
--	---------	-------	--------

日置屋敷

日置屋敷附替 譲証文巻通入

永代相渡申家屋敷之事(日置村のうち堀川通西側の表通長屋と表座敷添角家) 家売主惣兵衛、証人甚蔵、日置村組頭2名、庄屋2名→犬山屋辰治郎

文化5年12月

包紙・1点

い539-1-0

堅美紙・1通

い539-1-1

名古屋土地経営

木挽町

差上申証文之事(借家証文) 右地所借り主塩丁二丁目所五番指物師勇齊→神戸分左衛門

明治6年6月

愛知県無印紙証書用紙・1通

い449-21

木挽町老町目拾七番市街宅地内拾八番戸附属納屋造物置木挽町建物登記四九号売主長尾喜兵衛証券・図面ならびに畳外六品証券

明治24年4月18日

封筒・1点

い611-0

(明治24年4月18日売買尾張国名古屋市木挽町1丁目17番市街宅地内建物の図面) 名古屋市木挽町拾八番戸売渡人長尾喜兵衛→神戸分左衛門

明治24年

堅紙・1通

い611-1-1

売渡物件添書(雨戸や障子なども木挽町1丁目17番地内の建物に添えて売り渡すにつき) 名古屋市木挽町18番戸長尾喜兵衛→神戸分左衛門

明治24年4月18日

罫紙・1通

い611-1-2

契約証(名古屋市木挽町1丁目17番市街宅地内の木造瓦葺納屋造物置きおよび畳など7種を2年季で売り渡すにつき) 名古屋市木挽町1丁目18番戸長尾喜兵衛→神戸分左衛門

明治24年6月23日

罫紙・1冊

い611-1-3

建物売渡添証券(名古屋市木挽町1丁目17番市街宅地内の木造瓦葺納屋造物置と畳など7種を金80円にて売り渡すにつき) 名古屋市木挽町1丁目18番戸長尾喜兵衛→神戸分左衛門

明治24年6月23日

罫紙・1冊

い611-1-4

建物売渡証券 尾張国名古屋市木挽町18番戸売渡人長尾喜兵衛→尾張国海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門

明治24年4月18日

罫紙・1冊

い611-2

(名古屋市木挽町2丁目宅地貸渡証券2通の袋)

(明治25年カ)

袋・1点

い580-1

宅地賃借証券(名古屋市木挽町2丁目27番・2番の宅地) 賃借人西尾東太郎・保証人名古屋市桶屋町菱田彦右衛門→神戸分左衛門

明治25年7月1日

罫紙・1通

い580-2

宅地賃借証券(名古屋市木挽町2丁目25番・4番の宅地) 賃借人名古屋市皆戸町前田常九郎・保証人名古屋市西万町石塚文助→神戸分左衛門

明治25年6月17日

罫紙・1通

い580-3

名古屋市木挽町貳町目貳拾六番市街宅地、同市同町貳町目三番(川岸)市街宅地売渡証券 第八世神戸分左衛門

明治25年6月22日

封筒・1点

い593-6-1

地所売渡証券(尾張国名古屋市木挽町2丁目26・3番の市街宅地2筆) 尾張国名古屋市木挽町24番戸売主西尾東太郎他1名→尾張国海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門

明治25年6月22日

堅美紙・1通

い593-6-2

和泉町

名古屋市和泉町老町目廿三番宅地近藤市太郎ヨリ買受ノ節口入中野れい報酬受取書巻

明治26年1月16日

封筒・1点

い593-12-1

地所売渡証券(名古屋市和泉町1丁目23番市街宅地) 西春日井郡新川町大字土器野新田108番戸売渡

明治26年1月16日

罫紙・1冊

い593-12-2

人天野佐兵衛→海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門			
記(2円50銭請取につき) 中野れい→天野	3月	横切紙・1通	い593-12-3
天野佐兵衛名義ニテ近藤市太郎ヨリ宅地買受につき天野約定証	明治25年4月1日	封筒・1点	い593-12-4
証(近藤市太郎から買い受ける宅地代金半額を神戸が負担し、当該宅地は天野・神戸の共有地とするにつき) 西春日井郡新川町天野佐兵衛→神戸分左衛門	明治25年3月31日	罫紙・1通	い593-12-5
地所売渡証券(市街宅地42坪4合7勺) 名古屋市和泉町50番戸売主近藤市太郎後見人名古屋市関原町65番戸加藤信三郎他親戚2名→西春日井郡新川町大字土器野108番戸天野佐兵衛		罫紙・1通	い593-12-6
和泉町滝松五郎ニ係ル貸家賃請求ならびに家屋明ヶ渡シ訴訟ノ要書外ニ訴訟費用書付類共 神戸	明治30年4月	包紙・1点	い624-0
キ(仮差押印紙料など書上げ) 角測→神戸	7月3日	横切継紙・1通	い624-1
供託書(仮差押さえ保障のため) 右神戸分左衛門→名古屋本金庫	明治30年4月29日	罫紙・1通	い624-2
記(滝松五郎仮差押さえに係る経費の金額書付)		罫紙・1通	い624-3
記(供託書2通など受取につき) 角測→神戸	4月29日	横切継紙・1通	い624-4
神戸分左衛門様御店中 角測宣→神戸分左衛門		封筒・1点	い624-5-0
(供託書に調印のうえ手前まで差し出し下されたきにつき) 角測宣→神戸分左衛門様執事御中	4月28日	横切紙・1通	い624-5-1
訴訟費用確定(原告の訴訟費用金9円87銭5厘は被告が負担すべきものと確定するにつき) 名古屋区裁判所判事野田捨蔵、名古屋区裁判所書記小池宣枝	明治30年6月9日	「名古屋区裁判所」用箋・1冊	い624-6-1
原告訴訟費用計算書 原告代理人角測宣→名古屋区裁判所民事部御中	明治30年6月9日	罫紙・1冊	い624-6-2
判決書 名古屋民事書→判事野田捨蔵	明治30年5月7日	「名古屋区裁判所判決用紙」・1冊	い624-7-1
(前記の正本神戸分左衛門に付与するにつき) 名古屋区裁判所書記小池宣枝	明治30年6月9日	「名古屋区裁判所」用箋・1通	い624-7-2
名古屋和泉町廿番地市街宅地七拾六坪七合ならびに同地内六拾八番戸・六拾九番戸・七拾番戸建物共安田あいヨリ買受ニ関スル書類 神戸	明治30年3月28日	封筒・1点	い593-7-1
(売り地の坪数書上、絵図) 安田あい		罫紙・1通	い593-7-2
地所建物売渡約定証(名古屋市和泉町2丁目20番市街宅地、建物) 名古屋市和泉町六拾八番戸安田あい他保証人1名→神戸分左衛門	明治30年3月28日	罫紙・1冊	い593-7-3
地所建物売渡証券(名古屋市和泉町2丁目20番市街宅地、建物) 名古屋市和泉町68番戸 売主 安田あい→神戸分左衛門	明治30年6月22日	罫紙・1冊	い593-7-4
(売渡地所の絵図面) 名古屋市和泉町68番戸 売主 安田あい→神戸分左衛門	明治30年6月22日	印刷用紙・1通	い593-7-5
地券(尾張国名古屋区和泉町2丁目20番宅地) 愛知県 主事愛知県名古屋市長吉田禄在→尾張国名古屋区和泉町 持主 安田すま	明治13年1月20日	地券紙・1通	い593-7-6

末広町

名古屋区末広町式丁目拾貳番・白川町四丁目廿四番地宅地、家作 安達久八ヨリ買得証書図面	明治13年3月15日	封筒・1点	い593-9-1
証(売渡地の手付金など受取につき) 保証人氷室長峯、右売渡人安達久八→神戸分左衛門	明治13年3月2日	野紙・1冊	い593-9-2
(地方証印税として金46銭3厘受取につき) 名古屋区租税係→神戸分左衛門	明治13年3月16日	印刷用紙・1通	い593-9-3
(地方証印税として金3銭7厘受取につき) 名古屋区租税係→神戸分左衛門	明治13年3月16日	印刷用紙・1通	い593-9-4
家作建物売渡証券(名古屋区末広町2丁目12番地の内家作建物) 売主安達久八、他証人1名→神戸分左衛門	明治13年3月15日	堅美継紙・1通	い593-9-5
(名古屋区末広町2丁目12番地のうち家作建物の図面) 右 家作持主安達久八→神戸分左衛門		堅美紙・1通	い593-9-6
(名古屋区白川町4丁目24番地のうち家作建物の図面) 右 家作持主安達久八→神戸分左衛門		堅美紙・1通	い593-9-7
家作建物売渡証券(名古屋区白川町4丁目24番地ノ内家作建物、同町91番屋敷) 売主安達久八、他証人1名→神戸分左衛門	明治13年3月15日	堅紙・1通	い593-9-8
宅地売渡証券(名古屋区末広町2丁目12番宅地、同区白川町4丁目24番宅地) 名古屋区末広町2丁目38番地右売渡人安達久八他保証人1名→神戸分左衛門	明治13年3月15日	堅紙・1通	い593-9-9
末広町2丁目17番宅地白川町4丁目25番宅地家作建物売渡シ証券2通ならびに地図1通	明治18年9月	封筒・1点	い593-8-1
地券ならびに家作建物売渡証券(名古屋区末広町2丁目11番宅地、建物3棟) 名古屋区伝馬町48番地右売渡人 野崎惣兵衛他保証人1名→神戸分左衛門	明治18年9月	堅美継紙・1通	い593-8-2
地券ならびに家作建物売渡証券(名古屋区白川町4丁目25番宅地、建物) 名古屋区伝馬町48番地 右売渡人 野崎惣兵衛、他保証人1名→神戸分左衛門	明治18年9月	堅美継紙・1通	い593-8-3
(名古屋区末広町2丁目11番地の売渡地の図面) 名古屋区伝馬町野崎惣兵衛→神戸分左衛門	明治18年9月29日	堅紙・1通	い593-8-4
(名古屋区白川町2丁目12番地の建物の図面) 名古屋区伝馬町野崎惣兵衛→神戸分左衛門	明治18年9月29日	堅紙・1通	い593-8-5

江川端町・台所町

名古屋市江川端町ほか宅地二ヶ所売買書類入れ 天野・神戸	明治24年	袋・1点	い581-0
証(名古屋市江川端町宅地売渡代金受取) 名古屋市木挽町善口定次郎→天野佐兵衛・神戸分左衛門	明治24年10月5日	野紙・1通	い581-1-1
地所売渡証(上記宅地につき、登記済印あり) 名古屋市木挽町善口定次郎→天野佐兵衛(西春日井郡新川町大字土器埜新田)・神戸分左衛門	明治24年10月3日	野紙・1通	い581-1-2
此書付当方へ写取申候(以下略、近世断簡の転用)		帯・1点	い581-2-0
約定証券(名古屋市台所町二丁目宅地売渡) 名古屋市江川端町高麗常一→神戸分左衛門	明治24年10月12日	堅紙・1通	い581-2-1

神戸家・勘定場/名古屋土地経営/江川端町・台所町

地所売渡証券(上記宅地につき、登記済み印あり) 名古屋市江川端町高麗常一→神戸分左衛門	明治24年11月28日	縦紙・1通	い581-2-2
登記変更願写(宅地坪数の誤謬訂正につき) 名古屋 市江川端町高麗常一→名古屋区裁判所	明治24年11月27日	野紙・1通	い581-2-3
買請証(本家・物置・土蔵代金百円のうち内金十円 渡しにつき) 堀田清八・前田吉次郎・伊藤善吉→天 野佐兵衛・神戸分左衛門代理谷口高忠	明治24年9月22日	横切継紙・1通	い581-3-1
証(江川端町家屋売払い手数料受取) 谷口高忠→ 神戸分左衛門	明治24年12月10日	横切継紙・1通	い581-3-2
売渡約定証(名古屋市江川端町河村秀馨所有の家 屋三棟売却につき) 天野佐兵衛・神戸分左衛門代 理人谷口高忠→増田清八・前田吉次郎・伊藤善吉	明治24年9月22日	横切継紙・1通	い581-3-3
証(名古屋市江川端町五丁目六番の家屋借受につ き) 河村秀馨→今井芳三郎	明治24年9月2日	野紙・1通	い581-4-1
地所建物売渡証(名古屋市江川端町五丁目特番の 土地建物につき、登記済み印あり) 名古屋市堀 詰町十番戸今井芳三郎→天野佐兵衛・神戸分左衛門	明治24年9月2日	野紙・1冊	い581-4-2
明治24年9月2日売買、尾張国名古屋江川端町五 丁目六番第一市街宅地570坪6号7夕、右宅地内79 番戸建物図面 名古屋市堀詰町売主今井芳三郎→ 天野佐兵衛・神戸分左衛門	(明治年間)	縦紙・1通	い581-4-3

東二葉町

名古屋市東二葉町貳拾七番市街宅地外五筆宅地畑 明治廿八年十一月四日大口彦右衛門ヨリ買受に つき約定書尅通 天野、神戸		封筒・1点	い593-11-1
(売渡地所の坪数、代金など書付) 本重町百八拾番 戸売主大口彦右衛門、保証人高橋		「愛知県」用箋・1通	い593-11-2
地所売渡約定証(名古屋市二葉町の畑地・宅地な ど) 名古屋市本重町180番戸大口彦右衛門他2名→ 天野佐兵衛、神戸分左衛門	明治28年11月4日	野紙・1冊	い593-11-3
地所売渡証券(名古屋市二葉町の畑地・宅地) 名 古屋市本重町180番戸売主大口彦右衛門他保証人1名 →西春日井郡新川町大字土器野新田108番戸天野佐兵 衛、海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門	明治28年11月8日	野紙・1冊	い593-11-4
名古屋東二葉町廿五番初メ宅地畑大野善三郎へ売 渡につき、諸富役場公正証書謄本一冊 神戸		封筒・1点	い593-16-1
証(共有地売渡代金の半分を受け取るにつき) 西 春日井郡新小町天野佐兵衛→神戸分左衛門	明治29年10月	野紙・1通	い593-16-2
天野へ廿九年一ヶ年利子ならびに孫利金及ヒ東二 葉町地代金ノ内金壹千円渡ス受取書		封筒・1点	い593-16-3
記(東二葉町共有地売払い代金など受取につき) 天野佐兵衛→神戸	明治30年1月29日	横切継紙・1通	い593-16-4
東二葉町売渡シ代金内金五百円ノ内天野殿へ貳五 拾円渡シ受書	明治29年9月19日	封筒・1点	い593-16-5
記(伊藤萬蔵殿より受け取った金250円本日受取に つき) 天野佐兵衛→神戸分左衛門	明治29年9月19日	横切継紙・1通	い593-16-6
記(東二葉町共有地売払い代金、利子金請取につ き) 天野佐兵衛→神戸	明治30年2月4日	横切紙・1通	い593-16-7

預金

駅通局預金

全般

番号わい〇三三八八 駅通局預金渡通帳 神戸分 左衛門	明治18年7月23日	封筒・1点	い625-0
(明治17・18・19年の利率書上げカ)	(明治19年カ)	小切紙・1通	い625-2-6-1

領収通知書

通知書(金15円領収につき) 駅通局→尾張国名古屋 木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治18年7月23日	印刷用紙・1通	い625-2-5-2
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目神戸分左衛門	明治18年8月21日	印刷用紙・1通	い625-2-5-4
通知書(金15円領収につき) 駅通局→尾張国名古屋 木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治18年9月22日	印刷用紙・1通	い625-2-5-3
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治18年10月21日	印刷用紙・1通	い625-2-5-5
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治18年11月25日	印刷用紙・1通	い625-2-5-1
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目神戸分左衛門	明治18年12月25日	印刷用紙・1通	い625-2-5-6
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目神戸分左衛門	明治19年1月25日	印刷用紙・1通	い625-2-4-3
通知書(金45円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治19年7月29日	印刷用紙・1通	い625-2-4-4
通知書(金45円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治19年7月30日	印刷用紙・1通	い625-2-4-5
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治19年8月30日	印刷用紙・1通	い625-2-4-2
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治19年9月27日	印刷用紙・1通	い625-2-4-6
通知書(金15円領収につき) 駅通局→名古屋木挽町 2丁目23番地神戸分左衛門	明治19年10月30日	印刷用紙・1通	い625-2-4-1
貯金領収通知書 通信省為替貯金局→名古屋木挽町2 丁目23番地神戸分左衛門	明治23年6月	印刷用紙・1通	い625-2-3-5
貯金領収通知書 通信省為替貯金局→名古屋市木挽 町2丁目23番地神戸分左衛門	明治23年8月	印刷用紙・1通	い625-2-3-1
貯金領収通知書 通信省為替貯金局→名古屋木挽町2 丁目23番地神戸分左衛門	明治23年9月	印刷用紙・1通	い625-2-3-2
貯金領収通知書 通信省為替貯金局→名古屋木挽町2 丁目23番地神戸分左衛門	明治23年10月	印刷用紙・1通	い625-2-3-3
貯金領収通知書 通信省為替貯金局→名古屋木挽町2 丁目23番地神戸分左衛門	明治23年11月	印刷用紙・1通	い625-2-3-4

通帳調査済通達書

貯金通帳調査済通達書 通信省為替貯金局→名古屋区木挽町2丁目23番神戸分左衛門	明治21年11月6日	印刷用紙・1通	い625-2-6-2
貯金通帳調査済通達書 通信省為替貯金局→名古屋区木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治22年8月21日	印刷用紙・1通	い625-2-6-3
貯金通帳調査済通達書 通信省為替貯金局→名古屋区木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年2月10日	印刷用紙・1通	い625-2-6-4

登記済通知書

貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋市材木町2丁目33番神戸分左衛門	明治24年2月	印刷用紙・1通	い625-2-2-7
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋市木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年3月	印刷用紙・1通	い625-2-2-5
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋市木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年6月	印刷用紙・1通	い625-2-2-6
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年7月	印刷用紙・1通	い625-2-2-2
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋市木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年7月	印刷用紙・1通	い625-2-2-3
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋市木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年7月	印刷用紙・1通	い625-2-2-4
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年8月	印刷用紙・1通	い625-2-2-1
貯金登記済通知書 郵便為替貯金局→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治24年8月	印刷用紙・1通	い625-2-2-8
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年9月	印刷用紙・1通	い625-2-2-9
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治24年10月	印刷用紙・1通	い625-2-2-10
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目33番地神戸分左衛門	明治24年12月	印刷用紙・1通	い625-2-2-11
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋区木挽町2丁目33番戸神戸分左衛門	明治25年1月	印刷用紙・1通	い625-2-2-12
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町51番戸神戸分左衛門	明治25年5月	印刷用紙・1通	い625-2-1-2
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年5月	印刷用紙・1通	い625-2-1-3
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治25年6月	印刷用紙・1通	い625-2-1-1
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年6月	印刷用紙・1通	い625-2-1-4
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年7月	印刷用紙・1通	い625-2-1-7
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年8月	印刷用紙・1通	い625-2-1-5
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市	明治25年8月	印刷用紙・1通	い625-2-1-9

木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門			
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町23番戸神戸分左衛門	明治25年9月	印刷用紙・1通	い625-2-1-6
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年10月	印刷用紙・1通	い625-2-1-8
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年10月	印刷用紙・1通	い625-2-1-12
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治25年11月	印刷用紙・1通	い625-2-1-13
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番戸神戸分左衛門	明治25年12月	印刷用紙・1通	い625-2-1-11
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治26年1月	印刷用紙・1通	い625-2-1-10
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治26年1月	印刷用紙・1通	い625-2-1-14
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番神戸分左衛門	明治26年3月	印刷用紙・1通	い625-1-8
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町23番神戸分左衛門	明治26年4月	印刷用紙・1通	い625-1-7
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町23番戸神戸文左衛門	明治26年6月	印刷用紙・1通	い625-1-6
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町23番戸神戸分左衛門	明治26年7月	印刷用紙・1通	い625-1-5
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町3丁目23番地神戸分左衛門	明治26年8月	印刷用紙・1通	い625-1-4
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町33番戸神戸分左衛門	明治26年9月	印刷用紙・1通	い625-1-2
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町23番戸神戸分左衛門	明治26年9月	印刷用紙・1通	い625-1-3
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町33番戸神戸文左衛門	明治26年11月	印刷用紙・1通	い625-1-1
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町3丁目33番戸神戸分左衛門	明治26年11月	印刷用紙・1通	い625-1-9
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町2丁目23番地神戸分左衛門	明治26年12月11日	印刷用紙・1通	い625-2-7
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋木挽町23番戸神戸分左衛門	明治27年1月13日	印刷用紙・1通	い625-2-8
貯金登記済通知書 郵便為替貯金管理所→名古屋市木挽町23番戸神戸文左衛門	明治27年1月25日	印刷用紙・1通	い625-2-9

三井銀行

へ号 切符(三井銀行当座預り金小切手帳) 三井銀行→神戸分左衛門	(明治12年)1月	小切手帳(印刷)・1冊	い579-3-1
(三井銀行当座預金小切手帳)十三年六月十九日神戸宝印皆済 三井銀行→神戸分左衛門	(明治12年)	小切手帳(印刷)・1冊	い579-3-2
(三井銀行当座預金小切手帳)切符百枚済 三井銀行	(明治14年)	小切手帳(印刷)・1冊	い579-3-3

行→神戸分左衛門

第百三拾四国立銀行

預金通帳・小切手帳など

第百三拾四国立銀行当座預金振出し小切手帳 神戸	明治28年8月	袋・1点	い579-1-0
第弐号 当座預金引出小切手帳 第百三十四国立銀行	明治27年1月16日	小切手帳(印刷)・1冊	い579-1-2
第百五拾四号 当座預金通帳 第百三十四国立銀行 (名古屋市新柳町)→神戸分左衛門	明治27年1月	横美半(印刷)・1冊	い579-1-3
当座預金引出小切手帳 第百三十四国立銀行	明治27年11月30日	小切手帳(印刷)・1冊	い579-1-1
第百三拾四国立銀行 当座預金引出シ之覚 神戸	明治29年	横半半・1冊	い579-1-4

貸越

第百三拾四国立銀行 廿八年六月迄利子受取証ならびに来状入	明治28年	包紙・1点	い607-0
証(神戸分左衛門殿振出約束手形金300円の割引日歩3円73銭8厘受取につき) 第百三十四国立銀行 支配人松田有信→神戸銀之助	明治26年8月2日	印刷用紙・1通	い607-6
(貸金1350円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年1月31日	印刷用紙・1通	い607-28
記(当座貸越金利息金1円37銭5厘領収につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年2月19日	印刷用紙・1通	い607-35
(貸金1650円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年2月28日	印刷用紙・1通	い607-30
記(当座預貸越金8円77銭8厘領収につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年3月24日	印刷用紙・1通	い607-36
(貸金1450円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年3月31日	印刷用紙・1通	い607-29
記(当座預貸越金利息11円42銭9厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年4月20日	印刷用紙・1通	い607-37
(貸金2100円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年4月30日	印刷用紙・1通	い607-31
(貸金1800円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年5月31日	印刷用紙・1通	い607-32
記(当座預貸越金利息金10円61銭5厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年6月6日	印刷用紙・1通	い607-7
神戸分左衛門殿 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	(明治27年6月22日)	封筒・1点	い607-1-0
(当座預金・同貸越金利息本月25日より改定するにつき通知) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年6月22日	印刷用紙・1通	い607-1-1
記(当座預貸越金利息13円12銭1厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年6月27日	印刷用紙・1通	い607-38
(貸金1800円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年6月30日	印刷用紙・1通	い607-26

記(金額、利金額書付)		小切紙・1通	い607-27
記(当座預貸越金利息金13円15銭8厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年7月24日	印刷用紙・1通	い607-34
神戸分左衛門殿 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	(明治27年7月28日)	封筒・1点	い607-2-0
(当座預金・同貸越金利息来る8月1日より改訂につ き通知) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年7月28日	印刷用紙・1通	い607-2-1
(貸金900円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治27年7月31日	印刷用紙・1通	い607-25
(貸金1250円の返却願) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治27年8月31日	印刷用紙・1通	い607-24
記(当座預貸越金利息金9円46銭3厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年9月7日	印刷用紙・1通	い607-33
記(当座預貸越金利息金10円23銭5厘受取につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年9月28日	印刷用紙・1通	い607-39
(貸金1450円の返却願) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治27年9月30日	印刷用紙・1通	い607-23
記(当座貸越利子金10円59銭2厘受取につき) 第 百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年10月31日	印刷用紙・1通	い607-21
(貸金1050円の返却願) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治27年10月22日	印刷用紙・1通	い607-22
(貸金2280円の返却願) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治27年11月30日	印刷用紙・1通	い607-19
(当座貸越利子金6円16銭2厘受取につき) 第百三 十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年11月30日	印刷用紙・1通	い607-20
記(当座預貸越金利息金14円93銭2厘領収につき) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治27年12月24日	印刷用紙・1通	い607-17
(貸金2680円の返却願) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治27年12月31日	印刷用紙・1通	い607-18
(貸金3000円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年1月31日	印刷用紙・1通	い607-14
記(当座貸越利息金19円5銭3厘領収につき) 第百 三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年1月31日	印刷用紙・1通	い607-16
記(当座貸越利息金22円82銭8厘領収につき) 第 百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年2月23日	印刷用紙・1通	い607-15
(貸金2750円の返却願) 名古屋第百四十三国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年2月28日	印刷用紙・1通	い607-13
記(当座貸越利息金17円84銭9厘領収につき) 第 百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年3月25日	印刷用紙・1通	い607-12
(貸金2450円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年3月31日	印刷用紙・1通	い607-11
(貸金3000円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年4月30日	印刷用紙・1通	い607-4
記(当座貸越利子金18円72銭領収につき) 第百三 十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年4月30日	印刷用紙・1通	い607-10

神戸家・勘定場/預金/第百三拾四国立銀行/貸越

(貸金3000円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年5月31日	印刷用紙・1通	い607-9-1
記(当座貸越利息金23円29銭6厘領収につき) 第 百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年5月31日	印刷用紙・1通	い607-9-3
木挽町廿七番地神戸分左衛門様 第百三十四国立 銀行→神戸分左衛門	(明治28年6月11日)	封筒・1点	い607-3-0
(当座預金利足本月16日ヨリ更正につき) 第百三 十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年6月11日	印刷用紙(こんにやく 版)・1通	い607-3-1
記(当座貸越利息金24円18銭領収につき) 第百三 十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年6月28日	印刷用紙・1通	い607-9-2
(貸金3000円の返却願) 名古屋第百三十四国立銀行 →神戸分左衛門	明治28年6月30日	印刷用紙・1通	い607-8
(当座預金1000円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年7月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-16-1-2
記(当座貸越利息金23円40銭領収につき) 第百三 十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年7月31日	印刷用紙・1通	い607-5
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治28年8月21日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-16-1-1
(当座預金2700円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年8月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-16-3-2
(当座預金貸越利息通知) 第百三十四国立銀行預金 掛→神戸分左衛門	明治28年9月11日	堅切紙(こんにやく版、 封筒付き)・1通	い579-4-20
(当座預金1000円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年9月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-16-2-2
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治28年9月26日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-16-3-1
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治28年10月22日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-16-2-1
(当座預金1700円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年10月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-16-4
(当座預金950円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年11月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-15
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治28年11月30日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-17
(当座預金2200円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治28年12月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-13
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治28年12月28日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-14
(当座預金1000円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年1月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-11
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治29年1月31日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-12
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸 分左衛門	明治29年2月19日	百三十四国立銀行用紙 ・1通	い579-4-10
(当座預金3000円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年2月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-9

(当座預金1000円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年3月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-7
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年3月30日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-8
(当座預金2050円の貴店貸し勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年4月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-19
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年4月30日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-18
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年5月30日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-6
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年6月29日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-5
(当座預金貸越利息改定通知) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治29年9月15日	堅切紙(印刷、封筒付き)・1通	い579-2-2
(当座預金300円の貴店より借勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治29年9月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-4
(当座預金貸越利息改定通知) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治29年10月28日	堅切紙(印刷、封筒付き)・1通	い579-2-3
(当座預金100円の貴店より借り勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行預金掛→神戸分左衛門	明治29年11月25日	堅切紙(印刷)・1通	い579-4-22
(当座預金貸越利息改定通知) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治29年11月30日	堅切紙(印刷、封筒付き)・1通	い579-2-4
(国立銀行の株式会社移行通知) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治29年12月17日	堅切紙(印刷、封筒付き)・1通	い579-2-5
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治30年2月12日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-3
(当座預金1425円の貸勘定につき照会状) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治30年3月25日	堅切紙(印刷、封筒付き)・1通	い579-2-6-1
(株式会社移行につき小切手宛名訂正依頼) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	明治30年3月25日	堅紙(こんにやく版)・1通	い579-2-6-2
記(当座貸越利子受取) 第百三十四国立銀行→神戸分左衛門	明治30年3月26日	百三十四国立銀行用紙・1通	い579-4-2
(当座預金貸越約定期日切れにつき返金催促状) 株式会社百三十四銀行→神戸分左衛門	明治30年4月8日	株式会社百三十四銀行用箋・1通	い579-2-7
証(当座貸越利子受取) 株式会社百三十四銀行→神戸分左衛門	明治30年4月9日	百三十四銀行受取証用紙・1通	い579-4-1-1
(利子計算明細書)		百三十四銀行用箋・1通	い579-4-1-2
(当座預金貸越利息通知) 第百三十四国立銀行預金掛→神戸分左衛門	10月13日	堅切紙(こんにやく版、封筒付き)・1通	い579-4-21
(当座預金貸越約定期日満期通知) 第百三十四国立銀行預金係→神戸分左衛門	12月23日	銀行便箋(封筒付き)・1通	い579-2-1

枇杷島銀行

預金通帳・小切手帳など

枇杷島銀行当座預金覚 神戸	明治31年1月	横半半(一ツ綴)・1冊	い606-5
---------------	---------	-------------	--------

神戸家・勘定場/預金/枇杷島銀行/預金通帳・小切手帳など

小切手帳 第百廿四号 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	(明治31年)1月10日～33年12月18日	小切手帳(印刷)・1冊	い606-2
当座預金通帳 第百廿四号 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年1月10日～34年8月30日	横美半(印刷)・1冊	い606-1

貸越

枇杷島銀行約束手形反故		封筒・1点	い606-3-2-0
記(当座貸越金利息17円余受取) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年1月5日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-1
記(当座貸越金利息15円余受取) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年6月30日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-2
記(当座貸越金利息14円余受取) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治34年9月6日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-3
記(当座貸越金利息7円入金につき記帳報告) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年9月5日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-4
割引勘定表 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年4月13日	枇杷島銀行こんにやく版様式(ペン書き)・1通	い606-3-2-5
記(当座貸越金に対する利息金15円68銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治34年6月29日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-6
記(当座貸越金に対する利息金18円20銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治35年3月5日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-7
記(当座貸越金に対する利息金2円24銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年12月29日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-8
(明治32年6月25日当座借り越利率の書付)	明治32年6月25日	小切紙・1通	い606-3-2-9
記(割引料75円60銭済ますにつき) 枇杷島銀行→天野	7月21日	横切継紙・1通	い606-3-2-10
記(当座貸越金に対する利息金17円8銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治34年5月3日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-11
金三千円三十年十月十七日ヨリ三十一年一月十四日迄九拾日間枇杷島銀行割引料七拾五円六拾銭受取書 三十年一月十六日	明治30年10月16日	封筒・1点	い606-3-2-12-0
記(金3000円に対する割引料75円60銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治30年10月17日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-2-12-1
(枇杷島銀行へ振り出す金3000円の入金期日の通知につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年10月6日	枇杷島銀行印刷用紙(こんにやく版)・1通	い606-3-2-13
神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-3-0
(金17円51銭3厘入金下されたき旨) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年10月31日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-3-1
記(当座貸越金に対する利子金17円51銭3厘受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年11月4日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-3-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-4-0
(当座貸越の日歩引き下げの儀につき) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	10月24日	株式会社枇杷島銀行用箋・1通	い606-3-4-1
神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1通	い606-3-5-0

(貸越金の利息支払い下されたきにつき) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	6月25日	株式会社枇杷島銀行用紙用箋・2通	い606-3-5-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→名古屋市木挽町神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-6-0
(利息金18円11銭7厘の入金願い) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年6月30日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-6-1
記(当座貸越利子金14円85銭受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年3月4日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-6-2
記(当座貸越金利子金18円11銭7厘受取につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年6月25日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-6-3
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-7-0
(利息金14円85銭の入金願い) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年2月28日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-7-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-8-0
(当座貸越金利子金の入金願い) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年6月25日	印刷用紙(こんにやく版)・1通	い606-3-8-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年	封筒・1点	い606-3-9-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき了承下されたき旨) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年7月12日	枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-9-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-10-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき了承下されたきにつき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治33年4月5日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-10-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-11-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年12月26日	印刷用紙(こんにやく版)・1通	い606-3-11-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-12-0
(当座日歩引き下げにつき) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	8月7日	横切継紙・1通	い606-3-12-1
(当座預金及び貸越金利息改正につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年8月7日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-12-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-13-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年5月24日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-13-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-14-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき) 株式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年4月11日	株式会社枇杷島銀行印刷用紙・1通	い606-3-14-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 尾州枇杷島銀行→神戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-15-0

神戸家・勘定場/預金/枇杷島銀行/貸越

(当座預金及び貸越金利息改正につき) 株式会社 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治35年12月11日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-15-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-16-0
(利息金16円10銭7厘の入金願い) 株式会社枇杷島 銀行→神戸分左衛門	明治32年2月28日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-16-1
入金票 枇杷島銀行		枇杷島銀行印刷用紙・1 通	い606-3-16-2
記(当座貸越金利息金16円17厘受取につき) 株式 会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年3月6日	枇杷島銀行印刷用紙・1 通	い606-3-16-3
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-17-0
記(当座貸越金利息金10円79銭1厘受取につき) 株 式会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年9月5日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-17-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-18-0
記(貸越金利息金27円29銭5厘受取につき) 株式 会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年6月27日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-18-1
(頭取の命により日歩2歩5厘に仕置くにつき) 枇 杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年6月27日	「株式会社枇杷島銀行 用紙」用箋・1通	い606-3-18-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-19-0
(来る5日までに当行へ金3000円入金下されたき 旨) 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治32年1月4日	印刷用紙(こんにやく 版)・1通	い606-3-19-1
(利息金17円51銭3厘の入金願い) 株式会社枇杷島 銀行→神戸分左衛門	明治31年12月31日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-19-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-20-0
(当座預金及び貸越金利息改正につき) 株式会社 枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年9月20日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-20-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-21-0
(利息金18円40銭4厘の入金願い) 株式会社枇杷島 銀行→神戸分左衛門	明治31年8月31日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-21-1
記(貸越金利息金18円40銭4厘受取につき) 株式 会社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年9月5日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-21-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 枇杷島銀行→神 戸分左衛門		封筒・1点	い606-3-22-0
(利息金18円11銭7厘の入金願い下書き) 株式会 社枇杷島銀行→神戸分左衛門	明治31年4月31日	罫紙・1通	い606-3-22-1
(利息金18円11銭7厘の入金願い) 株式会社枇杷島 銀行→神戸分左衛門	明治31年4月30日	株式会社枇杷島銀行印 刷用紙・1通	い606-3-22-2
解約証書(当座預過振借越の約定今般解約につき) 名古屋市木挽町神戸分左衛門→枇杷島銀行頭取天野 佐兵衛	明治35年2月3日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い606-4
当座預金借越約定追保証(雛形) 約定主→枇杷島 銀行取締役・頭取天竺佐兵衛		アオヤキ(判読困難)・1 通	い606-3-1

明治銀行

預金通帳・小切手帳など

明治銀行当座預金通帳 神戸	明治31年3月	袋・1点	い584-0
当座預金通帳 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治26年1月6日	預金通帳・1冊	い584-7
当座預金通帳 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治31年2月	横半半折(一部印刷)・1冊	い584-11
明治銀行当座預金覚 神戸	明治31年3月18日	横半半(一ツ綴)・1冊	い584-1
当座預金引出小切手帳 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治34年	小切手帳・1冊	い584-10

通知・規則など

明治銀行当預金契約ニ関スル書類 神戸	明治31年3月	封筒・1点	い584-4-0
証(当座貸越金利息受取につき) 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治29年5月17日	印刷用紙・1通	い584-4-1
木挽町神戸分左衛門殿 名古屋市伝馬町株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治25年2月16日	封筒・1点	い584-2-3-0
(今般当座勘定利息改正につき) 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治35年2月	印刷用紙・1通	い584-2-3-1
木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市伝馬町株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治35年3月16日	封筒・1点	い584-2-4-0
(貸越金・繰越金利息など差引相立てるにつき) 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治35年3月16日	印刷用紙・1通	い584-2-4-1
(今般当座勘定利息改正につき) 名古屋市伝馬町株式会社明治銀行→木挽町27神戸分左衛門	明治35年9月	印刷用紙・1通	い584-2-1
(当座勘定利息2月10日より改正につき) 名古屋市伝馬町株式会社明治銀行→木挽町27神戸分左衛門	明治36年2月8日	印刷用紙・1通	い584-9
(今般当地組合銀行決議内容通知につき) 株式会社明治銀行→木挽町神戸分左衛門	明治36年3月29日	印刷用紙・1通	い584-2-2
神戸分左衛門様 名古屋市伝馬町株式会社明治銀行 永田理三郎→神戸分左衛門	(明治38年ヵ)	封筒・1点	い584-4-2-0
(金送付につき改めのうえ入手くださったき旨) 名古屋株式会社明治銀行→神戸分左衛門	明治38年3月13日	株式会社明治銀行 罫紙・1通	い584-4-2-1
(当座貸越利息改正につき) 株式会社明治銀行→木挽町27神戸分左衛門	明治37年7月10日	印刷用紙・1通	い584-3-1
(当座貸越金利息引き下げにつき) 株式会社明治銀行→神戸分左衛門	(明治年間)	印刷用紙・1通	い584-3-2
(当座貸越金利息改正につき) 株式会社明治銀行→木挽町神戸分左衛門	明治38年5月5日	印刷用紙・1通	い584-3-3
(当座貸越金利息改正につき) 株式会社明治銀行→木挽町27番戸神戸分左衛門	明治38年6月25日	印刷用紙・1通	い584-3-4
(当座預金及貸越金利息改正につき) 株式会社明治銀行→木挽町27番戸神戸分左衛門	明治38年8月13日	印刷用紙・1通	い584-3-5
(当座預金及貸越金利息改正につき) 株式会社明治銀行→木挽町27番戸神戸分左衛門	明治39年2月25日	印刷用紙・1通	い584-3-6

治銀行→木挽町27番戸神戸分左衛門 (印税法抜粋、郵便条例改正摘要) 株式会社明治銀行	(明治年間)	印刷物・1通	い584-8
--	--------	--------	--------

津島紡績株券担保差入

担保品差入証(津島紡績株式会社株券壹百五十拾株) 海西郡宝地村大字神戸新田五百式番地神戸分左衛門 →株式会社明治銀行御中	(明治年間)	印刷用紙・1通	い584-5
差入証書(明治銀行との取引に関わる取り決め承諾につき) 尾張海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門→株式会社明治銀行御中	明治31年3月17日	印刷用紙・1通	い584-6-1
(小切手受取証など下書) 神戸分左衛門→株式会社明治銀行御中	明治31年3月17日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い584-6-2
証(津島紡績会社株券150株貸し渡し下されたにつき) 神戸分左衛門→天野佐兵衛	明治31年3月16日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い584-6-3

第一銀行

通帳

第一銀行当座預金通帳・小切手 神戸	大正6年8月	封筒・1点	い619-0
第一銀行当座帳 神戸	大正8年3月(16日～昭和3年8月17日)	堅半半(一ツ綴)・1冊	い619-1

当座約定

証(定期預金の担保差入証下書き) 神戸分左衛門、吉安賢、堀田八重→株式会社第一銀行御中	(大正年間)	印刷用紙・1通	い619-3-5-11
神戸分左衛門殿、当座約定書控 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門		封筒・1点	い619-3-0
静岡県興津町水口屋五号別荘神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	(昭和2年カ)	封筒・1点	い619-3-1
(当座精算書貴方へ御郵送につき) 藤井義雄→神戸分左衛門	昭和2年3月5日	「株式会社第一銀行名古屋支店便箋」・1通	い619-3-2
預金証書袋 株式会社伊藤銀行		袋・1点	い619-3-3
(御調印の証書2通ほか入手したにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店預金掛→神戸分左衛門		「株式会社第一銀行名古屋支店便箋」・1通	い619-3-4
(借越金契約の定期預金担保額など書付)		堅紙・1通	い619-3-5-1
質権設定通知書 神戸分左衛門、堀田やゑ→株式会社伊藤銀行御中	大正15年6月	罫紙(印刷用紙)・1通	い619-3-5-2
質権設定承諾書用紙 →株式会社第一銀行御中	(大正15年6月)	印刷用紙・1通	い619-3-5-3
(貸越金願い、見本) 神戸分左衛門→株式会社第一銀行御中	大正14年12月26日	印刷用紙・1通	い619-3-5-4
(貸越金願い、下書き) 神戸分左衛門→株式会社第一銀行御中	大正13年12月	印刷用紙・1通	い619-3-5-5
証(定期預金の担保差入証下書き) 神戸分左衛門、吉安けい→株式会社第一銀行御中	大正13年12月	印刷用紙・1通	い619-3-5-6

証(定期預金の担保差入証下書き) 神戸分左衛門、堀田やゑ→株式会社第一銀行御中	大正13年12月	印刷用紙・1通	い619-3-5-7
(やゑ、けい定期金額書上げ)	大正11年9月8日	堅切紙・1通	い619-3-5-8
(書類に調印し今一度差し出し下されたきにつき) 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正11年9月8日	印刷用紙(「株式会社第一銀行名古屋支店便箋」)・1通	い619-3-5-9
当座勘定借越約定書 名古屋市西区木挽町23番地神戸分左衛門、他保証人1名→株式会社第一銀行御中	大正11年9月8日	印刷用紙(郵便)・1通	い619-3-5-10
当座貸越担保分明細定期預金証書 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行株式会社→神戸分左衛門	大正9年9月21日	「株式会社第一銀行名古屋支店便箋」・1通	い619-3-5-12

当座勘定決算

十三年三月十六日、同六月十五日精算		封筒・1点	い619-2-2-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名御調印のうえ、返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正13年6月15日	印刷用紙・1通	い619-2-2-1
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名御調印のうえ、返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正13年6月13日	印刷用紙・1通	い619-2-2-2
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正13年9月21日	封筒・1点	い619-2-3-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正13年9月21日	印刷用紙・1通	い619-2-3-1
西区木挽町廿七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→西区木挽町27神戸分左衛門	大正13年12月21日	封筒・1点	い619-2-4-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正13年12月21日	印刷用紙・1通	い619-2-4-1
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年3月15日	封筒・1点	い619-2-5-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年3月15日	印刷用紙・1通	い619-2-5-1
西区木挽町27神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年6月21日	封筒・1点	い619-2-6-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年6月21日	印刷用紙・1通	い619-2-6-1
岐阜県養老郡養老村神戸別荘御内神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年9月20日	封筒・1点	い619-2-7-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一	大正14年9月20日	印刷用紙・1通	い619-2-7-1

神戸家・勘定場/預金/第一銀行/当座勘定決算

一銀行名古屋支店→神戸分左衛門			
西区木挽町神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年12月20日	封筒・1点	い619-2-8-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正14年12月20日	印刷用紙・1通	い619-2-8-1
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→西区木挽町27神戸分左衛門	大正15年3月21日	封筒・1点	い619-2-9-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年3月21日	印刷用紙・1通	い619-2-9-1
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→西区木挽町27神戸分左衛門	大正15年6月13日	封筒・1点	い619-2-10-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年6月13日	印刷用紙・1通	い619-2-10-1
岐阜県養老郡養老村神戸別荘御内神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年9月19日	封筒・1点	い619-2-11-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年9月19日	印刷用紙・1通	い619-2-11-1
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年12月12日	封筒・1点	い619-2-12-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	大正15年12月12日	印刷用紙・1通	い619-2-12-1
計算書(元金、利息金差引き計算) →吉安	昭和2年2月4日	印刷用紙・1通	い619-2-14-3
東海道興津海岸水口屋五号別荘神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年3月3日	封筒・1点	い619-2-13-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年3月13日	印刷用紙・1通	い619-2-13-1
(伊藤銀行定期証書の元金、利息差引き勘定書付)	昭和2年3月20日	メモ用紙・1通	い619-2-14-1
(貴殿当座借越の担保として差入れていた堀田やゑ名義の伊藤銀行定期証書が満期となったので第一銀行名古屋支店の定期預金として振り替えるにつき) 第一銀行名古屋支店藤井義雄→神戸分左衛門	昭和2年3月25日	印刷用紙・1通	い619-2-14-2
静岡県興津町水口屋五号別荘神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年3月	封筒・1点	い619-2-14-0
岐阜県養老郡養老村神戸別荘御内神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年6月2日	封筒・1点	い619-2-16-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御	昭和2年6月12日	印刷用紙・1通	い619-2-16-2

調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門			
岐阜県養老郡養老村神戸御別荘神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→岐阜県養老郡養老村神戸御別荘神戸分左衛門	昭和2年6月14日	封筒・1点	い619-2-17-0
(当座貸越金現在高の報告につき) 第一銀行藤井義雄→神戸分左衛門	昭和2年6月14日	第一銀行名古屋支店便箋(和文タイプ)	い619-2-17-1
(当座勘定の決算に対する承認状送付の督促) 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→西区木挽町27番戸神戸分左衛門	昭和2年7月13日	葉書・1通	い619-2-16-1
(当座勘定決算相違なければ承認状に御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年9月9日	印刷用紙・1通	い619-2-15
静岡県興津水口屋別荘神戸分左衛門殿 名古屋市西区伝馬町3丁目13番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	(昭和2年12月11日)	封筒・1点	い619-6-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年12月11日	印刷用紙・1通	い619-6-1
(当地組合銀行申し合わせにより利下げが決定したのに伴い吉安殿・堀田殿の元利金の新証書作成したにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和2年5日	「株式会社名古屋支店」用箋・1通	い619-2-14-4
静岡県興津町清見寺前水口屋別荘御内神戸分左衛門殿 名古屋市西区下園町4丁目8番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年3月11日	封筒・1点	い619-5-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年3月11日	印刷用紙・1通	い619-5-1
西区木挽町廿七神戸分左衛門殿 名古屋市西区下園町4丁目8番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年6月17日	封筒・1点	い619-4-0
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年6月17日	印刷用紙・1通	い619-4-1
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店神戸分左衛門殿→神戸分左衛門	昭和3年9月15日	印刷用紙・1通	い619-8-2
(当座勘定の決算相違なければ承認状へ御記名・御調印のうえ返付下されたきにつき) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年12月15日	印刷用紙・1通	い619-7-2
西区木挽町二七神戸分左衛門殿 名古屋市西区下園町4丁目8番地株式会社第一銀行名古屋支店→西区木挽町27神戸分左衛門	昭和3年12月17日	封筒・1点	い619-7-0
(本日当座勘定へ記帳したことの通知) 株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	昭和3年12月17日	印刷用紙・1通	い619-7-1
西区木挽町廿七神戸分左衛門殿 名古屋市西区下園町4丁目8番地株式会社第一銀行名古屋支店→神戸分左衛門	(昭和3年9月15日)	封筒・1点	い619-8-0
名古屋市西区下園町四丁目株式会社第一銀行名古屋支店支配人御中 →名古屋市西区下園町4丁目株	(昭和3年9月15日)	封筒・1点	い619-8-1

神戸家・勘定場/預金/第一銀行/当座勘定決算

式第一銀行名古屋支店			
(神戸分左衛門様 神谷万徳→神戸分左衛門	(6月)18日	封筒・1点	い619-9-0
(当座決算承認状落手および担保の証文をお届け 下されたので更に一ヵ年の定期預金とするにつ き) 神谷万徳→神戸分左衛門	6月18日	横切紙・1通	い619-9-1
(預金の限度額などご承知置き下されたきにつき) 神谷万徳→神戸分左衛門	6月19日	横切紙・1通	い619-9-2
神戸分左衛門殿 藤井代荒川→神戸分左衛門		封筒・1点	い619-2-1-0
(当座承認状拝受につき) 藤井代荒川		「株式会社第一銀行名 古屋支店」用箋(封筒 付)・1通	い619-2-1-1

関与団体

日本赤十字社

社員認定

日本赤十字社書類ならびに海員掖済会書類 神戸 分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い585-0
海西郡宝地村神戸分左衛門殿 日本赤十字社名古屋 支部→神戸分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い585-1-0
締盟状 →神戸分左衛門	(明治27年カ)	封筒・1点	い585-1-1-0
(神戸分左衛門を赤十字社の正社員とするにつき) 日本赤十字社総裁大勲位彰仁親王他1名→神戸分左衛 門	明治27年10月30日	日本赤十字社締盟状・1 通	い585-1-1-1
日本赤十字社社則	(明治年間)	印刷物・1冊	い585-1-2
日本赤十字社名古屋支部細則	明治22年2月27日	印刷物・1冊	い585-1-4
日本赤十字社地方委員及支部規則、日本赤十字社 年釀金納付手帳	(明治年間)	印刷物・1冊	い585-1-3
海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門殿 海西 郡委員部→神戸分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い585-3-0
(社員章など送付につき御記名・調印のうえ使いの 者へ渡して下されたき旨) 海西郡委員部→神 戸分左衛門	明治27年11月5日	「愛知県海西郡役所」用 箋・1通	い585-3-1
日本赤十字社有功章社員章条例、日本赤十字社有 功章社員章佩用者心得書	(明治年間)	印刷物・1冊	い585-3-2
海西郡宝地村神戸分左衛門殿 愛知県名古屋市小市 場町4丁目203番戸日本赤十字社名古屋支部→神戸分 左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い585-4-0
日本赤十字社要覧	(明治年間)	印刷物・1冊	い585-4-1
宝地村大字神戸新田神戸分左衛門殿 海西郡委員 部→神戸分左衛門	明治27年11月30日	封筒・1点	い585-5-0
(赤十字社への加盟承認の旨境支部長より通報あ るべきにつき) 海西郡委員部→神戸分左衛門	明治27年11月30日	「愛知県海西郡役所」用 箋・1通	い585-5-1
(神戸分左衛門を日本海員掖済会通常会員とする につき) 日本海員掖済会総裁大勲位威仁親王、同会	明治33年7月19日	印刷用紙・1通	い585-2

長正三位勲一等男爵赤松則良→神戸分左衛門			
神戸分左衛門殿 愛知県海西郡宝地村役場→神戸分左衛門	明治30年	封筒・1点	い586-4-0
(本郡部委員部より通牒あるにつき通達) 宝地村役場→日本掖済会神戸分左衛門	(明治年間)	「愛知県海西郡宝地村役場」用箋・1通	い586-4-1-1
(大阪三輪崎線、大阪熱田線の乗船賃二割引きとなる旨を通知されたきにつき) 日本海員掖済会愛知支部海西郡委員部→宝地村役場御中	明治34年9月6日	「愛知県海西郡宝地村役場」用箋・1通	い586-4-1-2
宝地前大字神戸新田神戸分左衛門殿 海西郡委員部→神戸分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い586-12-0
(赤十字社社員章・有功章の説明) 日本赤十字社愛知県海西郡委員部→神戸分左衛門	(明治年間)	こんにやく版・1通	い586-12-1
(日本赤十字社終身社員の資格を認定するにつき) 日本赤十字社長伯爵佐野常民→正社員神戸分左衛門	明治35年2月12日	印刷用紙・1通	い586-18-1
(終身社員認定状受領証下書き) 神戸分左衛門→日本赤十字社名古屋支部御中	明治35年5月24日	罫紙・1通	い586-18-2
年釀金			
日本赤十字社年釀金受取証ならびに海員掖済会神戸氏		封筒・1点	い586-0
証(日本赤十字社年釀金1円受領) 日本赤十字社名古屋支部→神戸分左衛門	明治27年10月24日	印刷用紙・1通	い586-10
証(日本赤十字社年釀金3円受領) 日本赤十字社名古屋支部→神戸分左衛門	明治28年2月1日	印刷用紙・1通	い586-6
証(日本赤十字社年釀金3円受領) 日本赤十字社名古屋支部→神戸分左衛門	明治29年3月30日	印刷用紙・1通	い586-11
証(日本赤十字社年釀金3円受領) 日本赤十字社名古屋支部会計主任幹事山本忠充→神戸分左衛門	明治30年7月7日	印刷用紙・1通	い586-5
領収証(日本赤十字社年釀金3円) 日本赤十字社名古屋支部幹事脇屋義純→神戸分左衛門	明治31年4月26日	印刷用紙・1通	い586-15
赤十字年釀金納付通知書 海西郡委員長寺内悠磨→神戸分左衛門	明治32年5月20日	印刷用紙・1通	い586-13
領収証(日本赤十字社年釀金3円) 日本赤十字社名古屋支部幹事脇屋義純→神戸分左衛門	明治32年5月29日	印刷用紙・1通	い586-14
(6月1日現在の社員表の配布依頼、社員表付き) 宝地前分区委員佐野新蔵→神戸分左衛門	(明治32年)6月14日	小切紙・1通	い586-2-1
日本赤十字社海西郡社員発達比較表	明治32年	印刷物・1通	い586-2-2
領収証(金3円日本赤十字社年釀金として) 日本赤十字社名古屋支部幹事脇屋義純→神戸分左衛門	明治33年1月29日	印刷用紙・1通	い586-3
(年釀金残額・一時出金額の回答下書) 日本赤十字社名古屋支部→海西郡委員部名古屋支部	明治33年5月12日	罫紙・1通	い586-1
海員掖済会(33年度年釀金額書上)	(明治33年)	罫紙・1通	い586-9
証(日本赤十字社年釀金3円受領) 日本赤十字社名古屋支部→神戸分左衛門	明治34年2月1日	印刷用紙・1通	い586-7
赤十字社年釀金之覚	(明治27～34年)	「神戸氏蔵」用箋・1通	い586-8

領収証(日本赤十字社年釀金6円66銭7厘) 日本赤十字社名古屋支部幹事高橋福三郎→海西町宝地村神戸分左衛門	明治35年2月8日	印刷用紙・1通	い586-16
(日本海員救済会釀金2円40銭領収につき) 日本救済会愛知支部海西郡委員長加藤泰儀→神戸分左衛門	明治35年3月15日	印刷用紙・1通	い586-17

国家・県との関係

貴族院議員互選

海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門殿 愛知県→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門		封筒・1点	い597-0
海西郡宝地村神戸分左衛門殿 愛知県→海西郡宝地村神戸分左衛門		封筒・1点	い597-1-0
(明治23年4月17日配布の多額納税者議員互選名簿の記載の訂正につき) 愛知県知事白根寿一→神戸分左衛門	明治23年4月24日	「愛知県」罫紙・1通	い597-1-1
(貴族院多額納税者議員互選名簿を配布するにつき) 愛知県知事白根寿一→神戸分左衛門	明治23年4月17日	「愛知県」罫紙・1通	い597-2
(本月10日貴族院多額納税者議員互選投票来るにつき整理のため予め投票用紙を配付する旨) 愛知県第一部→神戸分左衛門	明治23年6月2日	「愛知県」罫紙・1通	い597-3
(貴族院多額納税者議員選挙執行日時の通知につき) 愛知県書記官柳本直太郎→神戸分左衛門	明治23年6月2日	「愛知県」罫紙・1通	い597-4

拝借金

拝借金延期願(金7000円) 第6区海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門、他右用係1名→愛知県令安場保和	明治11年4月19日	罫紙・1冊	い738-2-5
拝借金額(金5000円) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門、他用係1名→愛知県令安場保和	明治11年10月18日	罫紙・1冊	い738-2-3
拝借金延期願(金9000円) 尾張国海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→愛知県令安場保和	明治12年4月10日	罫紙・1冊	い738-2-4
拝借金額(金7000円) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治15年3月6日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い738-2-1
拝借金延期願(金3500円) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治15年4月11日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-2-2
金三千五百円拝借、十五年返納ノ書付、天野約定書(い742の束の見出しが)	(明治15年カ)	小切紙・1通	い742-1
拝借金延期副証券(3500円) 尾張国海西郡神戸新田一番地右金拝借本人神戸分左衛門、同国西春日井郡土器野新田右保証人天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治15年5月2日	堅美紙・1通	い742-2
(金5543円75銭受取につき) 会計主務官愛知県一等属木原清香→神戸分左衛門	明治15年5月3日	印刷用紙・1通	い742-3
(金2016円66銭7厘受取につき) 会計主務官愛知県一等属木原清香→神戸分左衛門	明治15年5月30日	印刷用紙・1通	い742-4
清算之記(拝借金の清算か) 天野→神戸	明治15年5月27日	横切継紙・1通	い742-5-1
記(拝借金額、返済分、利子額の計算の書付)		横切継紙・1通	い742-5-2
記(印紙料・カステイラ代金など書上)		横折紙・1通	い742-5-3

覚(利子金73円33銭2厘の受取状を幸便につけ指し出すにつき) 天野→神戸	明治15年5月21日	横切継紙・1通	い742-5-4
記(利子金・手数料など書上げ)		横折紙・1通	い742-5-5
覚(利息金の内訳、差引残金書上げ)		横切継紙・1通	い742-5-6
抵当品書入拝借金証文之事(1500円の拝借金の抵当として神戸新田のうち田畑宅地9町余此地価金5496円余の書入れにつき) 尾張国海西郡神戸新田二番地右金拝借本人神戸分左衛門、同国西春日井郡土器野新田右保証人天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治15年3月16日	堅美継紙・1通	い742-6
拝借金抵当地所目録 神戸分左衛門	明治15年3月16日	「神戸氏蔵」罫紙・1冊	い742-7
不明			
潭月殿 宝珠院一札・京家主一札・越勝寺月供料受取一通	寛延3年12月	包紙・1点	い542-0
送り手形之事(太田主税後家おたい当月八日まで借家に置き出入りこれなきにつき) 知恩院古門前三吉町松坂屋三郎兵衛→尾州名古屋元材木町神戸分左衛門	寛延3年12月8日	堅美紙・1通	い542-1
覚(月供料金100疋にて永代毎月忌日勤めるにつき) 越勝寺継望→太田氏おたい	寛延3年12月9日	堅美紙・1通	い542-2
一札(潭月と申す代々当寺旦那に紛れ無きにつき) 南寺町浄土宗宝珠院→犬山屋文左衛門	寛延3年12月	堅美紙・1通	い542-3
用箱ヨリ出候小書付類	已10月	包紙・1点	い608-7-1
(先頃内々をお願いしていた一件につき丈助の働きにより員数整ったことへの礼状) 犬飼藤九郎→神戸分左衛門	12月27日	横切継紙・1通	い608-7-2

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

家

狭義の家としての神戸家は、先述の通り、近世初期の豪商であった犬山の鵜飼屋神戸（かんべ）家から1669年に分家して成立した家である。現在も存続している。16～18頁の系図を見ればわかる通り、代々文左衛門を襲名する。犬山屋神戸家は、一般的な日本の家と同様に、婿取り嫁取りの関係を持つ二つの家があることにより存続が可能であった。その一つは本家の鵜飼屋神戸家であり、もう一つは永田家である。例えば二代目文左衛門には成人した男子がいなかったため長女勝に永田家から婿を迎え文四郎と名乗った。しかし文四郎は家督を継ぐ前に27歳で死去したため、同じ永田家から文四郎の弟が婿入りして勝は再婚し、彼が三代目文左衛門として家督を継いだ。勝と文四郎の間にも、勝と三代目の間にも男子が出生し、いずれも成人したため兄を四代目文左衛門とし、弟はこの段階では跡継ぎが必要となった父の実家の永田家に婿に行き永田家を相続した。本家である鵜飼屋神戸弥兵衛家との関係では、六代目と七代目が本家からの養子である。特に六代目については五代目の実子二人の存在にもかかわらず養子として迎えられている。

狭義の家としての歴史のなかで重要なことは、全体の解題で述べた通り、1859（安政6）年の元材木町から神戸新田への転居である。このことにより経営組織と家が空間的に分離したからである。しかし、明治期の当主への封書や葉書の宛先も両方の住所があり、詳細に見れば時期的な変化があるのかもしれないが、印象としては神戸新田と木挽町（元材木町）を行き来しているか、公的な住所が神戸新田で実態は木挽町に居住しているかのいずれかであろう。その意味では経営と家の空間的分離もさほど長い時期ではなかった可能性もある。

この元材木町犬山屋神戸家には同格の分家が二つある。一つは江戸の神戸彦七家であり、もう一つは名古屋の弥市家であるが、後者は18世紀前半に途絶え、前者も19世紀前半に廃絶した。

この大項目に、神戸家文書のうち狭義の家の史料を収めたことは目録（その1）（その2）と同様である。前二冊の目録での「由緒書・一件綴など」を分離して「一件綴りなど」を独立させ、そのなかに先述の「安政6年転居」と「木挽町止宿願」の二つの小項目を設けた。さらに、いったん廃絶した江戸の神戸彦七家を再興しようとする動きが判明する主として書状類を「江戸神戸再興願一件」として立項しておいた。

さらに、近世の和歌詠草や漢詩原稿、あるいは手習い本が、神戸家文書とは別の「特殊資料」と呼ばれるコレクションから、明確に元材木町神戸家のものと認識される形態で確認されたため、全く別系統の番号で本目録に収録することとし、「文化活動」および「教育」というシリーズ（中項目）に編成した。

一件綴など

御目見・身分引立て等

乍恐奉願上候御事（本人及び倅陣屋御出入願写） 犬山屋文左衛門	（天保9年カ）2月	縦紙・1通	い441-2
御目見仰渡し書付 同五月四日御代替り御目見済 （犬山屋文左衛門・油屋治平、年頭継目・御代替り御 礼御目見えおおせ付け）	文化8年4月晦日 4月	包紙・1点 横切紙・1通	い575-0 い575-1
乍恐奉願上候御事（本人及び倅陣屋御出入願写） 犬山屋文左衛門→笹岡文五右衛門	戊2月	縦紙・1通	い441-1
乍恐奉願上候御事（茶入献上願） 犬山屋文左衛門	10月	縦紙・1通	い448-11-1

口上之覚(御目見御断りにつき) 犬山屋文左衛門 →本間茂右衛門・杉山兵助・間野敬次郎・八木銀次郎 (断簡・茶入れの由緒書)	正月14日	断簡・1点	い449-14-1
乍恐奉願上候御事(秘蔵の平手肩附茶入献上願) 犬山屋文左衛門	9月	断簡・1点 堅紙・1通	い449-14-2 い449-15
乍恐願上候御事(身分引立につき) 神戸文左衛門 →地方御勘定所	申閏3月	堅半(ニツ綴)・1冊(封紙付)	い495-9
* (御目見御状等受取につき書状) 葵園	10月17日	横切紙・1通	い418-1-9
* 御勘定所御元ノ役衆(名前書付)		横切紙・1通	い418-1-8
* (当秋初入国のさい御目見につき通達2通写) 小沢加八郎・西尾才助/地方勘定本ノ役→松岡理兵衛・神戸文左衛門	9月27日	横切継紙・1通	い418-1-28

安政6年転居

(神戸新田神戸文左衛門家内書上) 神戸文左衛門 →地方御勘定所	安政7年3月	堅半(ニツ綴)・1冊	い449-13
* (旦那様御引移等につき書状) 新田久蔵・嘉四郎 →松岡橋蔵	2月7日	横切紙・1通	い419-10-1
* (神戸文左衛門神戸新田へ引越し住居許可書写)	8月	横切紙・1通	い418-1-3
* (在郷気に入り申すにつき留守中の藩御用依頼状) 葵園→橋蔵老輩	10月7日	横切継紙・1通	い418-10
* 御きもの覚 たけ→御奥様	10月8日	横切紙・1通	い418-12
* (書状、未開封につき内容摘記略) たけ→お奥屋	10月8日	横切紙・1通	い418-13
* (紅葉等指上、風呂等積み下げ依頼につき書状) 新田ニテ小七→勘定場吉蔵	10月10日	横切継紙・1通	い418-25
* (井戸掘り等につき書状) 新田→勘定場衆中	10月10日	横切紙・1通	い418-26
* (留守中よろしく、今日は下み割毛見につき書状) 芸農(7代目茂元か)→橋蔵	神無月10日	横切継紙・1通	い418-29
* 覚(手付汁なべ等受取につき) 新田より→吉蔵老人	10月	横切紙・1通	い418-18
* 覚(品代受取覚書) うおや弥九郎	12月	横切紙・1通	い418-30
* (封筒) 新田→勘定場吉蔵		封筒・1点	い418-11
* (神戸新田氏神様の御和生二候や・・・)		横切紙・1通	い418-16
* (封筒) 新田より→おたけさま		封筒・1点	い418-17

江戸神戸再興願一件

* 江戸神戸再興願一件・楨田氏贈言書翰	亥12月	包紙・1点	い465-0
* (江戸の神戸彦七家御再興困難、私儀も近来逼塞の仕合につき書状)		横切継紙・1通	い465-1
* (名代三富正七郎参上せずにつき書状) (楨田) 栄之丞→文左衛門	正月	横切継紙・1通	い465-2
* (神戸彦七家再興の企ては楨田家親類の意向に)	5月19日	横切継紙・1通	い465-3

反する旨につき書状) 植田栄之丞→神戸文左衛門			
* (神戸彦七家再興の儀宜御評決奉願候につき書状) 植田栄樹→神戸文左衛門	5月19日	横切継紙・1通	い465-5

丹羽郡稲置村屋敷(犬山)

移住届(神戸仲雄丹羽郡稲置鵜飼町への移住につき「移住届」・「送籍証」の写)	明治9年8月	愛知県第七大区用箋・1冊	い396-3
建物売渡証券(稲置村鵜飼町土地建物売渡につき) 第四大区一小区丹羽郡稲置村鵜飼町右建物売主神戸直彦・第六大区廿一小区海西郡神戸新田証人神戸分左衛門→神戸七之輔	明治9年8月	縦継紙・1通	い396-4
家作建物書入借入金証券(金百円借用につき証文控) 第四大区一小区丹羽郡稲置村鵜飼町四百三拾五番地金円借人神戸直彦・第六大区廿一小区海西郡神戸新田式番地証人神戸分左衛門→神戸七之輔	明治9年8月	縦継紙・1通	い396-5
送籍証(神戸仲雄丹羽郡稲置鵜飼町への移住届) 右(神戸新田)村副戸長竹内辰右衛門→第四大区一小区稲置鵜飼町正副戸長中	明治9年8月	縦継紙・1通	い396-6
邦内縁組届(丹羽郡稲置村神戸直彦弟綾三を神戸七之助の養子とする) 神戸直彦・神戸七之助ほか親類2名→愛知県令安場保和	明治11年10月22日	野紙・1冊	い577-1
管内寄留御届(写、養子綾三を神戸新田神戸分左衛門方へ) 丹羽郡稲置村神戸七之助	明治11年	小切紙・2通	い577-2
(丹羽郡稲生村776番建物神戸分左衛門より七之助へ売渡につき「建物売渡証券」・「家作建物売渡附替届」・売渡証文奥書割印願の写)	明治11年	野紙・1冊	い396-1
建物売渡証券(丹羽郡稲生村784番建物神戸新田神戸仲雄より稲生村宮嶋栄五郎へ売渡につき「建物売渡証券」・「建物売渡名前附替届」・売渡証文奥書割印願の写) →丹羽郡	明治11年	野紙・1冊	い396-2

明治期木挽町止宿

「名古屋木挽町へ止宿届」		封筒・1点	い738-1-1
旅行届(内輪都合により名古屋区木挽町2丁目23番地へ他出いたしたき旨) 海西郡神戸新田2番地平民農神戸分左衛門、早川忠兵衛→橋場新田外5ヶ村戸長御中	明治18年11月25日	野紙・1通	い738-1-11
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二	明治19年1月28日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-8
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二	明治19年4月1日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-9
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二	明治19年6月9日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-10
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2	明治19年8月8日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-5

家/一件綴など/明治期木挽町止宿

番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二			
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地平民農神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二	明治19年10月3日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-7
他行届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡神戸新田外5ヶ村戸長宮崎十郎二	明治19年12月3日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-6
他行届(名古屋区木挽町2丁目23番地に止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡神戸新田外5ヶ村戸長加藤義二	明治20年4月5日	罫紙・1通	い738-1-3
他行届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長加藤義二	明治20年6月	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-12
届(所用のため名古屋区木挽町27番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田28番地神戸分左衛門→海西郡橋場新田外5ヶ村戸長加藤義二	明治20年9月5日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-13
届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地の自分通所へ越し、止宿するにつき) 海西郡神戸新田28番地神戸分左衛門→海西郡神戸新田外5ヶ村戸長加藤義二	明治21年3月10日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-4
届(自分通所への止宿期間の延長願) 海西郡神戸新田28番地神戸分左衛門→名古屋区長服部直衛	明治21年12月22日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-16
分左衛門止宿届、区役所誤謬付箋、廿一年十二月廿五日		封筒・1点	い738-1-14
他行届(所用のため名古屋区木挽町2丁目23番地へ相越し止宿するにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→海西郡神戸新田外5ヶ村戸長宮崎十郎次	明治24年2月1日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-1-2
(書面同時に九十日間止宿する時は書留にて届け出るべきにつき)	12月22日	堅切紙・1通	い738-1-15

その他

七間丁おいち殿仁右衛門殿へかし金等ハ何ほと有之候哉承度被申候故書出し申越有之之由へ書付候趣申越之訳被尋候		包紙・1点	い417-16-0
覚(神戸浄仙よりの祝儀金、書入金などの書上)	(享保年間)	横切継紙・1通	い417-16-1
辰二郎様御家督御譲につき諸々より御音物受納留帳	文化3年9月15日	横長美(一ツ綴)・1冊	い456
口上之覚(今般倅堅吾へ元材木町町屋敷六ヶ所相譲り、堅吾は文左衛門に改名したきにつき願書扣) 譲り主文左衛門・町代又右衛門・同断源七	(天保4ヵ)巳年4月7日	縦継紙・1通	い485
為取替申証文之事(貴殿分家後行跡宜しきため海西郡神戸外新田譲渡につき) 親類新田預り主神戸弥左衛門・同証人神戸庄五郎→加藤作右衛門・文治	弘化4年12月	堅紙・1通	い492-1

家計

*覚(代金請取覚) 山下屋甚九郎→神戸様 新田請取	(近世)閏3月1日	横切紙・1通	い419-44-11
借入金証書(金230円) 名古屋区幸名町113番邸片野徳兵衛他保証人1名→神戸分左衛門	明治18年10月20日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い593-14-1
茶道具売渡証券 名古屋区幸名町2丁目古道具商右売渡人片野徳兵衛→神戸分左衛門	明治19年4月30日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い593-14-2
茶道具売渡シ証券 名古屋区幸名町2丁目古道具商片野徳兵衛→神戸分左衛門	明治19年4月30日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い593-14-3
証(人形など売渡代金受取につき) 名古屋区幸名町2丁目古道具商片野徳兵衛→神戸分左衛門	明治22年1月26日	野紙・1通	い593-14-4
証(建木など売渡につき) 片野徳兵衛→神戸分左衛門	明治22年2月15日	堅紙・1通	い593-14-8
〔書状〕(売渡証印紙を別用するにつき) 徳兵衛→神有年	(明治年間)5月31日	横切継紙・1通	い593-14-5
〔書状〕(熊川様日限に運び申す儀につき)	(明治年間)	横切紙・1通	い593-14-6
〔書状〕(真秋に金を渡して下さるべきにつき) 徳兵衛→神戸	(明治年間)	横切紙・1通	い593-14-7
勘定番金員 蟹江隠居→神戸銀之助	(近代)	封筒・1点	い466-5

冠婚葬祭ほか

安産覚(献立・祝儀等の記録)	子4月1日	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-12
誓入様死去入用 山形屋庄兵衛	戌7月	横折紙・1通	い417-20

道中入用・旅行費用

東遊雑費誌 神戸吟秋	明治27年5月	横半半(一ツ綴)・1冊	い466-4
京都遊歴入用記 吟秋	明治28年5月14日	横半半(一ツ綴)・1冊	い466-9
伊勢参宮入用帳 知水 銀之助	明治29年4月5日	横半半(一ツ綴)・1冊	い466-1
伊勢・吉野・京都巡遊費用之記 銀秋	明治30年4月12日	横半半(二ツ綴)・1冊	い466-6
母君同道西遊費用之記 吟秋	明治31年4月16日	横半半(一ツ綴)・1冊	い466-8
西遊費用之記 銀之助	明治31年5月6日	横半半(一ツ綴)・1冊	い466-2
記(新家分京都遊覧費用)	(明治年間)	横長半(一ツ綴)・1冊	い466-3
記(御茶料拝受につき) 伊勢山田外宮前神風館	(明治年間)4月5日	印刷用紙・1通	い466-7-3
記(御宿料領収につき) 伊勢山田外宮前神風館	(明治年間)4月5日	印刷用紙・1通	い466-7-4
記(御茶料拝受につき) 伊勢二見浦 清渚亭	(明治年間)4月6日	印刷用紙・1通	い466-7-1
記(御宿費ほか領収につき) 伊勢二見浦海水浴場 清渚亭	(明治年間)4月7日	印刷用紙・1通	い466-7-2
証(御茶料拝受につき) 伊勢古市油屋清栄門支店	(明治年間)4月7日	印刷用紙・1通	い466-7-5
記(宿泊費その他請取につき) 京都三条小橋萬屋甚兵衛→神戸	(明治年間)5月19日	横折紙・1通	い466-10-2

覚(菓子代金受取) 郎直→神戸	(明治年間)5月20日	小切紙・1通	い466-10-4
(値札) 東山円山町平野屋	(明治年間)	小切紙・1通	い466-10-1-1
(値札) 美濃吉	(明治年間)	小切紙・1通	い466-10-1-2
覚(領収書) 相模亭	(明治年間)	小切紙・1通	い466-10-3
証(御茶料頂戴につき) 京都三条小橋西萬基楼	(明治年間)	木版刷用紙(彩色)・1通	い466-10-5

宗門改

一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届書、宛名順違いのため提出せず) 犬山屋文右衛門→鳥居嘉八郎・村瀬八郎右衛門・田崎吉左衛門・市岡勘右衛門・太田小左衛門	文化元年3月	縦紙・1通	い444-2-15
一札(文左衛門ならびに母妻子寺請証文、宛名順違いのため提出せず) 正万寺町浄土真宗長徳寺→鳥居嘉八郎・村瀬八郎右衛門・田崎吉左衛門・市岡勘右衛門・太田小左衛門	文化元年3月	縦紙・1通	い444-2-16
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届書) 犬山屋文右衛門→太田小左衛門・田崎吉左衛門・鈴木多門治・村瀬八郎右衛門	文化2年3月	縦紙・1通	い444-2-18
一札(文左衛門ならびに母妻子寺請証文) 正万寺町浄土真宗長徳寺→太田小左衛門・田崎吉左衛門・鈴木多門治・神谷弥五左衛門・本間伝一郎・村瀬八郎右衛門・太田文治・市岡藤太郎	文化3年3月	縦紙・1通	い444-2-10
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届下書、裏面に神戸新田輪中小屋之者宗門改報告) 犬山屋文左衛門→太田小左衛門・田崎吉左衛門・村瀬八郎右衛門・本間伝一郎・神谷弥五左衛門・鈴木多門治・太田文治・市岡藤太郎	文化3年3月	縦紙・1通	い444-2-17
一札(辰治郎ならびに父母寺請証文不使用清書) 正万寺町浄土真宗長徳寺→太田小左衛門・鈴木多門治・神谷弥五左衛門・本間伝一郎・村瀬八郎右衛門・太田文治・市岡藤太郎	文化4年3月	縦紙・1通	い444-2-9
一札(辰治郎家族及召使当年宗門改終了届下書) 犬山屋辰治郎→太田小左衛門・鈴木多門治・神谷弥五左衛門・本間伝一郎・村瀬八郎右衛門・太田文治・市岡藤太郎	文化4年3月	縦紙・1通	い444-2-19
一札(辰治郎家族及召使当年宗門改終了届書) 犬山屋辰治郎→鈴木多門治・神谷弥五左衛門・本間伝一郎・村瀬八郎右衛門・山田東一郎・太田文治・市岡藤太郎・田崎吉太郎・須賀井官一郎	文化5年3月	縦紙・1通	い444-2-11
(家内名前書上) 犬山屋文左衛門	(天保4)巳年3月	横切継紙・1通	い444-2-2
一札(文左衛門ならびに妻懸り人寺請証文下書) 正万寺町浄土真宗長徳寺→吟味役連名	天保4年3月	横切継紙・1通	い444-2-3
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届書下書) 犬山屋文左衛門→鈴木多門治・村瀬伊右衛門・服部栄蔵・野村清次郎ほか5名	天保4年3月	横切継紙・1通	い444-2-4
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届下書) 犬山屋文左衛門→鈴木多門治・正木平六・尾木藤十郎・小川半六郎・佐藤六四郎・各務弥三右衛門・井沢吉六・碓氷重次郎・児玉貞一郎	天保13年3月	縦紙・1通	い444-2-8
一札(文左衛門ならびに母妻子寺請証文下書) 正万寺町浄土真宗長徳寺→三沢謙蔵・佐藤六四郎・各務	天保15年3月～弘化4年	縦紙・1通	い444-2-6

弥左衛門・碓氷重次郎・朝田小太郎・野々村平八郎ほか5名			
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届下書) 大山屋文左衛門→三沢謙蔵・各務弥三右衛門・碓氷重次郎・野々村平八郎・橋本忠三郎・桜井作左衛門・速水甚右衛門ほか2名	嘉永3年3月	縦継紙・1通	い444-2-7
安政四巳年三月改(家内名前書上控) 犬山屋文左衛門	(安政4)巳年3月	縦紙・1通	い444-2-5
一札(文左衛門ならびに母妻子寺請証文下書) 正万寺町浄土真宗長徳寺→佐藤六四郎・各務弥三右衛門・碓氷重次郎・野々村平八郎・林勘之右衛門ほか4名	安政4年3月	縦紙・1通	い444-2-12
一札(文左衛門家族及召使当年宗門改終了届下書) 大山屋文左衛門→各務弥三右衛門・碓氷重次郎・野々村平八郎・林勘之右衛門ほか4名	安政4年3月	縦紙・1通	い444-2-13
一札(文右衛門家族当年宗門改終了届下書) 神戸右左衛門→室賀源十郎・速水三十郎	安政5年3月	縦紙・1通	い444-2-14

講

享保二戌正月改(い147-21を束ねるこよりの付札)	享保2年正月	付札・1点	い417-21-0
(金子領掌につき書状) 正平→文左衛門	(享保2年ヵ)4月2日	横切紙・1通	い417-21-2
覚(懐紙代金受取) 新屋重右衛門→神戸分左衛門	(享保2年ヵ)5月25日	横切継紙・1通	い417-21-1
覚(六銭講懸銭受納につき) 長徳寺勘兵衛→神戸分左衛門	酉(享保2年ヵ)12月1日	横切紙・1通	い417-21-3
覚(頼母子返金分覚書)	巳5月16日	横切紙・1通	い417-22-5

文化活動

和歌

詠艸 神戸行政	天保6年長月	横長半(一ツ綴)・1冊	Y19
詠艸 茂元	庚子晩秋	横長半(一ツ綴)・1冊	Y18
釣玄斎雜記(詠草)	巳初冬	横長半(一ツ綴)・1冊	Y20
(年始御祝詞申し上げたきにつき書状) 加納宗政→神戸文左衛門	正月吉日	横折紙・1通	Y13
詠草 常葉薩		横長半(一ツ綴)・1冊	Y1
(詠草) 久平		横長半(一ツ綴)・1冊	Y2
(詠草)		横長半(一ツ綴)・1冊	Y3
詠艸 茂元		横長半(一ツ綴)・1冊	Y4
(春草など各題目に因む詠草)		横長半(一ツ綴)・1冊	Y5
(子日奥など詠草)		横長半(仮綴)・1冊	Y6
(詠草) 久平		断簡(冊)・1点	Y7
「初花」(詠草) 茂元		横折紙・1通	Y8
「早青山」(詠草) 直政		横折紙・1通	Y9
「清月上桜花」(詠草) 重政		横折紙・1通	Y10

「清月上梅花」(詠草) 茂元		横折紙・1通	Y11
「早春山」(詠草) 茂元		横折紙・1通	Y12
「庭上鶴」など(詠草) 茂元		横折紙・1通	Y14
「立青」など(詠草) ミチ子		横切紙・1通	Y15
「庭上鶴」など(詠草) 直行		横折紙・1通	Y16

漢詩

詩稿 乾 神戸有政		横半半(一ツ綴)・1冊	X1
詩稿 神戸有政		横半半(一ツ綴)・1冊	X2
誌稿 神戸有政		横半半(一ツ綴)・1冊	Y17

その他

覚(唐石橋二冊納品書) 藤屋伝兵衛→神戸文左衛門	2月23日	横切紙・1通	い417-18
覚(春暁帖・還家など代金等受取) 風月孫助→犬山や文左衛門	2月23日	横切紙・1通	い417-19
* (植春先生へ菊差上等につき書状) 芸顔農→橘造老賢・真總軒主	神無月10日	横切継紙・1通	い418-27
覚(通鑑代銀請取につき) 御書物仕立所長者町雲錦堂草吾→神戸	霜月晦日	横切継紙・1通	い412-6
(俊成御入道寂阿像・増賀聖像図柄注文書)		横切継紙・1通	い417-17

教育

手習本

御手本九本 七間町まさ	寛保4年3月吉日	縦紙(四ツ目綴)・1冊	Z20
御手本六本 上七間町まさ	延享2年10月7日	縦美(四ツ目綴)・1冊	Z19
御手本九本 上七間町まさ	延享2年10月吉日	縦美(四ツ目綴)・1冊	Z17
手本 神戸銀之亮	明治9年4月30日	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z16
手本 神戸銀之亮	明治10年7月9日	縦紙(四ツ目綴)・1冊	Z23
明治十年丁丑十月十六日斤暇名伊呂波 愛知県第六区尾張国海西郡神戸新田神戸銀之亮	明治10年	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z7
御手本 神戸銀之亮	明治10年	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z14
県下区名御手本 神戸銀之亮 持主	明治11年5月15日	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z12
千字文御手本 神戸銀之亮	明治11年9月吉日	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z15
明治十一年寅十二月廿一日千字文 木挽町二丁目神戸銀之亮 持主	明治11年	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z8
明治十三年辰七月吉日手紙文手本 神戸銀之亮	明治13年7月	縦美(かぶせ綴じ)・1冊	Z13
千字文 神戸銀之亮(書写者)		折本・1冊	Z1
御てほん包(手本)		(美濃紙を縦方向に使用)・42通	Z2

童子文 佐とう京(書写者)	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z3
童子文	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z4
童子文 お京(書写者)	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z5
明治十二年卯六月廿八日 皇国三字経	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z6
萬手本 木挽町二丁目神戸銀之亮	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z9
江上客 神戸銀之亮	堅美(二つ綴じ)・1冊	Z10
大日本国尽御手本 神戸銀之亮	堅美(かぶせ綴じ)・1冊	Z11
(手習手本)	堅美(二ツ目綴)・1冊	Z18
京都名所尽 まさ	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z21
御手本 元材木町いち	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z22
御てほん十五本 上七間町	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z24
御手本 元材木町いち	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z25
御てほん五本 上七間町まさ	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z26
二行手本拾式本 みそのまちなまさ	堅紙(四ツ目綴)・1冊	Z27

その他

容体書 名古屋区伊倉町65番邸医師平岩順良	明治19年10月19日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い508-2
退校願 五級生神戸銀之亮→愛知県尋常中学校長杉岡政久	明治19年10月	堅紙・1通	い508-1

生命保険

神戸直彦名義真宗生命保険株式会社用書類 神戸分左衛門	明治28年6月	封筒・1点	い588-0
直彦子証書	(明治年間)5月4日	野紙包紙・1点	い588-1-0
証(直吉長男敏彦今般真宗証会社に雇用されたにつき) 神戸真彦→神部分左衛門	明治28年5月4日	堅紙・1通	い588-1-1
神戸直彦名義真宗生命保険会社株券記事 神戸分左衛門	明治28年4月4日	横半半(一ツ綴)・1冊	い588-2
当市南久屋町三丁目四十九番寄留神戸直彦殿 名古屋市橋町真宗生命保険株式会社→神戸直彦	(明治28年)	封筒・1点	い588-3-0
(真宗生命保険株式会社臨時総会への出席要請) 真宗生命保険株式会社→神戸直彦	明治28年6月15日	印刷用紙・1通	い588-3-1
(真宗生命保険株式会社へ神戸の確定株式5株にたいし金50円払い込み要請) 名古屋市橋町二丁目二百二十六番戸真宗生命保険株式会社→神部直彦	明治28年6月15日	印刷用紙・1通	い588-3-2
神戸分左衛門様 神戸直彦→神戸分左衛門	(明治年間)	封筒・1点	い588-4-0
(病気の症状などにつき) 直彦	(明治年間)7月4日	横切離紙・1通	い588-4-1

版本

伊勢暦

(宝暦14年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 箕曲主膳	宝暦13年	折本(版本)・1冊	い627
(明和2年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和元年	折本(版本)・1冊	い626
(明和3年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和2年	折本(版本)・1冊	い628
(明和4年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和3年	折本(版本)・1冊	い629
(明和5年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和4年	折本(版本)・1冊	い630
(明和6年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和5年	折本(版本)・1冊	い631
(明和7年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和6年	折本(版本)・1冊	い632
(明和8年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和7年	折本(版本)・1冊	い633
(明和9年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和8年	折本(版本)・1冊	い634
(明和10年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口主税	明和9年	折本(版本)・1冊	い635
(安永3年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永2年	折本(版本)・1冊	い636
(安永4年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永3年	折本(版本)・1冊	い637
(安永5年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永4年	折本(版本)・1冊	い638
(安永6年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永5年	折本(版本)・1冊	い639
(安永7年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永6年	折本(版本)・1冊	い640
(安永8年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永7年	折本(版本)・1冊	い641
(安永9年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永8年	折本(版本)・1冊	い642
(安永9年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	安永8年	折本(版本)・1冊	い643
(安永10年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	安永9年	折本(版本)・1冊	い644
(天明2年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 村松左京	天明元年	折本(版本)・1冊	い645
(天明3年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明2年	折本(版本)・1冊	い646
(天明4年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明3年	折本(版本)・1冊	い647
(天明5年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明4年	折本(版本)・1冊	い648
(天明7年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明6年	折本(版本)・1冊	い649
(天明8年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明7年	折本(版本)・1冊	い650
(天明9年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	天明8年	折本(版本)・1冊	い651
(寛政2年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	寛政元年	折本(版本)・1冊	い652
(寛政3年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	寛政2年	折本(版本)・1冊	い653
(享和4年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	享和3年	折本(版本)・1冊	い654
(文化2年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化元年	折本(版本)・1冊	い655
(文化3年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化2年	折本(版本)・1冊	い656
(文化5年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化4年	折本(版本)・1冊	い657

(文化6年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文化5年	折本(版本)・1冊	い658
(文化7年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化6年	折本(版本)・1冊	い659
(文化10年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文化9年	折本(版本)・1冊	い660
(文化11年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化10年	折本(版本)・1冊	い661
(文化12年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文化11年	折本(版本)・1冊	い662
(文化13年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化12年	折本(版本)・1冊	い663
(文化14年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化13年	折本(版本)・1冊	い664
(文化14年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文化13年	折本(版本)・1冊	い665
(文化15年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文化14年	折本(版本)・1冊	い666
(文化15年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文化14年	折本(版本)・1冊	い667
(文政2年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政元年	折本(版本)・1冊	い668
(文政3年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政2年	折本(版本)・1冊	い669
(文政4年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政3年	折本(版本)・1冊	い671
(文政5年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政4年	折本(版本)・1冊	い670
(文政6年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政5年	折本(版本)・1冊	い672
(文政7年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政6年	折本(版本)・1冊	い673
(文政8年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政7年	折本(版本)・1冊	い674
(文政9年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政8年	折本(版本)・1冊	い675
(文政10年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政9年	折本(版本)・1冊	い676
(文政12年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文政11年	折本(版本)・1冊	い677
(文政13年伊勢暦)	伊勢度会郡山田 山口右兵衛	文政12年	折本(版本)・1冊	い678
(文政13年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文政12年	折本(版本)・1冊	い679
(文政14年伊勢暦)	伊勢内宮 佐藤伊織	文政13年	折本(版本)・1冊	い680

武鑑

享保武鑑 参	日本橋南1町目江戸書林須原茂兵衛藏板	享保8年	豎半半(版本)・1冊	い685
享保武鑑 参	日本橋南1町目 江府書林 須原屋茂兵衛藏板	享保18年	豎半半(版本)・1冊	い692
享保武鑑 肆		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い686
享保武鑑 壺		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い687
享保武鑑 式		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い688
享保武鑑 式		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い689
享保武鑑 壺		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い690
享保武鑑 式		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い691
享保武鑑 肆		(享保)	豎半半(版本)・1冊	い693

泰平万代 大成武鑑 御役人衆卷之三 橋南1町目御書物師出雲寺和泉掾版	江戸日本	宝暦11年	豎半半(版本)・1冊	い703
新改 安永武鑑 御役人衆卷之三 江府書林須原屋茂兵衛蔵版	日本橋南1町目	安永2年	豎半半(版本)・1冊	い697
新改 安永武鑑 御役人衆卷之三 江府書林須原屋茂兵衛蔵版	日本橋南1町目	安永6年	豎半半(版本)・1冊	い696
新改 安永武鑑 御大名衆卷之一		(安永)	豎半半(版本)・1冊	い694
新改 安永武鑑 御大名衆卷之二		(安永)	豎半半(版本)・1冊	い695
新改 安永武鑑 御大名衆卷之二		(安永)	豎半半(版本)・1冊	い698
新改 安永武鑑 西御丸附卷之四		(安永)	豎半半(版本)・1冊	い699
新改 安永武鑑 西御丸附卷之四		(安永)	豎半半(版本)・1冊	い701
泰平万代 大成武鑑 御役人衆卷之三 橋通1町目御書物師出雲寺和泉掾版	江戸日本	天明2年	豎半半(版本)・1冊	い707
泰平万代 大成武鑑 御役人衆卷之三 橋通1町目御書物師出雲寺和泉掾版	江戸日本	天明4年	豎半半(版本)・1冊	い710
新板改正 天明武鑑 御役人衆卷之三 町目江府書林千鐘房須原屋茂兵衛蔵版	日本橋通1	天明6年	豎半半(版本)・1冊	い716
新板改正 天明武鑑 御役人衆卷之三 町目江府書林千鐘房須原屋茂兵衛蔵版	日本橋通1	天明7年	豎半半(版本)・1冊	い720
新板改正 天明武鑑 御役人衆卷之三 町目江府書林千鐘房須原屋茂兵衛蔵版	日本橋通1	天明8年	豎半半(版本)・1冊	い723
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之一		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い713
新板改正 天明武鑑 西御丸附衆卷之四		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い714
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之二		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い715
新板改正 天明武鑑 西御丸附卷之四		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い717
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之二		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い718
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之一		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い719
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之一 町目江府書林千鐘房須原屋茂兵衛蔵版	日本橋通1	(天明)	豎半半(版本)・1冊	い721
新板改正 天明武鑑 西御丸附卷之四		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い722
新板改正 天明武鑑 御大名衆卷之二		(天明)	豎半半(版本)・1冊	い724
新刊増補 萬世雲上名鑑 坤 出雲寺和泉掾		寛政3年	豎半半(版本)・1冊	い681
新板改正 寛政武鑑 御役人衆卷之三 町目江府書林千鐘房須原屋茂兵衛蔵版	日本橋通1	寛政3年	豎半半(版本)・1冊	い728
新板改正 寛政武鑑 御大名衆卷之一		(寛政)	豎半半(版本)・1冊	い725
新板改正 寛政武鑑 西御丸附卷之四		(寛政)	豎半半(版本)・1冊	い726
新板改正 寛政武鑑 御大名衆卷之二		(寛政)	豎半半(版本)・1冊	い727
新刊増補 萬世雲上名鑑 乾			豎半半(版本)・1冊	い682
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之一			豎半半(版本)・1冊	い700
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之二			豎半半(版本)・1冊	い702

泰平万代 大成武鑑 西御丸附卷之四		竖半半(版本)・1冊	い704
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之一		竖半半(版本)・1冊	い705
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之二		竖半半(版本)・1冊	い706
泰平万代 大成武鑑 西御丸附卷之四		竖半半(版本)・1冊	い708
泰平万代 大成武鑑 西御丸附卷之四		竖半半(版本)・1冊	い709
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之二		竖半半(版本)・1冊	い711
泰平万代 大成武鑑 御大名衆卷之一		竖半半(版本)・1冊	い712

その他

辛丑運氣考 全 皇京書肆中川藤四郎蔵板	安永10年	竖半半(版本)・1冊	い683
多度大神宮永代太々御神楽寄附帳 神主役五位下 小串肥後守 御祈願所神主従五位下小串肥後守重郷		竖半(版本)・1冊	い684

その他

借用申金子之事(商仕入金に入用につき) 神戸分 七→神戸分左衛門	享保8年7月11日	竖紙・1通	い497-4
預り申金子之事 神戸分左衛門→永田清三郎	享保20年正月	竖切紙・1通	い497-3
金三両献納書類 前大納言様へ (未開封) 神戸 文平	元治元年9月	不明	い553
大山格之助より前山精一郎へ来翰之写(戊辰戦争 戦況報告) 町田菊治	(明治元年カ)8月25日	横切継紙・1通	い465-4
神戸善友死去之節小島弥五右衛門より来状式通、 娘おその書付壱通	(近世)	包紙・1点	い497-1-0
覚(善友死去にあたり入用金など御積り帳面閲覧 依頼、ならびに父清入のこと宜しく頼むにつき) 清入子その→古渡り利兵衛	(近世)未7月	竖紙・1通(封紙付)	い497-1-1
(善友煩の由宗故への通知につき書状) 小嶋弥五 右衛門→神戸文七	(近世)6月14日	横折紙・1通	い497-1-2
(善友死去通知の礼状) 小嶋弥五右衛門→神戸文左 衛門・文七	(近世)6月29日	横折紙・1通	い497-1-3
(急用出来につき書状、末尾部分)	(近世)2月15日	断簡・1点	い477-20
*口演(はやり病御薬への御礼) 新田忠左衛門→ 御勘定場(御苗橋蔵)	(近世)8月22日	横切紙・1通	い418-1-17
(弥左衛門様へご案内の49日前にあい立て申すべ きにつき書状) 円明寺→神戸分左衛門	(近世)9月3日	横折紙・1通	い477-11
* (女様お帰りにより殿方様へお伺いご免願い等 につき書状)	(近世)10月29日	横切継紙・1通	い418-1-15
(神戸家所蔵品整理につき)	(近世)	断簡・1通	い417-23-1
(箱寸法書)	(近世)	断簡・1点	い417-23-2
普海	(近世)	付札・3点	い417-23-3
* (加紋散引札写) 売払取次所、常盤橋内添地掛川屋	(近世)	竖紙・1通	い418-1-11

家/その他

伝五郎・西丸下越前屋鯖右衛門			
(旅先よりの便りに対し、こちらは変わることなき 旨の返書) めうさん→神戸分左衛門	(近世)	横折紙・1通	い477-7
(預方音物につき)	(近世)	断簡・1点	い477-21
(返答事認めにつき書状)	(近世)	横切継紙・1通	い477-23
高中小兵衛方かし金之訳	(近世)	横切継紙・1通	い497-2
記(借財融通のための売却品を家再興の時まで預 かり置くにつき) 神戸与平→神戸直彦	明治7年7月	竖紙・1通	い449-3
記(油料神納につき) 熱田神宮宿直所	明治9年4月27日	竖紙・1通	い448-24

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

新田支配人(庄屋)

大宝前新田の支配人は小川唯助であり、近世を通じて世襲でこの神戸家内の役職を勤めていた。この存在は開発当初まで遡るようで、今回整理分の史料にも「分左衛門新田代唯助」(い494)あるいは「大宝前新田只助」(い409-4)とその名前が見られ、「支配人」という役職名はないものの現地で当主分左衛門にかわって周辺新田との交渉に従事している姿が見られる。この役職は大宝前新田の経営に従事するほか、周辺のいくつかの新田経営にも関与した形跡が見られるため、新田別の大項目の前に提示しておく。

一方、村としての大宝前新田には庄屋・組頭が置かれているが、いつから存在するのかはわからない。1720(享保5)年に庄屋唯助が存在することが確認できる(い287-3-3)のが今の所最も遡れる時点である。その後も、庄屋は表2に見られる通り只助(唯助)であることが多く、天保末年から安政期にかけての綱蔵も只助の倅であることから、大宝前新田の庄屋は概ね新田支配人の小川唯助家が世襲で勤めていたと考えてよい。

各新田の経営文書と区別される独自の文書は非常に少ないが、組織上は各新田の上位に位置するので、あえてサブフォンドとしてここに呈示した。今回収録史料に見られるように、庄屋の任免に関して名古屋藩役人のみならず地主である神戸家へも文書を提出していることから、新田支配人の地位と庄屋のそれは不可分の関係にあったと推察される。

庄屋役

乍恐奉願候(近年病身につき退役願ひ) 神戸新田 唯助→旦那様	寅5月	縦紙・1通	い541-9
乍恐御願奉申上候(先祖代々の名前である忠右衛門に改名仕りたきにつき) 新田庄屋忠兵衛→御地主様御勘定場	辰5月	縦紙・1通	い608-7-9
乍恐御達申上候御事(唯助倅市蔵が大宝前新田庄屋を勤めるにつき) 犬山屋文左衛門→岡勝右衛門御陣屋	亥3月	縦紙・1通	い541-15
乍恐奉願上候(庄屋役を倅市蔵に仰せ付けられたき旨) 新田只助→旦那様	亥7月	縦紙・1通	い541-12

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

大宝前(神戸)新田

大宝前新田の歴史は、二代目神戸文左衛門正種（普海）が1707（宝永4）年、井筒屋伊兵衛を共同出資者として、大宝新田の伊勢湾地先に大宝前新田125町歩を開発し、敷金として7811両余を尾張藩に差し上げたことに始まる。しかしその開発は順調ではなく、翌1708（宝永5）年には高潮により破堤し、規模を100町歩に縮小した。この時から出資者に本家の鶴飼屋神戸弥左衛門・江戸の分家神戸彦七・萱津屋伊右衛門の3人が加わった。これら出資者の結合を神戸家では「地主仲間」と呼んでいる。さらに、1723（享保8）年には3度の高潮に遭い、全体を45町7反に縮小することにより大宝前新田の規模が確定した〔菊池1986年〕。大宝前新田には支配人小川只助を置き、新田経営を担当させた。また、「新田小屋」あるいは「新田会所」という経営機関も開発当初から存在したようである。1766（明和3）年には大宝前新田の宗門改帳を同新田の庄屋が作成するようになり、これを「宗門村立」という。これにより、同新田は村請け制の村として確立した。その後、1815（文化12）年には同新田は神戸新田と改称された。

このサブフォンドには、大宝前（神戸）新田の経営に関する文書を編成した。主要な帳簿はここでも（その1）に体系的に編成したので、帳簿に関しては断片的なものしか収録されていない。今回整理分で特徴的なのは、開発当初に工事のため購入した坑木・栗石・土俵の領収書が多数見られ、これは小項目「資材購入」に編成した。また、堤普請の請負人である源太夫との争論文書が注目される（「堤普請請負人源太夫一件」）。源太夫により幕府評定所に提訴され、そのために法制史研究でいうところの「目安裏判」の写しがある（い520-4）。

また、今回収録分は書付類の袋・束・綴が多い。点数が多いのは、小項目「掟米運搬」である。これは新田経営が軌道にのったのち、大宝前新田から元材木町へ掟米（年貢＋小作料）を運搬する際の送り状を中心に79点がある。これらは全て近世のものと思われる。次に、小項目「諸入用帳結付け書付袋」が奇妙な項目名であるが、内容は1859（安政6）年の「神戸新田下用月々帳面入、並書付類不残入ル」（い418）、および1860（万延元）年「新田下用月々帳面入」（い419）という表題のある二つの袋に入っている合計158通の書付である。（その1）では「諸入用帳」という項目において、毎月作成される「諸入用帳」の綴りを年代順に配列したが、上述のような表題を持つ袋が結び付けられている月々の入用帳の綴りが多く見られた。（その1）151、152頁には安政6年、万延元年の入用帳の綴りが見られる（あ929、930）が、その綴りには袋が伴っていない。本小項目収録分の二つの書付袋は、この入用帳綴りにもともとは結び付けられていたものであろう。なお、い419の袋に入っているものは少なからず安政6年転居に関連する可能性が高いように思われたが、確証が得られないためやむを得ずここに配列する結果になっている点にここでは注意を喚起しておきたい。

そのすぐあとの小項目「諸入用書付袋」には1715（正徳5）年（い398）、1716（享保元）年（い578）、1725（享保10）年（い467）の三つの袋が配列されている。このように、細かな書付類は一年ごとに袋に収納され保管されていたものと思われる。これらは中項目「経営費用」に配列しているが、書状なども多く含まれていることは先の諸入用帳結付け書付袋内史料と同様である。

しかし、現状では袋から出てしまったものも多いので、そうした書付類は内容的な種別で配列せざるをえなかった。また、上記の書付袋内史料のうち、内容的種別にふさわしいと判断した史料については該当の小項目に重出させたものも少なからずある。

そのほか、今回特徴的なのは、年貢免状が多く見られることである。「公儀との関係/年貢」に1770（明和7）年から1866（慶応2）年まで約90通存在する。

開発

願書

大宝御新田残葭山此度御新田ニ被仰付候入札之御事(端裏書「最初入札之写」) 犬山屋分左衛門・井角屋平兵衛→野方御奉行所	宝永4年2月10日	縦継紙・1通	い468-11
--	-----------	--------	---------

資材購入

請取申金子之事(大宝御新田杭木代金につき) 鶴沼村久兵衛・同忠右衛門→神戸分左衛門	宝永4年4月18日	縦継紙・1通	い486-9
請合申石籠之事(石籠来る子之正月晦日までに大宝御新田場所で作りたて渡すにつき) 小網村長三郎・松竹村勘七郎→神戸分左衛門	宝永4年12月23日	縦継紙・1通	い486-22
請取申俵代金之事(金8両) 東福田村源助→若山左助	(宝永4年)亥12月24日	堅切紙・1通	い486-18
請取申金子之事(俵代金7両受取につき) 東福田村源助→若山左助	(宝永4年)亥12月25日	縦継紙・1通	い486-15
請合申松杭之事(大宝前御新田へ杭木4万本を届けること請合うにつき) 鶴沼村久兵衛・同所請人次平・同所組頭忠右衛門→堤久助	宝永4年12月28日	堅紙・1通	い486-10
請取申金子之事(石籠竹代金10両受取につき) 小あみ村長三郎・松竹村勘七郎・小あみ村請人長八郎→神戸分左衛門	宝永5年正月18日	堅切紙・1通	い486-12
覚(籠代金受取につき) 籠屋長三郎・勘七郎→堤久助	(宝永5年)子閏正月3日	堅切紙・1通	い486-20
請合申石籠之事(石籠6月中に出来致させ、大宝前新田場所にて渡すにつき) 小あみ村長三郎・松竹村勘七郎→堤久助	宝永5年閏正月4日	縦継紙・1通	い486-21
請取申金子之事(大宝前御新田杭木代金受取につき) 濃州鶴沼村久兵衛・同村請人忠右衛門→犬山屋分左衛門	宝永5年2月4日	堅切紙・1通	い486-8
覚(土表代受取につき) 弥次兵衛→久助	(宝永5年)2月16日	堅切紙・1通	い486-7
請取申金子之事(松葉代金3両受取につき) 吉田村川合藤十郎→中嶋武助	宝永5年3月12日	堅切紙・1通	い486-17
売上ヶ申栗石之事 吉田村川合藤十郎→堤久助	宝永5年6月3日	縦継紙・1通	い486-1
請取申金子之事(栗石売上残金受取につき) 大田村川合藤十郎→堤久助	宝永5年6月11日	堅切紙・1通	い486-3
請取申金子之事(大宝新田籠代金のうち35両受取につき) 小網村長三郎・松竹甚七郎→堤久助	宝永5年6月15日	堅切紙・1通	い486-16
売上ヶ申栗石之事 太田村藤治郎→堤久助・森治右衛門	宝永5年9月27日	縦継紙・1通	い486-4
覚(石籠代金の残り2両2分受取につき) 奥田重右衛門→堤久助	(宝永5年)子10月28日	堅切紙・1通	い486-14
覚(杭木58880本代金請取につき) 油屋治右衛門→神戸分左衛門	(宝永5年)子11月朔日	縦継紙・1通	い486-2
預り申金子之事 川合治郎九→堤久助	(宝永5年)子12月22日	堅切紙・1通	い486-5
杭木代金目録(代金請取につき) 美濃鶴沼村林久	宝永7年8月8日	堅紙・1通	い409-7

兵衛→神戸分左衛門			
請取申栗石代金之事 美濃安江村伊藤利左衛門→神戸分左衛門	宝永7年10月27日	堅紙・1通	い409-6
覚(土表代金6両受取につき) 早川弥次兵衛→堤久助	2月3日	堅切紙・1通	い486-19
覚(板などの代金受取につき) 甚平→堤久助	12月10日	横切紙・1通	い486-6
請取申金子之事(土俵代金のうち金2両受取につき) 平嶋村新六→若山佐助	12月15日	堅紙・1通	い486-13
請取申金子之事(石籠代金のうち金10両受取につき) 小あみ村長三郎・松竹甚七郎→神戸分左衛門	宝永5年3月27日	堅切紙・1通	い486-11

堤普請請負人源太夫出入一件

堤築方請合手形写式通		包紙・1点	い518-0
請負申御新田堤普請所之事(大宝御新田堤長さ150間の築合請負証文写) 濃州米野村普請所請負人源太夫・同中野村普請所請負人善右衛門・尾州枇杷嶋普請所請負人八郎・濃州米野村同請人甚右衛門・同中野村同請人善兵衛→犬山屋分左衛門・井筒屋平兵衛	宝永4年11月晦日	堅美継紙・1通	い518-1
請負申御新田堤普請所之事(大宝御新田堤二拾九番から三拾一番長さ合計130間の築合請負証文写) 濃州米野村源太夫・同中野村善右衛門・与八郎→犬山屋分左衛門	宝永5年正月19日	堅美継紙・1通	い518-2
覚(濃州日用頭共分左衛門訴の書付下書) 犬山屋分左衛門・井筒屋平兵衛	(宝永5年カ)子12月	堅継紙・1通	い521-1
覚(濃州日用頭共分左衛門訴の書付控) 犬山屋分左衛門・井筒屋平兵衛→(岡田佐左衛門・寅正月七日)	(宝永5年カ)子12月	堅美継紙・1通	い521-3
乍恐書付を以奉願候御事(大宝前新田堤266間の普請代金めぐる出入りにつき訴状写、相手名古屋材木町犬山屋文左衛門) 美濃国米野村源太夫・同村甚右衛門・同国江川村才右衛門・同所利助→御奉行所	宝永6年12月	堅美継紙・1通	い520-1
乍恐書付を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金をめぐる出入の願書ならびに評定所への出頭を命じる指紙写) 美濃国羽栗郡米野村源太夫・甚右衛門・同国江川村才右衛門・利助→御奉行所	宝永6年12月	堅継紙・1通	い525-2
覚(御裏書された御訴状を受け取ったので江戸へ下り御評定所へ返答書指し上げるにつき覚書控) 尾州名古屋元材木町犬山屋分左衛門・同所組頭源七郎・同所名主分七郎・分六郎→濃州米野村源太夫・甚右衛門・才右衛門・利助	宝永7年正月6日	堅美紙・1通	い520-2
覚(御裏書された御訴状を受け取ったので江戸へ下り御評定所へ返答書指し上げるにつき覚書控) 尾州名古屋元材木町犬山屋分左衛門・同所組頭源七郎・同所名主分七郎・同所名主分六郎→濃州米野村源太夫・甚右衛門・才右衛門・利助	宝永7年正月6日	堅美紙・1通	い520-3
覚(此度其方へ渡した「御訴状御裏書」の紙よごれや裏うつりなどを御改めなされたきにつき) 濃州米野村源太夫・甚右衛門・才右衛門・利助→尾州名古屋元材木町名主分六・分七・同所組頭源七・犬山屋分左衛門	宝永7年正月6日	堅紙・1通	い525-3
乍恐返答書を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金勘定一件につき返答書控、相手美濃国羽栗郡	宝永7年2月	堅美継紙・1通	い510

大宝前(神戸)新田/開発/堤普請請負人源太夫出入一件

米野村源太夫ほか3名) 尾州名古屋材木町犬山屋分左衛門→御奉行所			
乍恐返答書を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金勘定一件につき返答書下書、相手美濃国羽栗郡米野村源太夫ほか3名) 尾州名古屋材木町犬山屋分左衛門→御奉行所	宝永7年2月	豎美継紙・1通	い511
乍恐返答書を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金勘定一件につき返答書控、相手美濃国羽栗郡米野村源太夫ほか3名) 尾州名古屋材木町犬山屋分左衛門→御奉行所	宝永7年2月	豎美継紙・1通	い512
乍恐返答書ヲ以奉願候(大宝前新田堤築方代金勘定をめぐる出入の返答書控) 尾州名古屋材木町分左衛門→御奉行	宝永7年2月	豎美継紙・1通	い521-4
乍恐返答書を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金勘定一件につき返答書控、相手美濃国羽栗郡米野村源太夫ほか3名) 尾州名護屋材木町犬山屋分左衛門→御奉行所	宝永7年2月	豎美継紙・1通	い524
覚(野々垣源兵衛・源太夫・甚左衛門の来歴につき) 尾州名護屋材木町犬山屋分左衛門	宝永7年2月	横切紙・1通	い525-5
覚(野々垣源兵衛・源太夫・甚左衛門の来歴につき) 尾州名護屋材木町犬山屋分左衛門	(宝永7年)2月	横切紙・1通	い525-4
乍恐返答書を以奉願候御事(大宝前新田堤築方代金をめぐる出入の返答書控) 尾州名護屋材木町犬山屋分左衛門→御奉行所	宝永7年12月	豎継紙・1通	い521-2
(大宝前新田堤266間の普請代金めぐる出入りにつき訴状・返答書写、幕府評定所の「御裏書」および仲間出入りにつき御取り上げなき旨の裏書あり) 尾州名古屋材木町分左衛門、組頭、名主	(宝永7年カ)寅2月13日	豎美継紙・1通	い520-4
(大宝前新田堤266間の普請代金めぐる出入りにつき訴状・返答書写) (尾州名古屋材木町分左衛門)	(宝永7年2月13日)	豎美継紙・1通	い520-5

その他

大宝前新田海用留人足之覚(30の各新田・村の人足数、代銀額書付)	(宝永5)子年12月	豎継紙・1通	い543
指出申手形之事(大宝前新田替地のうち其方扣田地を我等方へ引受につき) 分左衛門新田代唯助→新田四郎兵衛	宝永7年5月2日	豎紙・1通	い494
宝永年写	(宝永7年)	東の付札・1点	い409-0
覚(文左衛門新田鳥運上請取) 川奉行代鈴木喜兵衛・横江源助→鳥屋源七	宝永7年11月	横切紙・1通	い409-1
請取申并領米之事 子宝新田平左衛門→大宝前新田只助	宝永7年12月17日	豎紙・1通	い409-4
覚(鳥ヶ地前枰場入用米高書上) 東福田村佐次兵衛・鳥ヶ地村平蔵→神戸弥左衛門・赤川庄兵衛	宝永7年12月	横切継紙・1通	い409-3
覚(鳥ヶ地新田井領米出申につき) 鳥ヶ地新田才兵衛→犬山屋文左衛門	(宝永7年)寅12月12日	横切紙・1通	い409-5
覚(井領米代金銀請取につき) 鳥ヶ地村才兵衛→分左衛門新田只助	(宝永7年)寅極月19日	横切紙・1通	い409-8
覚(諸事入用等請取につき) 平蔵→分左衛門	(宝永7年)寅12月	横切紙・1通	い409-2

形成期普請

享保八年普請

乍恐奉願御事(大宝前新田風難・地震のため検見願い) 犬山屋分左衛門→野方御奉行所	(享保7年)寅7月	縦紙・1通	い523
乍恐奉願御事(大宝前新田破堤による再普請につき霞野年貢免、年貢上納期限延期、四郎兵衛新田替地に堤築立てなどの願書控) 犬山屋分左衛門→野方御奉行所	享保7年10月	縦紙・1通	い519-2
覚(大宝前新田破堤による再普請のため年貢米など諸負担のほか、四郎兵衛新田替地の処置につき覚書写) 上田津右代丹羽藤藏、笠形善左代2名、野方奉行・水奉行各1名、大代官2名→犬山屋分左衛門	享保8年4月	縦紙・1通	い519-1
覚(大宝前新田破堤による再普請のため年貢米など諸負担のほか、四郎兵衛新田替地の処置につき覚書写) 上田津右代丹羽藤藏、笠形善左代2名、野方奉行・水奉行各1名、大代官2名→犬山屋分左衛門	享保8年4月	縦半(一ツ綴)・1冊	い608-3

普請年代不明

大宝新田堤築方請負直段坪積り勘定目録 尾州名古屋材木町分左衛門	寅2月	縦紙・1通	い522
覚(堤普請の仕法の覚書)		縦紙・1通	い517

掟米徴収

納米目録

子年納米目録(子年納米差引勘定につき) 大宝前新田唯助	子12月	縦紙・1通	い481
-----------------------------	------	-------	------

掟米受取

覚(未納米請取覚) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未9月9日	縦紙・1通	い398-4-1
請取申米之事(未年納米請取につき) 神戸分左衛門→小川唯助	(正徳5年)未10月2日	縦紙・1通	い398-4-2
覚(大宝前新田出し納米請取につき) 犬山屋半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月6日	縦紙・1通	い398-4-3
覚(西福田出シ大宝前新田納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月11日	縦紙・1通	い398-4-4
覚(かにへ積大宝前新田納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月11日	縦紙・1通	い398-4-5
覚(蟹江積出シ大宝前新田納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月14日	縦紙・1通	い398-4-6
覚(かにへ積出シ大宝前新田納米受取につき) 犬山屋半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月14日	縦紙・1通	い398-4-7
覚(下一色積納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未霜月15日	縦紙・1通	い398-4-8
覚(下一色積納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月15日	縦紙・1通	い398-4-9

大宝前(神戸)新田/掬米徴収/掬米受取

覚(新田出し納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月16日	堅切紙・1通	い398-4-10
覚(舟入出し納米受取につき) 犬山屋半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月16日	堅切紙・1通	い398-4-11
覚(下一色積出納米受取につき) 犬山屋半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月17日	堅切紙・1通	い398-4-12
覚(東福田積出納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月17日	堅切紙・1通	い398-4-13
覚(新田出米請取につき) 犬山屋半右衛門→大宝前新田唯助	(正徳5年)未11月18日	堅切紙・1通	い398-4-14
覚(鳥ヶ地出シ米請取につき) 犬山屋半右衛門→大宝前新田唯助	(正徳5年)未11月19日	堅切紙・1通	い398-4-15
覚(新田出し納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月20日	堅切紙・1通	い398-4-16
覚(大宝出し納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月24日	堅紙・1通	い398-4-17
覚(新田出し納米受取につき) 犬山や半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未11月27日	堅切紙・1通	い398-4-18
覚(納米請取につき) 犬山屋半右衛門→大宝前新田唯助	(正徳5年)未11月28日	堅紙・1通	い398-4-19
覚(新田出し納米受取につき) 犬山屋半右衛門→小川唯助	(正徳5年)未12月2日	堅紙・1通	い398-4-20
覚(大宝前新田納米受取につき) 犬山屋半右衛門→小河唯助	(正徳5年)未12月	堅切紙・1通	い398-4-21
千式百参拾石五斗(い398を一括する小縫りに添付された札の文字)		札・1点	い398-4-0

掬米計算

(坪付覚帳)		横長美(一ツ綴)・1冊	い462-2
(小作人ごとの面積書上)		横長半(一ツ綴)・1冊	い464-11
(名寄帳、坪ごとの面積表示のみ)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-1
(勘三郎はじめ14人名前書上)	8月26日	小切紙・1通	い464-1-1
覚(掬米増減勘定)	(近世後期)	横折紙・1通	い464-5
覚(申年坪ごとの掬米書上)	(近世後期)	横折紙・1通	い464-6
覚(未年坪ごとの増高書上)	(近世後期)	横折紙・1通	い464-7
*覚(納米差引勘定書付)		横切継紙・1通	い418-1-38

掬米運搬

覚(大宝前新田米送り状) 右(大宝前)新田唯助→犬山屋嘉兵衛	宝暦6年12月5日	堅切紙・1通	い445-2-16
覚(大宝前新田米積送につき) 右(大宝前)新田唯助→犬山屋嘉兵衛	宝暦6年12月18日	堅紙・1通	い445-2-11
覚(餅米積送りにつき) 新田唯助→川合嘉兵衛	宝暦7年2月6日	堅切紙・1通	い445-1-58

覚(米高180石の内23石余積み送りにつき) 大宝 前新田重右衛門→犬山屋嘉兵衛	宝暦8年12月12日	堅切紙・1通	い445-1-17
送状之事(米5石5斗) 大宝前新田重右衛門→川合嘉 兵衛	子10月10日	堅継紙・1通	い445-2-9
送り状之事(亀ヶ地御徳米積送りにつき) 大宝前 新田奥田重右衛門→川合嘉兵衛	子11月晦日	堅切紙・1通	い445-3-32
覚(米積送高書上) 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	子12月2日	堅切紙・1通	い445-2-25
覚(米送り状) 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	子12月5日	堅切紙・1通	い445-2-17
覚(大宝前新田納米積送につき) 奥田重右衛門→ 川合嘉兵衛	子12月7日	堅紙・1通	い445-2-30
覚(大宝前新田米積送につき) 右(大宝前)新田唯助 →犬山屋嘉兵衛	子12月14日	堅切紙・1通	い445-2-18
覚(米積送りにつき) 唯助→犬山屋嘉兵衛	子12月14日	堅切紙・1通	い445-2-21
覚(米積送につき) 唯助→犬山屋加兵衛	子12月18日	堅切紙・1通	い445-2-10
覚(大宝前新田納米・亀ヶ地御徳米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	子12月26日	堅紙・1通	い445-3-28
覚(米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	丑12月2日	堅切紙・1通	い445-3-33
覚(大宝前新田納米・四郎兵衛新田見取米積送りに つき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	丑12月17日	堅紙・1通	い445-3-29
覚(大宝前新田納米・亀ヶ地御徳米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	丑12月20日	堅紙・1通	い445-3-26
覚(米積送高書上) 神戸平吉→川合嘉兵衛	寅10月17日	堅切紙・1通	い445-1-12
覚(亀ヶ地清蔵船にて米積送につき) 新田平吉→ 犬山屋嘉兵衛	寅11月25日	堅切紙・1通	い445-1-11
覚(米積送につき) 重右衛門→犬山屋嘉兵衛	寅12月6日	堅切紙・1通	い445-1-44
覚(米積送につき) 大宝前新田重右衛門→川合嘉兵 衛	寅12月16日	堅切紙・1通	い445-1-57
覚(大宝前新田納米積送につき) 奥田重右衛門→ 川合嘉兵衛	寅12月	堅紙・1通	い445-3-2
送り申米之事 奥田重右衛門→川合加兵衛	卯11月12日	堅切紙・1通	い445-1-21
送り申米之事 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	卯11月20日	堅切紙・1通	い445-1-22
覚(米積送りにつき) 大宝前新田重右衛門→川合嘉 兵衛	卯11月26日	堅切紙・1通	い445-3-38
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	卯11月29日	堅切紙・1通	い445-1-24
覚(米積み送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	卯11月30日	堅切紙・1通	い445-1-31
送申米之事(餅米) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	卯11月	堅切紙・1通	い445-1-23
送り書之事(米積送りにつき) 神戸新田庄屋綱蔵・ 忠兵衛→御地主様御勘定場	卯12月10日	堅紙・1通	い448-19-2
覚(宮市左衛門切手持参、米積送りにつき) 神戸 新田庄屋綱蔵→御地主様御勘定場	卯12月16日	堅紙・1通	い448-19-5
(米積送りにつき書状) 神戸新田庄屋綱蔵・同組頭 忠兵衛→御地主様御勘定場	卯12月	堅紙・1通	い448-19-1

送り書之事(納米など積送りにつき) 神戸新田庄屋綱蔵→御地主様御勘定場	卯12月	縦紙・1通	い448-19-4
送り書之事(納米) 新田庄屋忠兵衛→御地主様御勘定場	辰正月17日	縦紙・1通	い449-4-1
送り書之事(米積送りにつき) 神戸新田庄屋忠兵衛→御地主様御勘定場	辰正月	縦紙・1通	い448-19-3
覚(米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	辰12月7日	縦切紙・1通	い445-3-31
覚(大宝前新田米40石積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	辰12月9日	縦切紙・1通	い445-1-53
覚(大宝前新田米10石積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	辰12月9日	縦切紙・1通	い445-1-54
覚(大宝前新田米積送につ) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	辰12月12日	縦切紙・1通	い445-3-1
覚(米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	巳正月13日	縦切紙・1通	い445-1-47
覚(小麦積送につ) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	巳5月25日	縦紙・1通	い445-2-2
覚(米等積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	巳10月13日	縦紙・1通	い445-1-39
覚(米積送りにつき) 重右衛門→川合嘉兵衛	巳11月15日	縦切紙・1通	い445-1-40
覚(納米積送につ) 奥田重右衛門→川合加兵衛	巳12月26日	縦切紙・1通	い445-1-37
覚(鯨ヶ地勘助米積送につ) 重右衛門→川合加兵衛	巳12月26日	縦切紙・1通	い445-1-38
覚(米積送につ) 奥田重右衛門→犬山屋嘉兵衛	巳12月	縦切紙・1通	い445-1-32
覚(大宝前新田米積送につ) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	午正月19日	縦切紙・1通	い445-1-10
覚(米積送につ) 大宝前新田重右衛門→川合嘉兵衛	午11月晦日	縦紙・1通	い445-1-8
覚(大宝前新田亀ヶ地船にて米積送分書上) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	午12月13日	縦紙・1通	い445-1-2
送り状之事(米積送につ) 大宝前新田平吉→川合嘉兵衛	未2月朔日	縦切紙・1通	い445-1-34
送り申米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	未9月23日	縦切紙・1通	い445-3-35
送り申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	未11月6日	縦切紙・1通	い445-3-36
米送り状之事 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	未11月14日	縦切紙・1通	い445-3-34
覚(御蔵米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	未11月24日	縦紙・1通	い445-3-27
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申2月7日	縦切紙・1通	い445-3-6
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申2月14日	縦切紙・1通	い445-3-7
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申2月16日	縦切紙・1通	い445-3-9
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申11月14日	縦切紙・1通	い445-3-10
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申11月15日	縦切紙・1通	い445-3-8
送申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申11月21日	縦切紙・1通	い445-3-12

覚(米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	申12月4日	堅切紙・1通	い445-1-50
覚(米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	申12月14日	堅切紙・1通	い445-1-42
送り申納米之事 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	申12月15日	堅切紙・1通	い445-3-14
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	申12月20日	堅紙・1通	い445-1-25
覚(竹田平蔵加地子米・新田米積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	申閏12月2日	堅切紙・1通	い445-1-41
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	西10月23日	堅紙・1通	い445-2-22
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合喜兵衛	西11月19日	堅紙・1通	い445-2-20
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	西11月29日	堅切紙・1通	い445-2-4
覚(米送り状) 重右衛門→川合嘉兵衛	西12月1日	堅紙・1通	い445-2-23
覚(米積送につき) 大宝前新田重右衛門→川合嘉兵衛	西12月14日	堅紙・1通	い445-2-13
覚(大宝前新田米積送につき) 奥田重右衛門→河合嘉兵衛	西12月21日	堅紙・1通	い445-2-12
送り申納米之事 大宝前新田庄屋唯助→犬山屋嘉兵衛	戌12月25日	堅切紙・1通	い445-3-22
送り申納米之事(鍋蓋新田積合にて) 大宝前新田唯助→犬山屋嘉兵衛	戌12月26日	堅切紙・1通	い445-3-21
送り申納米之事 大宝前新田庄屋唯助→犬山屋嘉兵衛	戌12月26日	堅切紙・1通	い445-3-23
覚(麦積送分書上) 重右衛門→川合嘉兵衛	7月3日	堅紙・1通	い445-1-1
覚(さやぬか積送りにつき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	9月13日	堅紙・1通	い445-3-30
(米積送りにつき書状) 小川唯助→川合嘉兵衛	12月2日	堅紙・1通	い445-2-15
* (作徳米積送嵐にて船不着につき書状) 新田綱蔵→御苗吉蔵	12月9日	横切継紙・1通	い418-1-40
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合嘉兵衛	12月19日	堅紙・1通	い445-1-28
覚(米積送につき) 奥田重右衛門→川合喜兵衛	12月23日	堅切紙・1通	い445-2-19
* 送状之事(納米差送状) 新田ニテ久蔵→神戸勘定場衆中		横切紙・1通	い419-5-3
* 覚(納米請取につき) 神戸支配方→庄や衆中	12月1日	横切紙・1通	い419-44-7

経営費用

入用金授受

覚(古金銀・文金元利勘定書付)	(元文年間)	横切継紙・1通	い415-11
覚(元金・利金・返納分・借用残額など算用書上) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	安政2年12月	横切継紙・1通	い608-7-3
午年分渡金(中堤葭薄払代・川運上など) 只助→源蔵	午12月	横切紙・1通	い739-1
覚(川運上金・惣堤潮除など葭代金など差引勘定につき) 定助	戌正月	堅継紙・1通	い503-2-13

諸入用帳関連

覚(十一月分入用内金書上) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	子11月4日	横切紙・1通	い412-8
覚(堤銀上納引当内金・十二月分引当内金等書上) 新田庄屋忠右衛門→御地主様御勘定場	子11月27日	横切紙・1通	い412-10
覚(伝馬銀上納引当・六月分入用引当内金書上) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	寅6月	横切紙・1通	い412-3
覚(夏勘定引当・七月分入用等書上) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	寅7月	横切紙・1通	い412-5
* 覚(七月分入用引当内金書付) 新田忠右衛門→地頭所勘定場	申8月23日	横切紙・1通	い419-36
覚(四月分入用引当内金書上) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	4月13日	横切紙・1通	い412-1
月々為金覚		横折紙・1通	い412-18

諸入用帳結付け書付袋

神戸新田下用月々帳面入、并書付類不残入ル	安政6年3月	袋・1点	い418-0
覚(檜代・作料等受取) 竹田大工清吉→神戸新田庄屋	4月29日	横切紙・1通	い418-1-1
覚(運上受取) 知多屋与七→神戸	申2月29日	横切紙・1通	い418-1-2
* (神戸文左衛門神戸新田へ引越し住居許可書写)	8月	横切紙・1通	い418-1-3
おぼへ(反別覚書断簡)		横切紙・1通	い418-1-4
覚(祭礼次第)		横切紙・1通	い418-1-5
覚(川運上等覚書)		横切紙・1通	い418-1-6
覚(麦金早納引当等書付)		横切紙・1通	い418-1-7
* 御勘定所御元ノ役衆(名前書付)		横切紙・1通	い418-1-8
* (御目見御状等受取につき書状) 葵園	10月17日	横切紙・1通	い418-1-9
(井戸屋二人帰るにつき瓢一つ継ぎ遣わし等につき書状) 新田ニテ嘉一郎→神戸勘定場橘蔵	10月6日	横切紙・1通	い418-1-10
* (加紋散引札写) 売払取次所、常盤橋内添地掛川屋伝五郎・西丸下越前屋鯖右衛門	(近世)	縦紙・1通	い418-1-11
覚(古釜等覚書)		横折紙・1通	い418-1-12
覚(金子書上) 戸屋惣九朗(名古屋正万寺町)→神戸文左衛門	9月11日	横折紙・1通	い418-1-13
* (中納言様明日御着城出迎えにつき書状) 地方勘定本ノ役→神戸文左衛門		横切紙(封紙つき)・1通	い418-1-14
* (女様お帰りにより殿方様へお伺いごお願い等につき書状)	(近世)10月29日	横切紙・1通	い418-1-15
覚(こやし金等借用分書上) 新田庄屋→地主様御勘定場		横切紙・1通	い418-1-16
* 口演(はやり病御薬への御礼) 新田忠左衛門→御勘定場(御苗橘蔵)	(近世)8月22日	横切紙・1通	い418-1-17

口上(かくり之義につき) 京右衛門→吉蔵	(近世)神無月19日	横切継紙・1通	い418-1-18
覚(金銭覚書) →神戸	2月29日	横切紙・1通	い418-1-19
覚(金子受取につき) →藤屋萬助	申正月	横切紙・1通	い418-1-20
(石かけ寸法・坪数書付)		横切紙・1通	い418-1-21
(封筒) 神戸新田→勘定場吉蔵		横切紙・1通	い418-1-22
覚(御蔵入用引当金等覚書)		横切紙・1通	い418-1-23
(寸法書付)		断簡・1通	い418-1-24
覚(道普請金引当等書上) 新田庄屋→御地主様御勘定場		横切紙・1通	い418-1-25
送り物覚 新田忠左衛門→御地主様御勘定場		横切紙・1通	い418-1-26
覚(検見延代等引当金) 新田庄屋→御地主様御勘定場	未11月1日	横切紙・1通	い418-1-27
* (当秋初入国のさい御目見につき通達2通写) 小沢加八郎・西尾才助/地方勘定本ノ役→松岡理兵衛・神戸文左衛門	9月27日	横切継紙・1通	い418-1-28
覚(杉代等書上) 杉屋忠左衛門→神戸新田小川只助	10月7日	横切継紙・1通	い418-1-29
覚(杉代等領収書) 杉屋忠左衛門→神戸新田小川只助	9月晦日	横切継紙・1通	い418-1-30
(松村様・御隠居様などへ進上品等につき書状) 新田より半助→松岡橘蔵	9月28日	横切継紙・1通	い418-1-31
(檜・杉材木注文状)	9月28日	横切継紙・1通	い418-1-32
覚(はこべ塩等注文状) 半助→松岡	9月28日	横切継紙・1通	い418-1-33
(味噌など諸品書付)		断簡・1点	い418-1-34
追啓奉願上候左二、木櫃之覚 新田より半助→神戸御勘定場		横切継紙・1通	い418-1-35
覚(表御門角物寸法書付) 御会所より→御地主様御勘定場	1月13日	横切紙・1通	い418-1-36
(先代十七回忌法事にあたり御志餅頂戴御礼、村方へももち料頂戴御礼につき書状) 庄屋忠右衛門→御勘定場御苗橘蔵		横切継紙・1通	い418-1-37
覚(中堤入用等引当金書上)		横切継紙(後欠)・1通	い418-1-38
* 覚(納米差引勘定書付)		横切継紙・1通	い418-1-39
覚(丸石代金受取覚)	4月12日	横折切紙・1通	い418-1-40
* (作徳米積送嵐にて船不着につき書状) 新田綱蔵→御苗吉蔵	12月9日	横切継紙・1通	い418-1-41
(封筒) 新田→勘定場吉蔵		封筒・1点	い418-1-42
覚(陣屋蠟燭代請取覚) 宮崎十兵衛→神戸新田御庄屋衆中	未3月26日	横折紙・1通	い418-1-43
覚(中堤入用等引当金覚)		横切紙・1通	い418-1-44
覚(献金等覚書) 金七→御勘定場	午11月晦日	横切紙・1通	い418-1-45

(断簡)		断簡・3点	い418-1-46
覚(ろうそく代等領収書) 八百屋常七→神戸新田御庄屋	10月26日	横切継紙・1通	い418-2
覚(銀子受取覚) 徳十郎・喜太郎→神戸新田会所	未7月	横切紙・1通	い418-3-1
覚(銀子受取覚) 佐藤庄兵衛→かんど之かい正(会所)	未11月	横切継紙・1通	い418-3-2
覚(代金受取覚) 鍛冶屋卯助→神戸会所	3月19日	横切継紙・1通	い418-3-3
覚(家作手間賃受取覚) □□大工庄七→神戸新田会所	3月29日	横切紙・1通	い418-3-4
(金銭受取状) 平嶋庄右衛門・治郎平→神戸新田如正	亥9月4日	横切紙・1通	い418-3-5
覚(板代書上) 平野屋七兵衛→神戸	10月2日	横切継紙・1通	い418-4-1
覚(材木代書上) 杉屋忠左衛門→小川只助	9月11日	横切継紙・1通	い418-4-2
覚(材木代受取) 忠左衛門→小川只助	10月16日	横切継紙・1通	い418-4-3
覚(材木代書上) 杉屋忠左衛門→神戸新田小川只助	10月7日	横切継紙・1通	い418-4-4
覚(材木代書上) 杉屋忠左衛門→神戸新田御会所	10月6日	横切継紙・1通	い418-4-5
覚(杉代等書上) 徳十郎→神戸新田御会所	10月21日	横切継紙・1通	い418-4-6
覚(人足給金書上) 大工庄七→神戸新田御会所		堅切紙・1通	い418-4-7
覚(杉代等書上) 杉屋忠左衛門→上	9月□日	横切紙・1通	い418-4-8
覚(材木代等書上) 羽柴屋源七→神戸様御新田御入用	10月27日	横切継紙・1通	い418-4-9
覚(油代勘定書付) 子宝甚七→神戸会所	10月26日	横切継紙・1通	い418-5
覚(油代覚書) 竹助	9月27日	横切紙・1通	い418-6
(断簡)		こより・1点	い418-7
おほへ(木綿取寄せ等につき頼状) 新田より→吉蔵老人	10月7日	横切継紙・1通	い418-8
* (在郷気に入り申すにつき留守中の藩御用依頼状) 葵園→橘蔵老輩	10月7日	横切継紙・1通	い418-9
* (封筒) 新田→勘定場吉蔵		封筒・1点	い418-10
* 御きもの覚 たけ→御奥様	10月8日	横切紙・1通	い418-11
* (書状、未開封につき内容摘記略) たけ→お奥屋	10月8日	横切紙・1通	い418-12
覚(中貫等差上につき) 徳十郎→神戸新田庄屋衆中	10月8日	横切紙・1通	い418-13-1
覚(人足代差引勘定につき) 庄屋→神戸忠右衛門	10月29日	横切紙・1通	い418-13-2
覚(代金請取覚) 茶や甚四郎→神戸会所中	10月5日	横切紙・1通	い418-13-3
おほへ(つち代等書上)		横切紙・1通	い418-13-4
覚(かふら代等書上)		横切紙・1通	い418-13-5
覚(代金受取覚) 湊屋利蔵→神戸御会所	10月16日	横切紙・1通	い418-13-6
覚(津出賃勘定につき) さし利→上	10月16日	横切紙・1通	い418-13-7

覚(新酒代勘定済みにつき) 酒屋孫七→上	10月17日	横切紙・1通	い418-13-8
覚(新酒代勘定済みにつき) 酒屋孫七→上	10月15日	横切紙・1通	い418-13-9
おほへ(す・しお代受取覚) みおや兵七→神戸文左衛門	9月27日	横切紙・1通	い418-13-10
覚(品代請取覚) 濃屋兵七→かん戸新田御会所	9月27日	横切紙・1通	い418-13-11
覚(代金請取覚) 湊屋利吉→神戸会所	10月7日	横切紙・1通	い418-13-12
覚(すみ代受取覚) 忠二郎→神戸御苗文左衛門	10月7日	横切紙・1通	い418-13-13
覚(代金受取覚) 笹屋利吉→上	9月晦日	横切紙・1通	い418-13-14
覚(代金受取覚) か右衛門門助→上	未9月晦日	横切紙・1通	い418-13-15
おほへ(やき塩代等受取覚) 笹り→上	9月27日	横切紙・1通	い418-13-16
覚(人足代等覚書) たくみや増蔵→忠右衛門	10月20日	横切紙・1通	い418-13-17
覚(家作手間賃請取) 大工庄七→神戸御会所		横切紙・1通	い418-13-18
覚(とひん代等覚書) 甚四郎→上		横切紙・1通	い418-13-19
覚(酒代受取につき) カメ川口屋→神戸新田御会所	未10月20日	横切紙・1通	い418-13-20
覚(品代覚書) 正木長左衛門→会所	未	横切紙・1通	い418-13-21
覚(米代請取覚) 米屋藤四郎→会所	未10月	横切紙・1通	い418-13-22
覚(板代等受取につき) 三杉屋状助→御会所庄屋衆	10月21日	横切紙・1通	い418-13-23
覚(代金覚書) 茶や甚四郎→神戸綱蔵	9月晦日	横切紙・1通	い418-13-24
覚(断簡)		断簡・1通	い418-14
* (神戸新田氏神様の御和生二候や…)		横切紙・1通	い418-15
* (封筒) 新田より→おたけさま		封筒・1点	い418-16
* 覚(手付汁なべ等受取につき) 新田より→吉藏老人	10月	横切紙・1通	い418-17
覚(檜代受取覚) 材忠→神戸新田綱蔵	11月13日	横切紙・1通	い418-18
おほへ(小検見の節上酒代書付) 小川屋泰治→神戸御庄屋	霜月11日	横切紙・1通	い418-19
(炭代覚書) 鵜飼		横切紙・1通	い418-20
覚(品代受取覚) 湊屋理吉→神戸御会所	11月10日	横切紙・1通	い418-21
覚(酒代受取覚) 湊屋利へえ→神戸庄屋		横切紙・1通	い418-22
覚(代金請取覚) ふしや栄助→神戸新田庄屋衆中	未2月14日	横切紙・1通	い418-23
* (紅葉等指上、風呂等積み下げ依頼につき書状) 新田ニテ小七→勘定場吉蔵	10月10日	横切紙・1通	い418-24
* (井戸掘り等につき書状) 新田→勘定場衆中	10月10日	横切紙・1通	い418-25
* (植春先生へ菊差上等につき書状) 芸顔農→橘造老賢・真總軒主	神無月10日	横切紙・1通	い418-26
おほへ(三嶋とつくり等受取覚書) 新田→吉藏老人	10月10日	横切紙・1通	い418-27
* (留守中よろしく、今日は下ゐ割毛見につき書	神無月10日	横切紙・1通	い418-28

状) 芸農(7代目茂元か)→橘蔵			
*覚(品代受取覚書) うおや弥九郎	12月	横切紙・1通	い418-29
(神戸新田での生活ぶり等につき書状) 京(7代目茂元夫人)→吉蔵老人	神無月10日	横切紙・1通	い418-30
新田下用月々帳面入 神戸支配方	万延元年3月	袋・1点	い419-0
覚(村方頭分借用米書付)		横切紙・1通	い419-1
覚(用向金子請取) 桧忠→神戸	正月6日	横切紙・1通	い419-2
覚(大半紙・はん茶など注文書)		横切紙・1通	い419-3
(人名覚書)		横切紙・1通	い419-4
(村方頭分借用米につき書状) 新田ニテ久蔵→長瀬嘉一郎・松岡橘蔵	12月19日	横切紙・1通	い419-5-1
覚(村方頭分借用米書上)		横切紙・1通	い419-5-2
*送状之事(納米差送状) 新田ニテ久蔵→神戸勘定場衆中		横切紙・1通	い419-5-3
覚(明樽差送状) 新田ニテ久蔵→名古屋小七		横切紙・1通	い419-5-4
* (小作人の人別記載に関する覚書)		横切紙・1通	い419-6
覚(頭分借用米書上)		横切紙・1通	い419-7
新田行覚(古目板・のし等吉五郎船に積み送る)	6月21日	横切紙・1通	い419-8
覚(材木書上) 神戸支配方	申2月	横切紙・1通	い419-9
* (旦那様御引移等につき書状) 新田久蔵・嘉四郎→松岡橘蔵	2月7日	横切紙・1通	い419-10-1
覚(塩等諸品輸送願) 新田久蔵→勘定衆中	2月7日	横切紙・1通	い419-10-2
覚(ねりやふかん輸送願)		横切紙・1通	い419-10-3
覚(神酒つば輸送願) 本宅	2月6日	横切紙・1通	い419-10-4
覚(酒代など覚書) かめ要吉→神戸新田御会所		横切紙・1通	い419-11
(神戸新田柳枯竹代受取につき) 佐屋陣屋	申11月	小切紙・1通	い419-12
(年貢金受取覚) 佐屋陣屋	申12月	小切紙・1通	い419-13
覚(金銭覚書) 川尻→神 忠右衛門	申3月16日	横切紙・1通	い419-14
覚(飯櫃代金請取) □めしや勝蔵→神戸春五郎	申極月	横切紙・1通	い419-15
(立合用水入用銀請求につき書状) 宮崎十郎治→早川忠右衛門	26日	横切紙・1通	い419-16
覚(酒代請取覚) 京関屋新四郎→上	酉11月	横切紙・1通	い419-17
覚(金子勘定書) 長尾屋又左衛門→彦吉	(近世)申年12月	横切紙・1通	い419-18
井組割覚		横切紙・1通	い419-19
覚(代金書上) 古や庄治郎(名古屋正万寺町)→上	正月5日	横切紙・1通	い419-20
覚(酒代受取覚) 佐屋山田屋重兵衛→上	酉正月7日	横切紙・1通	い419-21
覚(惣代入用請取覚) 平島 服部市兵衛代伝九郎→神戸御庄屋衆中	申12月23日	横切紙・1通	い419-22

覚(札木代請取覚) 笹屋利吉→上 (神戸新田高割り負担金書付) 「石俵込方」	12月21日	横切紙・1通 堅切紙・1通 こより・1点	い419-23 い419-24 い419-25
覚(白紗代金覚書) 山田や覚四郎→上 (苗代・横須賀宿入用など差引勘定書) (御法事御上様御膳分御下がり頂戴御礼などにつ き書状) 新田ニテ久蔵→勘定場橘蔵	正月7日 5月27日	横切継紙・1通 横切継紙・1通 横切継紙・1通	い419-26 い419-27 い419-28
饋り物之覚 (積み送り品物請取などにつき書状) 新田 久蔵 →名古屋 橘蔵	5月26日	横切継紙・1通 横切継紙・1通	い419-29 い419-30
覚(旦那様単物等差送り品々書付) →神戸勘定場 御支配案中	6月25日	横切継紙・1通	い419-31
* (旦那様御帰、飛鳥海用留などの儀につき書 状) 新田ニテ久蔵→勘定場吉蔵	6月25日	横切継紙・1通	い419-32
覚(渋紙・風呂敷等送り状) 新田ニテ久蔵→神戸勘 定場兼中	正月6日	横切継紙・1通	い419-33
覚(井筒等代金書付) 桶屋庄七→神戸	6月9日	横切紙・1通	い419-34
覚(南座敷入口門倒れにつき檜送付依頼書) 新田 →名古屋勘定場	6月10日	横切紙・1通	い419-35
* 覚(七月分入用引当内金書付) 新田忠右衛門→ 地頭所勘定場	申8月23日	横切継紙・1通	い419-36
覚(金銭及び人名書付) (先六月分入用帳の中の大風雨ノ高小帳借用願 いにつき書状) 新田忠右衛門→勘定場御苗橘蔵	8月23日	横切紙・1通 横切継紙・1通	い419-37 い419-38
覚(味噌など輸送依頼) 新田ニテ久蔵→神戸勘定場 兼中	6月10日	横切継紙・1通	い419-39
覚(雨戸など注文依頼) 新田会所より→御地主様御 勘定場	6月14日	堅紙・1通	い419-40
覚(平之郷用水入用引当内金などの書付) 新田忠 左衛門→御地主様御勘定場	申12月	横切継紙・1通	い419-41
覚(平島用水入用引当金請取につき) 新田忠蔵→ 御地主様御勘定場	申12月	横切紙・1通	い419-42
覚(伝馬銀・夏金勘定引当会所ニテ借用分、大風雨 入用等書付) 忠右衛門→御地主様御勘定場	申12月	横切紙・1通	い419-43
(米半俵遣わす件などにつき書状) 新田ニテ久蔵 →松岡橘蔵	臘月11日	横切継紙・1通	い419-44-1
(田面深溜りなどの件につき書状) 新田庄屋忠右 衛門→御勘定場御苗橘蔵	6月5日	横切継紙・1通	い419-44-2
口演(品代覚書) 山下屋甚九郎→神戸新田行 (年貢積送り残り分取入れまで借用願いつき書状) 新田忠右衛門→御勘定場御苗橘蔵	6月11日 5月22日	横切継紙・1通 堅紙・1通	い419-44-3 い419-44-4
覚(駕籠代等覚書) 河内屋利助→神戸	6月3日	横切継紙・1通	い419-44-5

大宝前(神戸)新田/経営費用/諸入用帳結付け書付袋

(貸与帳面返却、堤普請の義などにつき書状) 忠 右衛門→御苗橋蔵	8月16日	横切継紙・1通	い419-44-6
*覚(納米請取につき) 神戸支配方→庄や衆中	12月1日	横切紙・1通	い419-44-7
覚(諸色小家代旦那様割当金等書付) 新田忠右衛 門→御苗橋蔵	申12月	横切継紙・1通	い419-44-8
覚(状持給金・御役人諸宅ニ見舞引当金等差引勘定 書付) 新田忠右衛門→地主勘定場		横切紙・1通	い419-44-9
(人名及び金銭書上)		横切紙・1通	い419-44-10
*覚(代金請取覚) 山下屋甚九郎→神戸様 新田請 取	(近世)閏3月1日	横切紙・1通	い419-44-11
(旦那様家族への挨拶、御年貢1石当十月まで借用 願につき書状) 新田忠右衛門→御勘定場御苗橋蔵	5月17日	横切継紙・1通	い419-44-12
口演(諸色頂戴催促につき追啓)		横切紙・1通	い419-44-13
送り書之事(蔵の瓦など送状) 新田忠右衛門→御地 主様御勘定場	4月3日	縦紙・1通	い419-44-14
(北堤帳面吟味につき書状) 新田久蔵→勘定場橋蔵	正月9日	横切継紙・1通	い419-44-15
覚(借入金等差引勘定書付) 新田金七→勘定場吉蔵	申12月25日	横切紙・1通	い419-44-16
覚(人足代書付)		横切紙・1通	い419-44-17
覚(せんまい代等差引勘定書付)		横切継紙・1通	い419-44-18
覚(見積書) かにへ与木甚→神戸金兵衛	正月6日	横切紙・1通	い419-44-19
覚(入用金書付) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	7月1日	横切紙・1通	い419-44-20
覚(時計箱など送り状) 新田ニテ久蔵→神戸御勘定 場衆中	8月24日	横切紙・1通	い419-44-21

諸入用書付袋

大宝前新田 一、所々年貢請取 一、鳥運上請取 一、諸事売上ヶ	(正徳5年)未12月	袋・1点	い398-0
覚(大宝前新田への送迎関係の書付か) 喜右衛門 →唯助	(正徳5年)未12月24日	横切紙・1通	い398-1-1
覚(大宝前新田への送迎記録) 彦兵衛→唯助	(正徳5年)未12月24日	横切継紙・1通	い398-1-2
覚(飯代受取) 甚三郎→犬山屋分左衛門	(正徳5年)未12月27日	縦切紙・1通	い398-1-3
覚(品代差引勘定済につき) 津島忠右衛門→只助	(正徳5年)未12月1日	横切紙・1通	い398-1-4
覚(魚代金受取覚) 舟入又三郎→只助	12月26日	縦切紙・1通	い398-1-5
覚(唯助・彦助分品物書上) 山形屋庄兵衛→孫右衛 門	11月16日	縦切紙・1通	い398-1-6
覚(大宝前新田米高書上) 久左衛門	11月20日	縦切紙・1通	い398-1-7
指出シ申一札之事(奉公人又助来申年分給金請取 につき) ふく村請入勘右衛門	正徳5年11月6日	縦切紙・1通	い398-1-8
覚(代金請取につき) 吉助		横切紙・1通	い398-1-9
覚(金子書上) なや権兵衛→忠八郎	11月1日	横切紙・1通	い398-1-10
覚(ちやわん代等覚)		縦切紙・1通	い398-1-11

覚(品物書上) 吉助→大宝前新田小河唯助	9月17日	堅切紙・1通	い398-1-12
覚(麦・塩等請取につき覚) 犬山屋庄八・小市→大宝唯助	10月3日	堅紙・1通	い398-1-13
覚(船賃を此舟人にお渡し下されたきにつき) 舟方才兵衛→小川唯助	(正徳5年)未9月22日	堅継紙・1通	い398-1-14
覚(あふら代等請取につき)	9月	横切紙・1通	い398-1-15
覚(代金請取につき) 大のや権兵衛→忠八郎	9月9日	横切紙・1通	い398-1-16
覚(麦代請取につき) 喜兵衛→義右衛門	7月20日	堅切紙・1通	い398-1-17
覚(金子請取につき) 庄兵衛→半右衛門	7月12日	堅切紙・1通	い398-1-18
覚(麦代請取につき) 喜右衛門→義右衛門	(正徳5年)未6月29日	横切紙・1通	い398-1-19
覚(儀右衛門茶代等支払につき)	8月18日	横切紙・1通	い398-1-20
覚(魚油代請取につき) 油や利兵衛→忠八	(正徳5年)未8月7日	横切継紙・1通	い398-1-21
覚(檜ふき板代請取につき) 犬山屋小市→大宝前新田唯助	(正徳5年)未8月7日	堅紙・1通	い398-1-22
覚(耕作物請取につき) 犬山屋小市→大宝前新田唯助	(正徳5年)未8月7日	堅切紙・1通	い398-1-23
覚(代金請取につき) 山形屋庄兵衛→小川唯助	(正徳5年)未8月7日	堅切紙・1通	い398-1-24
覚(塩代請取につき) しほや弥兵衛→桑町方庄兵衛	(正徳5年)未8月7日	堅切紙・1通	い398-1-25
覚(塩代等請取につき) 山形や庄兵衛→小川唯助	(正徳5年)未8月7日	堅紙・1通	い398-1-26
覚(うなき代請取につき) 舟入又三郎→忠八郎	(正徳5年)未8月10日	横切紙・1通	い398-1-27
覚(酒代請取につき) 鳥ヶ地茂右衛門	7月13日	堅切紙・1通	い398-1-28
覚(麦代金請取につき) 金兵衛→大たから儀右衛門	6月29日	横切紙・1通	い398-1-29
覚(船賃等受取につき) 舟方才兵衛→小川唯助	(正徳5年)未6月12日	堅紙・1通	い398-1-30
覚(米代受取につき) 吉左衛門→又助	6月26日	横切紙・1通	い398-1-31
覚(金子受取につき) 才木や吉助→唯助	6月26日	堅切紙・1通	い398-1-32
覚(まき大束受取につき) 舟方才兵衛→かめかち村徳左衛門	未6月13日	横切紙・1通	い398-1-33
覚(品物請取につき) かちや兵左衛門→国助	未6月11日	堅切紙・1通	い398-1-34
覚(きぬいと代等受取につき) 山形や庄兵衛→小川唯助	6月11日	横切紙・1通	い398-1-35
覚(品代受取につき) 小市→庄兵衛	5月12日	堅紙・1通	い398-1-36
覚(庄兵衛へ品物相渡の依頼) よした大左衛門→唯助	未5月12日	横切紙・1通	い398-1-37
覚(代金請取覚) 吉左衛門→神戸新田藤助	未5月14日	横切紙・1通	い398-1-38
覚(代金請取覚) と田町甚太→伊八郎	5月17日	横切紙・1通	い398-1-39
送り覚(銭送り覚) 犬山や半右衛門→小川唯助	5月27日	堅紙・1通	い398-1-40
(受取覚) 伊右衛門→忠八	5月11日	(前欠)・1通	い398-1-41
覚(品代覚書) 庄兵衛→忠八	5月27日	横切紙・1通	い398-1-42

覚(金銭覚書) 庄兵へ→半右衛門	5月27日	横切紙・1通	い398-1-43
覚(塩受渡覚) しほや弥兵へ	5月7日	横切紙・1通	い398-1-44
覚(上油代請取覚) 油屋理兵衛→久八郎	未5月7日	横切紙・1通	い398-1-45
覚(生飯代請取覚) 新八→久八郎	5月3日	縦紙・1通	い398-1-46
覚(釘代請取覚) 金十郎→唯助	4月27日	縦切紙・1通	い398-1-47
覚(代金請取覚) 山形屋庄兵衛→小川唯助	未4月18日	縦継紙・1通	い398-1-48
覚(品代覚書) 三河や長左衛門→山崎や庄兵衛	4月18日	横切紙・1通	い398-1-49
覚(金子請取覚) 山形屋庄兵衛→小川唯助	4月18日	縦紙・1通	い398-1-50
覚(わり木代・船賃等請求覚) 舟方才兵衛→小川唯助	未4月14日	縦紙・1通	い398-1-51
覚(生飯代請取覚) 大のや権兵衛→円助	4月18日	縦切紙・1通	い398-1-52
覚(魚代金受取につき) 舟入又三郎→神戸新田只助	未4月11日	縦紙・1通	い398-1-53
覚(品代書上) 才木や吉助→小川唯助	4月11日	横切紙・1通	い398-1-54
覚(金子請取覚) 才木や吉助→前新田小河唯助	未4月7日	横切紙・1通	い398-1-55
覚(金子書上) 才木や吉助→前新田小河唯助	未4月6日	横切紙・1通	い398-1-56
覚(金子請取覚) 津嶋塩方義右衛門→大高村儀右衛門		横切紙・1通	い398-1-57
覚(釘等代金請取につき) かち久四郎→儀右衛門	未3月24日	縦紙・1通	い398-1-58
覚(まきなわ代等請取覚) 才木や吉助→前新田小川唯助	未3月23日	横切紙・1通	い398-1-59
覚(金子書上) 吉助→小川唯助	未3月23日	横切紙・1通	い398-1-60
覚(代金請取覚) 吉左衛門→又助	未3月23日	横切紙・1通	い398-1-61
覚(金銭取覚) 舟入忠助→唯助	3月12日	縦切紙・1通	い398-1-62
覚(金子借用につき) かにへ孫七→唯助	3月12日	横切紙・1通	い398-1-63
覚(金子相済につき) 吉助→小河唯助	未3月10日	横切継紙・1通	い398-1-64
覚(諸事代金覚書) 金十郎→本西文助	3月10日	横切継紙・1通	い398-1-65
覚(金子相済につき) 吉助→小河唯助	3月6日	横切紙・1通	い398-1-66
覚(釘代受取覚) 才木や吉助→利助	3月4日	横切継紙・1通	い398-1-67
覚(品代覚) 吉助→儀右衛門	3月2日	横切継紙・1通	い398-1-68
覚(代金受取覚) 才木や吉助→唯助	2月6日	横切紙・1通	い398-1-69
覚(代金受取覚) 吉助→小河唯助	2月24日	横切紙・1通	い398-1-70
覚(酒代受取覚) 舟入丁ミそや庄次郎→久八	2月28日	横切紙・1通	い398-1-71
覚(品代受取覚) 吉助→小河唯助	2月24日	横切紙・1通	い398-1-72
覚(灯油代受取覚) 名古屋舟入町村瀬長左衛門→忠八	2月28日	横切継紙・1通	い398-1-73
覚(金銭請取覚) 山形屋庄兵衛→小川唯助	未正月29日	縦継紙・1通	い398-1-74

送り状(大豆等受取依頼) 中島半右衛門→大宝前新田小川唯助	正月29日	横切継紙・1通	い398-1-75
覚(金銭覚書) 庄兵衛	29日	横切紙・1通	い398-1-76
覚(金銭支払覚) 半右衛門→唯助	正月29日	横切紙・1通	い398-1-77
覚(かしわり木を犬山屋新田亀ヶ地前徳左衛門河岸へ届けるにつき送り状) 舟方才兵衛→円城寺問屋衆中	未正月29日	横切紙・1通	い398-1-78
覚(かしわり木の船賃支払い依頼) 加戸才兵衛→小川唯助	未正月29日	縦紙・1通	い398-1-79
覚(銭両替計算書) 吉助→唯助	未正月29日	横切紙・1通	い398-1-80
覚(銭両替計算書) 吉左衛門→又助	未3月27日	横切紙・1通	い398-1-81
一 石代杭木代籠代請取目録、一 井領米請取、一 以入用方之売上 申年分		袋・1点	い578-0
栗石仕切之事(代金請取指引相済みにつき) 濃州太田伊藤理左衛門→尾州宝前新田小川唯助	享保元年12月19日	縦紙・1通	い578-1
川石代目録(28艘分代銀受取につき) 園城寺村九八郎→小川唯助	(享保元年)申6月	横切継紙・1通	い578-2-1
覚(大宝前新田鳥運上請取につき) 津嶋鳥や源右衛門→大宝前新田唯助	(享保元年)申10月	小切紙・1通	い578-2-2
杭木代目録(代金請取につき) 犬山左七郎、又右衛門→小川唯助	(享保元年)申6月28日	縦紙・1通	い578-2-3
石籠代目録(代金請取につき) 犬山左七郎、同又右衛門→小川唯助	(享保元年)申6月28日	縦紙・1通	い578-2-4
覚(うなぎなど代金請取につき) 舟入又三郎→宝新田	正月6日	縦切紙・1通	い578-3-1
覚(代金請取につき) 打物問勘兵衛	申正月24日	小切紙・1通	い578-3-2
覚(釘代請取につき) 萱津や伊右衛門→山形屋庄兵衛	2月11日	縦継紙・1通	い578-3-3
覚(松代金請取、園城寺よりの舟賃渡すにつき) 木こり才兵衛→犬山屋新田二而小川唯助	申2月17日	縦切紙・1通	い578-3-4
覚(450束小川唯助へ届け、舟賃お渡しくださるべき旨) 木こり才兵衛→犬山屋新田かめヶ地前徳左衛門	申閏2月17日	縦切紙・1通	い578-3-5
覚(350束請取、舟賃お渡しくださるべき旨) 木こり才兵衛→大宝新田小川唯助	申閏2月21日	縦切紙・1通	い578-3-6
覚(734匁渡につき) 山かた屋庄兵衛	申3月11日	縦切紙・1通	い578-3-7
覚(銭代金2両請取につき) 舟入伊右衛門→銀右衛門	申4月26日	縦切紙・1通	い578-3-8
覚(生坂など代銭相渡につき) 彦兵衛→唯助	卯月11日	縦切紙・1通	い578-3-9
覚(もみの尺数・重量書付) 小間物屋一郎兵衛→半右衛門	5月24日	小切紙・1通	い578-3-10
覚(浅黄半巾三尺など代金請取につき) 庄三→半右衛門	5月3日	横切継紙・1通	い578-3-11
覚(生坂代金請取につき) みのや七蔵→忠八郎	5月24日	小切紙・1通	い578-3-12

大宝前(神戸)新田/経営費用/諸入用書付袋

覚(うなぎ代金書付) 舟入といや又三郎→かんと新田只助	5月25日	堅切紙・1通	い578-3-13
覚(麦代金書付) 問屋角重郎→半右衛門	6月2日	堅継紙・1通	い578-3-14
覚(大麦お請取下さるべき旨) 犬山屋半右衛門→大宝前新田小川唯助	申6月2日	堅継紙・1通	い578-3-15
覚(塩代145匁済すにつき) 塩屋弥兵衛→山形や庄兵衛	6月24日	小切紙・1通	い578-3-16
覚(18貫お請取なさるべき旨) 山形屋庄兵衛→小川唯助	6月24日	堅切紙・1通	い578-3-17
覚(酒代遣わさるべきにつき) 大こく屋善蔵→亦助	7月朔日	小切紙・1通	い578-3-18
覚(ちやうちん代など相渡につき) □□義右衛門	7月1日	小切紙・1通	い578-3-19
覚(代金請取につき) 亀屋庄兵衛→弥助	申7月9日	横切継紙・1通	い578-3-20
覚(銭請取下さるべきにつき) 山形や庄兵衛→唯助	8月4日	堅切紙・1通	い578-3-21
覚(茶袋・小とをしなど代金書付)	8月4日	横切紙・1通	い578-3-22
覚(大ほこなど代金書付) 諸町木部屋茂左衛門	8月22日	小切紙・1通	い578-3-23
覚(魚油代金請取につき) あふらや利兵衛→犬山や久八郎	申9月13日	小切紙・1通	い578-3-24
覚(生坂代金請取につき) みのや七蔵→犬山屋久八郎	9月13日	小切紙・1通	い578-3-25
覚(金1兩代銭書付) 中野や新八→忠八郎	9月14日	小切紙・1通	い578-3-26
覚(こうち代金書付) 弥次兵衛→妙之請	9月18日	堅切紙・1通	い578-3-27
覚(塩・魚油・ひしゃくなど代金書付) 小市→唯助	9月14日	堅継紙・1通	い578-3-28
覚(上油代金書付) 油や理兵衛→分左衛門	申10月朔日	小切紙・1通	い578-3-29
送状之事(茶などお請取なさるべきにつき) 本山や庄八→小川唯助	10月27日	堅紙・1通	い578-3-30
覚(大宝前新田の米代金書付) 久左衛門	11月13日	堅切紙・1通	い578-3-31
覚(子宝伴六殿分米高より井領米など差引勘定書付)		横切紙・1通	い578-3-32
覚(大才大半など送り状につき) 才兵衛→小川唯助	申11月3日	堅切紙・1通	い578-3-33
覚(大寺船大半240束送付につき) 木こり才兵衛→小川唯助	申11月3日	堅切紙・1通	い578-3-34
覚(油代請取につき) 油や理兵衛→神戸文左衛門	申12月13日	小切紙・1通	い578-3-35
覚(24本請取につき) みその町金左衛門→△や平兵衛	10月24日	小切紙・1通	い578-3-36
覚(表8枚など代金書付) 表屋左兵衛→庄兵衛	10月23日	小切紙・1通	い578-3-37
(釘など代金書付) 山形や庄兵衛→唯助	10月25日	横切継紙・1通	い578-3-38
覚(畳代金書付) 畳屋小右衛門→孫左衛門	10月27日	堅継紙・1通	い578-3-39
覚(代金書付) かじや庄六(名古屋伝馬町四丁目)→うら町孫左衛門	申10月22日	堅継紙・1通	い578-3-40
覚(かけがねなど代金書付) かじや庄六→うら町孫	申10月6日	堅継紙・1通	い578-3-41

左衛門			
覚(金銭受取につき) →孫左衛門	申11月8日	縦継紙・1通	い578-3-42
覚(たひ代金請取につき) 丸や与兵衛→半右衛門	11月22日	横切紙・1通	い578-3-43
(銭554文請取につき) 惣兵衛→唯助	11月11日	小切紙・1通	い578-3-44
覚(生坂代金請取につき) 勘助→かん戸新田忠八郎	11月11日	縦紙・1通	い578-3-45
覚(なも丁3本など代金請取につき) 舟入間や又三郎→神戸只介	極月14日	縦継紙・1通	い578-3-46
覚(墨代金請取につき) 浅右衛門→唯助	申極月	小切紙・1通	い578-3-47
覚(鮭など代金書付) 舟入八左衛門→神戸御新田唯助	申極月	縦継紙・1通	い578-3-48
覚(板代金書付) 勘四郎→小河唯助	申12月23日	横切縦紙・1通	い578-3-49
覚(炭・塩など代金書付) 山形や庄兵衛→小川唯助	申12月25日	縦継紙・1通	い578-3-50
覚(上もとゆい代金など書付) 清左衛門	12月27日	横切紙・1通	い578-3-51
覚(田作・えひなど代金請取につき) 久田や平四郎	12月27日	縦継紙・1通	い578-3-52
覚(諸白など渡すにつき) 萱津や清七→犬山屋半右衛門	申12月25日	縦切紙・1通	い578-3-53
請取申井領之事 子宝新田平左衛門→大宝前新田唯助	享保元年11月13日	縦切紙・1通	い578-4-1
覚(大宝新田小作6人分御年貢お請取なさるべきにつき) 大宝新田孫八郎→前新田唯助	申12月25日	横切縦紙・1通	い578-4-2
申之年井領米之覚 大宝新田庄屋→犬山屋文左衛門	申12月	横切縦紙・1通	い578-4-3
覚(井領米請取につき) 鳥ヶ地村才兵衛→大宝前新田只助	申12月14日	縦継紙・1通	い578-4-4
請取申野方御年貢米之事 佐次兵衛、平蔵→分左衛門	申12月	横切縦紙・1通	い578-5-1
覚(大宝前新田入用など請取につき) 平蔵→唯助	申12月	小切紙・1通	い578-5-2
覚(御蔵入米代金半右衛門へ払うにつき)	申12月	小切紙・1通	い578-5-3
御蔵入米諸入用(水上ヶ賃・かますなど代金書付) 儀右衛門	申11月	横切紙・1通	い578-5-4
覚(野方御年貢米御蔵入手形壺通請取申につき) 平蔵→唯助	申12月8日	小切紙・1通	い578-5-5
覚(大宝前新田ほかの申年野方御年貢米極月17日以前に皆納あるべきにつき) 佐次兵衛、平蔵→分左衛門	申12月	横切縦紙・1通	い578-5-6
新杵之覚(杵の長さ・釘かすがい代書付) 大工分六	正月18日	縦紙・1通	い578-6-1
覚(南北杵の手間賃など受取につき) 大工分六→唯助	申5月24日	縦継紙・1通	い578-6-2
木挽覚(木挽の代金・名前書付)	申3月	縦切紙・1通	い578-6-3
覚(釘など代金受取につき) かちや兵左衛門→小川唯助	申9月27日	縦継紙・1通	い578-6-4
覚(釘代金受取につき) 金十郎→唯助	6月2日	横切縦紙・1通	い578-6-5

土俵ならびに縄代(俵数・縄代金・人名書付)	申3月	縦継紙・1通	い578-6-6
名古屋小買物(こうしみそ・垣大工道具・水こんにゃく・しいたけなど代金書付)	申3月	縦継紙・1通	い578-6-7
覚(れんこん・しいたけなど代金の受取額と残額書付) 八百屋彦兵衛→庄八	閏2月3日	縦紙・1通	い578-6-8
覚(から竹・わた実たねなど御請取りなさるべきにつき) 犬山屋半右衛門→大宝前新田唯助	2月25日	縦継紙・1通	い578-6-9
覚(くい木など数量書付) 犬山屋庄八→大宝前新田唯助	3月3日	縦継紙・1通	い578-6-10
覚(支払い金額書付) かにへ孫七→又助	2月13日	小切紙・1通	い578-6-11
覚(たわら・なわ数量書付) 竹田村伝七→徳左衛門	2月21日	堅切紙・1通	い578-6-12
覚(すみ代受取) 忠助	2月	堅切紙・1通	い578-6-13
覚(たはこ代書付) 西福田村彦兵衛→新田唯助	申2月20日	堅切紙・1通	い578-6-14
覚(大金1枚相済ますにつき) 孫七→善七	3月22日	小切紙・1通	い578-6-15
覚(ふな代金書付) 忠助→唯助	3月13日	小切紙・1通	い578-6-16
覚(銭1貫570文受取下されたきにつき) 舟入又三郎→神戸只介、御夫義右衛門	申3月12日	堅切紙・1通	い578-6-17
覚(大和竹代金渡すにつき) 左助→神戸新田小河唯助	3月13日	小切紙・1通	い578-6-18
覚(銭受取下さるべきにつき) 舟入又三郎→神戸新田只介	2月20日	堅切紙・1通	い578-6-19
巳年大宝前新田諸事請取目録	(享保10年)	袋・1点	い467-0
御蔵入用	巳11月8日	横切紙・1通	い467-1-1
覚(御蔵米12石の七合物米8升4合代銀書上) 平蔵→唯助	巳11月24日	横切紙・1通	い467-1-2
覚(桴入など代銀受取指引書) 平蔵→唯助	巳12月20日	横切紙・1通	い467-1-3
覚(桴入入用銀など書上) 平蔵→只助	巳12月13日	横切継紙・1通	い467-1-4
覚(大宝前新田野方御年貢米金銀受取書) 佐次兵衛・平蔵→唯助	享保10年極月	横切継紙・1通	い467-1-5
覚(納米・作徳米運賃勘定)	巳12月11日	横切紙・1通	い467-2
覚(受取金勘定残金など差引勘定目録) 唯助	午正月8日	縦継紙・1通	い467-3
覚(井領米受取) 鳥ヶ池村庄屋才兵衛→分左衛門新田只助	享保10年極月	縦継紙・1通	い467-4
覚(積賃・材木代など受取書) 下材木町勘四郎・半右衛門→小川唯助	巳7月9日	縦継紙・1通	い467-5
覚(代金渡しにつき) 勘四郎→半右衛門	巳正月16日	縦継紙・1通	い467-6-1
覚(金銭受取書) 鳥ヶ地新田勘二郎→神戸新田又七	巳正月29日	小切紙・1通	い467-6-2
覚(塩三俵代銀受取書) 庄助→権六	巳2月5日	小切紙・1通	い467-6-3
覚(まきなわ代金受取書) まきなわや伊兵衛→権六	2月4日	小切紙・1通	い467-6-4
送り状之事(杓かわ板木用の栗木5本) 犬山屋半右	巳4月19日	堅切紙・1通	い467-6-5

衛門→分左衛門新田唯助			
送り状之事(材木75本など) 犬山屋半右衛門→大宝前新田唯助	巳2月25日	縦継紙・1通	い467-6-6
覚(石釘代受取書) かちや庄助→かんと甚助	5月25日	小切紙・1通	い467-6-7
覚(新三川代金受取書) 茶や権兵衛(名古屋堀江町)→犬山屋文左衛門	7月9日	小切紙・1通	い467-6-8
覚(釘代金書上) かにへ村孫七→神戸新田甚助	8月8日	小切紙・1通	い467-6-9
覚(代金書上) 名護屋船入町井桁屋長左衛門→犬山屋分左衛門	9月15日	縦切紙・1通	い467-6-10
覚(油・たまり・そば等送り状) 中島半右衛門→唯助	9月15日	縦継紙・1通	い467-6-11
覚(みそ一樽代金書上) 白木屋庄左衛門→をくはき善蔵	10月28日	小切紙・1通	い467-6-12
(大宝前新田米高書上) 久次郎	11月10日	縦切紙・1通	い467-6-13
(損米高書上) 11月10日 船入町市兵衛	10月10日	縦切紙・1通	い467-6-14
覚(大宝前新田ひれはへ直し賃書上) 久治郎	巳11月10日	縦切紙・1通	い467-6-15
覚(はね代金書上) ミのや七左衛門	巳12月27日	小切紙・1通	い467-6-16
覚(上みつ代金書上) ミ河や六右衛門→勘助	12月27日	小切紙・1通	い467-6-17
覚(釘代金書上) 勘助口入かにへ村孫七→神戸只助	巳12月	小切紙・1通	い467-6-18
覚(酒代金受取) 白木屋庄左衛門	極月27日	小切紙・1通	い467-6-19
覚(諸品差引勘定受取書) かがや庄助→神戸新田小川只助		縦切紙・1通	い467-6-20
覚(釘など諸品差引勘定受取書) かがや庄助→神戸新田甚助	巳7月	縦継紙・1通	い467-6-21

普請入用

杵御繕人足ならびに買物諸入用	延享2年2月20日	横長半(一ツ綴)・1冊	い406
杵御伏替入用		こより附け札・1点	い397-1-0
覚(水風呂桶代等覚書)		横切紙・1通	い397-1-1
万之通込之分 笹屋久左衛門→小川只助	寛延4年6月	横半半(一ツ綴)・1冊	い397-1-2
おほへ(金子請取につき) さや久左衛門→只助	未6月25日	横切紙・1通	い397-1-3
覚(金子相渡済につき) かにへ宅右衛門→神戸ふに八	閏6月28日	横切紙・1通	い397-1-4
覚(うなき代等覚書) かにへ村善九→只助	閏6月23日	横切紙・1通	い397-1-5
(米高書上)		横折紙・1通	い397-1-6
覚(材木代書上) 惣七→神戸新田定助		横切紙・1通	い397-1-7
覚(茶わん代等書上)		横切継紙・1通	い397-1-8
(諸入用書上) 鳥かし新田茂左衛門	未閏6月21日	横切継紙・1通	い397-1-9
覚(込披戸四本手伝銀請取につき) 杵御作事方→大宝前新田右込守	7月11日	縦紙・1通	い397-2-1

覚(圀仕替披戸四本手伝銀請取につき) 圀御作事方→大宝前新田庄屋	7月24日	堅紙・1通	い397-2-2
覚(ちやうちん代受取) 傘屋忠蔵→只助・庄八郎	8月5日	堅切紙・1通	い397-2-3
覚(かんひやう代等請取) 名古屋魚之棚徳→八百屋伝九郎	3月10日	横切継紙・1通	い397-2-4
おほへ(品代請取) さや久左衛門→御人	未4月10日	横切紙・1通	い397-2-5
覚(杉原代受取) あまカ屋佐右衛門→善七郎	4月3日	横切紙・1通	い397-2-6
覚(たまこ代等受取) かにへ村甚吉→只助	5月14日	堅紙・1通	い397-2-7
覚(品代受取) 甚吉→小川定助		堅紙・1通	い397-2-8
おほへ(杉はし代等請取) さや久左衛門	5月19日	横切紙・1通	い397-2-9
覚(金子請取) 勘九郎→円七	6月4日	横切紙・1通	い397-2-10
覚(釘代書上) 鳥地善吉→庄八	未2月18日	横切紙・1通	い397-2-11
覚(代金書上) 舟入丹右衛門→伊兵衛	6月14日	横切紙・1通	い397-2-12
おほへ(半紙代等請取代) さや久左衛門→只助	閏6月23日	横切紙・1通	い397-2-13
覚(品代書上) 近江甚六→小川定助	未5月24日	堅紙・1通	い397-2-14
覚(大かわらけ代等請取) さや久左衛門(尾州蟹江町)	5月18日	横切紙・1通	い397-2-15
覚(水上ヶ蔵入入用等書上) 嘉兵衛	未12月	横切紙・1通	い397-3
覚(大うと代等書上) 八百屋新左衛門→只助	4月7日	横切紙・1通	い397-4-1
覚(かんひやう代等書上)	4月7日	横切紙・1通	い397-4-2
覚(ひわん酒5合代請取) 若松屋	4月7日	横切紙	い397-4-3
覚(炭代書上) かにへ宅右衛門	4月7日	横切紙・1通	い397-4-4
覚(品代書上) かにへ左四郎	4月7日	横切紙・1通	い397-4-5
覚(品代請取) かにへ村甚吉→かんと各六	未4月7日	堅紙・1通	い397-4-6
覚(品代請取) かにへ村甚吉→小川定助	未4月	堅紙・1通	い397-4-7
覚(火なわ代等書上)	4月12日	横切紙・1通	い397-4-8
覚(品代書上) かにへ村甚吉→唯助	8月11日	堅紙・1通	い397-4-9
覚(品代書上) 直左衛門→彦七	4月10日	横切紙・1通	い397-4-10
大宝前取替(諸入用書上につき書状) 川合嘉兵衛→小川唯助	7月24日	横切継紙・1通	い397-5
覚(魚鳥代等請取)		横切継紙・1通	い397-6
杵御伏替人足ならびに諸入用	延享2年3月20日	横長半・1冊	い408-1
杵之分万通 繕方 笹屋久左衛門→小川只助	延享2年2月	堅半半(下げ綴)・1冊 (一ツ綴)	い407-2
覚(杵繕古木川上ヶ日用代受取) 杵御作事方→大宝前新田杵守	丑年2月28日	横切紙・1通	い407-3-1
覚(杵繕木手伝日用代受取) 杵御作事方→大宝前新田杵守	丑年2月15日	横切継紙・1通	い407-3-2

覚(金子覚書) 御ゆや新左衛門	2月23日	横切紙・1通	い407-3-3
覚(諸白・酒請取) 鯉林平→神戸新田繁右衛門	2月28日	横切紙・1通	い407-3-4
覚(悪道下用別当り金銭書上) 辰右衛門→御地主様勘定場	寅7月	横切紙・1通	い412-4
覚(外汐垣・塚伏起人足人数・代銀額書付)		小切紙・1通	い541-5
堤御普請諸入用覚、悪水路掘割諸入用覚		横長半(一ツ綴)・1冊	い541-6
覚(東ノ杵築留代金御配符など代金書上) 新田忠右衛門→御地主様勘定場	10月18日	横切紙・1通	い608-7-5
覚(架替橋の長さ、入用の板・釘など数量書上)		横折紙・1通	い608-8-8
覚(御座敷老軒葺替、人足代銀24匁預かり申すにつき) 新田忠右衛門→御地主様勘定場	亥7月21日	横切継紙・1通	い608-9-4

蔵納入用

(出津差留中領内取遣米等締方御改につき触書写) 吉 助次郎→(新田表)	亥3月29日	縦紙・1通	い411-1
覚(水桶蔵入入用米書上)		横切継紙・1通	い411-2
送り状之事(納米積送につき) 庄屋忠右衛門→御地主様勘定場	戌12月20日	縦紙・1通	い411-3
送り書之事(納米積送につき) 庄屋綱蔵→御地主様勘定場	酉12月14日	縦紙・1通	い411-4
覚(納米・餅米積送につき) 新田庄屋綱蔵→後藤桑助	4月29日	縦切紙・1通	い411-5
送り状之事(米積送につき) 神戸新田辰右衛門→御地主様勘定場	酉12月16日	縦紙・1通	い411-6
送り書之事(酉年拝借米積送につき) 新田庄屋忠右衛門→御地主様勘定場	戌10月6日	縦紙・1通	い411-7
乍恐御達奉申上候(当年作徳米之内犬山屋文左衛門方へ積送分につき入津願) 神戸新田庄屋綱蔵→堀川御番所	酉12月	縦紙・1通	い411-8
送り状之事(納米積送につき) 新田庄屋綱蔵・忠右衛門→御地主様勘定場	戊正月	縦紙・1通	い411-9
送り状之事(納米積送につき) 神戸新田庄屋→御地主様勘定場	亥3月	縦紙・1通	い411-10
送り状之事(納米積送につき) 新田庄屋忠右衛門→御地主様勘定場	亥2月	縦紙・1通	い411-11
送り状之事(納米積送につき) 新田庄屋綱蔵→御地主様勘定場	嘉永4年4月	縦紙・1通	い411-12

神事祭礼入用

乍恐御達申上候(伊勢御師山口角太夫方初穂米神戸文左衛門方より出し、村方よりは遣わしもうさざるにつき) 神戸新田庄屋→矢野藤九郎陣屋	午2月	縦紙・1通	い448-14
口演(初穂受納礼状) 御師真野門之太夫→神戸村小川唯助	臘月13日	縦紙・1通	い435-6

大宝前(神戸)新田/経営費用/神事祭祀入用

覚(御初穂めでたく神納につき) 津嶋明神真野門 之太夫内鈴木弾蔵→大宝前新田小川只助	極月17日	縦紙・1通	い739-11
覚(伊勢初穂料等書付)		横切継紙・1通	い412-11

代官関係入用

覚(山本平太夫他9名御昼支度代書上げ) 海尻 定右衛門→神戸新田御庄屋衆中	午12月	小切紙・1通	い739-6
覚(新田諸入用請取覚16通継紙) (佐屋陣屋、いり 御作事場が多い)→(大宝前新田庄屋)	戌2月1日～12月5日	横切継紙等・16通	い433
覚(名古屋佐屋寒見舞引当請取覚) 新田庄屋綱蔵 →御地主様御勘定場	亥正月4日	横切紙・1通	い412-7

その他の入用

覚(川一条入用請取につき) 庄屋綱蔵・同忠右衛門 →御地主様御勘定場	子年11月21日	横切紙・1通	い412-9
大宝新田葭山代金請取覚 庄兵衛	子12月21日	縦継紙・1通	い502
覚(極上すみなど代銀受取につき) 永舟や彦九郎	巳10月1日	横切紙・1通	い608-1-1
覚(代銭差引勘定につき) 油新→上	9月1日	横切紙・1通	い608-1-2
覚(わさひ・赤みそ・吉野くずなど代銭受取につき) 笹屋利吉→御苗只助	10月晦日	横切継紙・1通	い608-1-3
覚(上赤みそ・白みそ・たばこ・わりばしなど代銭受 取につき) さや利吉→上へ	9月2日	横切継紙・1通	い608-1-4
覚(とうふなど代銭相済みにつき) 長左衛門→神 戸会所	酉10月	横切紙・1通	い608-1-5
覚(葭1700束代金、運賃預かり申すにつき) 新田 綱蔵→御地主様御勘定場	亥7月	横切継紙・1通	い608-9-5
覚(薪木1本代金受取につき) 宮木屋林蔵→神戸様 御新田御会所	午12月	横切継紙・1通	い739-12

経営記録

諸事用留・日記

(新田経営業務書上)	(近世)	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-10
------------	------	-------------	---------

村方騒動

覚(村方百姓入組み一件和談により私申分これ無 きにつき、重右衛門ほか3名の神戸分左衛門あて 奥書) 平吉→御取扱衆中	安永5年2月	縦継紙・1通	い443
証文之事(請作地に関し入組ヶ間敷儀を申したこと に対する詫び状) 重右衛門・辰右衛門→御地主 御会所	文政2年4月	縦紙・1通	い513
御請書之事(百姓難渋之由訴出も吟味之上村内心 得違之者無之につき) 忠右衛門以下31名連印→ 庄屋重右衛門・組頭只二	文政8年正月	縦半(一ツ綴)・1冊	い401
乍恐奉歎願候御事(御舍弟仁右衛門不行跡へ加担 等につき託証文) 只二(神戸新田組頭)→旦那様	(文政9年カ)戌2月	縦半(一ツ綴)・1冊	い448-8

乍恐御請事奉差上候覚(西ノ森へ獅子居屋形を持ち参詣、去る亥年徒党頭取の件につき請状ほか)	天保13年4月	豎半(一ツ綴)・1冊	い448-9
(御趣意に背き西ノ森へ獅子居屋形を持ち参詣の件につき請状ほか)	天保13年4月	豎半(一ツ綴)・1冊	い448-10
(陣屋趣意を破り西之森へ獅子居屋形を持ち参詣、去る亥年徒党頭取をした勘三郎・新左衛門らへの申渡)	(天保13年カ)4月	豎半(一ツ綴)・1冊	い448-6
乍恐駆込御願奉申上候御事(地主神戸分左衛門の厳しい加地子取立てを御諭しくだされたきにつき) 神戸新田平吉女妻なつ→佐屋陣屋	嘉永3年2月	豎半(一ツ綴)・1冊	い608-4-3
(新田で地主への加地子米などを滞納する平吉の女房が陣屋に駆け込み嘆願を行ったが願書差し戻しにつき) 佐屋陣屋→神戸新田庄屋	(嘉永3年)2月19日	横切継紙・1通	い608-4-2
(大宝新田御歎訴一件の先日までの経緯の報告につき書状) 唯助→神戸	(嘉永3年)3月8日	横切継紙・1通	い608-4-1
乍恐奉願上候(神戸新田の平吉夫婦を呼び出し吃諭下しおかれたきにつき) 神戸新田庄屋綱藏、同断忠右衛門→吉田助次郎様御陣屋	(嘉永3年)戊3月	豎半(一ツ綴)・1冊	い608-4-4
(5月14日から同15日までの綱藏来訪時における平吉一件などの申し送り事項書付)	(嘉永3年)	横折紙・1通	い608-8-7
(村方徒党ヶ間敷儀により役儀引揚ぐべき所今般ハ其俣ニ差置候につき申渡) →半左衛門	子7月	横切継紙・1通	い489-2-2
(村方徒党ヶ間敷儀により役儀引揚ぐべき所今般ハ其俣ニ差置候につき申渡) →彦三郎	子7月	横切継紙・1通	い489-2-3
(御用之儀被申談候間明日御出可成候歟につき書状) 神戸勘定場喜助→重右衛門・綱藏・忠兵衛	(子)5月7日	横切継紙・1通	い489-2-1
(庄屋退役申付) →神戸新田庄屋重右衛門	(子)5月	横切継紙・1通	い489-2-4
(名前書上げ)	(子)	断簡・1点	い489-2-5
乍恐奉願候(近年病身につき組頭・圀守退役願い) 神戸新田平吉→旦那様	寅5月	豎紙・1通	い541-2
(組頭・圀守を唯治に申付るにつき) →唯治	寅8月	豎紙・1通	い541-11
乍恐御請書奉差上候(今後小前の者が直接年寄に願立をしない旨請状) 神戸新田彦助ほか32名→矢野藤九郎様御陣屋	酉3月	豎半(二ツ綴)・1冊	い448-18
乍恐奉願上候御事(勘三郎弟悦四部分家の節無届に住家取立てにつき赦免願) 庄屋重右衛門→旦那様	酉9月	豎半(二ツ綴)・1冊	い448-23
乍恐奉願上候御事(新田締り役只助解任・倅綱藏庄屋役任命差留願) 惣百姓中→御地主様	亥正月	豎半(二ツ綴)・1冊	い414-1
御請書申上候事(綱藏庄屋役見習指止一件一切存不申につき) 頭百姓浅右衛門・同平吉・同金七・組頭辰右衛門・同忠兵衛・庄屋忠右衛門・同重右衛門→旦那様	亥2月	豎紙・1通	い414-8
乍恐御請書旁再奉申上候御事(只助倅綱藏へ庄屋役任命差留願) 惣百姓中→御地主様	亥4月	豎半(二ツ綴)・1冊	い414-2
別希人別之覚(惣百姓中にて格別頭取仕候者御吟味願控) 犬山屋文左衛門	亥5月	豎紙・1通	い414-6

大宝前(神戸)新田/経営記録/村方騒動

乍恐御請書奉差上候御事(唯助俵綱蔵庄屋見習役退役願い一件につき詫び証文下書) 惣百姓	亥8月	縦紙・2枚	い414-3
乍恐口上(願書宜敷御聞き済み願) 神戸新田百姓中→神戸様御店吉蔵	(亥)2月8日	縦紙・1通	い414-9
(綱蔵名主見習役差留一件にて小前百姓説得失敗につき届書) 頭百姓平吉・同浅右衛門・同金七・組頭辰右衛門・同忠兵衛・庄屋忠右衛門・同重右衛門→旦那様	(亥)4月	縦紙・1通	い414-7
法(村法遵守誓約書下書)	(亥)	縦紙・1通	い414-4
別段御請奉申上候御事(綱蔵庄屋役任命差留一件謝罪につき) 惣百姓之内	(亥)	縦紙・1通	い414-5
覚(不埒者13名の作前当分引揚げ反別書上扣)	亥9月	縦半(一ツ綴)・1冊	い449-19
(辰右衛門はじめ頭分の料簡筋違いにつき書状)(唯助)→(旦那様)	4月26日	横切継紙・1通(封紙付)	い489-1
(只治・十右衛門年中無理非道計にて百姓中難義につき御吟味願) 百姓中→神戸	12月	横切紙(封紙つき、前欠)・1通	い399

新田—元材木町間連絡

乍恐口上之覚(秋葉大権現への提燈奉献願) 役義中代判庄屋忠右衛門→旦那様	(天保2年)卯6月	縦半(二ツ綴)・1冊	い541-7
覚(麦代内金借用願) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	寅6月16日	横切紙・1通	い412-2
覚(夫銀上納金8両3分、銀10匁借用仕りたきにつき) 新田庄屋→御地主様御勘定場	卯2月9日	小切紙・1通	い547-12-2
(根見帳拝借、杓橋木差送り等につき願書) 新田庄屋→地主勘定場衆助	辰2月25日	縦紙・2枚	い449-4-4
覚(檜・樺など材木、古田検地帳写し受取につき) 新田庄屋兩人→御地主様御勘定場衆助	辰2月28日	縦紙・1通	い449-4-6
乍恐御達申上候(深溜減水し立毛見直し宜敷旨) 御新田庄屋只助→旦那様	亥7月	縦紙・1通	い448-17
御達申上候御事(田方植付終了届書) 新田庄屋忠右衛門→御地主様御勘定場	5月	縦紙・1通	い449-1
* (旦那様御帰り、飛島海用留などの儀につき書状) 新田ニテ久蔵→勘定場橋蔵	6月25日	横切継紙・1通	い419-31
覚(半紙御渡願) 庄屋忠右衛門→御地主様御勘定場	12月20日	横切紙・1通	い412-19
(明日申談につき呼出状) 勘定場衆助→新田忠兵衛	12月21日	縦紙・1通	い448-19-6
(明日申談につき呼出状) 神戸勘定場衆助→辰右衛門	12月21日	縦紙・1通	い448-19-7
(明倫堂御教授様明日村方に教諭につき達書通知) 新田役儀より→御地主様御勘定場		縦紙・1通	い449-4-3
(上直紙・岩国上大半紙など依頼状)	(近世)	縦紙・1通	い449-4-5
(文書目録)	(近世)	横切紙・1通	い608-8-5
(川運上銀の事など綱蔵の報告事項書付カ)	(近世)	横切継紙・1通	い608-9-3
覚(百姓出精の者の名前書上)	(近世)	横切紙・1通	い608-9-6
(二十三年度「十人之者へ当ル分」の米16石余を正	(明治24年カ)1月	小切紙・1通	い587-4-1

月27日までに着船指示)			
小作人			
宗門改			
差出申一札之事(輪中小屋之者当年宗門改終了届書下書) 犬山屋文左衛門→織田大助	天保4年3月	横切継紙・1通	い444-2-1
一札 犬山屋分左衛門		包紙・1点	い444-1-0
差出申一札之事(神戸新田輪中小屋之者当年宗門改終了届書) 犬山屋文左衛門→矢野藤九郎	天保7年3月	堅紙・1通	い444-1-1
覚(佐屋宗門一札、町奉行所一札受渡しにつき、後欠)		断簡・1通	い444-1-2
* (小作人の人別記載に関する覚書)		横切継紙・1通	い419-6

小屋・会所**通帳**

肴之通 かにへ村魚屋甚六→神戸新田唯助	延享2年2月20日	堅美半(下げ一ツ目綴)・1冊	い407-1
覚(諸白代請取) 亀かし平蔵→大宝前新田吉兵衛	3月28日	堅紙・1通	い408-2-1
覚(鯉鈍粉・上鯉など代金請取) 長右衛門	3月26日	横切紙・1通	い408-2-2
覚(酒代等請取覚) みその丁半右衛門→新田繁右衛門	丑3月18日	横切紙・1通	い408-2-3
覚(諸白など代金請取覚) さや久右衛門→御代吉右衛門?	丑3月23日	横切紙・1通	い408-2-4
万売帳 かにへ善九郎	延享2年3月20日	堅半半(一ツ綴)・1綴	い408-2-5

郷蔵

乍恐御達奉申上候御事(郷倉元の場所に建替え願) 右(神戸)新田庄屋綱蔵→山田貫一郎様御陣屋	子3月	堅半(二ツ綴)・1冊	い449-2
覚(郷蔵渡し米手形) 神戸勘定場→神戸新田綱蔵・忠兵衛	卯12月8日	堅紙・1通	い449-9
覚(郷蔵渡し米手形) 神戸勘定場→神戸新田綱蔵・忠兵衛	卯12月8日	堅紙・1通	い449-10
覚(郷蔵渡し米手形) 神戸勘定場→神戸新田綱蔵・忠兵衛	卯12月8日	堅紙・1通	い449-11
覚(郷蔵渡し米手形) 神戸勘定場→神戸新田綱蔵・忠兵衛	卯12月12日	堅紙・2通	い449-8

土地**田畑改名**

去冬庄屋衆え改名之儀相願候分書付を以御願申上候(田地名義の変更) 新田唯助→御苗久米助	亥8月	堅半(一ツ綴)・1冊	い608-4-5
---	-----	------------	----------

耕地交換

明治九年七月十日神戸新田りぬ之割耕地ト四郎兵衛	明治九年7月10日	包紙・1点	い599-0
-------------------------	-----------	-------	--------

衛新田と之割ト交換之件につき横井久助初メ三名ヨリ差入ル約定証書			
田畑交換約定証書 第六大区廿小区四郎兵衛新田百姓総代横井常右衛門他地主総代1名、副戸長1名→第六大区廿小区神戸新田地主神戸分左衛門他副戸長一人	明治9年7月10日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い599-1
売買			
覚(大宝前新田内田畑20町歩代金3341両のうち2541両余受取、残金800両手形につき) 神戸分左衛門→神戸弥左衛門	(近世)辰正月	縦罫紙・1通	い503-2-12
神戸新田内新田四百四拾番・四百四拾貳番土地所有権保存登記(以下略)	明治35年6月11日	封筒・1点	い600-0
預証(金5円預り置くにつき) 神戸新田早川忠蔵他4名→神戸分左衛門	明治31年11月5日	罫紙・1通	い600-1
土地買戻特約証書(買受代金および契約費用を返還すれば買い戻しを認めるにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田土地買主小川綱蔵→土地売主神戸分左衛門	明治31年10月5日	罫紙・1通	い600-2
土地買戻特約証書(買受代金および契約費用を返還すれば買い戻しを認めるにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田土地買主竹内周太郎→土地買主神戸分左衛門	明治31年10月5日	罫紙・1通	い600-3
土地買戻特約証書(買受代金および契約費用を返還すれば買い戻しを認めるにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田土地買主児玉弥三郎→土地売主神戸分左衛門	明治31年10月5日	罫紙・1通	い600-4
土地買戻特約証書(買受代金および契約費用を返還すれば買い戻しを認めるにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田児玉彌太郎→土地売主神戸分左衛門	明治31年10月5日	罫紙・1通	い600-5
土地買戻特約証書(買受代金および契約費用を返還すれば買い戻しを認めるにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田土地売主早川忠蔵→土地売主神戸分左衛門	明治31年10月5日	罫紙・1通	い600-6
家督相続につき登記申請(早川信二郎家督相続につき) 海西郡宝地村大字神戸新田538番地早川信二郎幼年ニ付親権者母早川しげ他代人1名→津島区裁判所弥富出張所御中	明治35年10月1日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い600-7
家督相続につき登記申請(児玉伊三郎相続につき) 海西郡宝地村大字神戸新田17番戸児玉伊三郎→津島区裁判所弥富出張所	明治34年10月31日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い600-8
地所売渡証券(神戸新田のうち原野10歩) 海西郡宝地村大字神戸新田売主神戸分左衛門→海西郡宝地村大字神戸新田7番戸竹内周太郎	明治31年10月5日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い600-9-1
地所売渡証券(神戸新田のうち原野10歩) 海西郡宝地村大字神戸新田売主神戸分左衛門→海西郡宝地村大字神戸新田6番戸小川綱蔵	明治31年10月5日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い600-9-2
地所売渡証券(神戸新田のうち原野10歩) 海西郡宝地村大字神戸新田売主神戸分左衛門→海西郡宝地村大字神戸新田甲28番戸児玉弥三郎	明治31年10月5日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い600-9-3
地所売渡証券(神戸新田のうち原野10歩) 海西郡宝地村大字神戸新田売主神戸分左衛門→海西郡宝地村大字神戸新田17番戸児玉彌太郎	明治31年10月5日	罫紙・1冊	い600-9-4

土地売買につき登記申請(土地所有権移転の登記) 海西郡宝地村大字神戸新田28番戸買主神戸分左衛門 →津島区裁判所弥富出張所御中	明治35年6月	野紙・1通	い600-10-1
不動産売渡証券(神戸新田のうち原野10歩) 海西 郡宝地村大字神戸新田538番地売主早川新次郎幼年ニ 付親権者母早川しげ→海西郡宝地村大字神戸新田28 番戸	明治35年6月	野紙・1通	い600-10-2
明治四拾貳年五月十日 神戸新田字内新田四百四 拾貳番田老畝拾五歩ヲ小川綱蔵外四名へ曩キニ 神戸悪水普通水利組合議員被選挙権ヲ有スル 為売渡シ置タルヲ今回買戻シタルにつき該登記 済証券在中	明治42年5月10日	封筒・1点	い600-11-0
地所売渡証券(神戸新田のうち田1畝15歩) 海西 郡宝地村大字神戸新田28番戸売主神戸分左衛門→海 西郡宝地村大字神戸新田16番戸小川綱蔵他4名	明治35年6月11日	野紙・1通	い600-11-1
「三十五年拾月一日 登記書類 神戸新田」	明治35年10月1日	封筒・1点	い593-2-1
不動産売渡証券(海西郡宝地村大字神戸新田字内 新田465番ノ第2の原野10歩) 海西郡宝地村大字 神戸新田五百参拾八番地早川信二幼年ニ付親権者母 早川しげ→海西郡宝地村大字神戸新田貳拾八番戸神 戸分左衛門	明治35年9月12日	野紙・1冊	い593-2-5
不動産売渡証券(海西郡宝地村大字神戸新田字内 新田四百六拾五番ノ第壹の原野10歩) 海西郡 宝地村大字神戸新田拾六番戸小川綱蔵→海西郡宝地 村大字神戸新田貳拾八番戸神戸分左衛門	明治35年6月11日	野紙・1冊	い593-2-6
不動産売渡証券(海西郡宝地村大字神戸新田字内 新田465番の第3の原野10歩) 海西郡宝地村大字 神戸新田7番戸竹田周太郎→海西郡宝地村大字神戸新 田28番戸神戸分左衛門	明治35年6月12日	野紙・1冊	い593-2-7
不動産売渡証券(海西郡宝地村大字神戸新田字内 新田465番第5の原野10歩) 海西郡宝地村大字神 戸新田17番戸児玉伊三郎→海西郡宝地村大字神戸新 田貳拾八番戸神戸分左衛門	明治35年6月12日	野紙・1冊	い593-2-8
不動産売渡証券(海西郡宝地村大字神戸新田字内 新田465番第4の原野10歩) 海西郡宝地村大字神 戸新田甲28番戸児玉弥三郎→海西郡宝地村大字神戸 新田28番戸神戸分左衛門	明治35年6月12日	野紙・1冊	い593-2-9

貸借

地所賃借証券(海西郡宝地村大字神戸新田字堤外 葭生場借用証券下書)	(明治41年以後)	野紙・1冊	い453-1
(土地契約証下書)		野紙・1通	い453-2
地所賃借証券(海西郡宝地村大字神戸新田字堤外 葭生場借用証券下書) 十四山村長→神戸分左衛 門		「神戸氏蔵」野紙・1冊	い453-3
地所賃借証券(海西郡宝地村大字神戸新田字堤外 葭生場借用証券写、絵図つき) 十四山村長→神 戸分左衛門		野紙・1冊	い453-4
地所賃借証券(海西郡宝地村大字神戸新田字堤外 葭生場借用証券写) 十四山村長→神戸分左衛門		「神戸氏蔵」野紙・1冊	い453-5

水利・防水ほか

杓

東之方杓御伏替配府二通 (神戸新田東之方杓御伏替配府写)	安政5年3月	袋・1点	い413-1-0
(神戸新田東之方杓御伏替配府) 織大作→右(神戸新田)村庄屋	安政5年3月	横長半(一ツ綴)・1冊	い413-1-1
(神戸新田東之方杓御伏替配府) 織大作→右(神戸新田)村庄屋	安政5年3月	横長半(かぶせ綴)・1冊	い413-1-2
乍恐御願奉申上候御事(虫喰多につき杓伏替願) 右(神戸)新田庄屋綱蔵・同断忠右衛門→山田貫一郎様御陣屋	巳6月	堅半(一ツ綴)・1冊	い413-2-1
乍恐再願奉申上候御事(杓伏替願につき) 右(神戸)新田庄屋綱蔵・同断忠右衛門→杓方御役所	午正月	堅半(二ツ綴)・1冊	い413-2-2
乍恐再願奉申上候御事(杓伏替願につき) 右(神戸)新田庄屋綱蔵→山田貫一郎様御陣屋	午正月	堅半(一ツ綴)・1冊	い413-2-3
(断簡)		堅切紙・1枚	い413-3
(神戸新田忠兵衛の杓守退役の申付) →神戸新田地主犬山屋文左衛門え	9月	横切紙・1通	い608-9-1
(神戸新田の杓守を金七とする申付) →神戸新田地主犬山屋文左衛門え	9月	横切紙・1通	い608-9-2
覚(送り状請取) 上押萩村庄屋	3月24日	横切紙・1通	い408-3-1
覚(杓伏御用につき御触状受取) 大宝庄や→大宝前新田御庄屋衆中	3月23日	横切紙・1通	い408-3-2
覚(杓伏御用につき御触状受取) 大野新田庄や→大宝前新田御庄屋衆中	3月20日	横切紙・1通	い408-3-3
覚(杓伏御用につき御触状受取) 大野新田庄や→大宝前新田御庄屋衆中	3月21日	横切紙・1通	い408-3-4
覚(人足の御触状受取) 亀ヶ地庄屋→大宝前新田庄屋衆中	3月25日	横切紙・1通	い408-3-5
覚(人足御触状受取) □□村庄や	3月26日	堅紙・1通	い408-3-6
覚(送り状受取覚) 上押萩村	3月23日	横切紙・1通	い408-3-7
覚(杓御奉行より善太新田まで送り状受取覚) 竹田新田庄や→大宝前新田庄屋衆中	3月22日	横切紙・1通	い408-3-8
覚(御触状受取) 亀ヶ地新田庄屋→右(大宝前新田)御伏替所	3月21日	横切紙・1通	い408-3-9

井領米

未之歳井領年貢米覚 大宝前新田庄屋孫八郎→大宝前新田唯助	(正徳5年)未極月19日	横切継紙・1通	い398-3-1
覚(井領米受取につき) 烏ヶ地村才兵衛→大宝前新田只助	(正徳5年)未12月18日	横切継紙・1通	い398-3-2
請取申井領米之覚 子宝新田平左衛門→大宝前新田唯助	(正徳5年)未12月21日	堅切紙・1通	い398-3-3
引米覚	(正徳5年)未11月	横切紙・1通	い398-3-4
覚(大宝前新田用水井道広ゲ禿地井領米1斗9升を	寛保2年	堅紙・1通	い547-21

子宝新田庄屋へ渡すにつき下書)			
井領米之事 鳥ヶ地新田		封筒・1点	い503-1-0
井領米之事(請求につき) 鳥ヶ地新田庄屋松吉三四郎→神戸新田御庄屋衆中	嘉永4年12月	縦紙・1通	い503-1-1
覚(井領米請取につき) 鳥ヶ地新田庄屋→神戸新田御庄屋衆中	(嘉永4年)亥12月	横切紙・1通	い503-1-2
覚(井領米請取覚) 子宝新田源蔵→大宝前新田庄屋衆中	丑11月	堅切紙・1通	い436-1
覚(端米請取覚) 平島新田庄屋所→大宝前新田庄屋衆中	丑12月	横切紙・1通	い436-2
覚(井領米請取覚) 六条新田庄屋→御庄屋衆中	丑12月	横切紙・1通	い436-3
覚(米請取覚) 平島新田庄屋→大宝前新田御庄屋衆中	丑12月18日	横切紙・1通	い436-4
覚(井領米請取覚) 鳥ヶ地新田庄屋→大宝前新田御庄屋衆中	丑極月24日	横切紙・1通	い436-5
井領米之事 鳥ヶ地新田庄屋松吉三右衛門→大宝前新田庄屋唯助	丑12月	縦紙・1通	い436-6
覚(井領米請取覚) 子宝新田庄屋源蔵→大宝前新田庄屋衆中	寅12月12日	堅切紙・1通	い435-1
覚(井領米請取覚) 平島新田庄屋所→大宝前新田庄屋只助	寅12月20日	横切紙・1通	い435-2
覚(不足代請取覚) 六条新田	寅12月19日	小切紙・1通	い435-3
覚(井領米請取覚) 六条新田庄屋→大宝前新田庄屋衆中	12月19日	縦紙・1通	い435-4
覚(井領米請取覚) 鳥ヶ地新田庄屋松吉三右衛門→大宝前新田庄屋衆中	寅12月24日	横切紙・1通	い435-5
用水井道井領米之覚(水路の間数と井領米の書付、井領米代金受取印あり) 大宝新田庄屋孫八郎他2名→犬山屋文左衛門	寅12月	横切継紙・1通	い545
小書付入 午とし分		封筒・1点	い739-0
覚(小杓・よし・むしろ・くいなど代金書上) 鳥ヶ地惣助→小川只助	午12月	横切継紙・1通	い739-2
覚(井領米受取につき) 子宝新田庄屋源蔵→大宝前新田御庄屋衆中	午12月15日	縦紙・1通	い739-3
覚(用水入用受取につき) 松吉三右衛門→小川只助	午12月28日	小切紙・1通	い739-4
覚(井領米受取につき) 服部市兵衛→大宝前新田御庄屋中	午12月13日	小切紙・1通	い739-5
井領米目録		包紙・1点	い739-7-0
井領米之事(井領米七石式斗九升四合差し越しなさるべきにつき) 鳥ヶ地新田庄屋松吉三右衛門→大宝前新田庄屋唯助	午12月	縦紙・1通	い739-7-1
覚(井領米受取につき) 六条弥左衛門→大宝前新田只助	午12月	小切紙・1通	い739-8
覚(縄代金受取につき) 松吉三右衛門→犬飼平吉	午12月	横切紙・1通	い739-9

大宝前(神戸)新田/水利・防水ほか/井領米

覚(新井領・井領米受取につき) 鳥ヶ地新田庄屋所 →大宝前新田庄屋衆中	午12月25日	堅紙・1通	い739-10
--	---------	-------	---------

堤

乍恐奉願上候御事(南飛島開発のため堤丈夫普請 等願) 海西村三拾三ヶ村→小山清次郎陣屋	子6月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-12
乍恐奉伺上候御事(三稲下開発のため堤丈夫普請 等願)	子6月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-13
乍恐奉申上候御事(筏川先海口新開部分に囲堤難 所出来ないよう普請願) 海東海西三拾四ヶ村→ 矢野藤九郎陣屋	申9月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-15
新田堤塩垣積り覚(後半に諸事入用大概積)		横切継紙・1通	い477-13
覚(南かわ・三十番・三拾壹番堤の間数書上)		横切継紙・1通	い477-24
海西郡大宝前新田堤見分野帳(俵・縄・人足数の計 算)	享保7年11月2日	横長美(一ツ綴)・1冊	い415-10

通船

木挽町二丁目神銀之亮様 宝町6番戸神金吉→神銀 之亮		封筒・1点	い620-0
契約証書(神戸新田の池川通船に関わる取り決め、 控) →海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治36年	野紙(一ツ綴)・1冊	い620-1
神戸分左衛門様 佐野新蔵→神戸分左衛門	(近代)6月15日	封筒・1点	い620-2-0
(かねてよりの通船一件に対する御良考伺い申し 上げるにつき) 佐野新蔵→神戸分左衛門	(近代)6月15日	堅切紙・1通	い620-2-1
(修正中の張片の儀などにつき書状) →銀之亮	(近代)6月21日	横切継紙・1通	い620-3

その他

大宝新田長尾治右衛門より御陣屋へ歎訴之写(飛 島新田北土手井組御下金引訳け割戻し願、酉11 月、八島新田・大宝新田庄屋・組頭計4名→吉田助 次郎陣屋) 佐屋	嘉永3年正月上旬	堅半(二ツ綴)・1冊	い450
(大宝御用水、御奉行様お越しの上御伏せにつき書 状) 伊東庄兵衛→神戸分左	2月10日	横切継紙・1通	い477-22

公儀との関係

土地

書拔覚(神戸新田の不納地の高・反別・経緯の書拔 き)	(宝暦7～文政10年)	横切紙・1通	い608-8-3
(定引田地の経緯・反別書上)	(宝暦7～文政10年)	横切紙・1通	い608-8-4
乍恐御達奉申上候(神戸新田の定引地の反別、高、 経緯の上申下書) 神戸新田庄屋綱蔵→三村平六様 御陣屋	天保15年1月	堅紙・1通	い608-8-2
乍恐御達奉申上候(郷蔵地除地高書上) 右新田庄 屋綱蔵→山田貫一郎陣屋	子3月	堅紙・1通	い448-2
乍恐御尋につき御達申上候(神戸新田・同所内新 田・同所北新田ほか高反別書上) 右(海西郡神	子3月	堅半(二ツ綴)・1冊	い448-3

戸)新田庄屋綱像→山田貫一郎陣屋 乍恐奉願上候御事(古堤引概余分土を新田内低所 ならびに堤際不納所に入土地直し願) 右(海西 郡神戸)新田庄屋重右衛門	午9月	堅紙・1通	い448-1
芝場・葭生場			
寛延三年午夏より芝場境相願候巻絵図共ニ入	寛保3年	封筒・1点	い468-1-0
宝暦四年甲戌八月 (神戸新田扣芝場境坑位置絵 図)	宝暦4年8月	90×85・1舗	い468-1-1
(大宝前新田扣芝場絵図写、願書に添え野方役所へ 提出)	寛延3年4月28日	42×55(彩色)・1舗	い468-1-2
(大宝前新田扣芝場絵図写)		32×43・1舗	い468-1-3
(大宝前新田扣芝場絵図写)		32×40・1舗	い468-1-4
(飛鳥山における鯛浦勘左衛門・かにへ四郎左衛 門・六条弥五兵衛の山の略図・反別の書付) 鳥 かし平蔵・山方庄屋東福田弥六	宝永4年11月2日	小切紙・1通	い468-1-5
(大宝前新田扣芝場絵図写)		31×43・1舗	い468-1-6
(飛鳥山絵図)		25×34・1舗	い468-1-7
大宝前新田扣芝場(絵図)	寛延3年4月28日	42×55・1舗	い468-1-8
(飛鳥山など新田地反別・不納分反別など書上げ)		堅紙・1通	い468-2
乍恐口上之覚(当新田に船商売する者がいないの で石取船御入用の見積りを断るにつき) 大宝 前新田庄や唯助→郡御奉行所	8月15日	横切紙・1通	い468-3
(飛鳥山の間数・反別・元山主名書上げ)		堅紙・1通	い468-4
覚(大宝前新田築合四郎兵衛新田築合までの堤を うち立てる杭数御注進につき) 海部郡大宝前新 田地主犬山屋文左衛門→山方野方御奉行所	未4月	堅紙・1通	い468-5
乍恐奉願上候御事(大宝前新田控芝場境杭之儀に つき願書下書) 海部郡大宝前新田庄屋唯助→古川 定右衛門・蓬田利左衛門	寛延4年2月	堅紙・1通	い468-6
覚(大宝前新田三ヶ年極免高)	子九月	堅切紙・1通	い468-7
乍恐奉願上候御事(大宝前新田控芝場境杭再設 置につき願書扣) 海部郡大宝前新田地主分左衛門 →古川定右衛門・蓬田利左衛門	寛延4年正月	堅紙・1通	い468-8
乍恐口上之覚(残る飛鳥山・鍋蓋山・亀ヶ地前・四郎 兵衛新田走り境杭設置願下書) 海部郡大宝前新 田地主犬山分左衛門→山方野方御奉行所	未4月	堅紙・1通	い468-9
覚(芝場境杭数書付差出につき) 山方野方御奉行 所代→犬山屋分左衛門	3月26日	堅紙・1通	い468-10
乍恐奉願上候御事(大宝前新田堤外根走三拾間通 り・控芝場境杭去夏願い通り御立て願書写) 海 西郡大宝前新田地主元材木町文左衛門→古川定右衛 門・蓬田利左衛門	寛延4年2月	堅紙・1通	い468-12
覚(飛鳥山・鍋蓋山草生反別書上)		堅紙・1通	い468-13
(桴川通境川ならびに海辺野方改につき廻状) 富 田八郎兵衛→前ヶ次新田ほか新田庄屋26名	5月2日	堅紙・1通	い468-14

(海辺葭山見分に遺候につき) → 相山様	5月10日	横切継紙・1通	い468-15
覚(鍋蓋新田三ヶ年極免高) →	子9月	堅継紙・1通	い468-16
覚(神戸新田葭野など見取米割付状) 岡勝右→右 村庄屋・組頭・惣百姓	文化12年11月	堅継紙・1通	い503-2-5
覚(神戸新田葭野など見取米割付状) 岡勝右→右 村庄屋・組頭・惣百姓	文化13年11月	堅継紙・1通	い503-2-6
覚(神戸新田葭野など見取米割付状) 石小兵衛→ 右村庄屋・組頭・惣百姓	文政元年11月	堅継紙・1通	い503-2-8
覚(神戸新田葭野など見取米割付状) 岡勝右→右 村庄屋・組頭・惣百姓	文化14年11月	堅継紙・1通	い503-2-9
葭野御見分反別佐屋方御書付	天保7年6月8日	包紙・1点	い554-0
(神戸新田葭野の川欠地など起返し等閑にならざる よう心がけるべき旨) 矢藤九郎→右村庄屋	天保7年5月	横切継紙・1通	い554-1
覚(神戸新田葭野見取相済みにつき地代金の訳、当時 地主名前を陣屋へ通達すべきにつき廻状写) 新田庄屋綱蔵・忠兵衛→御地主様御勘定場	辰5月	堅紙・1通	い608-5-1
覚(神戸新田葭野反別書き上げ控) → 児玉貞一郎 様御陣屋		堅紙・1通	い608-5-2
(宝永四年以来の町数の変遷、葭野反別書き上げ)		横折紙・1通	い608-5-3
(葭野の年貢上納開始年、葭野の反別、新田反別など 書上)		横折紙・1通	い608-5-4
覚(神戸新田の反数、葭野反別お達し申し上げるにつ き控)		堅紙・1通	い608-5-5
乍恐奉申上候御事(鳥ヶ地前野沢新葭生場四ヶ所 争論内済につき四ヶ所之様にする事の願書下 書)		堅切紙・1通	い445-2-29
乍恐御達奉申上候(犬山屋文左衛門控葭野反別書 上、絵図つき) 右(海西郡神戸)新田庄屋→水野篤 助様御陣屋	戊4月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-22

村況

御用 相羽和兵衛・桑原茂助→犬山屋分左衛門		封紙・1点	い415-5-0
(大宝前新田成立よりの諸書類写提出につき書状) 相羽和兵衛・桑原茂助→犬山屋分左衛門	2月8日	横切継紙・1通	い415-5-1
乍恐奉願上候御事(水害につき収獲見込み分かり 申さざるにつき) 右新田庄屋綱蔵→山田貫一郎様 御陣屋	卯8月21日	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-21
(大宝前新田開発証文持参につき) 河野猪左衛門・ 山田奎右衛門→神戸分左衛門	9月3日	横切継紙・1通(封紙付)	い547-2
(大宝前新田高・町数の照会につき) 神藤林蔵・樋 口藤兵衛→犬山屋文左衛門	8月8日	横切継紙・1通	い547-3
(大宝前新田の内から四郎兵衛へ替地を渡した年 暦など尋ねたき儀があるにつき役所への出頭要 請) 森村甚左役所→犬山屋文左衛門	8月17日	堅継紙・1通	い547-6
(大宝前新田開発時の山・川主との関係、新田の上 納、敷金金額などの照会) 齊藤林蔵・樋口藤兵衛	8月5日	堅継紙・1通	い547-16

→犬山屋文左衛門 (大宝前新田最初取立ての町数、年数、敷金などの儀一両日中に指し出すべき旨写) 山方野方役所 →犬山屋分左衛門 (証文引・定引所の年数や様子など陣屋に指し出すべきにつき触書写か)	7月25日	縦継紙・1通 縦紙・1通	い608-6 い608-8-1
年貢			
免定			
享保十七年子ヨリ寅迄御免不見候		縦紙・1通	い730-3-53
寛(海西郡四郎兵衛新田見取所水損により無年貢申付けににつき) 森村甚左→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛延元年11月	縦継紙・1通	い730-3-39
宝暦六子年御免定不見候		縦紙・1通	い730-3-31
宝暦十三未ヨリ明和元申迄御免定不見候		縦紙・1通	い730-3-26
寅年免定(海西郡大宝前新田) 大橋新右→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和7年11月	堅美継紙・1通	い731-1
酉年免定(海西郡大宝前新田) 中彦三郎→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛政元年11月	堅美継紙・1通	い731-14
戌ノ年免定(海西郡大宝前新田) 本勘蔵→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛政2年11月	堅美継紙・1通	い731-15
免定(海西郡大宝前新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政3年11月	堅美継紙・1通	い731-16
免定(海西郡大宝前新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政4年11月	堅美継紙・1通	い731-17
免定(海西郡大宝前新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政5年11月	堅美継紙・1通	い731-18
免定(海西郡大宝前新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政6年11月	堅美継紙・1通	い731-19
免定(海西郡大宝前新田) 加久右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政7年11月	堅美継紙・1通	い731-20
免定(海西郡大宝前新田) 加久右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政8年11月	堅美継紙・1通	い731-2
巳年免定(海西郡大宝前新田) 木亀三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政9年11月	堅美継紙・1通	い731-3
午年免定(海西郡大宝前新田) 木亀三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政10年11月	堅美継紙・1通	い731-4
未年免定(海西郡大宝前新田) 木弥次左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政11年11月	堅美継紙・1通	い731-5
申年免定(海西郡大宝前新田) 木弥次左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政12年11月	堅美継紙・1通	い731-6
酉年免定(海西郡大宝前新田) 織源七→右村庄屋・組頭・惣百姓	享和元年11月	堅美継紙・1通	い731-7
戌年免定(海西郡大宝前新田) 織源七→右村庄屋・組頭・惣百姓	享和2年11月	堅美継紙・1通	い731-8

大宝前(神戸)新田/公儀との関係/年貢/免定

子年免定(海西郡大宝前新田) 長藤助→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化元年11月	豎美紙(ニツ綴)・1冊	い731-9
免定(海西郡大宝前新田) 金市之進→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化2年11月	豎美継紙・1通	い731-10
免定(海西郡大宝前新田) 金市之進→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化3年11月	豎美継紙・1通	い731-11
(当卯年極免年限中であるため御免定が発給されなかったことを記し置くにつき)	文化4年11月	豎美継紙・1通	い731-12
免定(海西郡大宝前新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化5年11月	豎美継紙・1通	い731-13
免定(海西郡大宝前新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化7年11月	豎美継紙・1通	い731-21
免定(海西郡大宝前新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化12年11月	豎美継紙・1通	い731-22
免定(海西郡神戸新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化13年11月	豎美継紙・1通	い731-23
免定(海西郡神戸新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化14年11月	豎美継紙・1通	い731-24
免定(神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政元年11月	横美継紙・1通	い729-12
免定(神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政2年11月	横美継紙・1通	い729-11
免定(神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政3年11月	豎美継紙・1通	い729-3
免定(神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政4年11月	豎美継紙・1通	い729-4
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政4年11月	豎美継紙・1通	い729-20
免定(海西郡神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政5年11月	豎美継紙・1通	い731-25
免定(海西郡神戸新田) 石小兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政6年11月	豎美継紙・1通	い731-26
免定(神戸新田) 馬九八郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政7年11月	豎美継紙・1通	い729-5
文政八酉ヨリ天保四巳迄、内丑年壺ヶ年不足		包紙・1点	い729-25-0
酉年免定(神戸新田) 馬九八郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政8年11月	豎半(ニツ綴)・1冊	い729-25-1-1
免札(神戸新田) 馬九八郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政9年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-2
免札(神戸新田) 三喜右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政10年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-3
免札(神戸新田) 三喜右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政11年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-4
免札(神戸新田) 織大助→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政13年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-5
免札(神戸新田) 織大助→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保2年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-6
免札(神戸新田) 織大助→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保3年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-7
免札(神戸新田) 矢藤九郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保4年11月	横美継紙・1通	い729-25-1-8
天保五年ヨリ同拾四年迄拾ヶ年		包紙・1点	い729-24-0
免定(神戸新田) 矢藤九郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保5年11月	豎美継紙・1通	い729-24-1-1

免定(神戸新田) 矢藤九郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保6年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-2
免定(神戸新田) 矢藤九郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保7年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-3
免定(神戸新田) 水篤助→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保8年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-4
免定(神戸新田) 水篤助→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保9年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-5
免定(神戸新田) 小清次郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保10年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-6
免定(神戸新田) 三平六→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保11年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-7
免定(神戸新田) 三平六→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保12年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-8
免定(神戸新田) 三平六→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保13年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-9
免定(神戸新田) 三平六→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保14年11月	堅美継紙・1通	い729-24-1-10
天保拾五辰ヨリ嘉永七寅迄拾ヶ年分		包紙・1点	い729-22-0
免定(神戸新田) 児貞一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天保15年10月	堅美継紙・1通	い729-22-1-1
免定(神戸新田) 児貞一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	弘化2年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-2
免定(神戸新田) 児貞一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	弘化3年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-3
免定(神戸新田) 児貞一郎、吉助次郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	弘化4年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-4
免定(神戸新田) 吉助次郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永元年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-5
免定(神戸新田) 吉助次郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永2年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-6
免定(神戸新田) 吉助次郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永3年12月	堅美継紙・1通	い729-22-1-7
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永4年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-8
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永5年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-9
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永6年11月	堅美継紙・1通	い729-22-1-10
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	嘉永7年11月	堅美継紙・1通	い729-23
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	安政2年11月	堅美継紙・1通	い729-21
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	安政3年11月	堅美継紙・1通	い729-16
免定(神戸新田) 山貫一郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	安政5年11月	堅美継紙・1通	い729-15
(神戸新田よりの上納金額書付)	(安政5年)午12月	堅切紙・1通	い729-17
(元金・利金書上げ) 犬山屋文左衛門	(安政5年カ)	堅切紙・1通	い729-18
(安政2~4年の高書付)	(安政5年カ)	堅切紙・1通	い729-19
安政六年未冬御免定	安政6年	包紙・1点	い729-14-0
免定(神戸新田) 次重五郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	安政6年11月	堅美継紙・1通	い729-14-1
申年御免札 十一月十九日下ル 名代忠蔵	(万延元年)申	包紙・1点	い729-9-0
免札(神戸新田) 一庄左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	万延元年11月	堅美継紙・1通	い729-9-1
文久元酉年御免定	文久元年11月	包紙・1点	い729-2-0
免定(神戸新田) 一庄左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	文久元年11月	堅美継紙・1通	い729-2-1

免定(神戸新田) 一庄左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	文久2年11月	横美継紙・1通	い729-13
文久三亥年御免定 十一月廿六日下ル 名代辰右衛門 名代辰右衛門		包紙・1点	い729-1-0
免定(神戸新田) 金五郎兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	文久3年11月	堅美継紙・1通	い729-1-1
子ノ年御免定 十一月廿七日佐屋御陣屋ヨリ御下ケ 忠蔵持参之事	(元治元年子11月)	包紙・1点	い729-8-0
免定(神戸新田) 金五郎兵衛→右村庄屋・組頭・惣百姓	元治元年11月	堅美継紙・1通	い729-8-1
丑年御免札 十一月十一日庄屋唯助持参之事	慶応元年11月	包紙・1点	い729-6-0
免札(神戸新田) 岡新吾→右村庄屋・組頭・惣百姓	慶応元年11月	堅美継紙・1通	い729-6-1
寅年御免相、神戸新田、十一月十八日佐屋御陣屋ヨリ御下ケ組頭忠蔵持参いたし候	11月	包紙・1点	い729-10-3-0
免定(神戸新田) 岡新吾→右村庄屋・組頭・惣百姓	慶応2年11月	横美継紙・1通	い729-10-3-1

その他

御年貢上納目録 大宝前新田	享和3年12月	堅半・(一ツ綴)・1冊	い410
(文化7年御物成のうちお広井御蔵受取通い) 岡勝右衛門手付田辺八十次・三浦吉助ほか1名	(文化7年)	横折紙・1通	い739-14
佐屋御陣屋ヨリ山起御見取ニ被仰付、ならびに汐抜江禿地御年数引被仰付候書付二通入	文化12年6月2日	包紙・1点	い556-0
(神戸新田見取地汐抜江禿地田4反3畝6歩年数引とするにつき) 岡勝右→右新田庄屋	文化12年6月	横切継紙・1通	い556-1
(神戸新田見取地4町1反6畝10歩年々検見之上御年貢上納之筈につき)	(文化12年)亥6月	横切継紙・1通	い556-2
乍恐御達奉申上候(宝暦7年入水による定引高書上げ) 神戸新田庄屋綱蔵・同断忠兵衛→三村平六陣屋	天保15年正月	堅紙・1通	い449-4-2
乍恐奉願上候御事(大風水損のため増上納御勘弁願) 飛島新田・服岡新田・重宝新田・八島前新田地主惣代、材木町犬山屋文左衛門・熱田新田内田忠蔵・茶屋町伊藤次郎左衛門ほか地主8名→吉田助次郎陣屋	嘉永3年9月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-4
乍恐奉申上候御事(神戸新田定免高減免願)		堅半(一ツ綴)・1冊	い448-16
(藩役人人名覚書)	(10月26日)	堅切紙・1通	い449-17-1
(検見日記)	(10月26日～晦日)	堅半(一ツ綴)・1冊	い449-17-2

諸役

請取申野方御年貢米之事(大宝前新田、鍋蓋・山下・飛島共野方御年貢米代金銀受取につき) 左次兵衛・平蔵→文左衛門	(正徳5年)未12月	横切継紙・1通	い398-2-1
覚(大宝前新田入用等請取につき) 鳥ヶ地平蔵→分左衛門	(正徳5年)未極月	横切紙・1通	い398-2-2
納米上乘	(正徳5年)未11月	横切継紙・1通	い398-2-3
覚(大宝前新田鳥運上受取につき) 津島鳥屋源七	(正徳5年)未6月19日	横切紙・1通	い398-2-4

郎→大宝前新田唯助			
覚(柳枯草上納銀受取書) 中川又兵衛・柴田林太夫 →海西郡観前新田庄屋中	享保10年12月	横切継紙・1通	い467-6-22
御約定定納金書入	文化3年正月6日	紙袋・1点	い540-0
(夫銀受取りにつき) 佐屋陣屋→右村(大宝前新田) 庄屋	(文化3年)寅2月	小切紙・1通	い540-1
((堤銀9匁9分受取につき) 佐屋陣屋→右村(大宝前 新田)庄屋	(文化3年)寅12月	小切紙・1通	い540-2
覚(柳枯草代45匁3分受取につき) 佐屋陣屋→右村 (大宝前新田)庄屋	(文化3年)12月5日	小切紙・1通	い540-3
覚(柳枯草代46匁4分受取につき) 佐屋陣屋→右村 (大宝前新田)庄屋	(文化3年)12月5日	小切紙・1通	い540-4
(麦代金1両2分受取につき) 金森市之進手附不破五 助・三浦又五郎→右村(大宝前新田)庄屋中	(文化3年)寅5月10日	小切紙・1通	い540-5
覚(傳馬代金請取につき) 田辺伊兵衛・不破五助・三 浦久四郎→右村(大宝前新田)庄屋	(文化3年)寅6月5日	小切紙・1通	い540-6
覚(傳馬金2両3分・銀4匁9分受取につき) 佐屋陣 屋→右村(大宝前新田)庄屋	(文化3年)寅10月	小切紙・1通	い540-7
覚(傳馬銀金3両受取につき) 佐屋陣屋→右村(大宝 前新田)庄屋	(文化3年)寅6月	小切紙・1通	い540-8
覚(御物成のうち餅米・端米など受取につき) 佐 屋手限り吟味方田辺伊兵衛・不破五助・三浦久四郎→ 右(大宝前新田)庄屋中	(文化3年)12月4日	堅切紙・1通	い540-9
小書付入午とし分		封筒・1点	い739-15-0
御役所御三役上納受取書付入	文化7年1月	封筒・1点	い739-15-1-0
覚(大宝前新田柳枯草代銀受取につき) 佐屋陣屋 →右村庄屋	(文化7年)午12月	小切紙・1通	い739-15-1-1
覚(大宝前新田堤銀受取につき) 佐屋陣屋→右村 庄屋	(文化7年)午12月	小切紙・1通	い739-15-1-2
覚(大宝前新田伝馬銀受取につき) 佐屋陣屋→右 村庄屋	(文化7年)午10月	小切紙・1通	い739-15-1-3
覚(大宝前新田御国役銀受取につき) 佐屋陣屋→ 右村庄屋	(文化7年)午8月	小切紙・1通	い739-15-1-4
「金三兩三分也…」(大宝前新田分金額書付)	(午)	堅切紙・1通	い739-15-2
(大宝前新田年貢代銀受取につき) 岡勝右衛門手 附松山作左衛門、同三浦又四郎→右村庄屋中	午11月11日	堅継紙・1通	い739-15-3
(大宝前新田餅米・七合物代など受取につき) 岡 勝右衛門手附松山作左衛門、同三浦又四郎→右村庄屋 中	午12月12日	堅切紙・1通	い739-15-4
覚(大宝前新田去巳年置米返納米5斗代金受取につ き) 岡徳右衛門手付三浦七左衛門→右村庄屋中	午12月18日	堅切紙・1通	い739-13
乍恐御達申上候御事(当新田漏潮痛領米の代金34 両を犬井・善太両村から受取につき) →浅井茂 左衛門・村佐五右衛門・柴伝六・鳥居覚右衛門	戌3月	横切継紙・1通	い547-4-1
覚(御居米高、金額書付) 庄や惣兵衛		堅継紙・1通	い547-4-2

大宝前(神戸)新田/公儀との関係/諸役

洩瀬痛(町名、織物種類など書付)		小切紙・1通	い547-4-3
乍恐口上之覚(犬井村善太新田両村より上納の鍋蓋新田の内洩瀬痛領米分の取り替え上納につき下書) 文左衛門・次郎左衛門	戊3月25日	横切継紙・1通	い547-4-4-1
(不調法の儀ご勘弁くだれたきにつき)		断簡・1点	い547-4-4-2
覚(柳枯草堤銀引当等書上) 新田庄屋→御地主様御勘定場	戊12月	横切紙・1通	い412-13
(柳枯草場図面陣屋へ提出につき書状) 新田忠右衛門→御地主様御勘定場	8月8日	竖紙・1通	い449-5

調達金

卯暮 調達金御利御書付式通	(寛政3年)卯	封筒・1点	い526-1-0
(大宝前新田調達金利息につき)	(寛政3年カ)	小切紙・1通	い526-1-1
(大宝前新田調達金のうち当卯返金分につき) 只助・重右衛門	(寛政7年カ)	竖切紙・1通	い526-1-2
調達金御手形 末年御年貢差継 辰十二月十六日上納 辰右衛門		包紙・1点	い495-10-0
調達金之事(御用調達金請取、年貢米を以って差越しにつき) 佐屋陣屋→神戸新田庄屋	弘化3年12月	竖切紙・1通	い495-10-1
(神戸新田分元利金書上)		横切継紙・1通	い495-10-2
締役より之廻文御達之写(拾万両講調達金請書提出につき)、乍恐御請奉申上候御事(割当金高減少または年延願、服部市兵衛ほか3名→三村平六様御陣屋) 三村平六様御陣屋→神戸新田ほか10ヶ村御庄屋衆中	丑10月17日	竖半(一ツ綴)・1冊	い446

その他

(新田の住居百姓人別帳を一兩日中に差し出すべきにつき) 岡勝右→大宝前新田庄屋	(文化7年)1月20日	横切継紙・1通	い541-10-1
新田百姓引越旁書付入、文化七年人家御改につき改之覚	文化7年	包紙・1点	い541-10-0
(年号など書付)	(文化7年)	横切継紙・1通	い541-10-2
此壺通ト先達而佐屋御陣屋へ差上候三通共、都合四通、文化十四年九月十六日御勘定所上ル写	文化14年9月16日	包紙・1点	い541-0
御勘定所へ御呼出被仰付御書付也、尤其段御支配へ御達奉申上候	天保14年7月10日	包紙・1点	い551-0
(神戸新田去る丑年立田輪中入水の節窮民へ施し致し小屋取建て奇特につき) →惣代金七へ	(天保14年)7月	横切紙・1通	い551-1
覚(手形9通、書付類25通預かるにつき書付写) 佐屋陣屋→大宝前新田庄屋・組頭	辰11月23日	竖切紙・1通	い541-14
(大宝前新田の儀格別の入用もなきにつき諸入用帳差し出し申さざる旨御断) 犬山屋右地主文左衛門	申4月	竖切継紙・1通	い547-10
(今般支配所割替、宗門改めにつき廻状) 岡田利左→小宝・大宝・大宝前ほか10ヶ村	戊3月17日	横切紙・1通	い504-6
(代官様割り替えも済み、代官衆へも御見廻り申上	3月21日	横切継紙・1通	い504-5

げるべきか窺いにつき書状) 小川唯助→奥田平治			
(当新田宗門改につき書状) 小川氏→奥田	3月21日	小切紙・1通	い504-7
(大宝前新田から村入用帳未だ提出なき旨) 森村甚左衛門役所→犬山屋文左衛門	4月7日	堅継紙・1通	い547-7
乍恐書付を以奉申上候(小作掟帳十ヶ年分提出につき、綴じられており内容不明) 犬山屋文左衛門	6月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-20

地租

神戸新田明治九年地租未納金延納願書面ならびに指令、同字イノ割り十五番田地内ニ電信柱打ち立てにつき伺ヒ書面、メ式通入		封筒・1点	い604-0
明治九年分改正未納金年賦延納の儀につき願／戸長早川忠兵衛・海東海西郡長横田太郎奥印、愛知県による開届けの旨の朱書 新田地主神戸分左衛門→愛知県令安場保和	明治12年7月	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い604-1
伺(地所所有者に無断で電信柱を建てたことにつき)／戸長・郡長奥印、照会漏れにつき説諭につき伺書返却との県令の回答写 神戸分左衛門→愛知県令安場保和	明治12年5月	罫紙・1冊	い604-2
神戸新田 延納一時上納願書	明治19年2月8日	封筒・1点	い602-0
延納金一時上納願(明治9年の地租未納金を一時に納入いたしたきにつき) 海西郡神戸新田地主、同新田2番居住神戸分左衛門→愛知県令勝間田稔	明治19年2月3日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い602-1
明治十年七月廿五日本県六等属横田太郎殿ヨリ達 地租改正申渡書	明治10年7月25日	包紙・1点	い598-0
(神戸新田の田・畑・宅地反別、地価金額、地租金額書き上げ)		堅美紙・1通	い598-1

県・郡との関係

開墾

神戸新田字むノ割四百六十六番地反別老反六畝三歩開墾願書ならびに指令	明治12年1月	封筒・1点	い605-0
池反別開拓願／郡長奥書、愛知県の許可文言朱書 地主神戸分左衛門・用係早川忠兵衛→愛知県令安場保和	明治12年1月	罫紙・1冊	い605-1
神戸新田字ト之割百八十二番地開墾願書		封筒・1点	い614-0
開墾歛下年期願 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→愛知県令勝間田稔	明治19年5月25日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い614-1-1
野取実測絵図面帳 海西郡神戸新田地主神戸分左衛門→愛知県令勝間田稔	明治19年5月25日	堅半(一ツ綴)・1冊	い614-1-2
(新田開墾歛下年期願い指令を下付するので出頭を申し渡されたき旨) 収税係→海西郡榑新田外五ヶ村戸長役場	明治19年6月24日	横切継紙・1通	い614-2
開墾歛下年期願 海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛知県令勝間田稔	明治18年11月3日	罫紙・1冊	い614-3-1
野取実測絵図帳 海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛	明治18年11月3日	堅半(一ツ綴)・1冊	い614-3-2

知県令勝間田稔			
開墾願御指令御取消願(開墾成功の目的なきにより開墾とをやめるにつき御指令取り消し願)海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門→愛知県令勝間田稔	明治19年3月15日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い614-4
神戸新田ちノ割百八拾三番・百八拾八番、りノ割百八拾九番内書反別開墾願書(廿七年五月廿三日)写ならびに指令		封筒・1点	い622-0
明治廿七年内書反別開墾届(神戸新田ち・りの割)地主神戸分左衛門代小川綱蔵→愛知県知事時任為基	明治27年5月23日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い622-1-1-1
愛知県指令第1795号(開墾素地地価書面の通り定めるにつき) 愛知県知事時任為任→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治27年11月2日	「愛知県」用箋・1通	い622-1-1-2
明治廿七年内書反別開墾願(神戸新田り・ぬの割)地主神戸分左衛門代竹内辰右衛門→愛知県知事時任為基	明治27年7月20日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い622-1-2-1
愛知県指令第1795号(開墾素地地価書面の通り定めるにつき) 愛知県知事時任為基→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治27年11月2日	「愛知県」用箋・1通	い622-1-2-2

道路修繕

前ヶ須街道修繕ニヨリ神戸新田字イ之割拾五番田・拾六番地ニ売地成につき明治十三年七月二四日付伺書		封筒・1点	い591-1
民有地開墾歟下年季願 尾張国海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治16年2月21日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い591-2-1
開墾費用潰却方法取調書 尾張国海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治16年2月21日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い591-2-2
神戸新田戸長役場 愛知県海東・海西郡役所→神戸新田戸長役場		封筒・1点	い591-3
願(道路改修によって潰地となった場所の回復、もしくは旧道敷地下付願) 海西郡神戸新田二番地神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治15年9月12日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い591-4-1
伺(子宝新田吉田新七郎主宰にして突然人夫をいれ、私田地を潰し道路敷地としたことにつき) 尾張国海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛知県令国貞廉吉	明治13年7月24日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い591-4-2
(神戸新田などの耕地、境界、新旧街道の位置関係絵図)		縦紙・1通	い591-4-3
御下渡旧道路敷地価上申 海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治16年2月12日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い591-5
前ヶ須街道道路修繕ニ付潰地除税願 海西郡神戸新田右新田地主神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治16年2月28日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い591-6-1
(道路幅広全図) 海西郡神戸新田地主惣代竹田辰右衛門他2名		縦紙・1通	い591-6-2
伺(子宝新田吉田新七郎が自分の田地に突然人夫をいれたことは命令によるものか吉田の個人的な意図によるものかの照会) 尾張国海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛知県令国貞廉平	明治13年7月24日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い591-7

土地台帳訂正

神戸新田字内新田四百六十四番堤敷正誤願		封筒・1点	い616-0
堤塘敷地誤謬訂正願 海西郡宝地村大字神戸28番戸 神戸分左衛門→愛知県知事岩村高俊→代理愛知県書記 官柳本直太郎	明治23年1月17日	罫紙・1冊	い616-1-1
野所絵図 海西郡宝地村大字神戸持主神戸分左衛門		罫紙・1通	い616-1-2
(字内新田イ464番第一はじめ地種組換地価査定ノ 件免許につき) 愛知県知事岩村高俊→海西郡宝地 村大字神戸新田地主神戸分左衛門	明治24年1月29日	「愛知県税務部」用箋・1 通	い616-2
(民有堤塘のうち地目誤謬訂正願いの件免許につ き) 愛知県知事岩村高俊→海西郡宝地村大字神戸 28番戸神戸分左衛門	明治23年12月15日	「愛知県」用箋・1通	い616-3
民有堤塘の内地目誤謬訂正願写 海西郡宝地村大 字神戸28番戸神戸分左衛門→愛知県知事岩村高俊	明治23年7月25日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い616-4-1
野所絵図 海西郡宝地村大字神戸地主神戸分左衛門		罫紙・1通	い616-4-2
地目誤謬免許につき地種組替地価上申 海西郡宝 地村大字神戸新田 尾張国海西郡宝地村大字神戸 新田28番戸地主神戸分左衛門不在ニ付代理早川忠兵 衛→愛知県知事岩村高俊	明治23年12月24日	罫紙・1通	い616-5
(地目誤謬訂正願いに際し当該箇所を堤塘と草生 とに分けたことへの照会に対する回答) 海西 郡宝地村長佐野俵八→海東西郡役所農商係御中	明治23年8月21日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い616-6-1
明治六年酉八月神戸新田検地帳之写		「神戸氏蔵」用箋・1通	い616-6-2
追申書(神戸新田地内を堤塘と草生とに分離した ことへの照会に対する回答追申) 愛知県海西郡 宝地村長佐野俵八→海東西郡役所農商係御中	明治23年8月30日	「愛知県海西郡宝地村 役場用紙」用箋・1冊	い616-6-3
諸帳簿引渡目録 旧副戸長早川忠右衛門→第6区戸長 下村八郎	明治9年9月3日	「愛知県海西郡宝地村 役場用箋」・1通	い616-6-4
神戸新田略図		罫紙・1通	い616-6-5
諸帳簿引渡目録 旧副戸長早川忠右衛門→第6区区长 下村八郎	明治9年9月3日	罫紙・1冊	い616-7-1
(神戸新田の図面)		罫美紙・1通	い616-7-2
二十四年十月廿六日付神戸新田字をノ割二百五拾 一番初メ誤謬訂正願書字ならびに指令 →神戸 分左衛門	明治24年10月26日	封筒・1点	い582-0
愛知県指令第1032号(字をノ割251番初め誤謬訂正 ノ件許可につき) 愛知県知事岩村高俊	明治25年1月13日	罫紙・1通	い582-1
明治廿四年 誤謬御訂正願 海西郡宝地村大字神 戸新田 神戸分左衛門→愛知県知事岩村高俊	明治24年	罫紙・1冊	い582-2
神戸新田字リ之割式百九番初メ式筆土地整理地図 訂正願書写ならびに指令九月三十日附	明治28年10月4日	封筒・1点	い589-0
神戸新田の2筆の田地地目変換に際してかかる登 録税の儀につき	明治32年5月	封筒・1点	い589-1-0
(神戸新田の田地の地目変換に際し土地台帳登録 税に関わる附属書を作成し所轄の税務署へ差し 出すべき旨) 名古屋税務管理局長菊池良	明治32年1月31日	「名古屋税務管理局」用 箋・1通	い589-1-1
(神戸新田の田地2筆の土地整理図訂正の件聞き届	明治28年9月30日	「愛知県」用箋・1通	い589-2-1

大宝前(神戸)新田/県・郡との関係/土地台帳訂正

けにつき) 愛知県知事時任為基代理愛知県書記官 岩男三郎→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門			
地図訂正願 宝地村大字神戸新田地主神戸分左衛門代 人井内庄右衛門→愛知県知事時任為基	明治28年9月30日	罫紙・1通	い589-2-2
(字り之割の図面)	(明治年間)	縦継紙・1通	い589-2-3
(北新田東ノ切の図面)	(明治年間)	罫紙・1通	い589-2-4

地目更正

廿五年三月十六日付上申神戸新田四ノ割六拾一番 始三筆地種組換地地価上申願書写ならびに指令		封筒・1点	い603-0
(五筆の地目更正を免許するにつき) 愛知県知事 時任為基→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治26年10月24日	「愛知懸」用箋・1通	い603-1
地目御更正願(ろの割18番地ほか6筆) 海西郡宝地 村大字神戸新田神戸分左衛門→愛知県知事千田貞暁	明治25年3月22日	罫紙・1通	い603-2
(字をの割250番地など11筆の地目更正を免許する につき) 愛知県知事時任為基→海西郡宝地村大字 神戸新田神戸分左衛門	明治26年10月24日	「愛知県」用箋・1通	い603-3-1
地目御更正願(字をの割250番他10筆) 海西郡宝地 村大字神戸新田神戸分左衛門→愛知県知事千田貞暁	明治25年3月12日	罫紙・1冊	い603-3-2
(字れの割389番地の第一地種組換地の地価書面の 通り定めるにつき) 愛知県知事時任為基→海西 郡宝地村大字神戸新田人民総代神戸分左衛門	明治26年8月15日	罫紙・1通	い603-4-1
地価上申書(雑種地1畝19歩) 海西郡宝地村大字神 戸新田神戸分左衛門代印小川綱蔵→愛知県知事時任 為基	明治26年5月18日	罫紙・1通	い603-4-2
(字れの割382番地の第一地種組換地地価書面のと おり定めるにつき) 愛知県知事時任為基→海西 郡宝地村大字神戸新田人民総代神戸分左衛門	明治26年8月15日	「愛知県」用箋・1通	い603-5
(字にノ割61番など3筆の地種組換地の地価を書面 のとおり定めるにつき) 愛知県知事時任為基	明治26年8月7日	「愛知県」用箋・1通	い603-6
地目変換願(神戸新田字にノ割61番など3筆) 海 西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門→愛知県知事 千田貞暁	明治25年3月16日	罫紙・1通	い603-7

不明

覚(餅米端米七合物三口引当金書上) 新田庄屋→ 御地主様御勘定場	(近世)戌年3月5日	横切継紙・1通	い412-12
(へ・と・ちの割面積覚書)	(近世)	小切紙・1通	い412-14
(面積覚書)	(近世)	横切紙・1通	い412-15
引場田覚	(近世)	横切紙・1通	い412-16
(大宝前新田ちの割略絵図)	(近世)	25×34・1鋪	い412-17
(金銀覚書)	(近世)	小切紙・1通	い415-12
(小作人ごとに子から辰年の少量の米高を書上げ た帳面)	(近世後期)	横長半(一ツ綴)・1冊	い463-9
(割ごとの 石高書付、酉年分)	(近世)酉	横切紙・1通	い541-8-1

(地字・石高書付、申年分)	(近世)申	横切紙・1通	い541-8-2
(申年の石高書付断簡)	(近世)申	断簡・1点	い541-8-3
(寅・卯年の割ごとの高およびその平均の書付)	(近世)	横継紙・1通	い541-16
忠兵衛より金百四拾貳円受取(紙背は明治17年分 新田収支書上)	明治28年6月28日	包紙・1点	い547-8
記(割ごとの石高書付)		横長半(一ツ綴)・1冊	い463-7
記(小作人ごとの米高書上)		横長半(一ツ綴)・1冊	い461-3
御極メ高覚(高、人名書上)		横切継紙・1通	い608-8-6

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

四郎兵衛新田

この新田は1704（元禄17）年の開墾でその南側に大宝前（神戸）新田が存在する。現在は愛知県弥富市に属する。平凡社地名辞典に引用されている「尾張徇行記」によれば、同新田の地積は田畑15町1反4畝余あり、四郎兵衛という者が開発したが子孫は断絶している、東蜆・西蜆新田の宝川古堤外に開発された新田で、集落は古堤上にある、住人は小百姓ばかりで、大宝前新田が開発されたとき代地と引き替えに「内海用」になり年々不納であったが願いによって「引地」に立てられたという。

（その2）に編成した「四郎兵衛新田一件書抜帳」（あ3340-3）によれば、神戸家と四郎兵衛新田の関わりは1707（宝永4）年の大宝前新田開発に遡る。すなわち、大宝前新田開発時に、「悪水落江道」を四郎兵衛新田内に掘り割り、その替え地として大宝前新田の内から13町分を四郎兵衛新田に引き渡した。その後、1723（享保8）年の洪水破堤に伴い、大宝前新田を50町歩に縮小したため、替え地も半分の6町5反歩にした。その時点の替え地「扣主」は、竹田村庄右衛門・鯉ヶ地村紋左衛門・東蜆村治郎兵衛・四郎兵衛新田百姓藤左衛門・名古屋元材木町犬山屋分左衛門（2町4畝歩）であった。その後、1758（宝暦8）年12月に金融の結果として竹田村広田庄右衛門から同新田御見取所を合計155両で取得し、絵図・御免定・小作掟帳などを引き継いだ（い285-101、104）。

今回目録収録分で特徴的なのは、享保期（1720年代）から文政期（1820年代）の年貢免状類81通である。

全体

取得

覚(大宝前新田堤出来の上四郎兵衛新田へ代地渡しにつき) 犬山屋分左衛門	4月	竖紙・1通	い469
-------------------------------------	----	-------	------

地主引継文書

御替地拾三町之内扣田地之覚	正徳2年5月	竖紙・1通	い506
当辰年壹ヶ年切に御請申田地之事 四郎兵衛新田 請主徳兵衛・同村請人市右衛門→兼山村庄右衛門・犬山唯助	正徳2年5月	竖紙・1通	い515

掟米徴収

掟米運搬

覚(御蔵米積送につき) 四郎兵衛新田藤吉→川合嘉兵衛	(寅)極月23日	竖切紙・1通	い445-3-3
覚(四郎兵衛新田米積送につき) 右新田庄屋徳兵衛→納屋問屋甚助	辰12月15日	竖切紙・1通	い445-1-48

経営費用

覚(四郎兵衛新田惣堤普請人足人数・賃金勘定)	12月8日	竖継紙・1通	い493-1
覚(人足人数・賃金勘定)	子12月	竖継紙・1通	い493-2
覚(人足人数・賃金勘定)	子12月	竖継紙・1通	い493-3

年貢・村入用負担
免札ほか

覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取とするにつき) 河村嘉左衛門→右村庄屋中	享保16年11月	堅美継紙・1通	い730-3-54
定(海西郡四郎兵衛新田定納米相極めるにつき) 尾崎門左衛門→右村庄屋中	享保20年11月	堅美継紙・1通	い730-3-52
定(海西郡四郎兵衛新田定納米相極めるにつき) 近松孫兵衛→右村庄屋・組頭・小百姓中	元文元年11月	堅美継紙・1通	い730-3-51
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相極めるにつき) 近松孫兵衛→右村庄屋	元文2年11月	堅美継紙・1通	い730-3-50
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相極めるにつき) 近松孫兵衛→右村庄屋・組頭・小百姓中	元文3年11月	堅美継紙・1通	い730-3-49
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相極めるにつき) 近松孫兵衛→右村庄屋・組頭・小百姓	元文4年11月	堅美継紙・1通	い730-3-48
定(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相極めるにつき) 近松孫兵衛→右村庄屋・組頭・小百姓	元文5年11月	堅美継紙・1通	い730-3-47
定(当酉年水損につき) 近松孫兵衛→右村庄屋	寛保元年11月	堅美継紙・1通	い730-3-46
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取申し付けるにつき) 天野次郎右→右村庄屋・組頭・百姓中	寛保2年11月	堅美継紙・1通	い730-3-45
「寛保三亥年御免定不見候」		堅切紙・1通	い730-3-44
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取申し付けるにつき) 天野次郎右衛門→右村庄屋・組頭・百姓中	延享元年11月	堅美継紙・1通	い730-3-43
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取申し付けるにつき) 天野次郎右衛門→右村庄屋・組頭・百姓	延享2年11月	堅美継紙・1通	い730-3-42
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相究めるにつき) 浅野久治→右村庄屋・百姓中	延享3年11月	堅美継紙・1通	い730-3-41
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相究めるにつき) 浅野久治→右村庄屋・組頭・百姓中	延享4年11月	堅美継紙・1通	い730-3-40
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相究めるにつき) 森村甚左→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛延2年11月	堅美継紙・1通	い730-3-38
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米相究めるにつき) 土岐市右→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛延3年11月	堅美継紙・1通	い730-3-37
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無年貢申し付けるにつき) 土市右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	宝暦元年11月	堅美継紙・1通	い730-3-36
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相究めるにつき) 土市右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	宝暦2年11月	堅美継紙・1通	い730-3-35
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無納につき) 土市右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	宝暦3年11月	堅美継紙・1通	い730-3-34
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相究めるにつき) 磯藤七郎→右新田・庄屋・小百姓	宝暦4年11月	堅美継紙・1通	い730-3-33
覚(海西郡四郎兵衛新田見取年貢定納米かくのごとくにつき) 磯藤七郎→右庄屋・組頭	宝暦5年11月	堅美継紙・1通	い730-3-32
覚(海西郡四郎兵衛新田見取所水損により無取申し付けるにつき) 磯藤七郎→右庄屋・組頭・小百姓	宝暦7年11月	堅美継紙・1通	い730-3-30

覚(海西郡四郎兵衛新田見取所水損により無取に 申し付けるにつき) 松六兵衛→右庄屋・組頭・小 百姓	宝暦8年11月	豎美継紙・1通	い730-3-29
宝暦九卯ヨリ已迄御免定不見候		豎切紙・1通	い730-3-28
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米かくのごと く相極めるにつき) 尾友次郎→右村庄屋・組頭・ 惣百姓	宝暦12年11月	豎美継紙・1通	い730-3-27
覚(海西郡四郎兵衛新田見取御年貢米かくのごと く相極めるにつき) 尾友次郎→右村庄屋・組頭・ 惣百姓	明和2年11月	豎美継紙・1通	い730-3-25
免定(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 金市之進→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和3年11月	豎美継紙・1通	い730-3-24
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無免に申し付 けるにつき) 矢藤助→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和4年11月	豎美継紙・1通	い730-3-23
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無免に申し付 けるにつき) 矢藤助→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和5年11月	豎美継紙・1通	い730-3-22
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 大橋新之右→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和6年11月	豎美継紙・1通	い730-3-21
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 大橋新之右→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和7年11月	豎美継紙・1通	い730-3-20
覚(四郎兵衛新田見取米斯くのごとくにつき) 大 新之右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	明和8年11月	豎美継紙・1通	い730-3-19
「安永元辰年御免定不見候」		豎切紙・1通	い730-3-18
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取申し付け るにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永2年11月	豎美継紙・1通	い730-3-17
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米かくのごとくにつ き) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永3年11月	豎美継紙・1通	い730-3-16
覚(海西郡四郎兵衛新田水損により無取に申し付 けるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永4年11月	豎美継紙・1通	い730-3-15
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永5年11月	豎美継紙・1通	い730-3-14
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永6年11月	豎美継紙・1通	い730-3-13
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永7年11月	豎美継紙・1通	い730-3-12
亥年免札(海西郡四郎兵衛新田) 田仙右衛門→右村 庄屋・組頭・惣百姓	安永8年11月	横美継紙・1通	い730-1-1
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永8年11月	豎美継紙・1通	い730-3-11
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 田仙右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	安永9年11月	豎美継紙・1通	い730-3-10
覚(海西郡四郎兵衛新田見取所定納米につき) 久 岡右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明元年11月	豎美継紙・1通	い730-3-9
寅年免札(海西郡四郎兵衛新田) 横比右衛門→右 村庄屋・組頭・惣百姓	天明2年11月	横美継紙・1通	い730-1-2
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき)	天明2年11月	豎美継紙・1通	い730-3-8

四郎兵衛新田/年貢・村入用負担/免札ほか

横比右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓			
卯年免札(海西郡四郎兵衛新田) 鳶丹左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明3年11月	横美継紙・1通	い730-1-3
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 鳶丹左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明3年11月	堅美継紙・1通	い730-3-7
覚(海西郡四郎兵衛新田見取年貢極めるにつき) 鳶丹左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明4年11月	堅美継紙・1通	い730-3-6
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 中彦三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明5年11月	堅美継紙・1通	い730-3-5
免札(海西郡四郎兵衛新田) 中彦三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明6年11月	横美継紙・1通	い730-1-4
免定(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 中彦三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明6年11月	堅美継紙・1通	い730-3-4
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 中彦三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	天明7年11月	堅美継紙・1通	い730-3-3
(四郎兵衛新田御免定目録) 加藤治蔵	天明8年11月	堅切紙・1通	い730-3-1
覚(海西郡四郎兵衛新田見取米相極めるにつき) 中彦三郎→右新田庄屋・組頭・惣百姓	天明8年11月	堅美継紙・1通	い730-3-2
覚(海西郡四郎兵衛新田見取) 中彦三郎→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛政元年11月	横美継紙・1通	い730-1-5
覚(海西郡四郎兵衛新田見取) 本勘蔵→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛政2年11月	横美継紙・1通	い730-1-6
覚(海西郡四郎兵衛新田見取) 本勘蔵→右新田庄屋・組頭・惣百姓	寛政3年11月	横美継紙・1通	い730-1-7
覚(海西郡四郎兵衛新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政5年11月	横美継紙・1通	い730-1-8
免札(海西郡四郎兵衛新田) 本勘蔵→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政6年11月	横美継紙・1通	い730-1-9
免札(海西郡四郎兵衛新田) 加久右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政7年12月	横美継紙・1通	い730-1-10
免札(海西郡四郎兵衛新田) 加久右衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政8年11月	横美継紙・1通	い730-1-11
巳年免札(海西郡四郎兵衛新田) 木象三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政9年11月	横美継紙・1通	い730-1-12
午年免札(海西郡四郎兵衛新田) 木象三郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政10年11月	横美継紙・1通	い730-1-13
未年免札(海西郡四郎兵衛新田) 木弥次左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政11年11月	横美継紙・1通	い730-1-14
申年免札(海西郡四郎兵衛新田) 木村弥次左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	寛政12年12月	横美継紙・1通	い730-1-15
酉年免定(海西郡四郎兵衛新田) 織孫七→右村庄屋・組頭・惣百姓	享和元年11月	横美継紙・1通	い730-1-16
戌年免定(海西郡四郎兵衛新田) 織孫七→右村庄屋・組頭・惣百姓	享和2年11月	横美継紙・1通	い730-1-17
亥年免定(海西郡四郎兵衛新田) 太文左衛門→右村庄屋・組頭・惣百姓	享和3年11月	横美継紙・1通	い730-1-18

丑年定免(海西郡四郎兵衛新田) 金市之進→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化2年11月	横美継紙・1通	い730-1-19
寅年免札(海西郡四郎兵衛新田) 金市之進→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化3年11月	横美継紙・1通	い730-1-20
免札写(海西郡四郎兵衛新田) 金市之進判→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化4年11月	横美継紙・1通	い730-1-21
辰年免定(海西郡四郎兵衛新田) 岡勝右御判→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化5年11月	横美継紙・1通	い730-1-22
巳年免札(海西郡四郎兵衛新田) 岡勝右御印→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化6年11月	横美継紙・1通	い730-1-23
午年定免(海西郡四郎兵衛新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化7年12月	横美継紙・1通	い730-1-24
免定(海西郡四郎兵衛新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化8年11月	横美継紙・1通	い730-1-25
免定(海西郡大宝前新田) 岡勝右→右村庄屋・組頭・惣百姓	文化8年11月	横美継紙・1通	い730-1-26
覚(四郎兵衛新田の口米・御蔵納米・堤銀など書上げ)	(文化8年)未12月	横美継紙・1通	い730-1-27
酉年免定(海西郡四郎兵衛新田) 馬九八郎→右村庄屋・組頭・惣百姓	文政8年11月	横美継紙・1通	い730-2-1
覚(海西郡四郎兵衛新田、同所見取の免・定納高書上げ)	子9月	横美継紙・1通	い730-2-2

その他

覚(御役銀・諸入用等書上) 四郎兵衛新田徳兵衛→大宝前新田定助	辰12月18日	横切継紙・1通	い415-4
不納禿地之事(海西郡四郎兵衛新田替地田六町五反歩を引地に定めるにつき証文写) 濃州郡奉行土岐市右衛門、地方目付田中九郎右衛門、林又左・水伴左代山田左右衛門	寛延3年11月	堅紙・1通	い541-13
覚(御役金書上) 四郎兵衛新田徳兵衛→大宝前新田定助	卯12月	横切紙・1通	い415-7-1
覚(半左衛門・源六・竹田伝吉・子宝善右衛門の替地当引反別米高書上)	(卯12月)	横切紙・1通	い415-7-2
覚(替地の御役銀・諸入用等持高書上)	卯12月	横切紙・1通	い415-7-3

公儀との関係

争論・願書

一札(四郎兵衛新田見取所の屋敷地の年貢負担をめぐる争論扱いで解決したうゑは向後違変なきにつき) 海西郡烏ヶ地新田百姓孫室圀守又三郎・市兵衛→同郡平嶋新田庄屋御取扱人 服部市兵衛他3名	安永5年11月	堅美継紙・1通	い541-17
奉願御訴訟之事(四郎兵衛新田前の堤捨り石私ともへ下し置かれたきにつき願書) 井筒屋平兵衛、犬山屋分左衛門→御普請御役所	子2月	堅美紙・1通	い734

神戸外新田

検地

四郎兵衛新田内所 神戸外新田御高成御書付 三通入		包紙・1点	い500-0
(四郎兵衛新田御高成申付ならびに神戸外新田と相唱候につき申渡) 岡勝右→右村庄屋	文化14年4月	横切継紙・1通	い500-1
(神戸外新田御高成引高につき申渡) 岡勝右→右村庄屋	文化14年4月	横切継紙・1通	い500-2
(四郎兵衛新田見取所定納米につき申付) 岡勝右→右村庄屋	文化14年4月	横切継紙・1通	い500-3
(神戸外新田検地帳面差出候様被仰付につき書状) 唯助→永田幸蔵	4月11日	横切継紙・1通	い500-4

その他

上 外新田願書下タ 名古屋犬山屋文左衛門	(安政3年カ)	包紙・1点	い526-2-0
覚(神戸外新田古証文を吟味次第差上げるにつき) 神戸文左衛門→神戸昌吾	辰2月	小切紙・1通	い526-2-1
乍恐奉願上候御事(神戸外新田を省吾に相譲申度につき御陣屋御帳面御付替願) 名古屋犬山屋文左衛門→山田貫一郎様御陣屋	安政3年12月	縦紙・1通	い526-2-2
覚(久々利作衛門拝借金請取につき) 神戸弥左衛門→川村九兵衛	(近世)4月9日	横切継紙・1通	い526-2-3
約定申証文之事(神戸外新田一円永代譲請につき証文写) 譲り請主神戸昌吾・証人神戸弥左衛門→加藤おまき・加藤釣之助		縦紙・1通	い492-2

近代

地券後証一札 神戸分左衛門		包紙・1点	い612-2-0
後証(神戸が買入れた其元控地の券状預るにつき) 神戸分左衛門→児玉金七	明治6年12月23日	「無印紙証明用紙」用箋・1通	い612-2-1
四郎兵衛新田字西掛百八拾壹番郡村宅地2畝27歩之内6歩児玉金七ヨリ買入につき同人売渡シ証券 外ニ明治六年十二月廿三日当方ヨリ金七へ差シ置候後証壹通 神戸	明治24年10月14日	封筒・1点	い612-0
証(郡村宅地6歩を代金2円40銭にて売り渡すにつき) 海西郡宝地村大字神戸新田18番戸右郡村宅地売渡し本人児玉金七他保証人1名→海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門	明治24年10月14日	野紙・1通	い612-1
小川綱蔵名義四郎兵衛新田替地貳百七拾七番田五畝拾八歩只介へ売渡名義付替につき登記書類ならびに約定書類	明治43年9月10日	封筒・1点	い593-2-2
証(海西郡十四山村大字四郎兵衛新田字替地貳百七拾七番田5畝18歩を拙者が買うけるにつき) 海西郡十四村大字神戸新田八拾八番地小川只助、同郡同村大字同番地保証人小川綱蔵→海西郡十四山村大字神戸新田五百貳番地神戸分左衛門	明治43年9月10日	野紙(一ツ綴)・1点	い593-2-3
証(預かり金56円の利息として毎年海西郡十四山村大字四郎兵衛新田字替地貳百七拾七番田5畝	明治43年9月10日	野紙(「中井製」)・1通	い593-2-4

18歩より生じる収穫米を皆貴殿へ渡すにつき) 海西郡十四山村大字神戸新田八拾八番地小川只助、保 証人小川綱蔵→神戸分左衛門			
---	--	--	--

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

飛島新田古台分

既述したように、大宝前新田は1723（享保8）年に大幅縮小した。縮小した堤防の外側で、開発当初の堤防の内側を「大宝前新田古台」と呼んでいたようである。この「古台」は1801（享和元）年に再開発されることとなった。1802（享和2）年3月26日に大宝前新田庄屋只助倅周蔵が古台会所守・組頭に、同組頭平吉と十右衛門が古台組頭兼役に、金七・忠右衛門が古台水廻り兼役にそれぞれ任命されている（あ3417）。さらには1803（享和3）年12月には飛島新田古台分庄屋唯助が確認される（あ3417末尾）ので、それ以前に大宝前新田と飛島新田古台分の双方の庄屋を小川唯助が兼ねることになったと思われる。

藩との関係では、1805（文化2）年11月25日より飛島新田に検地役人が出張し、12月8日古台分へ移り、15日に終了した（あ3417末尾）。検地された地積は92町2反9畝24歩であり、これを受けて新田の管理権が藩から地主に委譲されることになるのだが、92町余のうち80町分については1798（寛政10）年から1802（享和2）年にかけての調達金・上納金など合計5600両を引当とし、残り12町2反9畝24歩の分については1229両3歩銀3匁を支払うことによってそれは実現された。そして、それまでの調達金証文と金子受取書は勘定所に返却されたという（以上い351）。以上の手続きを経て、1806（文化3）年9月に「地渡」が行われることになった。

以上が現段階で把握している大宝前新田古台の再開発経過であるが、子細な検討を経たものではないので誤りを多く含むものと思われる。そもそも、大宝前新田古台の正確な範囲が未確認であり、どうやら飛島新田の一部分と服岡新田の一部分なのではないかと現段階では思われるがそれも確認できていない。角川地名辞典によれば、飛島新田は、大宝前新田荒廢地を「寛政11年藩の許可を得て鳥ヶ地新田庄屋の佐野周平と鎌島新田庄屋の木村徳右衛門が発起人となり、6人の援助者を得て再開発に着手。（中略）享和元年完成し（中略）文化3年服岡新田が当地から独立。」とあり、上記の再開発経緯と異なる内容となっている。これは古台分ではない部分の飛島新田開発経緯なのであろうか。

本項目で特筆されるのは、明治26、27年に、同新田に存在する古堤を廃却する件にかかわる様々な文書33件である。

経営費用

その他

古台年々利足受取書		袋・1点	い576-0
覚(盆前分利息受取書) ふしや太七(名古屋堀江町)→犬山屋小右衛門	亥7月12日	小切紙・1通	い576-1
覚(当子の盆前の歩銀受取) ふしや太七(名古屋堀江町)・はりまや茂兵衛→神戸文左衛門・御店源蔵	子7月13日	横切継紙・1通	い576-2
覚(金40両受取) 川名屋久兵衛後家→神戸文左衛門	子7月13日	堅切紙・1通	い576-3
覚(口銭受取) 川名屋久兵衛→犬山屋文左衛門	亥12月大晦日	横切紙・1通	い576-4
覚(当亥の暮歩銀受取) ふしや太七(名古屋堀江町)→神戸文左衛門	亥12月29日	横切継紙・1通	い576-5
覚(分銀催促状) 茂平・太七→神戸文左衛門	12月29日	横切紙・1通	い576-6
覚(歩銀受取) ふしや太七→犬山屋小右衛門	戌7月13日	横切紙・1通	い576-7
覚(口銭受取) 川名屋久兵衛→神戸文左衛門	戌7月13日	横切継紙・1通	い576-8

覚(利息受取) はかすや茂平、取次太七→犬山屋小右衛門	酉12月29日	堅切紙・1通	い576-9
覚(利息を米切手で受け取り) 川名屋久兵衛→犬山屋小右衛門	亥7月13日	堅切紙・1通	い576-10
覚(利息を米札で受け取り) 川名屋久兵衛→犬山屋小右衛門	酉12月29日	横切紙・1通	い576-11
(12月29日利息支払い書付)		小切紙・1通	い576-12
覚(元金千両の利息金40両米切手にて受取証文) 川名屋久兵衛後家→神戸文左衛門	寅5月4日	横切紙・1通	い576-13
覚(子極月までの分銀受け取り) 藤屋多七→神戸文左衛門	子極月晦日	横切継紙・1通	い576-14
覚(7月より極月までの分40両受取) 川名屋久兵衛後家豊→神戸文左衛門	子極月大晦日	堅切紙・1通	い576-15
覚(300両六ヶ月分利息受取) 伊藤次郎左衛門(名古屋茶屋町)→神戸文左衛門	子7月13日	横切継紙・1通	い576-16
覚(盆前歩銀、銀札にて受取) ふしや太七(名古屋堀江町)・はりまや茂平→神戸文左衛門・源蔵	丑7月13日	横切紙・1通	い576-17
覚(丑極月までの利息受取) 藤屋太七・はりまや茂平→神戸文左衛門・源蔵	子7月13日	横切紙・1通	い576-18
覚(西冬11月証文金500両米札で受取) 藤屋太七・はりまや茂平→神戸文左衛門・源蔵	寅5月2日	横切継紙・1通	い576-19
覚(子盆前利息米札にて受取) 川名屋久兵衛→神戸文左衛門	子7月3日	堅切紙・1通	い576-20

地渡一件

願書等

古台地所一札 →萱津屋伊右衛門	文化3年2月朔日	包紙・1点	い552-0
(取替金子30両請取申上候につき) (萱津屋)伊右衛門→文左衛門	(文化3年)正月23日	横切継紙・1通	い552-1
一札之事(大宝前新田古台地所の仲間金入りお断り申上げるにつき) 豊津屋伊右衛門→犬山屋文左衛門	文化3年正月	堅美紙・1通	い552-2
(大宝前新田地先古台分飛嶋新田へ組込の地代金につき申渡) →犬山屋文左衛門・大宝前新田庄屋只助	寅5月	横切継紙・1通	い498-1
(大宝前新田古台之儀につき三千金調達申渡) →犬山屋文左衛門	9月25日	横切継紙・1通	い498-2
(大宝前新田古台之儀につき三千金調達申渡、い498-2と同文か) →犬山屋文左衛門	9月25日	横切継紙・1通	い498-3
(大宝前新開御普請御入用金のうち三千両調達につき申渡) →大宝前新田庄屋唯助	8月	横切継紙・1通	い498-4
(飛島新田地所引当調達金3000両の利息差延べ申渡) →犬山屋文左衛門	12月	横切継紙・1通	い608-7-7
(飛島新田古台の調達金額につき) →大宝前新田庄屋只助	丑12月	横切継紙・1通	い608-7-8

近代一般

海西郡飛島新田元一起の郷汐除甲七百拾九番荒蕪地反別式反式畝歩始メ六筆総計反別式町九反八畝参歩ヲ明治廿七年六月廿七日登記済ニテ村長犬飼卯輔ヨリ天野佐兵衛ヘ売渡証券写添天野佐兵衛ヨリ受取契約証を通 神戸	明治27年7月3日	袋・1点	い573-0
契約書(飛島新田汐除荒蕪地の地代・諸雑費を神戸・黒宮・天野で三等分負担することにつき) 天野佐兵衛・黒宮保則→神戸分左衛門	明治27年7月3日	野紙・1冊	い573-2
地所共有権売買証書正式謄本(飛島村大字飛島新田字元一起ノ郷汐除甲七百拾九番荒蕪地、反別計2町9反8畝3歩、買主天野佐兵衛・神戸銀之助、売主烏ヶ地新田黒宮保則) 公証人諸富保義他5名	明治32年3月24日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い573-1
領収証(公正証書手数料) 名古屋区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治32年3月28日	印刷用紙・1通	い573-4
(飛島の件につき書状) 春日井郡新川町天野佐兵衛→神戸分左衛門	11月18日	横切継紙・1通(封筒付)	い573-3
* 誓約書(海西郡飛島村大字飛島新田の小作人らが明治22年度の掟米を皆済しなかったことを起訴するため地主連帯条項)		野紙・1冊	い592-9

飛島古堤廃却

飛島古堤廃却書類入	明治26年12月	袋・1点	い570-0
神戸分左衛門様 黒宮保則→神戸分左衛門	5月2日	封筒・1点	い570-1-0
(飛島古堤の件につき大室氏より申し込みの次第ある由新川様より申し越しにつき書状)	4月29日	横切継紙・1通	い570-1-1
(飛島廃堤地石の売却代金450円の支払い方法につき書状) 保則→天野	12月16日	横切継紙・1通	い570-2
春日井郡新川町天野佐兵衛様 飛島村大字服岡犬飼卯輔→天野佐兵衛	9月11日	封筒・1点	い570-3-0
(堤塘廃却地の儀をめぐる地主総代とのやりとりにつき書状) 犬飼卯輔→天野佐兵衛	9月11日	横切継紙・1通	い570-3-1
本県西春日井郡新川町天野佐兵衛様 海西郡宝地村大字烏ヶ地新田黒宮保則→天野佐兵衛	明治27年8月19日	封筒・1点	い570-4-0
(飛島へ出張し木村と面会、石繰上場所の件などにつき書状)	(明治27年)8月19日	横切継紙・1通	い570-4-1
記(石松・地代金など書付)		縦紙・1通	い570-5
飛堤費用覚	明治26年10月	横半半(一ツ綴)・1冊	い570-6
西春日井郡新川町天野佐兵衛様 海西郡飛島村大字服岡犬飼卯輔→天野佐兵衛	明治27年8月19日	封筒・1点	い570-7-0
(廃却堤の儀、村方も反対地主も半数以上反対の状況などにつき書状) 犬養卯輔→天野佐兵衛	(明治27年)8月19日	横切継紙・1通	い570-7-1
(村有土地売却の件議決につき町村制第127条第3により許可願) 海西郡飛島村長犬飼卯輔→海西郡参事会海西郡長横田太郎	明治27年6月12日	「飛島村役場」用箋・1冊	い570-8
不用堤塘無代価御下渡之儀申請(不用堤防2町9反8畝3歩) 愛知県海西郡飛島村長犬飼卯輔→愛知県知	明治27年1月27日	「飛島村役場」用箋・1通	い570-9

事時任為基			
神戸様 愛知県西春日井郡新川町天野佐兵衛→神戸		封筒・1点	い570-10-1-0
(犬飼よりの申付回答の必要無之につき書状) 庄 □→木挽町	7月12日	横切継紙・1通	い570-10-1-1
(下作地飛島水廻り請地願い、廃却後の堤の取扱などにつき書状) 犬飼卯輔→天野佐兵衛	7月10日	横切継紙・1通	い570-10-1-2
(頂戴物のお礼につき)		小切紙・1点	い570-10-1-3
神戸様 愛知県西春日井郡新川町天野佐兵衛→神戸		封筒・1点	い570-10-2-0
西春日井郡新川町天野佐兵衛様 海西郡飛島村木村左太郎・佐野芳三郎→天野佐兵衛	明治27年7月14日	封筒・1点	い570-10-2-1-0
(下地を桑畑とするよう当村(飛島村)へ仰せ付けられるよう熟願につき) 木村左太郎・佐野芳三郎→天野佐兵衛	(明治27年)7月14日	横切継紙・1通	い570-10-2-1-1
(丈量相片付くも、松・石・作地につき種々申込人多いためご処置ご勘考願いにつき) 海西郡宝地村大字鳥ヶ地黒宮保則→本県西春日井郡新川町天野佐兵衛	明治27年7月16日	葉書・1通	い570-10-2-1-2
(石松入札の儀などにつき書状) 天野→神戸	7月7日	縦紙・1通	い570-10-2-1-3
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 海西郡飛島村犬飼卯輔→神戸分左衛門	3月16日	封筒・1点	い570-11-0
(不用堤の地形実測詳細取り調べの儀につき) 犬飼卯輔→神戸分左衛門	3月16日	「飛島村役場」用箋・2通	い570-11-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 名古屋市新柳町しずやニテ犬飼卯輔→名古屋市木挽町神戸分左衛門	4月19日	封筒・1点	い570-12-0
(不用堤御下場の震貸工事補助金の儀につき書状) 犬卯→神戸分左衛門	4月19日	横切継紙・1通	い570-12-1
(検見、黒宮・島津との面会、県庁の根帳取調べのことなどにつき書状) 天野→神戸	10月27日	横切継紙・1通	い570-13
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 犬飼卯輔→名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治27年1月27日	「飛島村役場」封筒・1点	い570-14-0
(本日村会で議決された別紙の件をすぐに郡役所に上申するにつき) 犬飼卯輔→神戸分左衛門	(明治27年)1月27日午後4時	横切継紙・1通	い570-14-1
第貳予算(金額、人名など書付)		縦切紙・1通	い570-15
(石売却値段の値引きにつき) 愛知県海西郡宝地村大字鳥ヶ地新田黒宮保則→名古屋市木挽町式丁目神戸分左衛門	明治27年12月15日	葉書・1通	い570-16
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 愛知県西春日井郡新川町天野佐兵衛→神戸分左衛門		封筒・1点	い570-17

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

服岡新田下之郷

「覚（服岡新田名請人書上）」（い355-7）によれば、享和元年開発、1805（文化2）年12月検地と明記されている。この検地における服岡新田全体の名請人のうち半分近くは同新田の岡谷惣七が名請人であるが、神戸家以外の名古屋の商人2名分も岡谷惣七と同じくらいの田畑を名請けしている。

服岡新田には和泉之郷・笹之郷・古台郷の三郷があり、郷ごとに庄屋役が置かれていた（あ3440-3末尾）。このうちの古台郷が服岡新田下之郷であり、先述の四郎兵衛新田替え地分6町5反歩のことである（あ2515、あ3440-1、2）。6町5反歩の高は65石8斗8升3合であった。この時点の名請人のなかにも神戸新田の小作人の名前が見え、両新田の密接な関係が窺われる。さらに服岡新田下之郷庄屋辰右衛門は神戸新田組頭でもあり（い355-1）、総じて地主の地域的な支配が、単に支配人を通じた小作人把握だけで成り立っているのではなく、村役人・名請人などといった領主支配と複合的連関構造を成していたらしいことが窺われる。

今回収録分の点数は37件と少なく、近世後期の年貢免状9通や明治期の土地購入関係文書が8件ある。

全体

杵橋定渡金六ヶ村割符書写	嘉永3年7月	豎半(二ツ綴)・1冊	い452
上 神戸様 服岡新田 服岡新田→神戸		包紙・1点	い505-0
口上書を以奉申上候御事(昨11日風雨につき服岡・飛島まで入水につき) 服岡新田庄屋惣代唯助→神戸	申5月	豎紙・1通	い505-1

掟米徴収

服岡新田古台郷・下ノ郷上納米引分ヶにつき勘定帳扣(文化4～文政2年)	文政4年5月29日	豎半(二ツ綴)・1冊	い451
下之郷戌年分納米	亥5月7日	横切紙・1通	い416-5
(石高差引勘定書付)		横切継紙・1通	い416-7
覚(田方減免分覚書)		横切紙・1通	い416-9

経営費用

下之郷入用金請取之通 神戸勘定場→下之郷庄屋辰右衛門	嘉永3年2月	豎半半・1冊	い416-2
嘉永四年辛亥三月六日下之郷小百姓へ貸米割合控	(嘉永4年)3月6日	横切紙・1通	い416-6
貸米之覚(亥年分)	(嘉永4年)亥	横切継紙・1通	い416-3
(下之郷入用金書付断簡)	5月4日	横切継紙・1通	い416-4
覚(金銀受渡書付)		横切継紙・1通	い416-8

土地

土地台帳訂正

服岡新田字下千ノ一二四百四拾七番土地台帳名義誤謬訂正願書(廿六年九月廿九日附)写、ならびに右指令(廿六年十月三日附)	(明治26年)	封筒・1点	い571-0
土地台帳名称書換願(控) 海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門、海東郡蟹江村大字蟹江本町吉田甚平→愛知県知事時任為基	明治26年9月29日	野紙・1通	い571-1
(土地台帳名義更記之件免許につき) 愛知県知事時任為基→海西郡飛島村大字服岡新田地主神戸分左衛門	明治26年10月3日	「愛知県」用箋・1通	い571-2

年貢・村入用負担

覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門へ	嘉永元年11月	堅美継紙・1通	い733-1
覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右新田地主 神戸文左衛門へ	嘉永2年11月	堅美継紙・1通	い733-2
覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門方	嘉永3年11月	堅美継紙・1通	い733-3
覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門へ	嘉永4年11月	堅美継紙・1通	い733-4
覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門へ	嘉永5年11月	堅美継紙・1通	い733-5
覚(服岡新田下之郷免状) 雑佐太、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門へ	嘉永6年11月	堅美継紙・1通	い733-6
覚(服岡新田下之郷免状) 雑橋太、高十練、武部→右郷地主 犬山屋文左衛門へ	嘉永7年11月	堅美継紙・1通	い733-7
覚(服岡新田下之郷免状) 高十練、武部→右新田地主 犬山屋文左衛門へ	安政2年11月	堅美継紙・1通	い733-8
覚(服岡新田下之郷免状) 森弥九、奥喜左→右新田地主 犬山屋文左衛門へ	安政6年11月	堅美継紙・1通	い733-9
覚(服岡新田下之郷の取米の定め) 奥喜左→右新田地主 犬山屋文左衛門	文久元年11月	堅美継紙・1通	い729-7
戊年免割帳入	嘉永3年2月17日	袋・1点	い416-0
戊年免割諸入用帳	嘉永3年2月17日	堅半(二ツ綴)・1冊	い416-1
(上納・拝借金差引き勘定)	(慶応2年11月)	小切紙・1通	い729-10-1
覚(服岡新田などの見取米書上げ) 伊小膳、江半三、武湊→右郷之地主岡谷惣七・犬山文左衛門他2名	慶応2年11月	横切継紙・1通	い729-10-2

近代土地購入

福岡新田字下千ノ一二下之郷ト云四反八畝四歩大谷謙造ヨリ購買ニヨリ請取ル証券	明治15年12月11日	封筒・1点	い593-10-1
請作証 海西郡福岡新田右請作人犬飼善十郎→神戸分左衛門	明治15年12月11日	野紙(一ツ綴)・1冊	い593-10-2
永代地所売渡副証券(福岡新田のうち反別4反8畝4)	明治15年12月11日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い593-10-3

歩) 海西郡飛鳥新田大谷謙造→神戸分左衛門			
地所永代売渡証券(福岡新田のうち4反8畝8歩) 海西郡飛鳥新田売主大谷謙造他新田請人1名→海西郡 神戸新田神戸分左衛門	明治15年12月10日	堅美紙・1通	い593-10-4
服岡新田字下チ之三四反別式反○廿八歩明治十七 年十月十八日大谷ことヨリ買受につき同人売渡 シ証券を通右ニ附属書を通、右地所之内大谷甚 右衛門請作地につき同人ヨリ差入レ候証券を通 十七年十月十八日付 神戸	(明治17年10月18日)	封筒・1点	い572-0
証(土地売渡証文の代金記載と実代金の相違ある 旨証明いたすにつき) 海西郡服岡新田大谷こと、 後見人1名→神戸分左衛門	明治17年10月18日	罫紙・1通	い572-1
永代地所売渡証券(尾張国海西郡服岡新田字下千 之三四反別2反28歩) 尾張国海西郡服岡新田九十一 番地右地所売渡主大谷こと他2名→尾張国海西郡神 戸新田神戸分左衛門	明治17年10月18日	罫紙・1冊	い572-2
証(借地米右日限に相違なく渡すにつき) 海西郡 服岡新田右借地本人大谷甚左衛門→神戸分左衛門	明治17年10月18日	罫紙・1通	い572-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

海部郡の新田

本大項目は全く便宜的なものでしかない。大宝前（神戸）新田にいる神戸家の支配人は海部郡の諸新田の経営にも関与していたように見受けられるが、そのうちの点数の少ない三つの新田の史料をここにまとめたに過ぎない。

①鍋蓋新田

この新田は大宝前（神戸）新田の北方にあり、村高370石余、反別25町余、戸数7、人口53という小規模の新田である（角川地名辞典）。収録史料からすると、享保期から神戸家はこの新田に土地を持っていたらしい。そしてそれは小川唯助を通してのものであったらしいことが納米の請取通帳（あ1683）から知られる。また、地主は少なくとも神戸家のほかに伊藤次郎左衛門がいたこともわかる。

この新田経営に関する史料は、（その2）では30点（1727（享保12）～1775（安永4）年）しかなかったが、今回は58点収録した。点数が多いのは掟米の送り状で全て近世のものと思われる。

②潤屋新田

大宝前（神戸）新田の北東隣にあり、1823（文化6）年成立、反別2町余の新田である〔角川地名辞典〕。この新田に関する史料は、（その2）では1839（天保10）年「南野跡検地帳」1点のみであった。今回も同年の南堤外野跡境杭打ちに関する証文写ほか2点のみである。

③鳥ヶ地新田

この新田は大宝前（神戸）新田の北東隣にあり、この新田の百姓が大宝前（神戸）新田へ多く出作していたというように、神戸新田とは密接な関係にあった。前回は地券3枚のみであったが、今回は明治24年の地所購入関係文書7点がある。

④三稲外繰出（さんとそとくりだし）新田

神戸新田南方約3キロメートルに位置する。明治17年に神戸新田「積米掛」小川綱蔵が神戸新田小玉金七ほか2名から三稲外繰出新田の地所を購入している。地所共有約定証書謄本などが8点ある（明治17～32年）。

鍋蓋新田

願書・一件留

(酉年分御年貢持米今以相納ざること不埒、明日までに金子にて持参すべきにつき書状) 土岐市右→鍋蓋新田庄屋	3月19日	縦継紙・1通	い504-1
乍恐奉願上候口上之覚(洩瀬痛領を犬井・善太両村より上納仰せ付けられ下されたきにつき) 海東郡鍋蓋新田庄屋武兵衛→森村甚左衛門様明御役所	宝暦4年閏2月	縦半(二ツ綴)・1冊	い504-2
戊三月廿一日洩瀬一件入用書付		包紙・1点	い504-3-0
口上之覚(鍋蓋新田洩瀬痛場所物成を犬井・善太両村より直に上納仰せ付けられたきにつき願書写) 右新田地主共	戊閏2月	縦半(二ツ綴)・1冊	い504-3-1
(洩瀬痛領米を以後井組惣代ニヶ村より直上納につき願書下書)		縦継紙・1通	い504-3-2
乍恐奉願上候御事(漏瀬年貢米直上納につき) 海東郡鍋蓋新田庄屋武兵衛	宝暦4年4月	横長半(一ツ綴)・1冊	い504-4
乍恐口上之覚(漏瀬痛領米を犬井村・善太郎新田両	戊3月	横切継紙・1通	い504-8

海部郡の新田/鍋蓋新田/願書・一件留

村より御上納仕儀につき) 鍋蓋新田地主元材木 丁文左衛門・右同断茶屋丁次郎左衛門			
(犬井村・善太郎新田両村より御上納仕儀筈之洩瀬 痛領米遅滞のため取替上納につき願書下書)		堅紙・1通	い504-9
乍恐口上之覚(犬井村・善太郎新田両村より御上納 仕筈之洩瀬痛領米遅滞のため地主共より取替上 納につき願書下書) 鍋蓋新田地主元材木町文左 衛門・右同断茶屋町次郎左衛門→土岐市右衛門	戌3月	堅紙・1通	い504-10
乍恐追々奉願上候御事(犬井・善太郎洩瀬痛領米御 上納遅滞の件筋道御礼し下されるようにつき)	戌3月	堅紙・1通	い504-11

経営収支

覚(鍋蓋新田勘定金受取につき領収書) 伊藤次郎 左衛門→神戸分左衛門	申2月5日	横切紙・1通	い417-22-4
---------------------------------------	-------	--------	-----------

掬米運搬

積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸文左衛門・伊藤治郎左衛門	午12月9日	堅紙・1通	い445-1-3
積送り申米之事(茶屋町分鍋蓋新田納米) 右(鍋 蓋)新田武兵衛→神戸分左衛門	卯11月25日	堅紙・1通	い445-1-4
覚(米送り状) 鍋ふた新田武兵衛→犬山屋嘉兵衛	午12月9日	堅切紙・1通	い445-1-5
積送り申米之事 鍋蓋新田武兵衛→神戸分左衛門・伊 藤治郎左衛門	午12月	堅紙・1通	い445-1-7
覚(米船積分書上) 鍋蓋新田武兵衛→川合嘉兵衛	寅11月	横切紙・1通	い445-1-9
覚(納米積送につき) 鍋蓋新田武兵衛→神戸嘉兵衛	寅11月3日	堅切紙・1通	い445-1-13
積送り申米之事(鍋蓋納米) 右(鍋蓋)新田武兵衛→ 神戸嘉兵衛	寅10月17日	堅紙・1通	い445-1-14
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	寅12月2日	堅紙・1通	い445-1-15
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸分左衛門	卯正月	堅紙・1通	い445-1-16
積送り申米之事 右(鍋蓋)新田武兵衛→伊藤治郎左 衛門	卯11月29日	堅切紙・1通	い445-1-18
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門	卯11月29日	堅切紙・1通	い445-1-19
積送り申米之事(納米) 鍋蓋新田武兵衛→神戸嘉兵 衛	寅9月18日	堅切紙・1通	い445-1-20
積送り申米之事(鍋蓋新田米) 右(鍋蓋)新田武兵衛 →神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	寅12月24日	堅切紙・1通	い445-1-26
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	寅12月4日	堅紙・1通	い445-1-27
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右新田武兵衛→ 神戸分左衛門	卯12月12日	堅切紙・1通	い445-1-29
覚(米積送につき) 右(鍋蓋)新田武兵衛→犬山屋分 左衛門	巳12月16日	堅紙・1通	い445-1-33
覚(米積送り高書上) 鍋蓋新田武兵衛→犬山屋分左	巳12月15日	堅紙・1通	い445-1-35

衛門・呉服屋治郎左衛門			
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右新田武兵衛→ 神戸分左衛門	巳12月16日	堅紙・1通	い445-1-36
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	丑12月8日	堅紙・1通	い445-1-43
覚(米積送りにつき) 鍋蓋新田庄屋武兵衛→神戸分 左衛門・伊藤治郎左衛門	丑12月12日	堅紙・1通	い445-1-45
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸分左衛門	卯11月16日	堅継紙・1通	い445-1-46
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	辰12月	堅紙・1通	い445-1-49
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→犬山屋分左衛門・呉服屋治郎左衛門	辰12月9日	堅切紙・1通	い445-1-51
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→犬山屋分左衛門・伊藤治郎左衛門	辰12月	堅切紙・1通	い445-1-52
送り申米之事(鍋蓋新田米) 鍋蓋新田武兵衛→本材 木町文左衛門	寅12月6日	堅紙・1通	い445-1-55
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門	卯10月26日	堅紙・1通	い445-1-56
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸文左衛門	未11月20日	堅切紙・1通	い445-2-1
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸文左衛門・伊藤治郎左衛門	子12月1日	堅切紙・1通	い445-2-3
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	子12月18日	堅切紙・1通	い445-2-5
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門・伊藤治郎左衛門	子12月	堅切紙・1通	い445-2-6
覚(納米積送高書上) 鍋蓋新田武兵衛→永田善治郎	子9月29日	堅切紙・1通	い445-2-7
覚(鍋蓋新田手作米送り状)		堅紙・1通	い445-2-14
覚(鍋蓋新田納米送り状) 右(鍋蓋)新田武兵衛→神 戸文左衛門・伊藤治郎左衛門	子12月1日	堅切紙・1通	い445-2-24
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →伊藤治郎左衛門	閏11月26日	堅切紙・1通	い445-2-26
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武 兵衛→神戸文左衛門	閏11月26日	堅切紙・1通	い445-2-27
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門	未12月3日	堅紙・1通	い445-2-28
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右村(鍋蓋新田) 庄屋武兵衛→神戸分左衛門	未11月5日	堅切紙・1通	い445-3-5
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛 →神戸分左衛門	申11月15日	堅切紙・1通	い445-3-4
積送申納米之事(鍋蓋新田) 右(鍋蓋)新田武兵衛→ 神戸分左衛門	申11月23日	堅切紙・1通	い445-3-11
積送申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武兵衛 →神戸分左衛門	申12月6日	堅切紙・1通	い445-3-13

海部郡の新田/鍋蓋新田/掟米運搬

覚(鮫ヶ地納米積送りにつき) 鍋蓋新田武兵衛→犬山屋嘉兵衛	申12月22日	堅切紙・1通	い445-3-15
積送申納米之事 右(鍋蓋)新田武兵衛→伊藤次郎左衛門	戌12月26日	堅切紙・1通	い445-3-16
積送り申納米之事 鍋蓋新田武兵衛→神戸分左衛門	戌12月21日	堅切紙・1通	い445-3-17
積送り申納米之事(鍋蓋新田) 右(鍋蓋)新田武兵衛→神戸文左衛門	戌12月26日	堅切紙・1通	い445-3-18
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 右(鍋蓋)新田武兵衛→神戸文左衛門	戌11月20日	堅切紙・1通	い445-3-19
積送り申米之事(鮫ヶ地新田納米) 鍋蓋新田武兵衛→元材木町犬山屋御内嘉兵衛	未12月16日	堅切紙・1通	い445-3-20
積送り申米之事(鍋蓋新田納米) 鍋蓋新田武兵衛→神戸分左衛門	未11月4日	堅切紙・1通	い445-3-24

潤屋新田

為取替証文之事(潤屋新田南堤外野跡堤根留境杭打ちにつき証文写) 潤屋新田庄屋服部周吉→神戸新田庄屋重右衛門・忠右衛門	(天保10年11月)	「鷗汀書屋」罫紙・1通	い453-6
覚(潤屋新田堤高さ等普請覚) 右(潤屋新田)庄屋周吉→福井倉助	亥8月	堅紙・1通	い449-12-1
覚(堤高さ等普請覚) 右(潤屋新田)庄屋周吉→福井倉助	亥8月	堅紙・1通	い449-12-2

鳥ヶ地新田

鳥ヶ地新田買受書類入 神戸銀之助→	明治24年4月	封筒・1点	い559-0
売渡証券(鳥ヶ地新田地主会所よりの新道潰米、新用水井領米売渡につき) 海西郡十四山村大字六条新田百十四番地佐藤泰助→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番地神戸銀之助	明治24年	罫紙・1通	い559-1
記(海西郡宝地村大字鳥ヶ地新田井領米・新道潰米買得につき証明願) 大字神戸新田神戸銀之助不在ニ付代印早川忠兵衛→大字鳥ヶ地新田御支配御中	明治24年4月11日	堅紙・1通	い559-2
記(金5円受取につき) 榎場新田早川儀平→神戸	(明治24年)4月11日	小切紙・1通	い559-3
証(鳥ヶ地新田字宮ノ割の地所貴殿へ売却につき書上げの米額を請作人が納入すべきにつき) 海西郡宝地村大字鳥ヶ地新田四番地伊藤源三郎他10名→神戸銀之介	明治24年4月11日	罫紙・1冊	い559-4
地所売渡証券(鳥ヶ地新田字亀原合計反別5反2畝26歩) 海西郡十四村大字六条新田百十四番地売渡人佐藤泰助、保証人1名→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番地神戸銀之助	明治24年3月31日	罫紙・1冊	い559-5
(本年麦5升引などの儀につき近々申し上げる旨)		断簡・1点	い559-6

三稲外繰出新田

明治貳拾四年拾貳月貳拾九日諸富保義役場ニ於テ繰出新田共有約定証券謄本 神戸	明治24年12月29日	封筒・1点	い595-2-0
永代売渡地所証券(愛知県海西郡三稲外繰出新田	明治17年3月	堅紙・1通	い595-2-1

の土地) 海西郡神戸新田15番地地所売主兎玉金七 他2名、保証人1名→同郡同新田積米掛り小川綱蔵			
地所共有約定証書謄本(神戸分左衛門他9名による) 名古屋区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治24年12月29日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い595-2-2
領収証(原本手数料など金4円77銭5厘領収につき) 名古屋区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治24年12月29日	印刷用紙・1通	い595-2-3
尾張国海西郡丙国村大字三稻外繰出新田地所共有 約定証券 神戸	明治32年2月21日	封筒・1点	い595-1-0
領収証(公正証券手数料金2円22銭5厘領収につき) 名古屋区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治32年2月21日	印刷用紙・1通	い595-1-1
地所共有権売買及持分変更契約証書正式謄本(共有地地主のうち小玉金七による神戸分左衛門への土地売却のため) 名古屋区裁判所管内公証人 諸富保義役場	明治32年2月21日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い595-1-2
地所共有約定証書謄本(神戸分左衛門他9名による) 名古屋区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治24年12月29日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い595-1-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

愛知郡の新田

この大項目も前項同様全く便宜的であり、後述の大高源兵衛新田を除く愛知郡の五つの新田・村をここに一括したというだけである。ただ地図1に示したように、これらの新田・村は熱田神宮の東南方で大高源兵衛新田よりも北に位置し、一定の地域的なまとまりは存在したようである。

①化物新田

加福新田の俗称で、明治期は愛知郡前浜村に属していた〔角川地名辞典〕。神戸家は明治15年にこの新田に地所を買得し地主経営を行った。(その2)では地券と「小作掟米取立帳」が主であったが、本目録にはこの買得に関する「永代地所売渡証券」を含む史料が収録されている(い568-7)。ただし、神戸家はこれより以前にこの新田に関与していたようで、明治13年「化物新田墾闢費金之証」との表題を持つ封筒のみが残されている(い568-1-0)。封筒の中身は明治16～18年の文書のため確定はできない。そのほか、明治16～35年の共有地関係の文書が26点、明治14～23年の堤防関係の文書が11点ある。

②紀左衛門新田(豊田村・呼続村)

明治11年に愛知郡豊田村に属し、同22年に呼続村に属した〔平凡社地名辞典〕。(その2)収録分はもっぱら地券と小作証書であったため、この新田と神戸家の関係が不明確であったが、本目録には、まず「土地買得」として明治13年に春日井郡土器野村天野佐兵衛らとともに地所を購入した一連の文書があり(い561)、神戸家の関与の様相を知る手がかりとなる。次に「地所賃貸」として明治24～35年の文書が22点、第三に「堤敷地葭生地交換」関係の文書が16点(明治15～17年)、第四に「堤防」としてその土地に関する史料が46点(明治4～18年)、最後に明治22年の「破堤」関係文書が6点ある。

③八左衛門新田(星崎村)

明治11年に愛知郡星崎村に属した〔角川地名辞典〕。神戸家は明治11年にこの新田に田畑宅地6町7反余を前出の紀左衛門新田でも登場した天野佐兵衛とともに購入していることなどが、「土地買得」14点の文書(明治11～13年)から判明する。そのほか、「開墾事件」では星崎村立松善兵衛が川筋の土地を開墾したが、それが神戸家を含めた他の地主所有地に影響するということで問題となった事件に関係する文書32点(明治13～15年)が目立つ。

④千竈村

これは明治11～20年の村名である〔角川地名辞典〕。明治13年に神戸家がこの村に地所を購入した。「買得」にはこの土地取得に関係する「地所売渡証券」ほか関連文書が22点あるほか、明治20年の「地所譲渡証券」が1点ある。

⑤笠寺村

これは明治22年に前浜村から改称された近代行政村の笠寺村を指す。神戸家はこの村の字上烏山の地所を明治29年に購入し、上烏山共有地の地権者の一人となった。明治38年には地所を売却している。笠寺村に関する文書は全てこの共有地に関するもので点数は81点と比較的多いが、そのほとんどは明治29～38年の地租領収書である。

化物新田

土地取得

明治十五年壬午一月廿八日化物新田買得約定証	明治15年1月28日	包紙(「鷗汀書屋」用箋) ・1点	い568-7-0
記(化物新田売却地代金736円受取につき) 加藤勝壽→神戸分左衛門	明治15年3月	堅切紙・1通	い568-7-1
記(化物新田売却地代金計400円受取につき) 加藤勝壽→神戸分左衛門	明治15年2月28日	堅紙・1通	い568-7-2
永代地所売渡証券(前浜村字加服(旧称化物新田)の荒田6町4反4畝歩) 愛知郡前濱村地所売渡人加藤勝壽、同村保証人加藤又三郎→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治16年11月14日	堅美継紙・1通	い568-8
永代地所売渡証券(前浜村字加服(旧称化物新田)の荒田1町6反1畝歩) 愛知郡前濱村地所売渡人加藤勝壽、同村保証人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治16年11月14日	堅美継紙・1通	い568-9
地所売渡証券(前浜村字加福五ノ切の地所) 愛知郡千竈村四百七拾六番戸地主讓主山崎徳左衛門他13名→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治20年11月	罫紙・1冊	い568-6

共有地

化物新田明治十六年十一月十四日附加藤勝壽ヨリ買得証、同人ヨリ天野佐兵衛始メ五名へ買得証、共有地仲間申合規則、共有地分裂買得証		封筒・1点	い568-0
化物新田墾闢費金之証 神戸分左衛門	明治13年4月25日	封筒・1点	い568-1-0
記(化物新田共有地のうち小作人へ返却する証拠金16円75銭6厘受取につき) 右支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治18年7月	小切紙・1通	い568-1-1
証(新田諸費2円45銭3厘受取につき) 化物新田支配人→神戸分左衛門	明治19年4月18日	小切紙・1通	い568-1-2
証(化物新田諸入費金受取につき) 化物新田支配人→神戸分左衛門	明治18年9月8日	小切紙・1通	い568-1-3
証(明治17年諸入費など受取につき) 旧化物新田支配人→神戸分左衛門	明治18年1月11日	小切紙・1通	い568-1-4
証(明治17年常備金2円50銭受取につき) 右新田支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治17年7月27日	小切紙・1通	い568-1-5
証(明治17年常備金24円2銭1厘受取につき) 右新田支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治17年7月27日	小切紙・1通	い568-1-6
証(明治16年諸入費など金5円8銭4厘受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治17年2月25日	小切紙・1通	い568-1-7
証(明治16年諸入費・支払常備金2円50銭受取につき) 化物新田加藤又三郎・同仙之助→神戸分左衛門	明治16年8月30日	小切紙・1通	い568-1-8
証(明治16年諸入費など金1円19銭3厘受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎・加藤仙之助→神戸分左衛門	明治16年8月30日	小切紙・1通	い568-1-9
証(堤築造費・支払常備金など受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎・加藤仙之助→神戸分左衛門	明治16年3月7日	小切紙・1通	い568-1-10
証(事件取扱人入費割賦金5円41銭7厘受取につき)	明治16年6月6日	小切紙・1通	い568-1-11

化物新田支配人加藤又三郎・加藤仙之助→神戸分左衛門			
証(神戸よりの証拠金返戻金残金15円19銭4厘受取につき) 支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治18年9月	小切紙・1通	い568-1-12
化物新田諸入費受取証(神戸分左衛門半株分)	(明治14~16年)	横折紙・1通	い568-1-13
永代売渡共有地証券 愛知郡前濱村地所売渡人加藤勝壽、同村保証人加藤又三郎→見田七右衛門・神戸分左衛門・天野佐兵衛ほか9名	明治16年11月14日	罫紙・1冊	い568-3
化物新田共有地仲満申合規則 見田七右衛門・神戸分左衛門・天野佐兵衛ほか9名	明治16年11月	縦半(二ツ綴)・1冊	い568-4
化物新田共有地所高木芳・天野佐兵衛・見田七右衛門・菅井東作共有権売渡し登記済証券 神戸	明治27年2月	封筒・1点	い594-0
共有地所共有権売渡証券(愛知郡笠寺村などの土地) 東春日井郡味美村113番戸売渡人高木芳他3名→海西郡宝地村大字神戸新田28番戸神戸分左衛門	明治27年1月26日	罫紙・1冊	い594-1
証(共有地の共有権の一部を売り渡した代金180円受取につき) 東春日井郡味美村113番戸高木芳、他後見人1名→海西郡宝地村大字神戸新田神戸文左衛門	明治27年1月	縦紙・1通	い594-2
化物新田四名共有地収支決算帳		封筒・1点	い567-0
化物新田・撞木江築留西 明治廿八年掟米取立帳 写 加藤勝壽	明治29年4月21日	横長半(一ツ綴)・1冊	い567-1
記(化物新田共有地小作米代金一人当たり60円づつ送付につき) 加藤勝壽→菅井東作・神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治34年2月16日	罫紙・1通	い567-2
明治三十拾三年度 化物新田共有地取得決算報告(写) 加藤勝壽	明治34年3月16日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い567-3
明治参拾四年十二月 化物新田貸地料米取立帳 共有地分 写 加藤勝壽	明治35年5月29日	罫紙・1冊	い567-4
明治三十二年度 化物新田共有地収支決算帳 加藤勝壽		縦半(一ツ綴)・1冊	い567-5
堤防			
明治十四年辛巳六月廿五日化物新田築堤出金之証 金額壹千八百廿円 神戸	明治14年6月25日	封筒・1点	い568-5-0
化物新田築立入費金請取証 山崎徳左衛門・加藤勝壽→神戸分左衛門		横折紙・1通	い568-5-1
記(神戸より返却された証拠金受取につき) 支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治19年7月	小切紙・1通	い568-5-2
証(常備集金2円50銭受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治20年7月10日	小切紙・1通	い568-5-3
証(明治19年諸入費支払金から常備集金を引いた残金3円6厘受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎→神戸分左衛門	明治20年7月10日	小切紙・1通	い568-5-4
明治廿二年己丑九月十八日旧暦八月十七日海嘯化物新田破堤につき此金請取書	明治22年9月18日	封筒・1点	い568-2-0
証(普請費割賦金25円10銭領収につき) 旧称化物新田支配人立松亮次郎・加藤又三郎→神戸分左衛門	明治23年8月	堅切紙・1通	い568-2-1

愛知郡の新田/化物新田/堤防

仮請取証(化物新田堤防破損所修繕費金40円受取につき) 化物新田支配人立松亮次郎→神戸分左衛門	明治22年9月19日	野紙・1通	い568-2-2
記(化物新田工事費金50円受取につき) 加藤勝壽→神戸分左衛門	明治22年9月17日	小切紙・1通	い568-2-3
証(明治22年通類費など金29円62銭2厘など領取につき) 化物新田支配人立松亮次郎・加藤又三郎→神戸分左衛門	明治23年4月27日	堅切紙・1通	い568-2-4
証(明治31年度分化物新田諸入費割賦・同年常備金引き去る残金83円25銭受取につき) 化物新田支配人加藤又三郎・立松亮次郎→神戸分左衛門	明治32年1月14日	堅切紙・1通	い568-2-5

紀左衛門新田(豊田村・呼続村)

土地取得

証(愛知郡豊田村所有地売渡代金受取につき) 岡田小八郎→神戸分左衛門・瀧兵右衛門・天野佐兵衛	明治13年4月4日	野紙・1通	い447-2
証(愛知郡豊田村所有地売渡代金受取につき) 岡田小八郎→神戸分左衛門・瀧兵右衛門・天野佐兵衛	明治13年4月30日	野紙・1通	い447-3
勘定書(金利覚書) 天埜→神戸	(明治後期)2月25日	堅半・1冊	い447-4
新川天野佐兵衛様 証書類在中 滝兵右衛門→天野佐兵衛	9月17日	封筒・1点	い561-0
記(豊田村田畑売却に際し頭金受取りにつき) 岡田小八郎→天野佐兵衛・神戸分左衛門・滝兵右衛門	明治13年5月3日	野紙・1通	い561-1-1
証(豊田村田畑売却に際し頭金受取証) 岡田小八郎→天野佐兵衛・神戸分左衛門・滝兵右衛門	明治13年4月30日	野紙・1通	い561-1-2
所有地売渡し約定証(旧称紀左衛門新田の内拙者扣の分田畑宅地ほか) 岡田小八郎他2名→天野佐兵衛・神戸分左衛門・滝兵右衛門	明治13年4月3日	堅紙・1通	い561-1-3
証(神戸分左衛門よりの借用金50円受取につき) 天野佐兵衛→神戸分左衛門	明治13年9月30日	野紙・1通	い561-2
御恵授金収納証(豊田村の内紀左衛門新田岡田小八郎所有田畑売却につき) 名古屋区本町目上田新助→天野佐兵衛・神戸分左衛門・滝兵右衛門	明治13年5月24日	野紙・1通	い561-3
証(豊田村三九樋伏替入費金受取につき) (佐野)伊兵衛→神戸	明治13年10月7日	小野紙・1通	い561-4
記(星崎村開鑿拒障一件手数料受取につき) 千賀金五郎→神戸分左衛門	明治13年10月21日	野紙・1通	い561-5
口上(愛知郡役所へ貴命の如く届け済みにつき預かっていた別冊御返戻につき) 久一→天野	8月4日	横切継紙・1通	い561-6
紀左衛門新田買受につき明治十三年五月四日岡田小八郎ヨリ売渡し証券宅通 神戸		封筒・1点	い593-4-1
証(愛知郡豊田村の地所買請に際し郡役所へ提出する共有連名簿に連印下されたきにつき) 愛知郡豊田村九十番地岡田忠左衛門他9名→天野佐兵衛・神戸分左衛門	明治17年5月23日	野紙・1冊	い593-4-2
預り置地券証(預り地の字、反別など書き上げ) 滝兵右衛門→神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治14年8月12日	野紙・1冊	い593-4-3
紀左衛門新田永代売渡証券 岡田小八郎 滋賀県	明治13年5月4日	野紙・1冊	い593-4-4

近江国蒲生郡八幡為心町23番地売主岡田小八郎他1名 →瀧兵右衛門他2名			
地所賃貸			
愛知郡呼続村大字豊田字六ノ割廿八年十一月一日 ヨリ三拾一年十月三十一日迄松永左衛門へ貸シ 渡シ公正証書二通 天野、神戸	明治28年12月	封筒・1点	い566-0
(天野佐兵衛・神戸分左衛門の所有地、呼続村大字 豊田(紀左衛門新田堤外)の土地を賃借するに際 しての取り決め)		「神戸氏蔵」野紙・1冊	い566-1
領収証(手数料金2円49銭6厘領収につき) 名古屋 区裁判所管内公証人諸富保義役場	明治25年10月22日	印刷用紙・1通	い566-2
証(呼続村大字豊田の土地反別7反1歩を借用する につき) 愛知県東春日井郡味岡村大字二重堀三十 六番戸松永左衛門→天野佐兵衛、神戸分左衛門	明治25年10月	野紙・1通	い566-3
地所賃借証書抄録正本 公証人諸富保義・松永左衛 門	明治28年12月23日	「名古屋地方裁判所管 内公証人役場」用箋・1 冊	い566-4
地所賃借証書抄録正式謄本 公証人諸富保義・松永 左衛門	明治28年12月23日	「名古屋地方裁判所管 内公証人役場」用箋・1 冊	い566-5
地所賃借証書抄録正本 公証人諸富保義・松永左衛 門	明治25年12月23日	「名古屋地方裁判所管 内公証人役場」用箋・1 冊	い566-6
愛知郡呼続町大字豊田字六ノ割明治三十三年四月 ヨリ同三十四年十月三十日迄前島丈之助へ賃貸 契約公正証書謄本、前借地人長谷川玉三郎へ金 三拾三円恵与金領収書、三十五年十一月ヨリ三 十八年十月迄貸地契約公正証書 天野、神戸		封筒・1点	い569-0
地所賃借証書正本(呼続村大字豊田(紀左衛門新 田堤外)の天野佐兵衛・神戸分左衛門所有地を貯 木場として美濃国加茂郡下麻生町材木商前島丈 之助に賃貸) 公証人諸富保義・鶴飼友四郎・長谷川 玉三郎	明治33年5月28日	「名古屋地方裁判所管 内公証人役場」用箋・1 冊	い569-1
領収証(契約賃金のうち勘弁金33円受取につき) 長谷川玉三郎→天野佐兵衛・神戸分左衛門	明治33年5月10日	縦紙・1通	い569-2
木挽町神戸分左衛門様 愛知県西春日井郡新川町天 野佐兵衛→神戸分左衛門		封筒・1点	い569-3-0
西春日井郡新川町天野佐兵衛殿 名古屋市南久屋 町三丁目百七拾番戸千賀金五郎→天野佐兵衛	明治33年11月2日	封筒・1点	い569-3-1-0
(紀左衛門新田堤外貸地の解約につき書状) 金五 郎→天野	(明治33年)11月2日	横切縦紙・1通	い569-3-1-1
(一昨日催促の品別紙の通り申し参り候につき書 状) 天野左兵衛→神戸	11月3日	横切紙・1通	い569-3-2
岐阜県加茂郡下麻生町前嶋大之助 →前島大之助		封筒・1点	い569-4-0
添約定書(借地の賃料公正証書のとおり履行いた すべしにつき) 岐阜県加茂郡下麻生町前嶋丈之助 →神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治34年11月20日	野紙・1通	い569-4-1
地所賃借証書正本(写) 公証人諸富保義・鶴飼友四 郎・長谷川玉三郎	明治33年5月28日	「神戸氏蔵」野紙・1冊	い569-5

愛知郡の新田/紀左衛門新田(豊田村・呼続村)/地所賃貸

地所賃借証書正本(呼続村大字豊田(紀左衛門新田堤外)の天野佐兵衛・神戸分左衛門所有地を貯木場として美濃国加茂郡下麻生町材木商前島丈之助に賃貸) 公証人諸富保義・長谷川玉三郎	明治35年10月22日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い569-6
諸富公証役場第一万三千三百三十六号公正証書正本 紀左衛門新田字六ノ割前島丈之助へ賃渡賃貸主控	明治41年12月9日	封筒・1点	い593-3-1
第13336号地所賃借証書正本(賃貸主愛知県西春日井郡新川町大字土器野新田天野三郎他2名、賃借主岐阜県加茂郡下麻生町前島丈之助) 名古屋市中区門前町四丁目公証人諸富保義	明治41年12月9日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い593-3-2
記(委任状の訂正のため捺印下されたきことなどにつき)		堅切紙・1通	い593-3-3
第9412号地所賃借証書正本(賃貸主天野三郎・神戸分左衛門、賃借主前島丈之助・愛知郡八幡村字八熊材木商長谷川玉三郎) 名古屋市中区門前町四丁目公証人諸富保義	明治31年1月11日	「名古屋地方裁判所管内公証人役場」用箋・1冊	い593-3-4

堤敷地・葎生地交換

豊田村葎生・堤塘交換二関スル書類	(明治17年)	い741-1-0の貼札	い741-0
指紙(旧紀左衛門新田地先堤敷地の儀で相談があるにつき土木係への出頭要請) 愛知県→名古屋区木挽町神戸分左衛門	明治15年10月2日	愛知県指紙用紙(木版刷)・1通	い741-2
愛知郡豊田村戸長役場 愛知県愛知郡役所 愛知県愛知郡役所→愛知県戸長役場		封筒・1点	い741-3-0
再願(神戸・天野所有の葎生地と堤敷地の交換願、明治15年3月28日付「願」写、同年3月31日付「副申」写貼付) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門、西春日井郡土器野新田112番地天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治16年9月14日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い741-3-1
再願(神戸・天野所有の葎生地と堤敷地の交換願、明治15年3月28日付「願」写、同年3月31日付副申写、豊田村略図) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門、西春日井郡土器野新田百十二番地天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治16年9月14日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い741-3-2
愛知郡豊田村戸長役場 愛知県愛知郡役所 愛知県豊田村戸長役場→愛知県愛知郡役所		封筒・1点	い741-4-0
願(葎生地と堤敷地の交換願に際し提出した図面で誤謬があったので図面下げ戻し下されたきにつき) 海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門、西春日井郡天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治16年7月17日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い741-4-1-1
豊田村略図(天野・神戸所有の葎生地ならびに今般交換を請願している堤塘の所在) 西春日井郡土器野新田天野佐兵衛、海西郡神戸新田神戸分左衛門		堅紙・1通	い741-4-1-2
下戻ス図面(朱書)		封筒・1点	い741-4-1-3-0
豊田村略図(天野・神戸所有の葎生地ならびに今般交換を請願している堤塘の所在) 海西郡神戸新田神戸分左衛門、西春日井郡土器野新田天野佐兵衛		堅紙・1通	い741-4-1-3-1
木挽町 神戸分左衛門殿 徳川家従→木挽町 神戸分左衛門	明治17年	封筒・1点	い741-1-0
(堤敷地1500円をもって譲り受けたき旨書状) 辰巳守他1名→神戸分左衛門、天野佐兵衛	明治17年6月21日	横切紙・1通	い741-1-1

堤防

委任証・約定証(写、愛知郡豊田村のうち旧称長三郎新田古堤を拙者共へ附けられたき旨の請願に係る件)	明治17年7月	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い737-1
堤防御私下ケ願(尾張国愛知郡豊田村地内の古堤) 愛知郡豊田村94番地花井金之介他13名→愛知県令国定廉平	明治17年8月	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い737-2
委任証・約定証(下書、豊田村内の古堤払い下げに関わる諸事を天野佐兵衛・神戸分左衛門に委任するにつき) 花井金之助他13名	明治17年7月29日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い737-3
堤敷民有地ニ御引直シ之儀につき願 名古屋区替地町百四番地土族中野重道他4名	明治15年11月	「愛知郡戸長役場」用箋・1通	い737-4-1
譲渡し申地所証文之事(字長三郎新田、已新田堤) 譲り主酒井佐兵衛印、他親類1名、地所支配人1名→中川直三郎	明治5年3月	「愛知郡戸長役場」用箋の縦切紙・1通	い737-4-2
譲り渡申地所証文之事(字長三郎新田、已新田堤) 譲り主堀井佐兵衛印、親類証判1名、地所支配人1名→中埜甚三郎	明治5年3月	「神戸氏蔵」用箋・1通	い737-4-3
永代売渡し申田畑証券(愛知郡長三郎新田地所) 地所売主内田鋼太郎他親類総代・証人・右地所支配人・地中間総代各1名	明治6年7月	「愛知郡戸長役場」用箋・1通	い737-4-4
証(拙者持分の堤を残らず其許へ譲り渡すにつき) 貝谷権右衛門→新田支配人仁左衛門	明治4年12月	「神戸氏蔵」用箋・1通	い737-4-5
(旧長三郎新田堤敷民有地に御引き直しの儀につき) 愛知郡豊田村戸長安井吉三郎→愛知県令国貞廉平	明治10年	縦紙・1通	い737-4-6
隣地民有地調 愛知郡豊田村戸長安井吉三郎	明治10年	縦紙・1通	い737-4-7
地券証御下渡願(元長三郎新田へ属し候堤の内) 名古屋区伝馬町堀田清左衛門印他4名	明治15年11月22日	縦紙・1通	い737-4-8
拝借地願(豊田村囲堤の内) 岡田忠七他13名→愛知郡長正崎徳左衛門	明治15年11月	野紙・1冊	い737-5
拝借地願(豊田村囲堤の内) 岡田忠七他13名→愛知郡長正崎徳左衛門	明治15年11月	野紙・1冊	い737-6
拝借地願(豊田村囲堤の内) 岡田忠七他13名→愛知郡長正崎徳左衛門	明治15年11月	野紙・1冊	い737-7
約定証(豊田村古堤の下付請願に際しての約定) 愛知郡豊田村花井金之介他13名、同村保証人1名→神戸分左衛門、天野佐兵衛	明治17年7月29日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い737-8
長三郎新田堤塘之件		封筒・1点	い738-3-1
古塘拝借願(尾張国愛知郡豊田村字ル之割大手堤、下書)		「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-3-2
記(堤の長さの尺数書上げ)		野紙・1通	い738-3-3
届(実印が戸籍帳簿と相違するらば訂正相なりたき旨) 岡田忠七、岡田喜兵衛→愛知郡第二組戸長衆中	明治17年4月28日	野紙・1通	い738-3-4
届(実印が戸籍帳簿と相違するらば訂正相なりたき旨) 久野治次郎、岡田忠七→愛知郡第32組戸長衆中	明治17年8月28日	野紙・1通	い738-3-5

(長三郎新田古堤下付願いに際し代理を立てる旨の願書、下書)		「千賀所用」用箋・1通	い738-3-6
(豊田村略図)		縦紙・1通	い738-3-7
堤敷調査(反別、名請人名書上げ)		横折紙・1通	い738-3-8
(堤敷地周辺図面カ)		縦紙・1通	い738-3-9
(堤敷地・間数図面)		縦紙・1通	い738-3-10
神戸様 村井 村井→神戸		封筒・1点	い738-3-11
堤塘御払下願(愛知郡豊田村地内)		横切継紙・1通	い738-3-12
(堤御払下願の出願につき書状) むら井→神戸	7月24日	横切継紙・1通	い738-3-13
神戸様 村井 村井→神戸		封筒・1点	い738-3-14
記(金受取証) 名古屋瀬宜町嘉兵衛→神戸	申7月25日	小切紙・1通	い738-3-15
記(42銭受取証) 河内屋西庄→神戸文右衛門	申7月	小切紙・1通	い738-3-16
(拝領物頂戴するにつき礼状) 村井高忠→天野、神戸	7月8日	横切紙・1通	い738-3-17
神戸様 むら井 むら井→神戸		封筒・1点	い738-3-18
(堤防場所の反あたり代金の相場などにつき書状) 高忠→有年	7月15日	横切継紙・1通	い738-3-19
(不用堤防御払下願書、下書)		横切継紙・1通	い738-3-20
(花井金之助らの持地の図面)		横折紙・1通	い738-3-21
記(人足賃金受取につき) 小島随兵衛→神戸、天野	12月	堅切紙・1通	い738-3-22
(花井金之助らの持地・間尺数の書上)		横長半(一ツ綴)・1冊	い738-3-23
拝借地願(愛知郡豊田村字ル之割大手堤) →愛知県令勝間田稔	明治18年12月	「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-3-24
指令(豊田村字ル之割大手堤借地料につき)		「神戸氏蔵」用箋・1通	い738-3-25
(安井茂三郎拝借地の儀につき)		小切紙・1通	い738-3-26
委任証(拙者都合により天野佐兵衛と神戸分左衛門に、豊田村字ル之割大手堤拝借地出願に関わる諸事の権限を委任するにつき、下書)	明治18年12月18日	横切継紙・1通	い738-3-27
(堤塘御払い下げ願に関わる副申指し出すにつき)		小切紙・1通	い738-3-28

破堤

明治廿年九月 紀右衛門新田破堤滞留用書類入神戸		封筒・1点	い740-0
(堤欠書の間数、入用の書上げ)		「愛知県」用箋・1通	い740-1
記(土俵1俵あたりの代金取り調べたにつき) 服岡新田都築弥助→青木治三郎	明治22年10月17日	野紙・1通	い740-2
仮仕様(豊田村堤切所間数、入用など見積り)		「愛知県」用箋・1通	い740-3
(豊田村堤切所間数、入用など見積り)		「愛知県」用箋・1通	い740-4
(豊田村破堤修築に対する補助金の過剰金を所有)	明治23年12月	野紙・1通	い740-5

地旧地価に応じ割賦するにつき) 名古屋市本町 57番戸瀧兵右衛門他24名→佐野保兵衛			
八左衛門新田(星崎村)			
土地取得			
愛知郡星崎村之内八左衛門新田買請証券 天野佐 兵衛、神戸分左衛門	明治11年5月	封筒・1点	い621-0
旧地券請取書 明治十一年六月八日 新地券名前 換につき請取書	明治11年	包紙・1点	い621-1-0
記(八左衛門新田の土地の旧券証受け取りにつき) 星崎村用掛鶴田茂三郎→神戸分左衛門、天竺佐兵衛	明治11年6月8日	罫紙・1通	い621-1-1
証(星崎村の永井張太郎名前の地券証126通、その 書替願書3通預りにつき) 愛知郡鳴尾村永井隆治 郎→神戸分左衛門、天野佐兵衛	明治12年4月1日	罫紙・1通	い621-1-2
証(八左衛門新田の土地売渡に際しての収利金受 取につき) 永井銀太郎代各務作之右衛門→天野佐 兵衛、神戸分左衛門	明治13年4月12日	罫紙・1通	い621-2
(畑反別、代金など書付)		横折紙・1通	い621-3
(尾張国愛知郡星崎村地内旧称八左衛門新田全図)		堅美(二ツ綴)・1冊	い621-4
小作掟米帳	明治12年4月	横長半(一ツ綴)・1冊	い621-5
委任状(鳴尾村永井隆治郎を拙者の部理代人とい たすにつき) 尾張国愛知郡鳴尾村45番屋敷永井銀 太郎	明治12年4月1日	「証券界紙」用箋・1通	い593-1-1
永代地所売渡証券(尾張国愛知郡星崎村旧称八左 衛門新田字南割田畑7反1畝26歩) 愛知郡鳴尾村 45番地右地所売渡人永井銀太郎→春日井郡土器野新 田天野佐兵衛他1名	明治12年4月	罫紙(一ツ綴)・1冊	い593-1-2
地所売買地券証御書換願(尾張国愛知郡星崎村地 内字南割1659番地ほか)		罫紙(一ツ綴)・1冊	い593-1-3
尾張国愛知郡星崎村字南割収穫地価帳	明治12年4月	罫紙(二ツ綴)・1冊	い593-1-4
永代地所売渡証券(尾張国愛知郡星崎村旧称八左 衛門新田字南割田畑7反1畝26歩) 愛知郡鳴尾村 45番地右地所売渡人永井銀太郎、右同郡八番地右親類 保証人永井隆治郎→春日井郡土器野新田天野佐兵衛 他1名	明治12年4月7日	罫紙(二ツ綴)・1冊	い593-1-5
約定証書(愛知郡星崎村の内八左衛門新田南割の 田畑7反1畝26歩の代価取り決めにつき) 右約 定主永井銀太郎代理永井隆治郎→天野佐兵衛、神戸分 左衛門	明治12年4月1日	罫紙(一ツ綴)・1冊	い593-1-6
開墾事件			
愛知郡星崎村大江川通新田開墾事件、明治十三年 八月廿八日附地主総代詐称永井・各務謝辞書、同 年月日附立松善兵衛約定証券		封筒・1通	い562-0
約定証券(星崎村大江川通の新田開墾につき約定) 名古屋区東万町右約定本人武山勘七他保証人3名→神 戸分左衛門	明治19年4月	堅半(一ツ綴)・1冊	い562-1
願(星崎村立松善兵衛による大江川筋の新田開墾 願をご採用相ならざるよう仕りたき旨) 星崎	明治13年7月	罫紙・1冊	い562-2

愛知郡の新田/八左衛門新田(星崎村)/開墾事件

村旧称八左衛門新田地主同国海西郡神戸新田神戸分左衛門・同地主西春日井郡土器野新田天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平			
謝辞事(星崎村大江川通の新田開発が神戸家所有地の妨害となるにも拘わらず開発願書に連署したことへのお詫び) 愛知郡鳴尾村永井銀太郎・星崎村各務作之右衛門→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年8月28日	野紙・1冊	い562-3
名古屋木挽町京町通り下ル東軒神戸分左衛門様 名古屋呉服町五千賀金五郎		封筒・1点	い562-4-1-0
(新開地の樋の間尺相違云々の義御照会につき) 愛知郡星崎村立松善兵衛→名古屋区呉服町五丁目千賀金五郎	明治14年7月27日	葉書・1通	い562-4-1-1
(立松善兵衛より別紙回答有るにつき) 千賀金五郎→神戸分左衛門	7月31日	横切紙・1通	い562-4-1-2
(向後開墾に関する件は武山勘七へ御示談くださるべき旨) 立松善兵衛→神戸文左衛門・天野佐兵衛	明治15年9月28日	葉書・1通	い562-4-2
天野佐兵衛様、神戸文左衛門様 親展 立松善兵衛	明治15年7月28日	封筒・1点	い562-4-3-0
(新田開発の請願書に面々が連署したのは御約定によっているにつき) 立松善兵衛→天野佐兵衛・神戸文左衛門	7月28日	横切継紙・1通	い562-4-3-1
名古屋区呉服丁五丁目千賀金五郎様 愛知郡星崎村立松善兵衛		封筒・1点	い562-4-4-0
(樋の方丈量の御勘味ありたきにつき)		横切紙・1通	い562-4-4-1
(開発現場への御出掛けいたされたきにつき書状) 立松善兵衛→千賀金五郎	明治14年9月9日	横切紙・1通	い562-4-4-2
愛知郡星崎村大江川通新田開墾事件願届書		封筒・1点	い562-5-0
願(星崎村大江川筋開発願は詐術を用いたものであり容れることなき旨)		「鷗汀書屋」用箋・1通	い562-5-1
大江川通新田開墾工事之儀願(立松善兵衛の開発に際し従来の堤防の葺き石を除去することは危険につき、工事受任者武山勘七を御召出し責問し堤防を元形に修理するよう御下命くだされたき旨) 海西郡神戸新田神戸分左衛門・西春日井郡土器野新田天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治15年6月23日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-2
届(大江川筋開墾願い聞き入れることなき旨)/愛知郡勧業係の掛札、愛知県による却下の下札貼付 神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治13年10月	野紙・1冊	い562-5-3-1
謝辞書(地主総代を詐称したことへの謝罪書写) 愛知郡鳴尾村永井銀太郎・星崎村各務作之右衛門→海西郡神戸新田神戸分左衛門・西春日井郡土器野村天野佐兵衛	明治13年8月28日	野紙・1冊	い562-5-3-2
約定証券(神戸家らが開発を承諾した際の確約七条写) 愛知郡星崎村立松善兵衛→海西郡神戸新田神戸分左衛門・西春日井郡土器野村天野佐兵衛	明治13年8月28日	堅半(一ツ綴)・1冊	い562-5-3-3
願(立松善兵衛による星崎村大江川筋開発御採用にならざるよう御指令くだされたき旨)；星崎村戸長役場所の貼紙付 神戸分左衛門・天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治13年7月8日	「鷗汀書屋」用箋・1冊	い562-5-4-1
新田開墾願(大江川通、写) 愛知郡星崎村三百三十	明治13年3月30日	堅半(一ツ綴)・1冊	い562-5-4-2

七番地立松善兵衛、地主惣代各務作之右衛門・永井銀太郎ほか2名→愛知県令国貞廉平			
(大江川筋開発の公裁結審まで工事差留願) 神戸分左衛門・天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治13年8月17日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-4-3
大江川通新田開墾の儀につき再願 神戸分左衛門・天野佐兵衛・立松善兵衛→愛知県令国貞廉平	明治15年9月6日	野紙・1冊	い562-5-5-1
新田開墾願(星崎村大江川筋、写) 愛知郡星崎村三百三十七番地立松善兵衛他4名→愛知県令国貞廉平	明治13年3月30日	野紙・1冊	い562-5-5-2
(新規開墾奉願地の絵図)		堅紙・1通	い562-5-5-3
謝辞書(地主総代詐称し大江川通新田開墾の請願書に連署したことへの謝罪書写) 愛知郡鳴尾村四拾五番地永井銀太郎・星崎村各務作之右衛門→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年8月28日	堅紙・1冊	い562-5-5-4
約定証券(大江川通新田開発に際し確約いたす条々写) 愛知郡星崎村三拾七番地立松善兵衛→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年8月28日	堅紙・1冊	い562-5-5-5
大江川通新田開墾の儀につき願(立松善兵衛による大江川通新田開発御許容ならざるよう仕りたき旨) 海西郡神戸新田神戸分左衛門・西春日井郡土器野村天野佐兵衛→愛知県令国貞廉平	明治15年7月17日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-6-1
新田開墾願(写、本星崎村・星崎村地先字大江川通) 愛知郡星崎村三百三拾七番地立松善兵衛他4名→愛知県令国貞廉平	明治13年3月30日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-6-2
(新規開墾奉願地の絵図)		堅紙・1通	い562-5-6-3
謝辞書(地主総代詐称し大江川通新田開墾の請願書へ連署したことへの謝罪書写) 愛知郡鳴尾村四拾五番地永井銀太郎他1名→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年8月28日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-6-4
約定証券(大江川通新田開発に際し確約いたす条々写) 愛知郡星崎村三拾七番地立松善兵衛→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年8月28日	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い562-5-6-5
田地変換			
八左衛門新田屋敷割千百式番・千四百拾番・千四百拾壹番畑ノ内田地ニ変換労力費受負金作人山田富右衛門・大森弥三郎へ渡す受取書	明治28年1月17日	封筒・1点	い613-0
記(八左衛門新田のうち字屋敷割1402番畑他2ヶ所の畑を田地に返還するための労力費請負金1円50銭受取につき) 愛知郡星崎村作人山田富右衛門他1名→神戸分左衛門	明治27年12月18日	横切継紙・1通	い613-1
堤防			
八左衛門新田堤防修繕費賦課ノ件武山勘七約定証券	明治23年5月4日	封筒・1点	い623-0
証(八左衛門新田堤防修繕費の一部受取につき) 武山勘七代人鈴木瀧三郎→神戸分左衛門	明治23年10月13日	野紙・1通	い623-1
(新築地嶽下年季中の修堤費用は貴殿ご所有地には賦課せず、その分は拙者が出金、償却するにつき) 名古屋市東萬町廿七番戸武山勘七、他保証人4名→神戸分左衛門	明治23年5月4日	野紙(一ツ綴)・1通	い623-2-1

愛知郡の新田/八左衛門新田(星崎村)/堤防

添証(堤防修繕費負担の義務が瀧定助ら3名にあることの添証) 名古屋市東萬町27番戸責務者武山勘七他責務者3名、保証人1名→神戸分左衛門、天野佐兵衛	明治28年4月8日	郵便(一ツ綴)・1通	い623-2-2-1
約定証券(堤防修繕費の負担などの取り決め) 名古屋区右約定本人武山勘七、他保証人3名→天野佐兵衛、神戸分左衛門	明治19年4月20日	郵便(一ツ綴)・1冊	い623-2-2-2
(堤防修繕費負担の義務は拙者共にある旨の添証) 名古屋市東萬町27番戸武山勘七、同市伝馬町71番戸横井弥三吉→神戸分左衛門、天野佐兵衛	明治31年5月18日	郵便(一ツ綴)・1通	い623-2-3

その他

委任状(佐野・神戸に売り渡した八左衛門新田地所の井領米の儀などに関する件の委任状) 愛知郡鳴尾村永井銀太郎	明治12年7月19日	「証券界紙」用箋・1通	い621-6-2
神戸様 鈴木文一→神戸	10月29日	封筒・1点	い621-6-1-0
(夜前に豊橋より帰宅するので永井銀太郎へ係る事件に関する書類などを遣いの者に渡してほしい旨) 鈴木文一→神戸	10月29日	郵便・1通	い621-6-1-1

笠寺村

字上鳥山共有地

愛知郡笠寺村字上鳥山畑地二村いそ成田紋九郎ヨリ買受ニ関スル証書ならびに書付願 神戸	明治29年12月	封筒・1点	い563-0
笠寺村地所買得覚記(地代金書付) 神戸	明治29年12月	横半半(一ツ綴)・1冊	い563-1
記(共有買入地代金取替金6円51銭3厘受取につき) 立松太左衛門→神戸分左衛門	6月29日	小切紙・1通	い563-2
(登記関係書類につき書状) □秋→鷗汀(八代目成年)	6月17日	横切紙・1通	い563-3
愛知郡笠寺村字上鳥山共有地 三拾四年出納計算書(菅井氏より受取)	明治35年	封筒・1通	い560-1
(笠寺村字上鳥山の地所売渡証書綴) 名古屋市仲之町一番戸売主成田紋九郎、愛知郡星崎村大字本星崎三十八番戸売主二村いそ→海東郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門	明治29年12月	郵便・1冊	い560-2
神戸様 益井→神戸	27日	封筒・1点	い560-3-0
(笠寺鳥山共有地代金割合請取書御戻しなどにつき書状) 益井邦→神戸	4月27日	横切紙・1通	い560-3-1
記(買受地代金・諸雑費四ツ割壱分受取りにつき) 神戸分左衛門→藤井東作	明治30年6月30日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い560-3-2
共有権売却代金受取証(金70円) 愛知郡笠寺村加藤勝寿相続人加藤仙之助ノ相続人鉄介親権者加藤チエ他1名→神戸分左衛門	明治38年4月12日	縦半(一ツ綴)・1冊	い560-3-3
笠寺村上鳥山地代金75円菅井氏領収証	明治35年3月18日	封筒・1点	い560-4-0
証(共有地代金75円受取証) 菅井菊三郎→神戸	明治38年3月18日	印刷用紙(菅井受領用箋)・1通	い560-4-1
記(上鳥山共有地代30円立松他2名分として受取につき) 菅井菊三郎→神戸分左衛門	明治38年4月7日	小郵便・1通	い560-4-2

(神戸分左衛門分井領米30年分2合受領につき) 笠寺村役場	12月	印刷用紙(役場納税用 か)・1通	い560-5-1
領収証書(地租金7錢2り) 愛知郡笠寺村助役兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年5月3日	印刷用紙・1通	い560-5-2
領収証(金5錢) 愛知郡笠寺村助役兼収入役立松太左 衛門→神戸分左衛門	明治30年5月3日	印刷用紙・1通	い560-5-3
領収証書(畑租34錢6厘) 愛知郡笠寺村助役兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年12月1日	印刷用紙・1通	い560-5-4
領収証書(地租金24錢5厘) 愛知郡笠寺村助役兼収 入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年	印刷用紙・1通	い560-5-5
領収証書(畑租34錢7厘) 愛知郡笠寺村助役兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年	印刷用紙・1通	い560-5-6
領収証(地租金4錢8厘) 愛知郡笠寺村助役兼収入役 立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年	印刷用紙・1通	い560-5-7
領収証書(地租金7錢2厘) 愛知郡笠寺村助役兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治30年11月1日	小切紙・1通	い560-5-8
(売り渡す共有地の字・番号・掟米・取米など書付) 立松太左衛門→神戸分左衛門	明治32年2月18日	地主別掟米・取米記入 表(インク書き)・1通	い560-5-9
(共有地掟米売却代金10円30錢4厘書附)		小切紙・1通	い560-5-10
字上鳥山掟米受取記		「神戸氏蔵」用箋・1通	い560-5-11
証(共有地掟米売却代金2円57錢6厘請取につき) 立松太左衛門、菅井東作→神戸分左衛門	明治31年2月17日	横切紙・1通	い560-5-12
(別紙約定書の世話料につき)		横切継紙・1通	い560-5-13
記(笠寺村字上鳥山収支残額金8円19錢3厘受取り につき) 神戸分左衛門→立松太左衛門	明治38年4月27日	堅切紙・1通	い560-6
(明治31年度共有地収支精算書ほか関係書類綴)	明治32年5月	罫紙・1冊	い560-7
(明治32年度共有地収支精算書ほか関係書類綴)		罫紙・1冊	い560-8-1
(金7錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収入役立松太 左衛門	明治32年8月28日	小切紙・1通	い560-8-2
(金3錢4厘領収につき) 愛知郡笠寺村収入役立松太 左衛門	明治33年3月23日	小切紙・1通	い560-8-3
(金6錢9厘領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収入役立 松太左衛門	明治32年5月30日	小切紙・1通	い560-8-4
(金6錢9厘領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収入役立 松太左衛門	明治32年9月29日	小切紙・1通	い560-8-5
(金37錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収入役立松 太左衛門	明治32年9月29日	小切紙・1通	い560-8-6
(金37錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収入役立松 太左衛門	明治32年12月4日	小切紙・1通	い560-8-7
(明治33年度共有地精算書、諸税明細表など綴)	明治34年3月12日	罫紙・1冊	い560-9-1
領収証(地価割金2錢領収につき) 愛知郡笠寺村長 兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年3月26日	印刷用紙・1通	い560-9-2
領収証(地価割金4錢2厘領収につき) 愛知郡笠寺 村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年4月25日	印刷用紙・1通	い560-9-3

愛知郡の新田/笠寺村/字上鳥山共有地

領収証書(金9錢3厘領収につき) 愛知郡笠寺村長 立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年5月1日	印刷用紙・1通	い560-9-4
領収証書(畑租金37錢領収につき) 愛知郡笠寺村 長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年9月25日	印刷用紙・1通	い560-9-5
領収証書(金10錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収 入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年9月25日	印刷用紙・1通	い560-9-6
領収証書(地価割金4錢1厘領収につき) 愛知郡笠 寺村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年9月25日	印刷用紙・1通	い560-9-7
領収証書(畑租37錢領収につき) 愛知郡笠寺村長 兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治33年12月3日	印刷用紙・1通	い560-9-8
領収証(郡費負担地価割3錢2厘領収につき) 愛知 郡笠寺村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年1月6日	印刷用紙・1通	い560-9-9
領収証書(地租割金4錢8厘領収につき) 愛知郡笠 寺村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年3月10日	印刷用紙・1通	い560-9-10
明治三十四年度共有地精算書 支配立松太左衛門→ 共有総代神戸分左衛門	明治35年3月5日	罫紙・1冊	い560-10-1
領収証書(金15錢2厘領収につき) 笠寺村長兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年4月30日	印刷用紙・1通	い560-10-2
領収証(地租割金9錢2厘領収につき) 笠寺村長兼 収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年7月31日	印刷用紙・1通	い560-10-3
領収証書(畑租金50錢5厘領収につき) 愛知郡笠寺 村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年9月26日	印刷用紙・1通	い560-10-4
領収証(地租割金13錢5厘領収につき) 笠寺村長兼 収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年10月25日	印刷用紙・1通	い560-10-5
領収証書(金24錢8厘領収につき) 笠寺村長兼収入 役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年11月1日	印刷用紙・1通	い560-10-6
領収証書(畑租金53錢5厘領収につき) 愛知郡笠寺 村長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治34年1月30日	印刷用紙・1通	い560-10-7
仮証(金2円7錢7厘領収につき) 二村源二郎→笠寺 村役場御中	明治35年11月13日	横切継紙・1通	い560-10-8
(明治35年度共有地掟米精算書、公租明細書) 立 松太左衛門→共有総代神戸分左衛門	明治36年3月16日	罫紙・1冊	い560-11-1
領収証書(金12錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収 入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治35年3月25日	印刷用紙・1通	い560-11-2
領収証書(金23錢領収につき) 愛知郡笠寺村長兼収 入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治35年4月30日	印刷用紙・1通	い560-11-3
領収証(地価割金14錢領収につき) 愛知郡笠寺村 長兼収入役立松太左衛門→神戸分左衛門	明治35年5月12日	印刷用紙・1通	い560-11-4
領収証書(畑租金53錢5厘領収につき) 愛知郡笠寺 村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治35年9月29日	印刷用紙・1通	い560-11-5
領収証(地租割14錢領収につき) 笠寺村助役兼収 入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治35年9月29日	印刷用紙・1通	い560-11-6
領収証書(金22錢領収につき) 愛知郡笠寺村収入役 稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治35年10月30日	印刷用紙・1通	い560-11-7
領収証書(畑租金53錢5厘につき) 愛知郡笠寺村助 役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治35年11月24日	印刷用紙・1通	い560-11-8

(明治36年度共有地掟米精算書、領収書、公租明細表) 立松太左衛門他2名→神戸分左衛門	明治37年4月22日	罫紙・1冊	い560-12-1
領収証書(金3銭領収につき) 笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年3月25日	印刷用紙・1通	い560-12-2
領収証書(金22銭領収につき) 笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年4月21日	印刷用紙・1通	い560-12-3
領収証書(金23銭領収につき) 笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年10月28日	印刷用紙・1通	い560-12-4
領収証書(金8銭領収につき) 笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年3月7日	ガリ版刷用紙・1通	い560-12-5
領収書(地価割金15銭領収につき) 笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年4月21日	印刷用紙・1通	い560-12-6
(地価割金15銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年9月	印刷用紙・1通	い560-12-7
領収証(地価割金1銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年4月21日	印刷用紙・1通	い560-12-8
領収証書(畑租金53銭5厘領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年9月29日	印刷用紙・1通	い560-12-9
領収証書(畑租金53銭5厘領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治36年11月28日	印刷用紙・1通	い560-12-10
記(笠寺村字上鳥山の36年度諸雑費を引いた残額金9円4銭2厘受取りにつき) 神戸分左衛門→立松太左衛門	明治37年4月22日	罫紙・1通	い560-12-11
(明治37年共有地掟米精算書、配当金領収証) 立松太左衛門他2名→神戸分左衛門	明治38年4月13日	罫紙・1冊	い560-13-1
三十七年井領下用米(米1合領収につき) 愛知郡笠寺村役場→神戸分左衛門	明治38年1月25日	ガリ版刷用紙・1通	い560-13-2
領収書(金11銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年4月23日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-3
領収証書(金1銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年4月23日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-4
領収証書(金18銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年4月23日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-5
領収書(地価割金11銭領収につき) 愛知郡笠寺村収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年9月30日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-6
領収証書(畑及雑地租金70銭領収につき) 愛知郡笠寺村助役兼収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年9月30日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-7
領収証書(金31銭領収につき) 愛知郡笠寺村収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年10月28日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-8
領収証書(畑及雑地69銭領収につき) 愛知郡笠寺村収入役稲熊喬吾→神戸分左衛門	明治37年11月29日	村役場ガリ版刷用紙・1通	い560-13-9

千竈村

全体

愛知県呼続町大字千竈悪水路ならびに堤敷所有権保存登記ならびに所有権移転登記書 神戸

明治34年7月26日

封筒・1点

い618-0

愛知郡の新田/千竈村/全体

所有権保存登記申請書(愛知郡呼続町大字千竈字川敷参番の悪水路など) 神戸分左衛門、右代人神戸銀之助→名古屋区裁判所熱田出張所御中	明治34年7月26日	罫紙・1冊	い618-1
証(水室伝兵衛・渡辺喜兵衛へ売り渡した悪水路地所を貴殿の名義にて売買登記を済ますにつき) 愛知郡名古屋市皆戸町1丁目(署名未記入)→愛知郡海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門	明治34年7月26日	罫紙・1冊	い618-2
記(千竈村掟米地主割合)		横折紙・1通	い463-5
記(出張費・認め方費用等の書上)		折紙・1通	い463-6

土地取得

愛知郡千竈村買得証 外買得二属スル書類	明治13年2月	袋・1点	い558-0
(井路敷の書上) 金原辰寿・水野徳兵衛他2名→海西郡神戸新田神戸文左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年3月4日	罫紙・1冊	い558-1-1
(井路敷の書上) 蔵井庄左衛門・藤井要蔵他4名→海西郡神戸新田神戸文左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年3月4日	罫紙・1冊	い558-1-2
(愛知郡千竈村の土地反別1畝1歩代金算用書付)		罫紙・1通	い558-1-3
地所売渡証券(千竈村字川敷・字繰出の井路敷・堤敷反別5反1畝1歩) 愛知郡千竈村百六拾七番地右地所売渡本人近藤忠兵衛・服部居敬、ほか保証人1名→海西郡神戸新田神戸文左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年2月24日	堅美継紙・1通	い558-2-1
地所売渡証券(千竈村字川敷・字繰出の井路敷・堤敷反別8反14歩) 愛知郡千竈村百九十五番地地所売渡本人金原辰寿・水野徳兵衛他2名、保証人1名→海西郡神戸新田神戸文左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年2月29日	堅美継紙・1通	い558-2-2
地所売渡証券(千竈村字川敷反別4反壹歩) 右地所売渡本人愛知郡豊田村藤井庄右衛門他3名、熱田富江町・千竈村各1名、保証人1名→海西郡神戸新田神戸文左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年3月4日	堅美継紙・1通	い558-2-3
愛知郡千竈村買得証 神戸松	明治18年6月27日	包紙・1点	い558-2-4-0
証(売渡地所の手続きにつき) 愛知郡千竈村右地頭売渡本人近藤官兵衛・服部居敬、保証人1名→天野佐兵衛・神戸分左衛門	明治13年2月22日	罫紙・1冊	い558-2-4-1
証(手付金50円受取りにつき) 愛知郡千竈村右代理人鈴木慶十郎→氷室長峯、御取次神戸分左衛門	明治13年2月25日	罫紙・1通	い558-2-4-2
証(愛知郡千竈村地所売渡の手付金40円受取りにつき) 鈴木慶十郎→神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治13年3月1日	堅紙・1通	い558-2-4-3
記(地券証六通分印税上納につき) 鈴木慶十郎→天野、神戸		小切紙・1通	い558-2-5-1
(井敷反別書付) 近藤官兵衛・服部居敬→海西郡神戸新田神戸分左衛門・春日井郡土器野新田天野佐兵衛	明治13年2月24日	罫紙・1冊	い558-2-5-2
記(金296円御渡被申上候につき) 天野→神戸	明治12年3月6日	罫紙・1通	い558-2-6-1
(本証券その他につき書状) 天野→神戸	2月2日	横切継紙・1通	い558-2-6-2
(金額書付) →		小切紙・1通	い558-2-6-3

証(紹介手数料受納につき) 鈴木慶十郎→神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治13年3月4日	野紙・1通	い558-2-7-1
証(紹介手数料45円受納につき) 鈴木慶十郎→神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治13年3月1日	「鵠汀書屋」用箋・1通	い558-2-7-2
証(紹介手数料受取につき) 愛知郡千竈村鈴木慶十郎・熱田籠屋町藤田談太郎→神戸分左衛門・天野佐兵衛	明治13年2月24日	「神戸氏蔵」用箋・1通	い558-2-7-3
記(地券証印税6銭受取につき) (千竈村戸長)役場→神戸分左衛門代理鈴木慶十郎	明治13年3月10日	小切紙・1通	い558-2-7-4
地所売渡証券(千竈村字川敷・字繰出の井路敷・堤敷5反3畝26歩) 尾張国西春日井郡土器野新田売主天野佐兵衛、保証人1名→海西郡神戸新田式番地神戸分左衛門	明治18年6月27日	堅美継紙・1通	い558-2-8
地所譲渡証券 愛知郡千竈村地所譲主山崎徳左衛門ほか13名→海西郡神戸新田神戸分左衛門ほか4名	明治20年1月25日	野紙・1冊	い447-1
記(千竈村耕地・井路敷買受のための出金書上げ)	(明治13年)	横折紙・1通	い463-4

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

大高源兵衛新田

この新田は、1706（宝永3）年大高村の山口源兵衛が開発し、地積は田畑38町8反余である。明治11年には愛知郡鳴尾村に属した〔以上角川地名辞典〕。神戸家との関わりは開発当初からと思われるが、1706年の史料を欠くために不明である。この新田には神戸家のほかにも地主がおり、3ないし2人の地主グループを「名古屋方」と呼んでいた。

この新田における神戸家の経営組織は現段階ではあまりよくわからない。但し、中嶋半右衛門が名古屋方の支配人の役割を果たしていることは確実である。中嶋半右衛門は、もしも彼が後述の大項目にある中島屋半右衛門と同一人物であるとすれば、名古屋御菌町の商人であり、神戸家とは商業面でも経営提携を行っていた家である。つまり、大高源兵衛新田名古屋方の支配人は名古屋に居住している。これに対して現地の新田小屋で直接地主経営に従事していると見られる人物が惣助ないし惣兵衛である。惣助には地主グループから給分が支払われていた。

もっとも、本目録収録分の史料は明治期のものが大半である。「近代土地売買」には、明治10～28年にかけての「地所売渡証券」など53点がある。「延滞掟米請求事件」には、明治25年に小作人が掟米を滞納したことに対し神戸家が裁判を起こすことになった事件の関連文書37点を収めた。

掟米徴収

米納帳

覚(源兵衛新田御年貢米積送りにつき) 源兵衛新田義兵衛→犬山屋兵次	申11月3日	堅切紙・1通	い445-3-37
-----------------------------------	--------	--------	-----------

経営費用

入用金銀帳

卯年源兵衛新田入用元利金帳 庄屋孫治郎	享保8年12月吉日	横長美紙(一ツ綴)・1冊	い457
---------------------	-----------	--------------	------

その他

大高新田堤繕方入用金勘定目録 大高村源兵衛	正徳2年8月13日	堅半(二ツ綴)・1冊	い455
-----------------------	-----------	------------	------

年貢・村入用

年貢

申年免定(愛知郡源兵衛新田年貢割付状) 鳥覚右衛門→右村庄屋・組頭・小百姓	宝暦2年11月	堅継紙・1通	い503-2-10
卯年免定 写シ(愛知郡源兵衛新田) 本嘉七郎→右新田庄屋・組頭・百姓	宝暦9年11月	堅美継紙・1通	い732-1
辰年免定 写シ(愛知郡源兵衛新田) 本嘉七郎→右新田庄屋・組頭・百姓	宝暦10年11月	堅美継紙・1通	い732-2
巳年免定 写シ(愛知郡源兵衛新田) 磯藤七郎→右新田庄屋・組頭・百姓	宝暦11年11月	堅美継紙・1通	い732-3
午年免定(愛知郡源兵衛新田) 磯藤七郎→右新田庄屋・組頭・百姓	宝暦12年11月	堅美継紙・1通	い732-4

未年免定(愛知郡源兵衛新田) 磯藤七郎→右村庄 屋・組頭・百姓	宝暦13年11月	豎美継紙・1通	い732-5
------------------------------------	----------	---------	--------

作徳米計算

納米入用割賦

(大高新田割賦帳)	酉極月	横長半(一ツ綴)・1冊	い461-1
(割符帳)	亥	横長半(一ツ綴)・1冊	い461-2

その他

(小作人ごとの面積書上帳) 惣兵衛→紋次郎・半右衛門	元文4年10月	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-3
----------------------------	---------	-------------	--------

普請

(普請人足書上等) 岩田治部・今泉忠兵代鬼頭伝太夫 ほか1名、安坂才右衛門→右新田庄屋中	享保17年4月	横長半(一ツ綴)・1冊	い464-4
---	---------	-------------	--------

近代土地購入

地所売渡約定証券 愛知郡鳴尾村右地所売渡人永井松右衛門・愛知郡鳴尾村右親類保証人永井定右衛門→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治13年11月11日	野紙・1冊	い454-1
証(書き入れ借入金返金につき地券証請取) 山口源兵衛→神戸分左衛門	明治12年3月4日	野紙・1通	い454-2
証(金請取につき) 山口源兵衛→神戸分左衛門	明治10年10月28日	野紙・1通	い454-3
証(正徳米月割納入の約定につき) 山口源兵衛→神戸分左衛門	明治10年10月28日	野紙・1通	い454-4
耕地売買御届 知多郡大高村右地所売渡人山口源兵衛・海西郡神戸新田右地所買受人神戸分左衛門→愛知郡鳴尾村戸長御中	明治12年3月18日	野紙・1冊	い454-5
耕地売渡証 知多郡大高村売主山口源兵衛・愛知郡熱田親類保証人鈴木七左衛門・同郡鳴尾村惣代蟹江作左衛門→神戸分左衛門	明治12年3月17日	野紙・1冊	い454-6
約定證券(地券名義書換につき) 山口源兵衛→神戸分左衛門	明治13年3月15日	野紙・1通	い454-7
願(古堤払下ならびに開墾請願承諾につき) 海西郡神戸新田神戸分左衛門→愛知郡鳴尾村戸長役場御中	明治13年7月1日	野紙・1冊	い454-8
地券證写		野紙・1冊	い454-9
記(地租・諸入費請取につき) 愛知郡鳴尾村永井松右衛門→海東郡神戸新田神戸分左衛門	明治14年6月	野紙・1冊	い454-10
證(売渡した土地を買い戻すさいの確約につき) 海西郡神戸新田右源兵衛地仲満神戸分左衛門・知多郡大高村右同断下村実栗・愛知郡鳴尾村右同断永井松右衛門・代理永井定右衛門・知多郡大高村右同断山盛増右衛門・愛知郡鳴尾村右同断久野久兵衛・同郡同村右同断久野増三郎・愛知郡鳴尾村右同断久野信太郎	明治18年1月22日	野紙・1冊	い454-11
証(地所売渡証券の証明につき) 愛知郡鳴尾村地所売渡人永井松右衛門→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治14年9月30日	野紙・1通	い454-12

証(地所買請のさいの口入料請取領収証) 右金円 請取人土屋大右衛門・右保証人柴田伝左衛門→神戸分 左衛門	明治10年10月25日	罫紙・1通	い454-13
証(地所買請のさいの紹介料請取領収証) 愛知郡 鳴尾村永井定右衛門→神戸分左衛門	明治13年10月11日	罫紙・1通	い454-14
永代売渡地所証券(愛知郡鳴尾村旧名源兵衛新田 のうち改正反別4町余の田畑宅地) 第七区知多 郡大高村山口源兵衛他2人→第六区海西郡神戸新田神 戸分左衛門	明治10年11月1日	堅美継紙・1通	い557-1
永代売渡地所証券(愛知郡鳴尾村旧名源兵衛新田 のうち反別7反5畝余の田畑宅地) 愛知郡鳴尾村 27番地右地所売渡人永井松右衛門他1名→海西郡神戸 新田式番地神戸分左衛門	明治14年9月30日	堅美紙・1通	い557-2
愛知郡鳴尾村旧源兵衛新田字屋敷割道上千四百八 番外八筆総計反別四反七畝廿七歩久野増三郎ヨ リ買受につき即ち明治廿七年四月十七日附登記 済右につき約定証券巻通 神戸	明治27年4月18日	封筒・1点	い564-0
地所売渡証券(鳴尾村地所代金444円58銭3厘にて 売り渡すにつき) 尾張国愛知郡鳴尾村四十三番戸 売渡人久野増三郎→海西郡宝地村大字神戸新田式拾 八番戸神戸分左衛門	明治27年4月16日	堅半(一ツ綴)・1冊	い564-1
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 愛知郡鳴尾村大 字源兵衛組蟹江作左衛門→名古屋市木挽町神戸分左 衛門	明治27年4月20日	封筒・1点	い564-2-1-1-0
(久増方より買い上げた1703番地所の面積が台帳 記載の面積と比べ不足するにつき書状) 熊江 作左衛門→御地主神戸	(明治27年)4月20日	横切継紙・1通	い564-2-1-1-1
(受作地丈量の件貴意に应ぜず候につき) 愛知郡 鳴尾村下江金三郎→愛知県名古屋市長尾義方 左衛門	明治28年1月4日	葉書・1通	い564-2-1-2
(久増が御当様(神戸家)と直談のうえ御渡しす ると申しているにつき) 愛知郡鳴尾村大字源兵 衛組蟹江作右衛門→名古屋市長尾義方左衛門	1月12日	葉書・1通	い564-2-1-3
(塩気となった土地に土足しいたすよう申し上げ たがこの儀小生の権利にこれなきにつき) 久 野増三郎→名古屋市長尾義方左衛門	明治27年9月23日	葉書・1通	い564-2-1-4
名古屋市長尾義方神戸分左衛門様 久野増三郎→神戸分 左衛門	明治28年1月14日	封筒・1点	い564-2-1-5-0
記(地所買受証文雛形)		横切紙・1通	い564-2-1-5-1
(小作帳・約定証至急送付くださったきにつき書 状) 久野増三郎→神戸分左衛門	1月14日	横切継紙・1通	い564-2-1-5-2
(源兵衛新田久野増三郎扣地地価・掟米書付)		小切紙・1通	い564-2-1-6
(掟米・反別書付)		横切紙・1通	い564-2-1-7
(石高・代金書付)		小切紙・1通	い564-2-1-8
名古屋市長尾義方神戸分左衛門様御店長尾義方様 愛知郡鳴尾村久野増三郎→長尾義方	明治27年1月28日	封筒・1点	い564-2-1-9-0
(地所の買い上げ条件などにつき書状) 久野増三 郎→神戸分左衛門様御店長尾義方	(明治27年)1月28日	横切継紙・1通	い564-2-1-9-1
名古屋市長尾義方神戸分左衛門様 久野増三郎→神戸分 左衛門	明治27年3月1日	封筒・1点	い564-2-1-10-0

左衛門			
(掟米相場などにつき書状) 久野増三郎→神戸文左衛門	(明治27年)3月1日	横切紙・1通	い564-2-1-10-1
記(金1円55銭相済につき) 惣兵衛→神戸	7月9日	横切紙・1通	い564-2-1-11
名古屋市木挽町神戸分左衛門殿 愛知郡鳴尾町朝岡清右衛門→名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治28年6月12日	封筒・1点	い564-2-1-12-0
(昨年来の一条落着の謝儀としての贈り物に対する礼状) 朝岡清右衛門→神戸分左衛門	6月12日	横切紙・1点	い564-2-1-12-1
久野増三郎所有分(久野所有の田畑反別・地価・掟米・作人書付)		横長半(一ツ綴)・1冊	い564-2-1-13
(田畑反別・地価・掟米・作人書付)		横長半(一ツ綴)・1冊	い564-2-1-14
(間数・番号・金額書付)		横折紙・1点	い564-2-1-15
地所売渡シにつき約定証(鳴尾村田畑4反7畝27歩を286円63銭にて売渡につき) 愛知郡鳴尾村四十三番戸久野増三郎→神戸分左衛門	明治27年4月17日	堅半(一ツ綴)・1冊	い564-2-2
愛知郡鳴尾村(源兵衛新田)字堤外拾壹筆 山口源兵衛売渡証券壹通・坪井幸吉売渡証券壹通・久野園二連名宛山口源兵衛売渡証券壹通、同所永井松右衛門外七名共有地売渡証券壹通、此買地代金費用下村計算書買地別ノトキ抽籤書壹綴 神戸分左衛門	明治25年10月31日	封筒・1通	い565-0
地所売渡証券(鳴尾村畑地など代金628円50銭にて売り渡すにつき) 売渡人山口源兵衛、保証人山口源一郎→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門	明治25年10月22日	野紙・1冊	い565-1
地所売渡証券(鳴尾村宅地など代金250円にて売り渡すにつき) 売渡人坪井幸吉、保証人山口源一郎→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門	明治25年10月22日	野紙・1冊	い565-2
地所売渡証券(鳴尾村荒田代金41円にて売り渡すにつき) 知多郡大高村貳百七拾壹番戸売渡人山口源兵衛、保証人山口源一郎→海西郡宝地村大字神戸新田神戸分左衛門、愛知郡成尾村久野園次	明治25年10月22日	野紙・1冊	い565-3
(字堤外など畑宅地の反別・地価・掟米書付)		横切紙・1冊	い565-4-1
神戸氏(山口・坪井地代金など受取につき) 下村誠	明治25年10月31日	野紙・1通	い565-4-2
山口氏地沢精算記(年限定引米代など金額書付)		野紙・1通	い565-4-3
山口・坪井地所買受所得精算記 →神戸	明治26年3月	野紙・1冊	い565-4-4
地所売渡証券(鳴尾村旧源兵衛新田永井松右衛門外七名共有地5円にて売り渡すにつき) 知多郡大高村貳百七十一番戸売渡人山口源兵衛、保証人山口源一郎→海西郡宝地村大字神戸新田廿八番戸神戸分左衛門、愛知郡鳴尾村久野久兵衛	明治25年10月24日	野紙・1冊	い565-4-5
地所売渡証券登記済証入	明治35年2月	封筒・1点	い557-3-0
地所売渡証券(愛知郡鳴尾村源兵衛新田字江北中之切の田地4筆) 愛知郡鳴尾村拾六番戸売主永井松右衛門→海西郡宝地村大字神戸新田貳拾八番戸神戸分左衛門	明治35年2月22日	野紙・1冊	い557-3-1
源兵衛新田江北上ノ切井路起返代(田成)三筆永井松右衛門(地主惣代)より売渡登記済証券 神戸	明治39年12月25日	封筒・1点	い617-0

地所売渡証券(愛知郡笠寺村の土地3筆) 愛知郡笠寺村大字鳴尾16番戸売主永井松右衛門→海西郡十四山村大字神戸新田502番地神戸分左衛門	明治39年12月25日	野紙(一つ綴)・1冊	い617-1
延滞掟米請求事件			
〔封筒〕(「源兵衛新田廿四年度掟米請求事件用書類、判決書五通」 神戸		封筒・1点	い592-0
正寿撰(茶袋の転用カ) 尾張名古屋伝馬町御茶所		封筒・1点	い592-1-0
(小作米請求事件第24回分の金受け取るにつき) 下村誠→神戸分左衛門	6月8日	小切紙(野紙)・1通	い592-1-1
(事件仮割賦金受取につき) 年番下村誠→神戸分左衛門	3月7日	小切紙(野紙)・1通	い592-1-2
神戸分左衛門様 森谷事務所→神戸文左衛門	明治25年8月9日	封筒・1点	い592-2-0
(初野への記載方について) 森谷事務所→神戸文左衛門	8月9日	横切紙・1通	い592-2-1
当県名古屋市木挽町二丁目 神戸分左衛門様 大高 下村誠→神戸分左衛門	7月25日	封筒・1点	い592-3-0
(証文雛形のごとく御調製くださったきにつき) 下村誠→神戸分左衛門、瀧定助	7月25日	横切紙・1通	い592-3-1
(今般事件の入費に関する金子取り扱いお断り申し上げますにつき) 愛知県知多郡大高村下村→当県名古屋市木挽町神戸分左衛門	明治25年2月26日	葉書・1通	い592-4
神戸様・瀧様 三通添 大高年番より 大高年番→神戸、瀧		封筒・1点	い592-5-0
証(金2円受取につき) 川弥→神戸	6月8日	横切紙・1通	い592-5-1
舌代(借用米証券御地にて活字版に御刷り立てくださるべきにつき) 年番下村誠→神戸分左衛門、瀧定助	7月23日	横切紙・1通	い592-5-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 愛知郡鳴尾村久野久兵衛→神戸分左衛門		封筒・1点	い592-6-0
(源右衛門新田の明治24年分の掟米のうち3割3歩を新田居住のものに貸与する一件につき書状) 久野久兵衛→神戸分左衛門	7月29日	横切紙・1通	い592-6-1
内訳(源兵衛組の土地の地価書上)		野紙・1通	い592-6-2
名古屋市木挽町神戸分左衛門様 愛知郡鳴尾村久野久兵衛→神戸分左衛門	3月5日	封筒・1点	い592-7-0
(下村氏など全員集まって相談申したき儀あるにつき名古屋河屋へ出頭の旨書状) 久野久兵衛→神戸分左衛門	3月5日	横切紙・1通	い592-7-1
〔こより〕		こより・1点	い592-8-0
契約証(源兵衛新田の明治24年度掟米請求の儀に関わる各地主同盟の継続ならびに契約条項三項目の追加につき) 神戸分左衛門、山口源兵衛、他12名	明治25年6月8日	野紙・1通	い592-8-1
契約証(鳴尾村源兵衛新田の小作人が明治24年度の掟米皆納しなかったことを出訴するにつき地主間の結約条項) 永井松右衛門、神戸分左衛門他	明治25年2月24日	野紙・1通	い592-8-2

大高源兵衛新田/延滞掟米請求事件

12名			
* 誓約書(海西郡飛嶋村大字飛嶋新田の小作人らが明治22年度の掟米を皆済しなかったことを起訴するため地主連帯条項)		罫紙・1冊(こよりつき)	い592-9
判決書(延滞掟米請求事件につき判決書正本) 名古屋区裁判所書記代理津島区裁判所書記岩間栄次郎	明治25年5月23日	「判決用紙」用箋・1冊	い592-10-1
判決書(延滞掟米請求事件につき判決書正本) 名古屋区裁判所書記代理津島区裁判所書記岩間栄次郎	明治25年5月20日	「判決用紙」用箋・1冊	い592-10-2
判決書(延滞掟米請求事件につき判決書正本) 名古屋区裁判所書記中根正雄	明治25年5月24日	「判決用紙」用箋・1冊	い592-10-3
判決書(延滞掟米請求事件につき判決書正本) 名古屋区裁判所書記木村重□	明治25年5月25日	「判決用紙」用箋・1冊	い592-10-4
判決書(延滞掟米請求事件につき判決書正本) 名古屋区裁判所書記代理津島区裁判所書記岩間栄次郎	明治25年5月19日	「判決書用紙」用箋・1冊	い592-10-5
(地主大森・久野・蟹江・浅井らの鳴尾村源兵衛新田所持地での未納分書上)		「森谷訴訟用紙」用箋(二ツ綴)・1通	い592-11
源兵衛新田廿四年度小作人名帳 神戸		封筒・1点	い592-12-0
愛知郡鳴尾村源兵衛新田明治貳拾四年度小作人名帳 神戸		横長半(一ツ綴)・1冊	い592-12-1
(原告・被告人名前書上)		「森谷訴訟用紙」用箋・1冊	い592-13-1
(地主・小作人名、小作地高、代金書上)		「森谷訴訟用紙」用箋・1冊	い592-13-2
(延滞掟米請求につき訴状) (原告神戸ら)右訴訟代理人森谷三雄→名古屋区裁判所監督判事西平	明治25年3月11日	「森谷訴訟用紙」用箋・1冊	い592-13-3
証拠物写 原告訴訟代理人森谷三雄→名古屋区裁判所監督判事西平	明治25年5月12日	「森谷三雄詞訟用紙」用箋・1通	い592-13-4
証書送付嘱託ノ申立 原告訴訟代理人森谷三雄→名古屋区裁判所監督判事西平	明治25年5月18日	「森谷三雄詞訟用紙」用箋・1通	い592-13-5
証拠物写(永代売渡し田地証文など証書類写) 被告訴訟代理人伊東旭→名古屋区裁判所監督判事西平	明治25年5月	「伊東代言事務所用」用箋・1通	い592-13-6
口頭弁論調書(掟米請求事件につき) 判事西平、書記木村重喬	明治25年5月10日	「森谷訴訟用紙」用箋・1通	い592-14
源兵衛新田小作米請求事件記録 神戸	明治25年2月	「神戸氏蔵」用箋・1冊	い592-15

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

知多郡の新田

①名和前新田

知多半島基部の天白川河口左岸にあり（地図1参照）、1695（元禄8）年に開発された。天白川をはさんで北隣に上述の源兵衛新田がある。犬山神戸家の一族伝八郎が出資したという〔以上角川地名辞典〕。

今回の目録には、この開発当初の文書が6点含まれている。「諸事留帳ほか」には1695（元禄8）年に取米額を定めた証文そのほかがある。これらの史料からは神戸文左衛門家の関与は明確ではなく、むしろ本家の鵜飼屋神戸弥左衛門の方が地主としては明確に出てくる（い479）。のちの大宝前新田支配人小川唯助の名前が同史料には出てきており、このことが神戸文左衛門家の関与を示すものなのか、それとも小川唯助が大宝前新田開発以前は本家に属する立場にあったのかは現段階では不明である。

そのほかは主として近世後期の書付型史料が9点ある。

名和前新田

諸事留帳ほか

相渡申田地之事(名和前新田田地合式町老歛歩) 名和前新田庄や下藤彦三郎・犬山内同村地主安藤孫七 →小川唯助・川嶋庄八	宝永2年3月	竖紙・1通	い479
知多郡名和村前新田納米之事(取米を反あたり4斗とする旨) 植村次郎左衛門・松本小左衛門・岡本利兵衛・榎本甚左衛門→神戸弥左衛門・服部太左衛門	宝永3年5月11日	竖美紙・1通	い546-1
覚(名和村前新田からの取米をはじめ5年は5石づつ、のち5年は10石づつとするにつき) 服部太左衛門・神戸傳八郎→榎本甚左衛門・宮原善兵衛・松本清左衛門	元禄8年3月	竖美紙・1通	い546-2
覚(知多郡名和前海辺御新田堤築土不足時の土取場につき)	3月	竖継紙・1通	い546-3
覚(名和村前新田からの取米をはじめ5年は5石づつ、のち5年は10石づつとするにつき一札写) 服部太左衛門・神戸傳八郎→榎本甚左衛門・宮原善兵衛・松本清左衛門	元禄8年3月	竖継紙・1通	い546-4
請取申子之御年貢米之事(新田留池敷地年貢米) 知多郡名和村庄屋庄助→植村次郎左衛門・宮原善兵衛	元禄9年12月26日	竖美紙・1通	い735
(知多郡名和前新田堤のうち新開分見分を初小割等につき書付) 横須賀御陣屋→神戸弥兵衛	天保10年6月	横切継紙・1通(包紙付)	い438
(名和前新田不納所埋立許可につき書付) 柳原代官加藤安左衛門→神戸弥左衛門	天保12年7月	横切継紙・1通	い439
新田堤引概願済十三ヶ年御年貢御除横須賀御陣屋より被仰渡書付本紙	天保12年5月	包紙・1点	い440-0
(名和前新田見取古堤切起などにつき申渡) 渡次郎兵衛→名和前新田地主犬山神戸弥左衛門	天保12年5月	横切継紙・1通	い440-1
(和名前新田古堤切起地代金請取覚) 横須賀陣屋→名和前新田地主犬山神戸弥左衛門	(天保12年)5月9日	竖切紙・1通	い440-2

掟米徴収

覚(知多郡名和前新田納米積送りにつき) 右(名和前)新田勘右衛門→神戸文左衛門	卯10月17日	堅切紙・1通	い445-5
覚(名和前新田納米積送りにつき) 庄屋長左衛門・同勘右衛門→神戸文左衛門	申11月13日	堅切紙・1通	い445-1-59

年貢

(犬山新田享保九年旱損・元文元年名和前新田洪水時年貢御免分覚書、安政六年土用干しの際発見)	(享保9年～元文3元年)	横切紙・1通(包紙付)	い437
覚(知多郡名和前新田定納米・見取米割付状) 石弥兵衛→右新田庄屋	文化14年11月	堅継紙・1通	い503-2-7

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

三重県の新田

①和泉新田

桑名郡にあり近世以来明治22年までこの村名である。木曾川河口の乱流域にある〔角川地名辞典〕(地図1参照)。(その2)では地券のみであったが、本目録では明治10～14年の「永代売渡地所証券」など6点がある。

②中和泉新田

上記和泉新田の南側に開発された新田である〔角川地名辞典〕。神戸家はこの新田のなかの地所を明治10年に桑名郡見入新田黒宮嘉左衛門から買い取り(あ3657)、同33年に早川忠蔵に売り渡している(あ3596、3597)。今回収録分は明治11年の土地購入の証書など3点である。

和泉新田

明治十年丁丑六月廿六日上和泉地所譲請証券	明治10年6月26日	綴に貼付された札・1点	い593-5-1
記(金確かに貸付につき) 宮崎十郎二→神戸分左衛門	明治11年12月15日	横切紙・1通	い593-5-2
記(民費・堤防諸色割の金4円64銭3厘受取につき) 和泉新田用掛富田吉平→近藤彦十郎	明治10年6月26日	「第三大区五之小区」用箋・1通	い593-5-3
依頼書(売渡地の掟米取立てにつき) 三重県第三大区五小区長島萱町地所売渡人近藤彦十郎他4名→愛知県管下第六区尾張国神戸新田神戸分左衛門他2名	明治11年10月12日	縦継紙・1通	い593-5-4
永代売渡地所証券(三重県下第三大区六小区伊勢国桑名郡和泉新田地所) 三重県下第三大区五小区伊勢国桑名郡長島萱町廿六番地右地所売主近藤彦十郎他4名→愛知県管下第六区尾張国海西郡神戸新田神戸分左衛門他2名	明治11年10月12日	縦美継紙・1通	い593-5-5
約定証(伊勢国桑名郡和泉新田地買得につき) 海西郡鳥ヶ地新田内右地所売渡人宮崎十郎二、同郡神戸新田右証人早川忠兵衛→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治14年8月10日	野紙・1冊	い593-13-1
永代地所売渡証券(伊勢国桑名郡和泉新田の田地・宅地) 尾張国海西郡鳥ヶ地新田4番地右地所売渡人宮崎十郎二、他保証人1名→尾張国海西郡神戸新田2番地神戸分左衛門	明治14年8月21日	縦美(一ツ綴)・1冊	い593-13-2

中和泉新田

地所買請約定証書(伊勢国桑名郡中和泉新田の土地) 第六区鳥ヶ地新田右地所買主宮崎十郎二→神戸分左衛門	明治11年12月8日	野紙・1冊	い593-15-1
地所売渡約定証書 第六区神戸新田右地所売主神戸分左衛門→宮崎十郎二	明治11年12月8日	野紙・1冊	い593-15-2
証(明治11年12月の約定承諾につき) 愛知県海西郡松名新田15番地佐野治朗他1名→海西郡神戸新田神戸分左衛門	明治12年6月18日	野紙・1通	い593-15-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

領主御用

神戸家は1700（元禄13）年に借上金御用を勤めたことを皮切りに、主要なものだけでも、1802（享和2）年に御勝手御用を、1823（文政6）年に町奉行所御用達を、1842（天保13）年に再び御勝手（小納戸）御用を、1849（嘉永2）年には町役金引当調達金御用向を、1855（安政2）年には講取締役をそれぞれ勤めている。これらの活動に対応して、1725（享保10）年に年頭御目見得を許され、以後代々家督相続の際には継目御目見得を行っているから、神戸家は尾張藩の御用商人としての性格も持っていると言えよう。

今回収録分の文書は断片的なものが多く、まとまったものは少ない。今まで把握していなかった「延米本紙元御用」、「廿人御仲間御用」といった領主御用を勤めていたことが新たに判明する。

以上の諸史料は、神戸家が特定の役職や機能を担いそれに伴って授受作成された史料であり、神戸家が単なる名古屋の一町人あるいは一新田地主として例えば調達金を上納している史料とは性格が異なることに注意されたい。そのような史料は「神戸家・勘定場/公儀との関係/御用金・貸上金」、あるいは「大宝前（神戸）新田/公儀との関係/調達金」に配列したことを蛇足ながら付け加えておく。もっとも、作成も宛先も欠くような書付類が単独で現存している場合はどちらとも判別しかねることが多い。そのような場合は便宜上本項目の「その他」に入れておいた。

借上金御用

町方御役所御借上金御手形巻通		包紙・1点	い421-0
請取申金子之事(当子年御借上金200両受取、山甚兵・水藤兵による裏書) 岡清右衛門・坂嘉兵衛・渡辺新右衛門・古野与市左衛門→上材木町善右衛門・同町九兵衛・元材木町文左衛門・上材木町与右衛門・玉屋町忠次郎・本町小八郎・大船町勘九郎	宝暦6年閏11月	縦継紙・1通(封紙付)	い421-1
請取申金子之事(借入金770両請取書写、平只左・都定左による裏書) 酒井八郎右衛門・渡辺吉太夫・柴田伊右衛門・坂嘉兵衛→海老屋町信濃屋五兵衛・広井村塩屋利平・上材木町天満屋九兵衛・同町川方や善右衛門・元材木町犬山屋文左衛門・蔵屋敷千竹屋分吉・五条町麻や善右衛門ほか5名	天明元年12月	縦継紙・1通	い422-1
覚(御払米代金先納金残金30年賦返済切手) 御勘定所→元材木町犬山屋文左衛門	寛政4年12月	縦紙・1通(封紙付)	い421-2
(去々子閏11月御借上金200両残金100両の利息書付)	丑12月	縦継紙・1通	い421-3
御用金町代請取書		包紙・1点	い423-0
御蔵役所へ借上米百八拾石当分受取書／御勘定所へ借上金御手形(包紙のみ)		包紙・1点	い423-1
(小札・大札・金子書付)		横切紙・1通	い423-2
覚(天明元年調達金9550両元利書付) 清□屋五兵衛	辰12月	横切継紙・1通	い423-3
預り申金子之事(町方御役所御用金預かり申すにつき) 常盤町助九郎・元材木町文左衛門他7名→渡辺幸右衛門、岡清右衛門	延享2年12月26日	縦継紙・1通	い736

御勝手御用達

覚(御勝手御繰合筋調達金1万両請取証文写) 田 宮弥太郎・成瀬加兵衛・日比野源八→地主惣代伊那次 郎左衛門ほか6名	嘉永3年12月	堅紙・1通	い490
乍恐再奉歎願候御事(勝手御用達退役願) 犬山屋 文左衛門	正月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-11-2
(御勝手御用達申付) →犬山屋文左衛門	12月8日	横切継紙・1通	い499-17
(御勝手御用達申付につき直に御用席罷出など許 可) →犬山屋文左衛門	12月8日	横切継紙・1通	い499-18

廿人役

廿人役退役被仰付候書付	享和3年11月9日	包紙・1点	い499-2-0
(御用達退役申付) →犬山屋文左衛門	11月8日	横切継紙・1通	い499-2-1
(廿人御仲間御用達辞退をめぐる諸方への交渉経 過につき書状写) 小沢市左衛門→神戸文左衛門・ 小右衛門	9月26日	堅半(二ツ綴)・1冊	い449-20

その他

調達金等員数書(元禄10年～安政3年まで) 神戸 分左衛門	(安政6年)未5月	堅半(二ツひねり)・1冊	い609
(日光社参のため金子指出命令状)	卯正月11日	横切紙・1通	い448-11-4
乍恐御請書奉申上候御事(日光社参のため金子指 出命令状拒否ならびに御用達退役願) 犬山屋 文左衛門	卯正月	横切紙・1通	い448-11-6
(御勘定所へ呼出状) 川村紋左衛門→犬山屋文左衛 門	(卯)正月19日	横切継紙・1通	い448-11-3
乍恐御請書奉申上候御事(日光社参のため金子指出 命令状拒否ならびに御用達退役願)	(卯)	横切継紙・1通	い448-11-5
乍恐奉願上候御事(新田普請のため延米本紙元御 用退役願) 犬山屋文左衛門	辰4月	堅半(一ツ綴)・1冊	い448-5
乍恐奉願上候御事(延米本紙元退役等願書) 小西 屋理左衛門	辰4月	堅紙・1通	い449-6
(明六日同心衆御出御申渡有之につき書状) 花井 八郎左衛門→元材木町犬山屋文左衛門	11月5日	横切継紙・1通	い499-28-1
(召喚状) 町方役所→元材木町犬山屋文左衛門	11月14日	横切継紙・1通	い499-28-2
(川々御普請にて難渋のため調達金被仰付につき 書状) →元材木町犬山屋文左衛門・蔵屋敷千竹屋分 吉・上材木町川方屋善右衛門・下材木町小川屋次郎左 衛門	午11月	横切継紙・1通	い499-28-3
(年号と口数の書上) →神戸文左衛門		小切紙・1通	い499-1
証文(元禄13年ごろ益屋町居住期の御用金50両皆 済証文紛失につき、後欠。紙背は「い548」の包 紙) 濃州兼山村久左衛門		堅紙・1通	い548-0
(御用銀借上の古証文写)	(明治4年カ)	堅紙・1通	い480-1
(調達金借上証文など古証文写)	(明治4年カ)	堅紙・1通	い480-2

(古証文差し上げ奉るにつき) 神戸文左衛門→海西 郡御出張所	(明治4年)辛未12月	縦紙・1通	い480-3
調達金につき花井より呼出シ之節手紙、ならびに 其節被仰付候連中書付、ならびに役所より御呼 出シ之節ノ書付入置	(11月カ)	包紙・1点	い499-28-0

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

元材木町

神戸家が居住している町一団体としての町一の史料である。名古屋の町方における個別町レベルの役人を「町代」という。本目録ではこの町代役の退役願1点のみである。

町代

乍恐奉願上候御事(持病の痔疾により町代役御免下し置かれたきにつき) 元材木町町代文左衛門	辰11月晦日	縦継紙・1通	い483
--	--------	--------	------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

江戸町屋敷経営(神戸彦七・家守来家太七)

神戸家は1695(元禄8)年に江戸下船町一丁目において町屋敷経営を買得し、それ以降町屋敷経営を行っていた。この経営は初代文左衛門安政の弟彦七(彦七郎)が担当し、直接には家守来家太七が町屋敷の管理業務を行った。江戸霊岸島東湊町に居住する神戸彦七は、1708(宝永5)年以後の大宝前新田の出資者としても登場しており、彦七家が文左衛門家の経営にとって不可欠の存在であることを窺わせる。

この項目に関する主要帳簿はすでに目録(その1)に収録されているので、今回は全て書付型史料である。

本項目では、まず、神戸家が最初に江戸下船町壱丁目に町屋敷を獲得したときの町屋敷売買証文(沽券状)の写しがある(い531)。これを含み「家屋敷取得」に属する史料が9点ある(1695(元禄8)~1742(寛保2)年)。次に「家屋敷譲渡」には、初代から二代目へ、および二代目から三代目への神戸家の相続に連動して作成された1712(正徳2)年と1742(寛保2)年の譲渡証文などを入れた。ついで「寛保二年町弘メ一件」は、町屋敷所有者の代替わりを町内が認知する儀礼行為をめぐって神戸家と下船町式丁目との間で交渉ごととなった一件に関する書状を含む文書21点である。これが、本サブグループに関しては今回最も特徴的な史料であろうか。「書状」に分類したものもほとんどが、この一件に関する書状である可能性もある。

家屋敷取得

証文之事(神戸文左衛門への下船町壱丁目家屋敷永代売渡証文写) 古郡文右衛門娘さち、同人内北嶋岡右衛門。(奥書)霊岸島東湊町壱丁目神戸彦七→名主五人組衆中(奥書)名主五人組衆中	元禄8年5月12日	横切継紙・1通	い531
覚(下船町壱丁目の家屋敷拙者兄神戸分左衛門買取の儀紛れなきにつき一札写) 霊岸嶋東湊町壱丁目神戸彦七郎→名主五人組衆中	元禄8年5月12日	堅半・1通	い534
(貴殿御屋敷家守の来家太七の請人に罷り立ち居ること相違なきにつき) 西紺屋町壱丁目請人益田次郎兵衛、家守来家太七→神戸分左衛門	宝永5年2月3日	堅紙・1通	い530-3
証文之事(私借地の立家の売渡証文) 売主喜三郎、証人吉左衛門(地請人)、喜三郎支配人2名→家主太七	享保15年12月25日	堅美紙・1通	い530-4
江戸屋敷求候節之入用代金等之書付、追々求候立家蔵等売証文其外小書付入		包紙・1点	い530-0
山田平左衛門土蔵売之証文		横切紙・1通	い530-1
覚(貴殿表店河岸の土蔵売渡証文) 蔵主平左衛門・証人長兵衛→家主太七	元文2年8月	堅切紙・1通	い530-2
森田建家請取証文一通	寛保2年2月26日	包紙・1点	い528-0
一札之事(分散で受け取った森田作兵衛建家・土蔵・穴蔵・家財一式の売渡証文) 殿村佐五兵衛・川村八兵衛・一見七右衛門・富田屋又兵衛・関口庄右衛門・伊勢屋市郎兵衛・伊勢屋八兵衛18名→家主太七	寛保2年2月26日	堅紙・1通	い528-1
十一月二日出返事済		包紙断簡・1点	い528-2

家屋敷譲渡

覚(私扣の江戸下船町巷丁目北角より三軒目の屋敷貸し置くにつき覚書扣) 元材木町分左衛門	(正徳2)辰8月	縦紙・1通	い478-1
覚(江戸下船町巷丁目東側の屋敷私相続し地代にて貸し置くにつき) 元材木町犬山屋分左衛門	(正徳2)辰8月	縦紙・1通	い478-2
覚(江戸下船町巷丁目東側の屋敷私相続し地代にて貸し置くにつき覚書扣) 元材木町犬山屋分左衛門	(正徳2)辰8月	縦継紙・1通	い478-3
普海様ヨリ文左衛門へ屋敷譲り済候節被遣候証文之扣へ式通	寛保2年12月	包紙・1点	い529-0
譲済候節名主へ遣候礼状判鑑(拙者扣屋敷譲り弘メのお世話、沽券状への奥印などへの礼状写、および証文の印と同印の判鑑) 神戸文左衛門→小沢太郎兵衛	寛保2年12月29日	横切紙・1通	い529-1
(親病死に伴い江戸下舟町家屋敷相続の名弘め願、手代服部八右衛門が私方用向・名代勤めるにつき書状写) 神戸文左衛門→小沢太郎兵衛	11月5日	横切紙・1通	い529-2
覚(御弘メ諸入用書上) 金兵衛→太七	未11月	縦紙・1通	い529-3

寛保二年町弘メ一件

江戸扣家書付		包紙・1点	い538-0
十一月十六日出、十一月廿五日返事遣ス、ならびに沽券証文等遣ス		包紙・1点	い538-1-0
(小舟町7・8月分地代名古屋へ送金、御継目弘メ、江戸大水後川幅拡張大名手伝普請は「下ノうるおひ」との噂、両国橋・大橋・永代橋普請状況、などの儀につき) 堤文助→神戸分左衛門	10月9日	横切継紙・1通	い538-1-1
普海様ヨリ分左衛門へ屋敷譲渡候証文遣候所彦七方にて取失候由にて彦七より改之証文巻通	寛保2年12月	包紙・1点	い538-1-2-0
覚(屋敷譲渡証文取失候につき、今一枚認めくだされたき旨) 堤文助、来家太七、神戸彦七→神戸文左衛門	(寛保2年)戌12月	横切継紙・1通	い538-1-2-1
(手紙は今朝書き申すにつき書状) 古高貞与→神戸分左衛門		横切紙・1通	い538-1-3
(小舟町弘メにあたり町内永代帳に張り置く分のほか証文必要、沽券一覧は遠方でも免除にならず、家守祝儀などつき書状) 堤文助→神戸分左衛門	霜月6日	横切継紙・1通	い538-1-4
譲り廣目之覚(名主・手代などへの祝儀金額書上)		横切紙・1通	い538-1-5
屋敷譲之節入用覚(普海より譲りの節祝儀入用書付)	寛保2年12月	横切継紙・1通	い538-1-6
(小舟町証文認め直し、太七祝儀、太七請状などにつき書状) 堤文助→神戸分左衛門	11月2日	横切継紙・1通	い538-1-7
(町弘めを行うため沽券状と御証文を彦七まで御下し依頼につき書状) 来家太七→神戸文左衛門	11月15日	横切継紙・1通	い538-1-8
江戸下舟之家屋敷求節之書付共		包紙・1点	い538-2-0
(町屋敷譲り受けの弘め延引なりがたく来月早々	10月5日	横切継紙・1通	い538-2-1

に行うにつき) 来家太七統信→神戸分左衛門			
(小舟丁の屋敷のこと私判にて済むならば奉畏候につき書状) 神戸彦七→神文左衛門	11月2日	横切継紙・1通	い538-2-2
(小舟丁の屋敷について名主小沢と彦七の面談状況、沽券一覧は遠方の屋敷持衆にても必要につき書状) 同彦七→神戸分左衛門	霜月16日	横切継紙・1通	い538-2-3
(下船町壱丁目の屋敷買取の礼状三通写) 神戸分左衛門→①谷村彦市、②出口庄右衛門・桜井忠右衛門、③十川養元	5月26日	横切継紙・1通	い538-2-4
(下船町屋敷の継目弘め祝儀金の儀、太七請状のことなどにつき書状下書) (神戸分左衛門)→堤文助	10月20日	横切継紙・1通	い538-2-5
追啓(先年譲状の給分書き違いにつき調査依頼状) 文助→分左衛門	11月2日	横切紙・1通	い538-2-6
(明日御発足のお見舞い申上げ、此度之儀万端首尾よく済むにつき書状) 古高貞与→神戸分左衛門		横切紙・1通	い538-2-7
(下船町屋敷買取につき名主・五人組への礼状案文) (神戸分左衛門)→①谷村彦市(名主)、②出口庄右衛門・桜井忠右衛門(五人組)、③十川養元	5月	横切継紙・1通	い538-2-8

家守請状など

屋守請状之事(来家太七下船町屋敷守就任請状) 西紺屋町壱丁目請人益田次郎兵衛、家守来家太七→神戸分左衛門	元禄8年5月12日	堅美継紙・1通	い535
屋守請状之事(来家太七下船町屋敷守就任請状写、宝永5年奥書きあり) 西紺屋町一丁目請人益田次郎兵衛・屋守来家太七→神戸分左衛門	元禄8年5月12日	堅継紙・1通	い432
手形之事(太七身元確かなる者につき拙者所持の家屋敷の屋守とする旨の手形控、判鑑添付) 尾州名古屋材木町屋敷主神戸分左衛門、屋守来家太七→谷村彦市	元禄8年5月12日	堅美紙・1通	い537
家守請状之事(来家太七身元確かなる者につき拙者請人に罷立つ旨) 西紺屋町壱丁目請人益田次郎兵衛、家守来家太七→神戸分左衛門	宝永5年2月1日	堅美継紙・1通	い533
家守太七請状式通	寛保2年12月	包紙・1点	い532-0
屋守請状之事(太七身元確かなる者につき) 神田永富町請人榎本八右衛門、家守来家太七→神戸分左衛門	寛保2年12月	堅美継紙・1通	い532-1
手形之事(太七身元確かなる者につき拙者所持の家屋敷の屋守とする旨の手形写) 尾州名古屋材木町・屋敷主神戸分左衛門、屋守来家太七→谷村彦市	元禄8年5月12日	横切紙・1通	い532-2

書状

古状反古		包紙・1点	い477-0
「南無阿弥陀仏と申すより(以下略)」		断簡・1点	い477-1
二殿御状式通入申物	7月	包紙・1点	い477-2
(道中から神戸とその御連衆の様子伺いにつき書状) 近藤又兵衛元孝→神戸分左衛門	2月6日	横折紙・1通	い477-3

江戸くじの時状		封筒・1点	い477-4
(下船町屋敷や東白屋敷の火災被災状況と処置、深川材木場への手代派遣につき書状) 神戸彦七郎→神戸分左衛門	4月8日	横切継紙・1通	い477-5
(太田屋仙右衛門や当方の書状につき返書、大宝新田堤少々風損申候義)	9月8日	横切継紙・1通	い477-8
(江戸の一件首尾よきにつき、烏ヶ地新田杵の引き抜き様子よく出来につき) 同浄仙→神戸分左衛門	2月24日	横切継紙・1通	い477-10
(道中よりの書状披見満足につき書状) 同浄仙→神戸分左衛門	2月10日	横切継紙・1通	い477-14
(新金登り候迄は此方殊之外払底のため式朱金を一分判に両替依頼につき書状) 金森小右衛門・佐治源郎右衛門→犬山や分左衛門	5月14日	縦継紙・1通	い477-15
(当地浄仙老近況ほかにつき書状) 近藤伊右衛門・近藤武兵衛→神戸分左衛門	2月5日	横折紙・1通	い477-16
(兼而之四人者共昨29日在所罷立につき書状) 伊東庄兵衛→神分左	2月朔日	横切継紙・1通	い477-17
(江戸表首尾よく事済みにつき書状) 伊東庄兵衛→神分左	2月24日	横切継紙・1通	い477-18
(道中御無事に御着につき書状) 田嶋与次兵衛・与次右衛門→丹羽源七	2月6日	横切継紙・1通	い477-19
(其元首尾宜しき段につき書状) 鎌田忠兵衛(町内か)→神戸分左衛門	2月6日	横折紙・1通	い477-25
(道中見舞い、近況報告につき書状) 同分七郎→神戸分左衛門	2月6日	横切紙・1通	い477-27
(近日江戸にて宜しく事済みにて目出度く名古屋へ御登り遊ばされ様につき書状) 関屋半兵衛→神分左	2月9日	横折紙・1通	い477-28
(江戸よりの状承りたきにつき書状)	4月4日	縦継紙・1通	い477-29-1

江戸神戸再興願一件

江戸神戸再興願一件・榎田氏贈言書翰	亥12月	包紙・1点	い465-0
(江戸の神戸彦七家御再興困難、私儀も近来逼塞の仕合につき書状)		横切継紙・1通	い465-1
(名代三富正七郎参上せずにつき書状) (榎田) 栄之丞→文左衛門	正月	横切継紙・1通	い465-2
(神戸彦七家再興の企ては榎田家親類の意向に反する旨につき書状) 榎田栄之丞→神戸文左衛門	5月19日	横切継紙・1通	い465-3
(神戸彦七家再興の儀宜御評決奉願候につき書状) 榎田栄樹→神戸文左衛門	5月19日	横切継紙・1通	い465-5

その他

証文之事(神戸彦七の跡式について一家の者共向後違乱無き旨証文写) 五郎吉・五郎吉親九郎右衛門・同人伯父八之助・同証人七兵衛→彦七後家およし・神戸弥左衛門	宝永5年1月23日	縦美紙・1通	い547-17
--	-----------	--------	---------

普勝伊兵衛殿へ遣ス書付写	寅8月6日	包紙・1点	い536-0
覚(町役出銀の印鑑請取につき) 尾州名古屋元材 木町神戸分左衛門→普勝伊兵衛	享保7年8月	竖切紙・1通	い536-1
覚(土蔵借用につき) 小松町市蔵→犬山屋文左衛門	天保9年正月	竖紙・1通	い487

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

御園町中嶋屋半右衛門・永田善次郎

目録（その１）では、彼らの作成した商業経営帳簿など38冊を末尾に収録し、彼らの経営体は神戸家からは独立していたと推測した上で、なぜ彼らの経営帳簿が神戸家文書に含まれるのかを目録（その２）以降の課題としておいた。この課題は本目録においても果たされないままに終わっている。

今回収録分は、18世紀半ばごろの勘定帳類が7点と指引目録が4点である。

有物勘定帳

寛保元年酉七月店下勘定ならびに十二月迄勘定 善次郎	（寛保元年）	横長半（一ツ綴）・1冊	い470
寛保貳年戌七月店下勘定	（寛保2年）	横長半（一ツ綴）・1冊	い471
寛保二年戌暮勘定	（寛保2年）	横長半（一ツ綴）・1冊	い472
寛保三歳亥盆前	（寛保3年）	横長半（一ツ綴）・1冊	い473
子春店有物寄帳	寛保4年正月吉辰	横長半（一ツ綴）・1冊	い474
甲子盆後店有帳 上御園町住 半右衛門	延享元年7月18日	横長半（一ツ綴）・1冊	い475
巳春店有物之覚	延享2年正月吉日	横長半（一ツ綴）・1冊	い476

指引目録

差引状事（仕切表金銀残金相済につき） 京□屋九 一郎→中嶋半右衛門	元文5年3月9日	縦継紙（一ツ綴）・1冊	い501-4
指引目録（仕切表替金につき） 平野屋太兵衛→中嶋 半右衛門	延享2年10月22日	縦紙・1通	い501-6
指引目録（仕切表取替金につき） 平野屋太兵衛→ 中嶋半右衛門	延享3年12月12日	縦切継紙・1通	い501-5
指引目録（仕切表取替金につき） 平野屋太兵衛→ 中嶋半右衛門	延享3年12月晦日	縦切継紙・1通	い501-8
指引目録（仕切表取替金差引勘定につき） 平野屋 太兵衛→中嶋半右衛門	延享4年12月12日	縦切継紙・1通	い501-3
指引目録（堺桑名屋善右衛門への渡金の差引勘定 につき） 平野屋太兵衛→中嶋半右衛門	延享4年極月29日	縦切継紙・1通	い501-1
指引目録（取替金差引勘定につき） 平野屋太兵衛 →中嶋半右衛門	延享5年7月16日	縦継紙（一ツ綴）・1冊	い501-2

史料目録 第83集

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書（その3）

印刷発行 平成19年3月31日

発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館

編集 調査収集事業部

〒142-8585

東京都品川区豊町1丁目16番10号

電話 03-3785-7131(代)

印刷所 株式会社 三協社

〒164-0011

東京都中野区中央4丁目8番9号

©人間文化研究機構 禁無断複写

(本文用紙は中性紙を使用)

本書は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』（第78集まで発行）を継続しています。

ISBN978-4-87592-121-9

ISBN978-4-87592-121-9